JobCenter

R14.2

<Web機能利用の手引き>

■Windows, Windows Vista および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■UNIX は、The Open Groupが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

■Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

■HP-UX は、米国 Hewlett-Packard 社の商標です。

■AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。

■Linux は、Linus Torvalds氏の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

■Oracle Linux, Oracle Clusterware および Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

■Red Hat は、Red Hat,Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■SUSE は、Novell,Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■NQS は、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。

■Microsoft Excel 及び Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■SAP ERP, SAP NetWeaver BW および ABAP は、SAP AG の商標または登録商標です。

■Amazon Web Services は、Amazon Web Services, Inc. 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

■その他、本書に記載されているソフトウエア製品およびハードウエア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、R、TM、cの記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウエア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取りください。許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談ください。

はじめに

本書はJobCenterのWeb機能について説明しています。なお、本書内に記載されている画面例と実際の画面とは異なることがありますので注意してください。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

1. 凡例

本書内での凡例を紹介します。

	気をつけて読んでいただきたい内容です。
	本文中の補足説明
注	本文中につけた注の説明
__	UNIX版のインストール画面の説明では、__部分(下線部分)はキーボードからの入力を示します。

2. 関連マニュアル

JobCenter に関するマニュアルです。JobCenter メディア内に格納されています。

最新のマニュアルは、JobCenter 製品サイトのダウンロードのページを参照してください。

http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/JobCenter/download.html

資料名	概要
JobCenter インストールガイド	JobCenterを新規にインストール、またはバージョンアップする場合の方法について説明しています。
JobCenter クイックスタート編	初めてJobCenterをお使いになる方を対象に、JobCenterの基本的な機能と一通りの操作を説明しています。
JobCenter 基本操作ガイド	JobCenterの基本機能、操作方法について説明しています。
JobCenter 環境構築ガイド	JobCenterを利用するために必要な環境の構築、環境の移行や他製品との連携などの各種設定方法について説明しています。
JobCenter NQS機能利用の手引き	JobCenterの基盤であるNQSの機能をJobCenterから利用する方法について説明しています。
JobCenter 操作・実行ログ機能利用の手引き	JobCenter CL/Winからの操作ログ、ジョブネットワーク実行ログ取得機能および設定方法について説明しています。
JobCenter コマンドリファレンス	GUIと同様にジョブネットワークの投入、実行状況の参照などをコマンドラインから行うために、JobCenterで用意されているコマンドについて説明しています。
JobCenter クラスタ機能利用の手引き	クラスタシステムでJobCenterを操作するための連携方法について説明しています。
JobCenter Helper機能利用の手引き	Excelを用いたJobCenterの効率的な運用をサポートするJobCenter Definition Helper (定義情報のメンテナンス)、JobCenter Report Helper (帳票作成)、JobCenter Analysis Helper (性能分析)の3つの機能について説明しています。
JobCenter SAP機能利用の手引き	JobCenterをSAPと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter WebOTX Batch Server連携機能利用の手引き	JobCenterをWebOTX Batch Serverと連携させるための方法について説明しています。
JobCenter Web機能利用の手引き	Webブラウザ上でジョブ監視を行うことができるJobCenter CL/Webについて説明しています。
JobCenter テキスト定義機能の利用手引き	ジョブネットワークやスケジュール、カレンダ、カスタムジョブテンプレートを、テキストファイルを使って定義する方法を説明しています。
JobCenter クラスタ環境でのバージョンアップ・パッチ適用ガイド	クラスタ環境で運用しているJobCenterのアップデート、パッチ適用手順を説明しています。

JobCenter 拡張カスタムジョブ部品利用の手引き	拡張カスタムジョブとして提供される各部品の利用方法について説明しています。
JobCenter R14.2 リリースメモ	バージョン固有の情報を記載しています。

3. 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2016/02/01	新規作成	－	第1版
2	2016/06/10	修正	－	ナビゲーションバーのタブ番号の削除時の動作を追記 RHEL7におけるsystemdによるサービス起動を追記 R14.2.1リリースに伴い版改訂

目次

はじめに iii
1. 凡例 iv
2. 関連マニュアル v
3. 改版履歴 vii
1. 概要 1
1.1. 機能概要 2
1.2. 導入の効果 3
1.3. ライセンスについて 5
1.4. 動作環境 6
1.5. 用語一覧 7
1.6. JobCenter CL/Web利用までの流れ 8
2. CL/Webサーバのインストール・アンインストール 9
2.1. インストール 10
2.1.1. インストール前の事前準備 10
2.1.2. LicenseManagerのインストール 10
2.1.3. CL/Webサーバのインストール 10
2.2. アンインストール 14
2.2.1. LicenseManagerのアンインストール 14
2.2.2. CL/Webサーバのアンインストール 14
2.3. バージョンアップ 15
2.3.1. UNIX版 CL/Webサーバのバージョンアップ 15
2.3.2. Windows版 CL/Webサーバのバージョンアップ 15
2.4. 再インストールが必要となる場合 17
2.4.1. UNIX版 CL/Webサーバの再インストール 17
2.4.2. Windows版 CL/Webサーバの再インストール 17
2.5. バージョンの確認方法 19
3. 環境設定 20
3.1. CL/Webサーバ 21
3.1.1. CL/Web環境設定ファイル(clweb.conf) 21
3.1.2. 使用ポートの設定 21
3.1.3. SSL署名証明書の設定 23
3.1.4. URLのサブディレクトリの設定 23
3.2. Webブラウザ 24
3.2.1. アクティブスクリプトの設定 24
3.2.2. フォントのダウンロードの設定 24
3.2.3. TLS(SSL)の設定 25
3.2.4. Cookieの設定 26
3.2.5. iOS上で動作するSafariを利用する場合 26
4. CL/Webサーバ起動・停止 27
4.1. CL/Webサーバ起動 28
4.1.1. UNIX版 CL/Webサーバ起動 28
4.1.2. Windows版 CL/Webサーバ起動 28
4.2. CL/Webサーバ停止 31
4.2.1. UNIX版 CL/Webサーバ停止 31
4.2.2. Windows版 CL/Webサーバ停止 31
5. 基本操作 33
5.1. CL/Webの基本的な操作方法 34
5.1.1. CL/Web画面 各部の名称と概要 34
5.1.2. 検索機能 35
5.1.3. ソート機能 38
5.1.4. 表示テーブル内の項目表示機能 40
5.1.5. ナビゲーションバーのタブ表示順序の設定 43
5.1.6. マイページ機能 44
5.2. ブラウザでCL/Webサーバにアクセスする 45
5.3. ログイン・ログアウト 46

5.3.1. ログインする 46
5.3.2. ログアウトする 48
5.4. ジョブネットワークに関する操作 50
5.4.1. グループを参照する 50
5.4.2. ジョブネットワークを参照する 51
5.4.3. ジョブネットワークを即時投入する 51
5.5. トラッカに関する操作 56
5.5.1. トラッカを参照する 56
5.5.2. トラッカを操作する 64
5.5.3. トラッカ画面を自動的にリロードする 72
5.5.4. トラッカをガントチャート表示する 73
5.6. スケジュールに関する操作 77
5.6.1. スケジュール一覧を参照する 77
5.6.2. スケジュールの定義を参照する 78
5.6.3. 関連JNWを参照する 79
5.6.4. スケジュールを有効化、無効化する 80
5.7. マシンに関する操作 84
5.7.1. マシン一覧を参照する 84
5.7.2. キュー一覧を参照する 84
5.7.3. キューを操作する 86
5.7.4. ユーザー一覧を参照する 88
5.8. カレンダに関する操作 90
5.8.1. カレンダー一覧を参照する 90
5.8.2. カレンダ定義を参照する 90
5.9. マイページ機能 93
5.9.1. 機能概要 93
5.9.2. マイページ利用の流れ 94
5.9.3. パネル共通操作 96
5.9.4. パネル詳細 102
5.9.5. マイページ設定（JobCenter管理者） 118
6. その他機能詳細 122
6.1. メール送信機能詳細 123
6.1.1. SMTPサーバ設定 123
6.1.2. メール文字コード設定 124
6.1.3. メール送信機能 124
6.1.4. メールテンプレート設定 127
6.2. マクロ機能 130
6.2.1. マクロ機能(MG/SV) 130
6.2.2. イベント連携 132
6.3. 他ユーザ監視機能 134
6.3.1. 機能概要 134
6.3.2. 他ユーザへの切り替え手順 134
6.4. WebAPI機能 136
6.4.1. 機能概要 136
6.4.2. WebAPI導入のイメージ 137
6.4.3. WebAPI利用の流れ 138
6.4.4. WebAPI機能詳細 142
6.5. Amazon SNS連携機能 174
6.5.1. 機能概要 174
6.5.2. Amazon SNS連携機能利用の流れ 174
7. 障害発生時の情報採取 178
8. 注意事項・制限事項 179
8.1. 注意事項 180
8.2. 制限事項 181
9. エラーメッセージ一覧 182
9.1. CL/Webサーバでのエラーメッセージ 183
9.2. Webブラウザでのエラーメッセージ 184

図目次

1.1. JobCenter CL/Web画面イメージ 1
1.2. 導入の効果1 3
1.3. 導入の効果2 4
1.4. 導入の効果3(HPOM製品での例) 4
1.5. JobCenter CL/Web利用までの流れ 8
3.1. アクティブスクリプト設定画面 24
3.2. フォントのダウンロード設定画面 25
3.3. TLS(SSL)設定画面 26
4.1. ファイル名指定画面 28
4.2. サービス起動画面 29
4.3. サービス開始画面 30
4.4. サービス停止画面 31
4.5. サービス停止画面 32
5.1. CL/Web画面 34
5.2. 検索バー画面 36
5.3. 検索結果画面 37
5.4. ステータスバー画面 37
5.5. ソート前の画面 39
5.6. ソート後の画面 40
5.7. Hide/Show Columnsボタン選択画面 41
5.8. 表示項目一覧画面 42
5.9. 表示項目一覧結果画面 43
5.10. CL/Web画面 ナビゲーションバーの順序変更例 44
5.11. 証明書のエラー画面 45
5.12. CL/Webログイン画面イメージ 47
5.13. CL/Webログイン後の画面 48
5.14. JobCenter CL/Webログアウト画面イメージ 49
5.15. グループ選択画面イメージ 50
5.16. ジョブネットワークの表示 51
5.17. ジョブネットワーク表示テーブルでの[即時投入]の選択画面 52
5.18. [即時投入]のダイアログ 53
5.19. 即時投入成功 53
5.20. ジョブネットワーク表示画面での[即時投入]の選択画面 54
5.21. トラッカ表示テーブルでのトラッカ表示画面 57
5.22. 設定 58
5.23. [設定]のダイアログ 59
5.24. 詳細ボタン 60
5.25. [フィルタの編集]ダイアログ 60
5.26. ジョブフロー表示画面 61
5.27. 部品の詳細画面 62
5.28. 部品一覧画面 63
5.29. グループ名選択画面 64
5.30. ポップアップメニュー表示画面 65
5.31. 投入の時間を変更画面 66
5.32. 単位ジョブトラッカ部品の詳細画面 67
5.33. サブジョブネットワークトラッカ部品の詳細画面 68
5.34. ダイアログトラッカ部品の詳細画面 69
5.35. ジョブ待ち合わせ部品の詳細画面 70
5.36. 自動リロードON状態へ変更 72
5.37. 自動リロード設定ダイアログ 73
5.38. 設定ボタン 74
5.39. [設定]ダイアログのガントチャート切り替え 75
5.40. トラッカガントチャート表示 75
5.41. スケジュールグループ選択画面 77
5.42. スケジュール定義参照画面 78

5.43. 関連JNWタブのクリック 79
5.44. 関連JNW画面 80
5.45. スケジュールの無効化選択 81
5.46. [スケジュールの操作]のダイアログ 81
5.47. スケジュール操作成功 82
5.48. スケジュールグループの有効化選択 82
5.49. [グループの操作]ダイアログ 83
5.50. グループ配下のスケジュール有効化成功 83
5.51. マシン一覧表示画面 84
5.52. マシン選択画面 85
5.53. キュー一覧表示画面 85
5.54. キュー選択画面 87
5.55. キュー制御開始画面 87
5.56. キュー制御終了画面 88
5.57. ユーザタブ選択画面 88
5.58. ユーザタブ選択画面 89
5.59. カレンダー一覧表示画面 90
5.60. カレンダー一覧画面 91
5.61. カレンダ定義情報表示画面 92
5.62. マイページ例 93
5.63. 複数のユーザのジョブネットワークをまとめて参照 94
5.64. マイページ表示（パネルを追加していない場合） 94
5.65. パネル追加ボタン 95
5.66. パネル追加ダイアログ 95
5.67. パネル設定ダイアログ 96
5.68. パネル画面構成 96
5.69. パネル追加ボタン 98
5.70. パネルの追加ダイアログ 98
5.71. パネル設定ダイアログ 99
5.72. パネル設定ダイアログ（パネルの移動、大きさの変更） 99
5.73. レイアウト構成例 100
5.74. パネル設定ダイアログ（パネル名の変更） 100
5.75. パネル設定ダイアログ（パネル削除） 101
5.76. パネル削除の確認ダイアログ 101
5.77. サイドメニュー表示 102
5.78. JNWマイリスト 102
5.79. JNWマイリスト設定ダイアログ（JNWマイリストの設定） 104
5.80. JNWマイリスト設定ダイアログ（列の表示） 104
5.81. トラッカマイリスト（大きさfull表示） 106
5.82. トラッカマイリスト設定ダイアログ（ジョブネットワーク選択） 107
5.83. トラッカマイリスト設定ダイアログ（トラッカステータス詳細表示状態） 107
5.84. トラッカマイリスト設定ダイアログ（表示列選択） 109
5.85. トラッカマイリスト サイドメニュー 110
5.86. トラッカサマリー 111
5.87. トラッカサマリー設定ダイアログ 112
5.88. トラッカサマリーのサイドメニュー 113
5.89. トラッカレポート 114
5.90. トラッカレポート(系列の非表示) 115
5.91. トラッカレポートの設定ダイアログ 115
5.92. トラッカレポートの基準日の一時変更(変更前) 116
5.93. トラッカレポートの基準日の一時変更(変更後) 117
5.94. トラッカレポートのサイドメニュー 117
5.95. 設定ボタン（JobCenter管理者のみ表示） 118
5.96. 制限ユーザ指定 119
5.97. 制限ユーザでのログイン時（マイページのみ表示） 119
5.98. マイページのユーザ切り替え（JobCenter管理者から制限ユーザに切り替え） 120
5.99. マイページ画面表示（JobCenter管理者で制限ユーザのマイページを表示・編集） 121
6.1. メール送信ボタン表示画面 125

6.2. メール送信設定画面 126
6.3. メール送信設定確認画面 127
6.4. ケーススタディ画面 1 130
6.5. CL/Winでのメール設定画面例 131
6.6. ケーススタディ画面２ 133
6.7. ユーザ名のクリック 134
6.8. ユーザ名の選択 135
6.9. 他ユーザ切り替え後 135
6.10. 導入の効果 137
6.11. ユーザ名押下 139
6.12. KEYボタン押下 140
6.13. APIアクセスキー表示 140
6.14. HTTP認証画面 141
6.15. GETメソッド設定項目 142
6.16. ジョブネットワーク一覧表示例 143
6.17. ジョブネットワーク即時投入例 147
6.18. トラッカ一覧表示例 150
6.19. トラッカ詳細表示例 155
6.20. トラッカ詳細表示例 159
6.21. トラッカ詳細表示例 162
6.22. トラッカ部品制御命令例 165
6.23. トラッカ停止命令画面例 171
6.24. SNS連携機能イメージ 174
6.25. トピックの購読 175

表目次

1.1. CL/Webの機能一覧 2
2.1. CL/Webサーバのインストールに必要なディスク容量 10
3.1. clweb.confのパラメータの設定値(ポート番号指定) 22
3.2. clweb.confのパラメータの設定値(URLのサブディレクトリ指定) 23
5.1. ステータスバー機能説明 38
5.2. clweb.confのパラメータの設定値(ナビゲーションバーのタブ表示順序に関するタブ番号とタブ名称) 43
5.3. 待ち合わせ部品トラッカとイベント送受信トラッカ可能操作一覧 70
5.4. clweb.confのパラメータの設定値(自動リロードの初期設定) 72
5.5. マイページのパネル一覧 93
5.6. ヘッダー部の各要素 96
5.7. ブラウザ横幅とパネルの大きさ 100
5.8. JNWマイリストの列 103
5.9. 状況のステータス一覧 111
5.10. 進捗のステータス一覧 112
5.11. 系列のステータス一覧 114
6.1. clweb.confのパラメータの設定値(SMTPサーバ指定) 123
6.2. clweb.confのパラメータの設定値(メール文字コード指定) 124
6.3. 言語ロケールと送信メールの文字コードの対応関係 124
6.4. メールテンプレートのヘッダーファイルの設定値 128
6.5. メールテンプレートファイルに置換可能な文字列 129
6.6. WebAPIの機能一覧 136
6.7. エラー一覧 145
6.8. エラー一覧 149
6.9. エラー一覧 154
6.10. エラー一覧 158
6.11. エラー一覧 161
6.12. エラー一覧 164
6.13. 部品一覧 166
6.14. 命令一覧 166
6.15. エラー一覧 167
6.16. ujob:"単位ジョブ" 168
6.17. erpjob:"ERPジョブ" 168
6.18. bijob:"BIジョブ" 169
6.19. pcjob:"PCジョブ" 169
6.20. wobsjob:"WOBSジョブ" 169
6.21. dia:"ダイアログ" 169
6.22. wait:"ジョブ待合" 170
6.23. event:"イベント" 170
6.24. cont:"コンティニュー" 170
6.25. トラッカ命令一覧 172
6.26. エラー一覧 173
9.1. CL/Webサーバエラーメッセージ内容 183
9.2. Webブラウザエラーメッセージ内容 184

第1章 概要

本章では、JobCenter CL/Webの概要について説明します。

JobCenter CL/Webは、Webブラウザを使用して実行状態の監視、ジョブネットワークの即時投入やパラメータの確認を行うことができます。

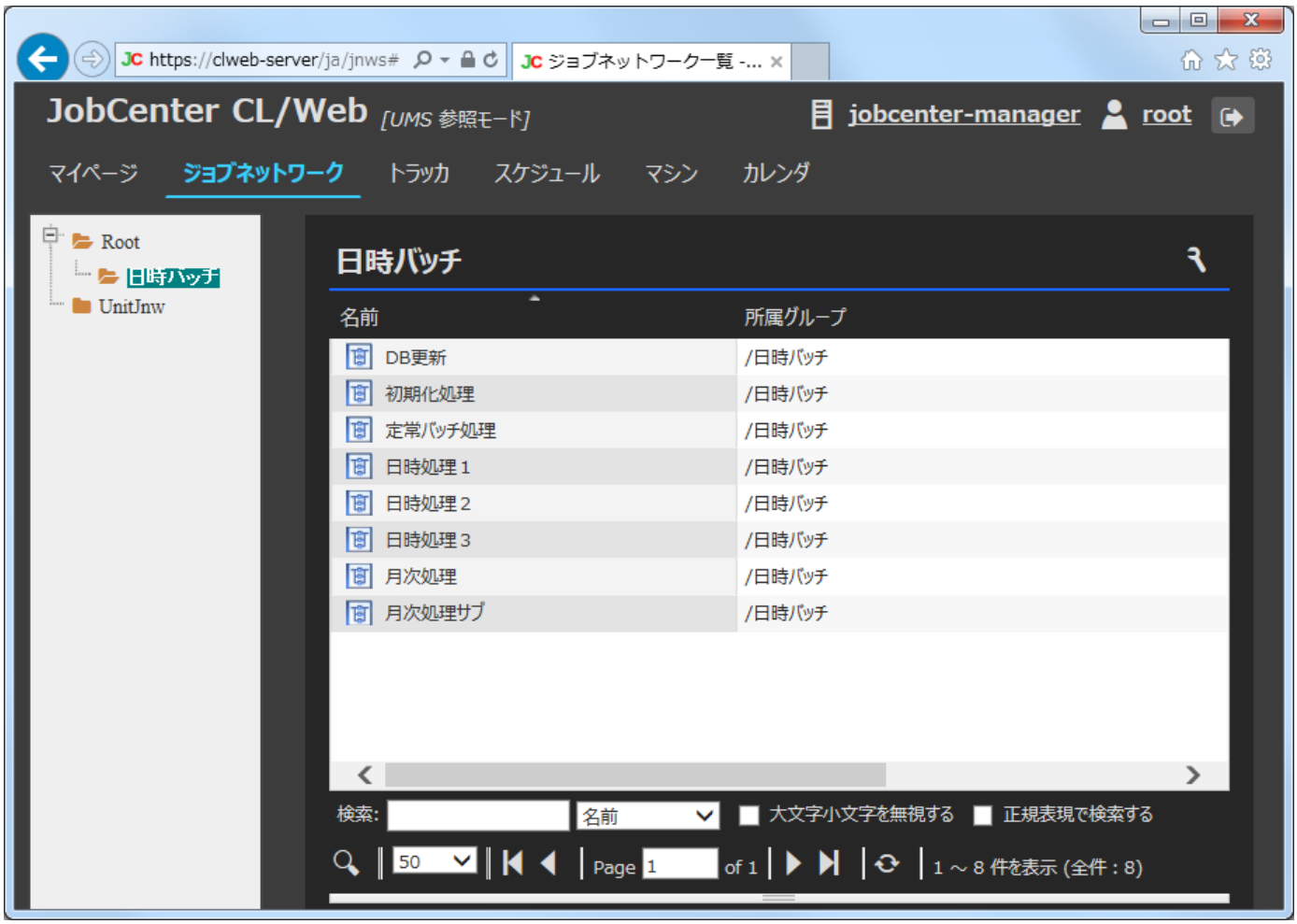

図1.1 JobCenter CL/Web画面イメージ

■略語表記について

JobCenter CL/Webを示す場合は"CL/Web"と表記します。

JobCenter CL/Webサーバを示す場合は"CL/Webサーバ"と表記します。

1.1. 機能概要

CL/Webの主な概要は次のとおりです。

表1.1 CL/Webの機能一覧

カテゴリ	機 能	参照先
ジョブネットワーク	ジョブネットワーク一覧を表示する	「5.4.1 グループを参照する」
	ジョブネットワークを即時投入する	「5.4.3 ジョブネットワークを即時投入する」
	ジョブネットワークの定義情報を確認する	「5.4.2 ジョブネットワークを参照する」
	ジョブネットワーク一覧から検索する	「5.1.2 検索機能」
トラッカ	トラッカ一覧を表示する	「5.5.1.1 トラッカ一覧を表示する」
	トラッカやトラッカ部品の操作をする	「5.5.2.1 ジョブネットワークトラッカを操作する」
	トラッカ一覧から検索する	「5.1.2 検索機能」
	監視のためのフィルタの設定をする	「5.5.1.2 トラッカ一覧の表示期間を指定して表示する」
	トラッカ画面のURLをメール送信する	「6.1.3 メール送信機能」
スケジュール	スケジュール一覧を表示する	「5.6.1 スケジュール一覧を参照する」
	スケジュールの定義情報を確認する	「5.6.2 スケジュールの定義を参照する」
	スケジュールの有効化/無効化を行う	「5.6.4 スケジュールを有効化、無効化する」
マシン	マシン一覧を表示する	「5.7.1 マシン一覧を参照する」
	キュー一覧を表示する	「5.7.2 キュー一覧を参照する」
	キューの操作を行う	「5.7.3 キューを操作する」
	ユーザを表示する	「5.7.4 ユーザー一覧を参照する」
	各一覧の画面から検索する	「5.1.2 検索機能」
カレンダ	カレンダー一覧を表示する	「5.8.1 カレンダー一覧を参照する」
	カレンダの定義情報を確認する	「5.8.2 カレンダ定義を参照する」
マイページ	マイページを表示する	「5.9.2.1 マイページの表示」
	マイページにパネルを追加する	「5.9.2.2 パネルの追加」
	パネルの設定を変更する	「5.9.3 パネル共通操作」
	マイページの利用に制限をかける	「5.9.5.1 制限モード」

1.2. 導入の効果

CL/Webを導入することによってインストールレスのクライアントを利用して異常ジョブの確認やジョブネットワークの即時投入等、ジョブの運用・監視を行うことができます。

■導入の効果 その1

従来では監視端末ごとに専用のクライアント(JobCenter　CL/Win)のインストールが必要でしたが、CL/Webを導入することにより専用クライアントをインストールすることなくWebブラウザから監視が可能となります。

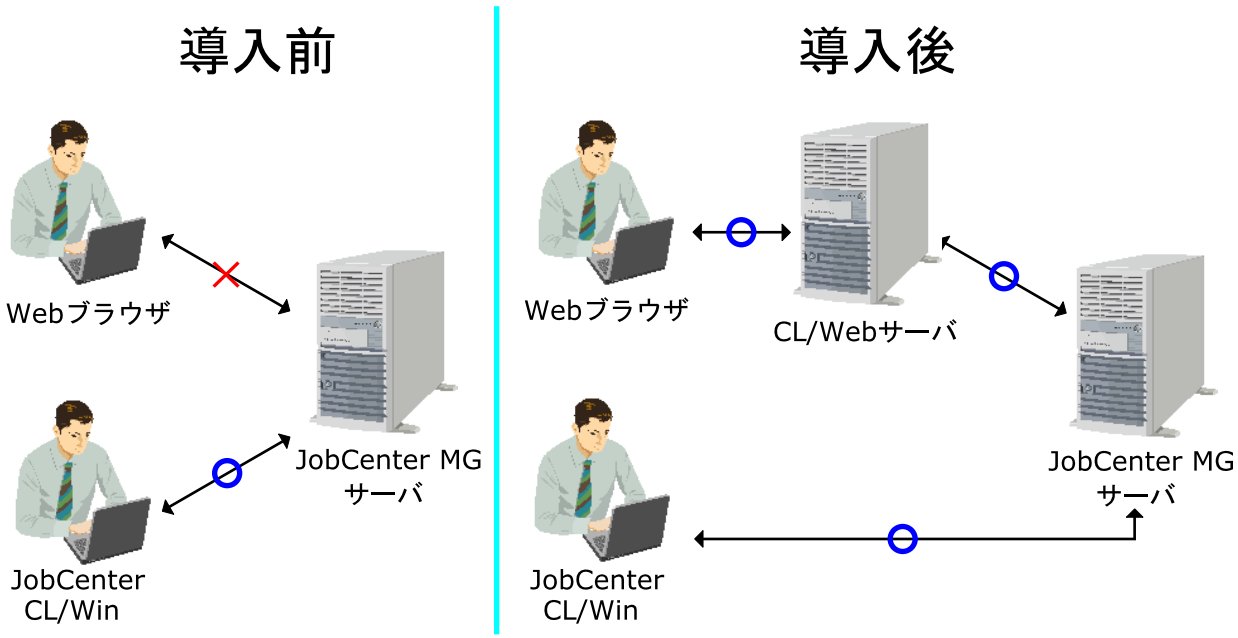

図1.2 導入の効果1

■導入の効果 その2

従来ではジョブのエラーが発生した場合トラッカ名をメールで送信していましたが、MGのメール送信機能はエラーが発生した状態のトラッカ画面のURL情報を設定したメールアドレス宛てに送信することが可能となります。詳細については「6.1 メール送信機能詳細」を参照してください。

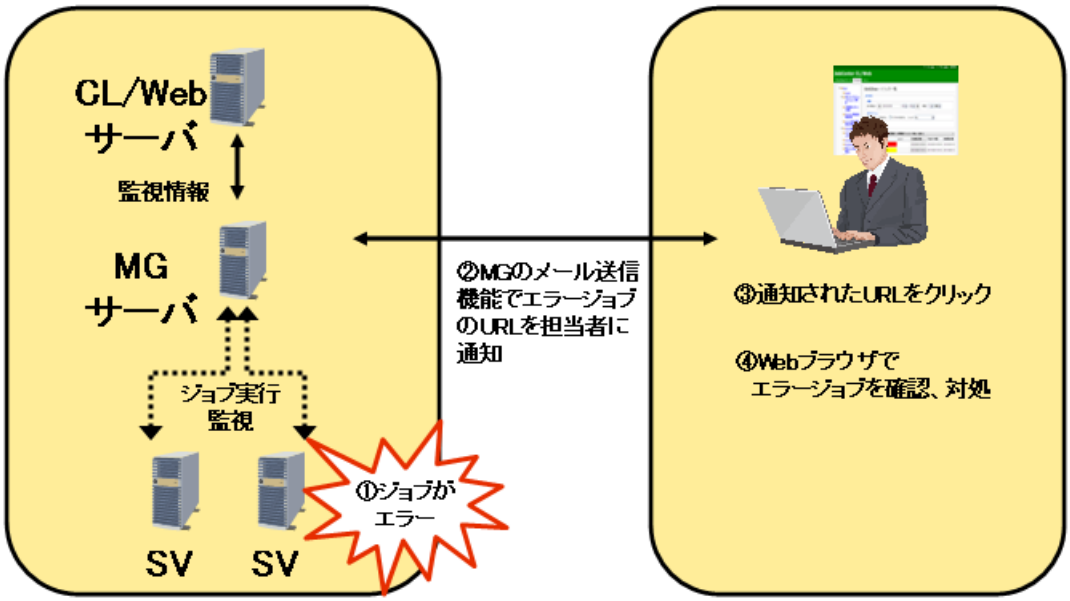

図1.3 導入の効果2

■導入の効果 その3

イベント連携機能でビューアが出力するイベントメッセージにトラッカURL情報を示すマクロを出力することが可能となります。詳細については「6.2 マクロ機能」を参照してください。

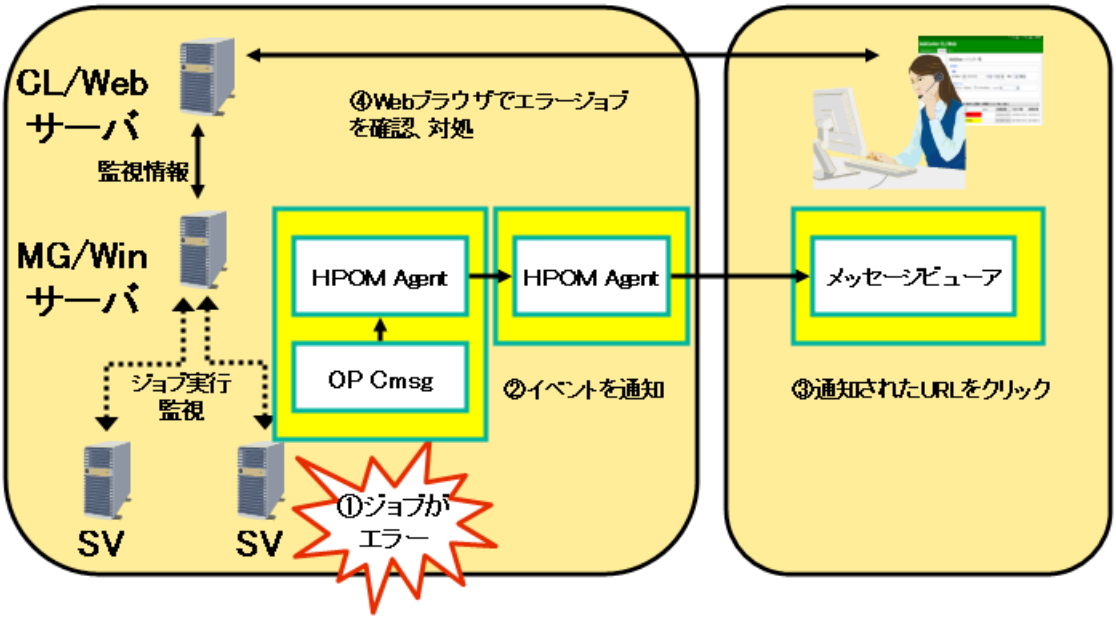

図1.4 導入の効果3(HPOM製品での例)

1.3. ライセンスについて

CL/Webは、JobCenterのオプションとして別途有償にて提供されているものです。

本機能を利用したい場合は、JobCenter CL/Webのライセンスの購入が必要となります。

1.4. 動作環境

CL/Webの動作環境については <リリースメモ>の「3.1.5 JobCenter CL/Webの対応OS・必須ソフトウェア・ブラウザ詳細」を参照してください。

1.5. 用語一覧

Web機能で共通で使用する用語について一覧を記載します。

用語	説明
JobCenter CL/Web	本製品名。Webブラウザを使用して実行状態の監視、ジョブネットワークの即時投入やパラメータの確認を行うことができます。
JobCenter CL/Webサーバ	WebブラウザにHTMLやオブジェクトの表示を提供します。

1.6. JobCenter CL/Web利用までの流れ

JobCenter CL/Webをご利用いただくまでに必要な作業の流れを以下に示します。

CL/Webサーバのインストールの準備をする	…「2.1.1 インストール前の事前準備」
LicenseManagerをインストールする	…「2.1.2 LicenseManagerのインストール」
コードワードを登録する	…「2.1.2 LicenseManagerのインストール」
CL/Webサーバをインストールする	…「2.1.3 CL/Webサーバのインストール」
CL/Webサーバの環境設定を行う	…「3.1 CL/Webサーバ」
CL/Webサーバを起動する	…「4.1 CL/Webサーバ起動」
Webブラウザの環境設定を行う	…「3.2 Webブラウザ」
WebブラウザでCL/Webサーバにアクセスする	…「5.2 ブラウザでCL/Webサーバにアクセスする」

図1.5 JobCenter CL/Web利用までの流れ

第2章 CL/Webサーバのインストール・アンインストール

本章では、CL/Webサーバのインストール・アンインストール手順について説明します。

2.1. インストール

LicenseManager、CL/Webサーバのインストールの手順を示します。

2.1.1. インストール前の事前準備

インストール前に必ず行う必要がある作業と確認事項について次に説明します。

■JREのインストール

CL/Webはインストーラの内部でJavaを使用してセットアップを行います。そのため、CL/Webサーバをインストールする前にはOracle社から提供されているJava　　SEのJRE7以降をインストールする必要があります。

最新バージョンはOracle社のWebサイトからダウンロードしてください。

RedHat　Linux　5にCL/Webサーバをインストールする場合、デフォルトでインストールされているJREのバージョンが古いため、Oracle社から提供されているJava SEのJRE7以降をインストールしてください。

■CL/Webサーバの停止とアンインストール(UNIX/Windows共通)

既にCL/Webサーバがインストールされている環境については、CL/Webサーバの停止とアンインストールを行う必要があります。

CL/Webサーバの停止とアンインストールについては「2.2　アンインストール」を参照してください。

2.1.2. LicenseManagerのインストール

LicenseManagerのインストール方法について説明します。

LicenseManagerはランセンス管理用製品です。

CL/Webサーバを動作させるために必要な製品ですのでインストールしてください。LicenseManagerのインストールについては<インストールガイド>の「2.2　LicenseManagerをインストールする」を参照してください。

コードワードの登録については<インストールガイド>の「2.3　コードワードを登録する」を参照してください。

2.1.3. CL/Webサーバのインストール

CL/Webサーバのインストール方法について説明します。

CL/Webサーバのインストールに必要なディスク容量は以下の通りです。

表2.1 CL/Webサーバのインストールに必要なディスク容量

固定ディスク容量	100 MB

2.1.3.1. UNIX版 CL/Webサーバのインストール

UNIX版のCL/Webサーバのインストール手順を示します。

1. rootユーザでログインします。
2. JobCenterメディア(DVD-ROM)をセットしてマウントします。マウント方法については対象OSの製品マニュアルなどを参照してください。
3. メディア内のCL/Webパッケージを適当なディレクトリに展開します。

```
root> cd <パッケージを展開するディレクトリ>
root> unzip <CLWEB_PRODUCT_PATH>
```

<CLWEB_PRODUCT_PATH>は、パッケージファイルのパス(<メディアのマウント先ディレクトリ>/PACKAGE/JB/OTHER/CLWEB/NECJCpkg-clweb.zip)を表します。

パッケージ展開先にはマルチバイトを含むパスを使用できません。もし使用すると次項のインストールスクリプトの実行で失敗します。

4. 次のスクリプトを実行します。

```
root> <パッケージを展開したディレクトリ>/clweb_install.sh
```

インストールパスを聞かれるのでデフォルトのパスでよければyを選択し、インストールパスを変更する場合はnを選択します。

```
Do you use default install path('/usr/local/jcclweb')? (y/n)
```

nを選択した場合は次のメッセージが表示されるのでインストールパスを指定する必要があります。

```
Please input install path.
/var/jcclweb
```

インストールパスを[/var/jcclweb]に変更する場合で説明します。

・インストールパスには半角スペース、マルチバイトを含むパスを使用できません。

・既にCL/Webサーバがインストールされている場合は、警告が出てインストール作業を中断します。

・指定したフォルダ名が既に存在している場合は、メッセージ(Already exists and is not an empty directory.)が出てインストール作業を中断します。空のディレクトリであればインストールを継続します。

デフォルトのパスを聞かれてyを選択した場合とインストールパスを指定した場合はインストールが開始されます。

JREがインストール済みであるにもかかわらず「Cannot find Java 1.5 or higher.」とメッセージが表示されてCL/Webサーバのインストールを実行できない場合は、[clweb_install.sh]の実行前に環境変数JAVA_HOMEにJREのインストールパスを設定してください（以下は/bin/shを用いた場合の設定例です）。

```
JAVA_HOME=<JREのインストールパス>
export JAVA_HOME
```

5. コマンド実行後にエラーがなければ、次のメッセージが表示されます。インストールは正常に終了しています。

```
Install finished successfully.
```

6. インストールが正常終了した後は3章 「環境設定」 へ進んでください。

2.1.3.2. Windows版 CL/Webサーバのインストール

Windows版のCL/Webサーバのインストール手順を示します。

ここではCD/DVD-ROMドライブをQ: ドライブとして説明します。CD/DVD-ROMドライブを他のドライブ名に割り当てている場合は、適宜読み替えてください。

1. ローカルのAdministratorユーザでログインします。

2. JobCenterメディア(DVD-ROM)をセットして、メディア内のCL/Webパッケージ(Q:\PACKAGE\JB\OTHER\CLWEB\NECJCpkg-clweb.zip)をローカルディスク上の任意の場所にコピーします。

3. 「NECJCpkg-clweb.zip」をOSの展開機能や解凍ツールを使用して適当なディレクトリに展開します。

パッケージ展開先にはマルチバイトを含むパスを使用できません。もし使用すると次項のインストールスクリプトの実行で失敗します。

4. コマンドプロンプトを起動します。コマンドプロンプトはWindowsの［スタート］－［プログラム］－［アクセサリ］ から起動できます。

5. コマンドプロンプト上で[clweb_install.bat]を実行します。

```
<パッケージを展開したディレクトリ>\clweb_install.bat
```

インストールパスを聞かれるのでデフォルトのパスでよければyを選択し、インストールパスを変更する場合はnを選択します。

```
Do you use default install path('C:\jcclweb')? (y/n)
```

nを選択した場合は次のメッセージが表示されるのでインストールパスを指定する必要があります。

```
Please input install path.
D:\jcclweb
```

インストールパスを[D:\jcclweb]に変更する場合で説明しています。

・インストールパスにはマルチバイトを含むパスを使用できません。

・既にCL/Webサーバがインストールされている場合は、警告が出てインストール作業を中断します。

・指定したフォルダ名が既に存在している場合は、メッセージ(Already exists and is not an empty directory.)が出てインストール作業を中断します。空のフォルダであればインストールを継続します。

デフォルトのパスを聞かれてyを選択した場合とインストールパスを指定した場合はインストールが開始されます。

JREがインストール済みであるにもかかわらず「Cannot find Java 1.5 or higher.」とメッセージが表示されてCL/Webサーバのインストールを実行できない場合は、[clweb_install.bat]の実行前に環境変数JAVA_HOMEにJREのインストールパスを設定してください。

```
set JAVA_HOME=<JREのインストールパス>
```

6. コマンド実行後にエラーがなければ、次のメッセージが表示されます。インストールは正常に終了しています。

```
Start CL/Web service regist
Finish CL/Web service regist
Install finished successfully.
Finish. Please Push a Key...
```

上記表示後、キーを押下してプロンプトに戻ります。

7. インストールが正常終了した後は3章 「環境設定」 へ進んでください。

2.2. アンインストール

LicenseManager、CL/Webサーバのアンインストールの手順を示します。

2.2.1. LicenseManagerのアンインストール

LicenseManagerのアンインストールについては<インストールガイド>の「4.1　LicenseManagerをアンインストールする」を参照してください。

2.2.2. CL/Webサーバのアンインストール

2.2.2.1. UNIX版 CL/Webサーバのアンインストール

UNIX版のCL/Webサーバのアンインストール手順を示します。

1. CL/Webサーバのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.1 UNIX版 CL/Webサーバ停止」を参照してください。
2. 次のコマンドを実行してアンインストールを行います。

```
%InstallDirectory%/run/clweb_ctrl.sh uninstall
```

3. %InstallDirectory%を削除します。

2.2.2.2. Windows版 CL/Webサーバのアンインストール

Windows版のCL/Webサーバのアンインストール手順を示します。

1. CL/Webサーバのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.2　Windows版　CL/Webサーバ停止」を参照してください。
2. 次のコマンドを実行してアンインストールを行います。

```
%InstallDirectory%\run\clweb_service.bat uninstall
```

3. %InstallDirectory%を削除します。

2.3. バージョンアップ

CL/Webサーバのバージョンアップの手順を示します。

2.3.1. UNIX版 CL/Webサーバのバージョンアップ

UNIX版のCL/Webサーバのバージョンアップ手順を示します。

1. CL/Webのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.1　UNIX版　CL/Webサーバ停止」を参照してください。

2. CL/Webサーバの環境設定ファイルをバックアップします。以下のファイルをCL/Webサーバと無関係なディレクトリにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%/config/clweb.conf
   ```

   CL/Webサーバのメールテンプレートファイルを同様にバックアップします。以下のディレクトリをCL/Webサーバと無関係なディレクトリにコピーしてください

   ```
   %InstallDirectory%/config/mail
   ```

   CL/Webサーバのマイページ設定ファイルを同様にバックアップします。以下のディレクトリをCL/Webサーバと無関係なディレクトリにコピーしてください

   ```
   %InstallDirectory%/config/mypage
   ```

   CL/Webサーバの実行ログファイルを同様にバックアップします。以下のディレクトリをCL/Webサーバと無関係なディレクトリにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%/log
   ```

3. CL/Webサーバをアンインストールします。アンインストールの方法については「2.2.2.1 UNIX版 CL/Webサーバのアンインストール」を参照してください。

4. 新しいバージョンのCL/Webサーバをインストールします。

5. バックアップしたCL/Webサーバの環境設定ファイルを書き戻します。

2.3.2. Windows版 CL/Webサーバのバージョンアップ

Windows版のCL/Webサーバのバージョンアップ手順を示します。

1. CL/Webサーバのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.2　Windows版　CL/Webサーバ停止」を参照してください。

2. CL/Webサーバの環境設定ファイルをバックアップします。以下のファイルをCL/Webサーバと無関係なフォルダにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%\config\clweb.conf
   ```

   CL/Webサーバのメールテンプレートファイルを同様にバックアップします。以下のフォルダをCL/Webサーバと無関係なフォルダにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%\config\mail
   ```

   CL/Webサーバのmypage設定ファイルを同様にバックアップします。以下のフォルダをCL/Webサーバと無関係なフォルダにコピーしてください。

```
%InstallDirectory%\config\mypage
```

CL/Webサーバの実行ログファイルを同様にバックアップします。以下のフォルダをCL/Webサーバと無関係なフォルダにコピーしてください。

```
%InstallDirectory%\log
```

3. CL/Webサーバをアンインストールします。アンインストールの方法については「2.2.2.2 Windows版 CL/Webサーバのアンインストール」を参照してください。
4. 新しいバージョンのCL/Webサーバをインストールします。
5. バックアップしたCL/Webサーバの環境設定ファイルを書き戻します。

2.4. 再インストールが必要となる場合

次の場合、CL/Webサーバの再インストールが必要となります。

■JREのバージョンアップ等により、JREのインストールパスが変更される場合

■LicenseManagerの再インストール等により、LicenseManagerのインストールパスが変更される場合

■CL/Webサーバのインストールパスを変更したい場合

2.4.1. UNIX版 CL/Webサーバの再インストール

UNIX版のCL/Webサーバの再インストール手順を示します。

1. CL/Webサーバのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.1 UNIX版 CL/Webサーバ停止」を参照してください。

2. CL/Webサーバの環境設定ファイルをバックアップします。以下のファイルをCL/Webサーバと無関係なディレクトリにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%/config/clweb.conf
   ```

   CL/Webサーバの実行ログファイルを同様にバックアップします。以下のディレクトリをCL/Webサーバと無関係なディレクトリにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%/log
   ```

3. CL/Webサーバをアンインストールします。アンインストールの方法については「2.2.2.1 UNIX版 CL/Webサーバのアンインストール」を参照してください。

4. JREのバージョンアップやLicenseManagerの再インストール等を実施します。

5. CL/Webサーバを再インストールします。

6. バックアップしたCL/Webサーバの環境設定ファイルを書き戻します。

2.4.2. Windows版 CL/Webサーバの再インストール

Windows版のCL/Webサーバの再インストール手順を示します。

1. CL/Webサーバのサービスを停止します。停止の方法については「4.2.2　Windows版　CL/Webサーバ停止」を参照してください。

2. CL/Webサーバの環境設定ファイルをバックアップします。以下のファイルをCL/Webサーバと無関係なフォルダにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%\config\clweb.conf
   ```

   CL/Webサーバの実行ログファイルを同様にバックアップします。以下のフォルダをCL/Webサーバと無関係なフォルダにコピーしてください。

   ```
   %InstallDirectory%\log
   ```

3. CL/Webサーバをアンインストールします。アンインストールの方法については「2.2.2.2 Windows版 CL/Webサーバのアンインストール」を参照してください。

4. JREのバージョンアップやLicenseManagerの再インストール等を実施します。

5. CL/Webサーバを再インストールします。

6. バックアップしたCL/Webサーバの環境設定ファイルを書き戻します。

2.5. バージョンの確認方法

CL/Webのバージョン確認方法は以下のとおりです。

■ブラウザからCL/Webに接続可能な場合

ブラウザからCL/Webに接続し、ログイン画面の下にある「JobCenter CL/Web R XX.YY」を確認します。

■ブラウザからCL/Webに接続できない、または、CL/Webが停止している場合

%InstallDirectory%/config/version.rbの「$clweb_version = "XX.YY"」を確認します。

XX.YYにはバージョン番号が入ります。

第3章 環境設定

本章では、CL/Webの環境設定について説明します。

3.1. CL/Webサーバ

3.1.1. CL/Web環境設定ファイル(clweb.conf)

CL/Web環境設定ファイル(clweb.conf)を編集することで、CL/Webサーバの各種設定を行います。

clweb.confの格納場所は次の通りです。

```
%InstallDirectory%\config\clweb.conf
```

clweb.confは、デフォルトでは次のフォーマットになっています。

```
# $port = 443
# $bind = "0.0.0.0"
# $ssl_disable = false
# $tracker_auto_refresh = false
# $jccombase = 611
# $allow_ssl = false
# $mail_server = "smtpserver"
# $mail_port = 25
# $mail_domain = ""
# $mail_authentication = "plain"
# $mail_username = "username"
# $mail_password = "password"
# $mail_from = ""
# $mail_charset_utf8 = true
# $relative_url_root = "/clweb"
# main menu tab order
# jnws: 1, trackers: 2, schedules: 3, machines: 4, calendars: 5, mypage: 6
# $tab_order = "6 1 2 3 4 5"
```

CL/Web環境設定ファイル(clweb.conf)の設定を反映させるためには再起動が必要です。

3.1.2. 使用ポートの設定

CL/Webサーバがデフォルトで通信するプロトコルはTLS(SSL)です。CL/Web環境設定ファイルclweb.confに使用するポート番号を記載することで通信が可能となります。

clweb.confファイルのポート番号設定方法は次の通りです。

1. ポート変数$portの行の先頭に#記号がついているので#記号を削除する。

   #記号以降はコメントアウトとみなされます。#記号が先頭についていると設定が無効となります。設定を有効にするためには、#記号を削除する必要があります。

   ■設定例

   デフォルトポート番号設定前

   ```
   # $port=443
   ```

   デフォルトポート番号設定後

   ```
    $port=443
   ```

2. 設定するポート番号はデフォルトでは443が指定されているので、変更する場合は任意の数値に変更する。

CL/Webサーバが使用するポートについては、<環境構築ガイド>の「2.1.6 https」も参照してください。

3. clweb.confファイルを保存する。

clweb.confファイルのフォーマット、および設定する項目は次の通りです。

表3.1 clweb.confのパラメータの設定値(ポート番号指定)

設定	説明	タイプ	デフォルト設定値
$port	CL/Webサーバ-Webブラウザ間の通信で必要なTLS(SSL)用のポート番号を指定します。(TLS(SSL)を無効にした場合はHTTP用のポート番号を指定します。)	数値	443
$bind[注1]	サーバが複数IPアドレスを保持する場合、IPアドレスを指定する必要があります。	文字列	0.0.0.0
$ssl_disable	CL/Webサーバ-Webブラウザ間の通信でTLS(SSL)を無効にするかどうかをtrueまたはfalseで指定します。 true - TLS(SSL)を無効にします。CL/Webサーバ-Webブラウザ間の通信にはHTTPを使用します。 false - TLS(SSL)を有効にします。	真偽値	false
$jccombase	CL/WebサーバがMG/SVと通信するためのポート(JCCOMBASE)を設定します。 MG/SV側で使用するポートを変更していない場合は、設定の必要はありません。	数値	611
$allow_ssl	CL/Webサーバ-Webブラウザ間でTLS通信のみ利用し、SSLv3を利用しないかどうかをtrueまたはfalseで指定します。 true … SSLv3を有効にします。SSLv3でも接続を行うことができます。（脆弱性に注意して下さい） false … SSLv3を無効にします。TLSでしか通信ができません。	真偽値	false

■注1 オプションであるため、設定する必要がない場合は変更しないでください。

■文字列を指定する場合はダブルクォーテーションで文字列を囲む必要があります。

■CL/Webサーバをインストールするマシンにファイアウォールが存在する場合、ファイアウォールに対してCL/Webサーバが使用するネットワークポートの穴あけ作業を行ってください。

3.1.3. SSL署名証明書の設定

CL/WebサーバがTLS(SSL)通信する時デフォルトで自己署名証明書を使います。CL/Web環境に証明書ファイルと秘密鍵ファイルを格納することで自分のSSL署名証明書の使用が可能となります。

CL/Web環境格納場所は次の通りです。

%InstallDirectory%\config

証明書ファイルと秘密鍵ファイルは、次のファイルになっています。

証明書ファイル名	ssl_cert
秘密鍵ファイル名	ssl_key
ファイル形式	認証局から発行され、OpenSSLで使われる形式です。

■ssl_certとssl_keyのどちらかのファイルが存在しない場合、CL/Webがエラーメッセージを出力して、異常停止となります。

■２つのファイルが両方存在しない場合、デフォルトの自己署名証明書を使用します。

3.1.4. URLのサブディレクトリの設定

CL/WebサーバのアクセスURLはデフォルトで、https://<CL/Webサーバのホスト名またはIPアドレス>/になります。

本設定を行うことで、アクセスURLをhttps://<CL/Webサーバのホスト名またはIPアドレス>/<サブディレクトリ>/のように変更できます。

また、本設定とApache等のリバースプロキシ機能を利用することで、CL/Webサーバと他のサーバを同じURLの空間にまとめることができます。

URLのサブディレクトリ設定は、CL/Web環境設定ファイルclweb.confに記述します。

URLのサブディレクトリ設定に関するclweb.confファイルのフォーマット、および項目は次の通りです。

表3.2 clweb.confのパラメータの設定値(URLのサブディレクトリ指定)

設定	説明	タイプ	設定値
$relative_url_root	サブディレクトリのパスを指定します。	文字列	サブディレクトリのパス

3.2. Webブラウザ

Webブラウザを起動するために必要な設定を説明します。

3.2.1. アクティブスクリプトの設定

Internet Explorerを使用する場合、アクティブスクリプトが有効になっている必要があります。

1. Internet Explorerを起動し、[ツール] - [インターネット オプション]の順にクリックします。
2. セキュリティタブを選択し、インターネットゾーンの[レベルのカスタマイズ]をクリックします。
3. セキュリティ設定で[アクティブスクリプト]項目で「有効にする」にチェックが入っていることを確認します。チェックが入っていない場合は、「有効にする」にチェックを入れてください。

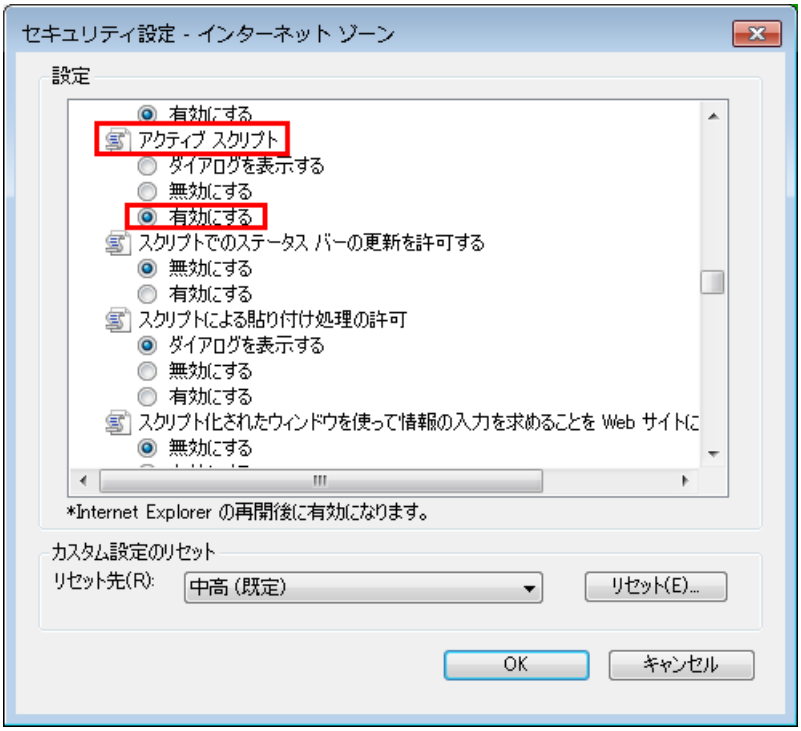

図3.1 アクティブスクリプト設定画面

3.2.2. フォントのダウンロードの設定

Internet Explorerを使用する場合、フォントのダウンロードが有効になっている必要があります。

1. Internet Explorerを起動し、[ツール] - [インターネット オプション]の順にクリックします。
2. セキュリティタブを選択し、インターネットゾーンの[レベルのカスタマイズ]をクリックします。
3. セキュリティ設定で[フォントのダウンロード]項目で「有効にする」にチェックが入っていることを確認します。チェックが入っていない場合は、「有効にする」にチェックを入れてください。

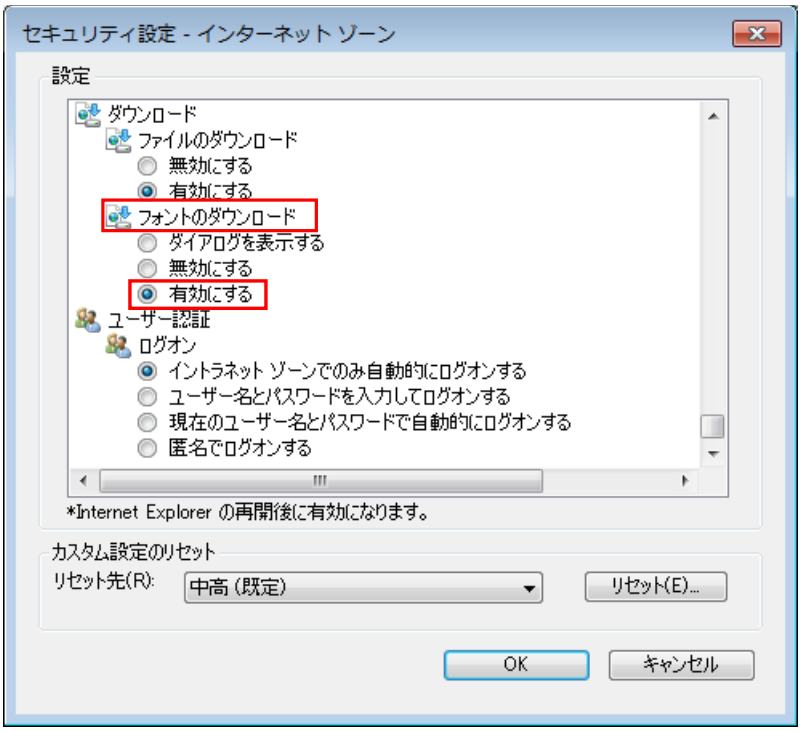

図3.2 フォントのダウンロード設定画面

3.2.3. TLS(SSL)の設定

CL/Webサーバ-Webブラウザ間の通信でTLS(SSL)を使用し、Internet Explorerを使用する場合、TLS(SSL)を使用する設定になっている必要があります。

1. Internet Explorerを起動し、[ツール] - [インターネット オプション]の順にクリックします。
2. 詳細設定タブを選択し、設定の[セキュリティ]項目で次の項目でTLSのバージョンの一つ以上にチェックが入っていることを確認します。
   - ■ [TLS 1.0 を使用する]
   - ■ [TLS 1.1 を使用する]
   - ■ [TLS 1.2 を使用する]
3. チェックが入っていない場合は上記の項目について、チェックを入れてください。

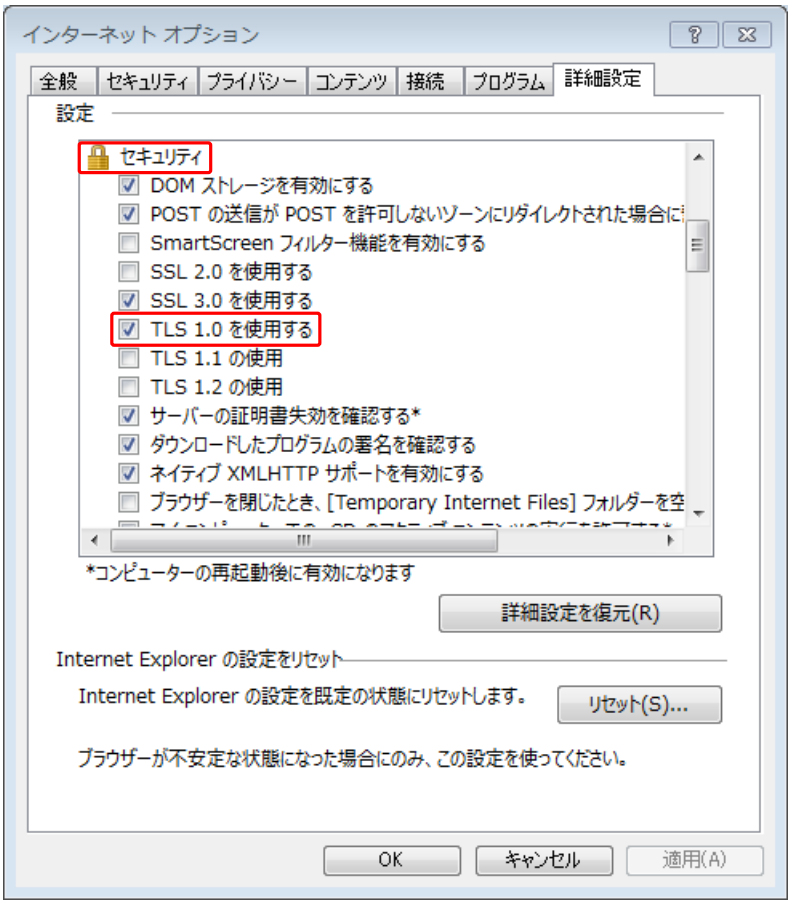

図3.3 TLS(SSL)設定画面

SSL 2.0はサポートしていません。SSL 3.0はセキュリティ脆弱性があるためデフォルトでは利用できません。SSL3.0を利用したい場合は、clweb.confの設定で$allow_sslの設定を変更し、ブラウザの設定でSSL3.0を有効にする必要があります。

3.2.4. Cookieの設定

CL/WebではCookieを使用するため、Cookieを有効にする必要があります。

ご使用のブラウザでCookieの受け入れの設定を確認してください。詳しい設定方法については、Internet Explorerのヘルプを参照してください。

3.2.5. iOS上で動作するSafariを利用する場合

CL/WebではJavaScriptおよびCookieを使用します。そのため、iOSで動作するデバイス（iPad等）のSafariの設定でJavaScript、Cookieを有効にする必要があります。

本章以降、CL/Webの操作方法について、「クリック」「押下」を「タップ」、「右クリック」を「ロングタップ」に適宜読み替えてください。また、ロングタップを行うと拡大鏡が表示されることがありますが、これはSafariの動作となります。

SafariからCL/Webを利用した場合、誤操作による画面遷移を防ぐため、テーブル上に表示された項目やトラッカフローの部品をタップしてもリンク先を開かないようになっています。リンク先を開くには、ロングタップでコンテキストメニューを表示して「開く」をタップしてください。

第4章 CL/Webサーバ起動・停止

本章では、CL/Webサーバの起動・停止方法について説明します。

4.1. CL/Webサーバ起動

4.1.1. UNIX版 CL/Webサーバ起動

UNIX版のCL/Webサーバはスクリプトの実行でサービスを起動します。

RHEL6.x系以前の場合(/sbin/initによる起動)

1. 次のスクリプトを実行します。

```
/etc/init.d/jcclweb start
```

RHEL7.x系以降の場合(systemdによる起動)

1. 次のスクリプトを実行します。

```
systemctl start jcclweb
```

4.1.2. Windows版 CL/Webサーバ起動

Windows版のCL/WebサーバはWindowsのサービス機能で起動します。

1. Windowsの[スタート] - [ファイル名を指定して実行]を選択し、名前に[services.msc]を入力して、[OK]をクリックします。

図4.1 ファイル名指定画面

Windowsのサービス機能の起動方法はWindowsのバージョンによって異なります。各Windowsのバージョン毎のサービス機能の起動方法はWindowsのヘルプ等を参照ください。

2. [サービス]が表示されるので、名前で「JobCenter CL/Web Service」を右クリックして[開始]を選択します。

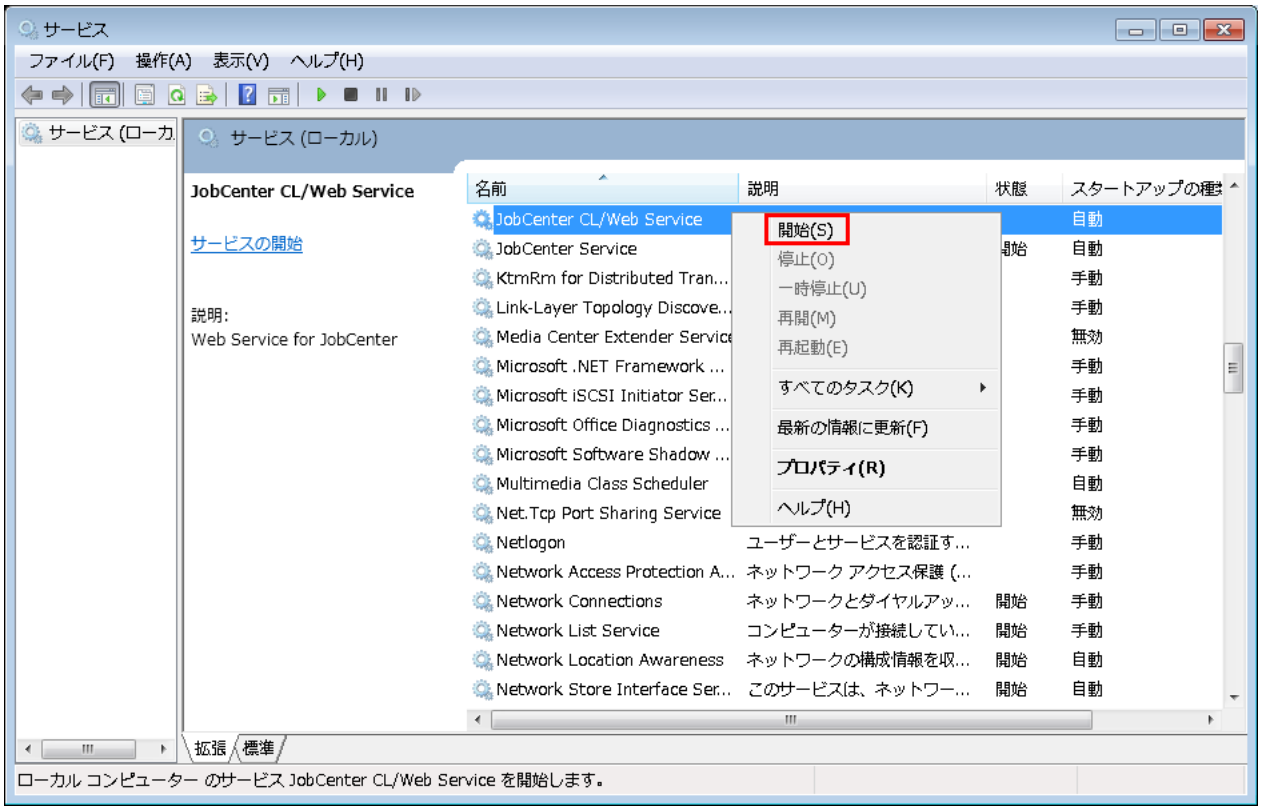

図4.2 サービス起動画面

3. 「JobCenter CL/Web Service」の状態が[開始]になっていれば、CL/Webサーバの起動は完了です。

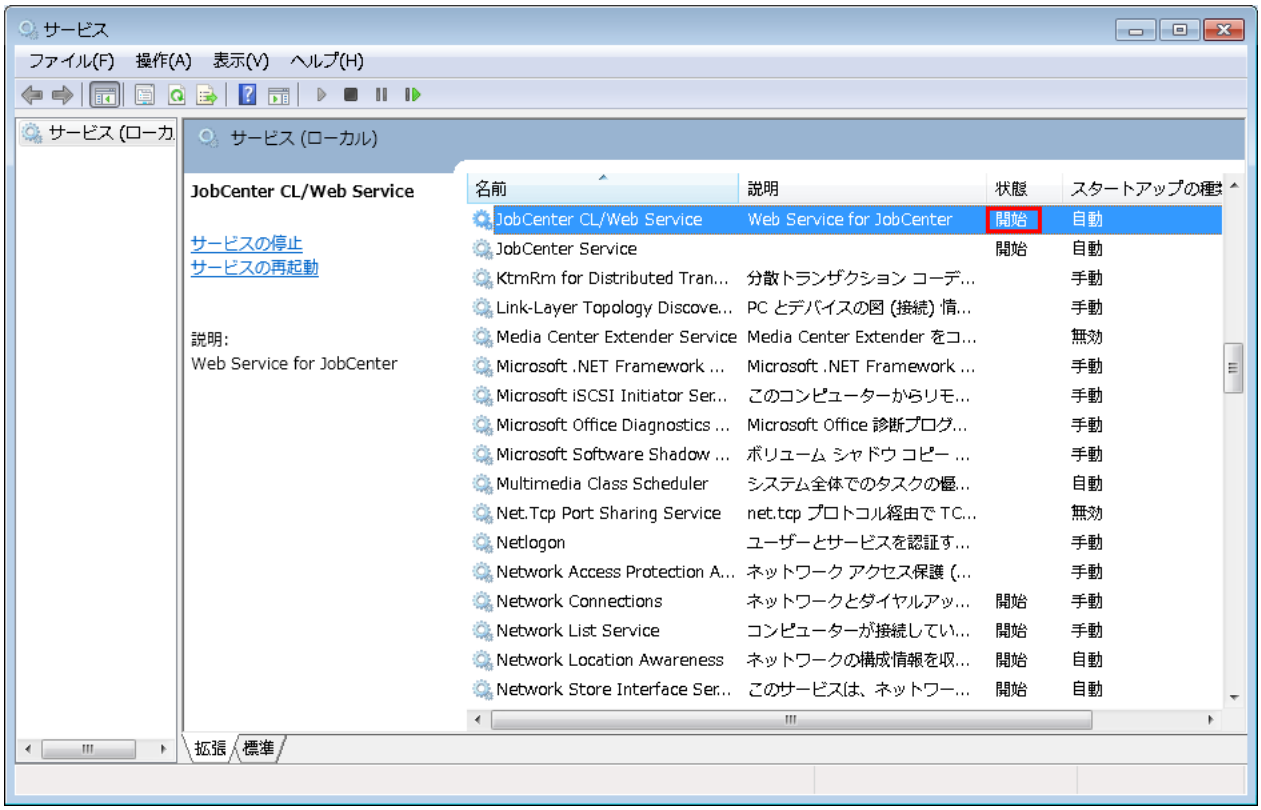

図4.3 サービス開始画面

CL/Webサーバのインストール後はサービスが停止している状態なので、手動で開始する必要があります。

4.2. CL/Webサーバ停止

4.2.1. UNIX版 CL/Webサーバ停止

UNIX版のCL/Webサーバはスクリプトの実行でサービスを停止します。

RHEL6.x系以前の場合(/sbin/initによる停止)

1. 次のスクリプトを実行します。

```
/etc/init.d/jcclweb stop
```

RHEL7.x系以降の場合(systemdによる停止)

1. 次のスクリプトを実行します。

```
systemctl stop jcclweb
```

4.2.2. Windows版 CL/Webサーバ停止

Windows版のCL/WebサーバはWindowsのサービス機能で停止します。

1. Windowsのサービスを起動します。詳細については「4.1.2　Windows版　CL/Webサーバ起動」を参照してください。
2. [サービス]が表示されるので、名前で「JobCenter CL/Web Service」を右クリックして[停止]を選択します。

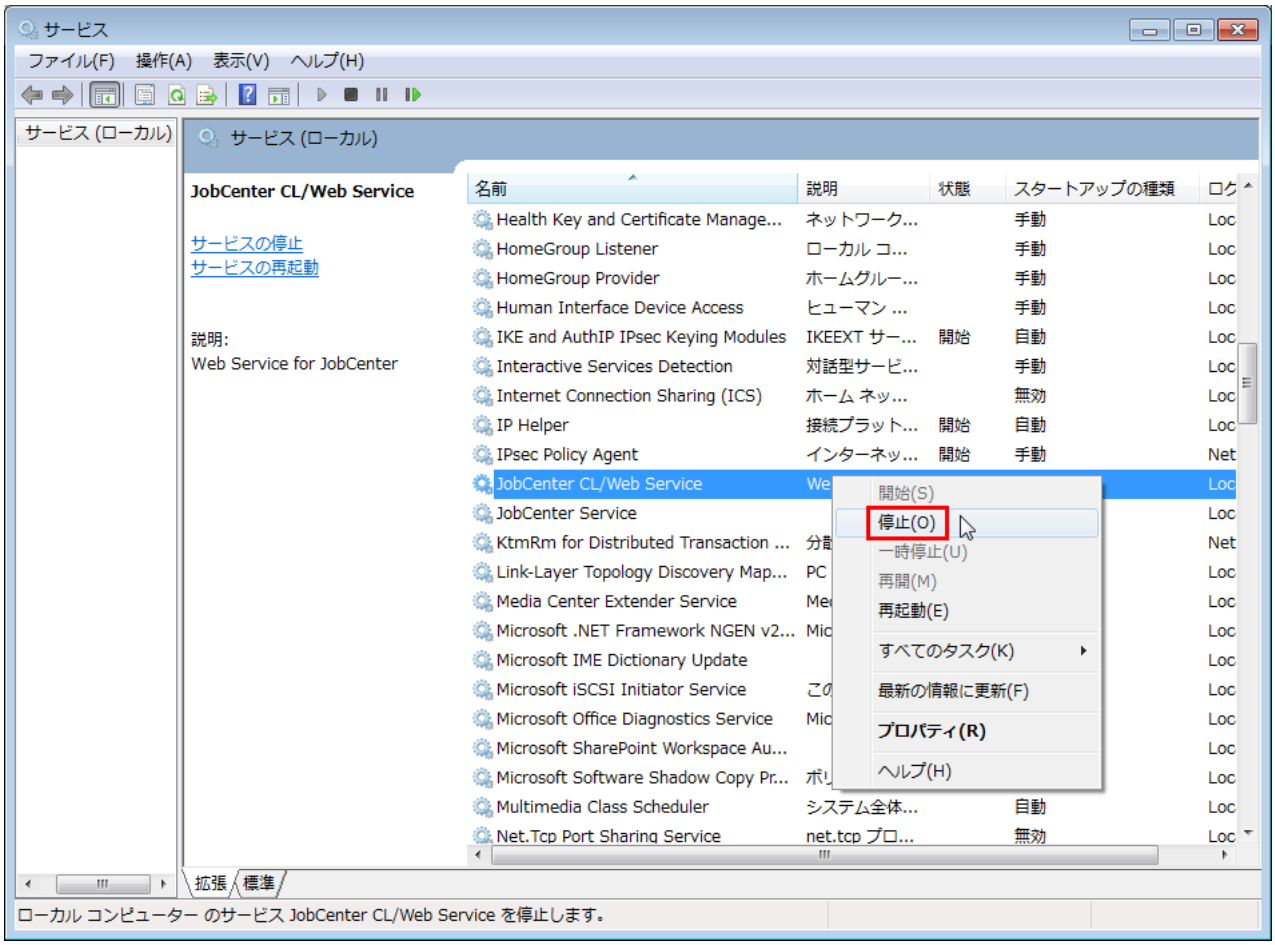

図4.4 サービス停止画面

3.「JobCenter CL/Web Service」の状態が次の画面のように空白になっていれば、CL/Webサーバの停止は完了です。

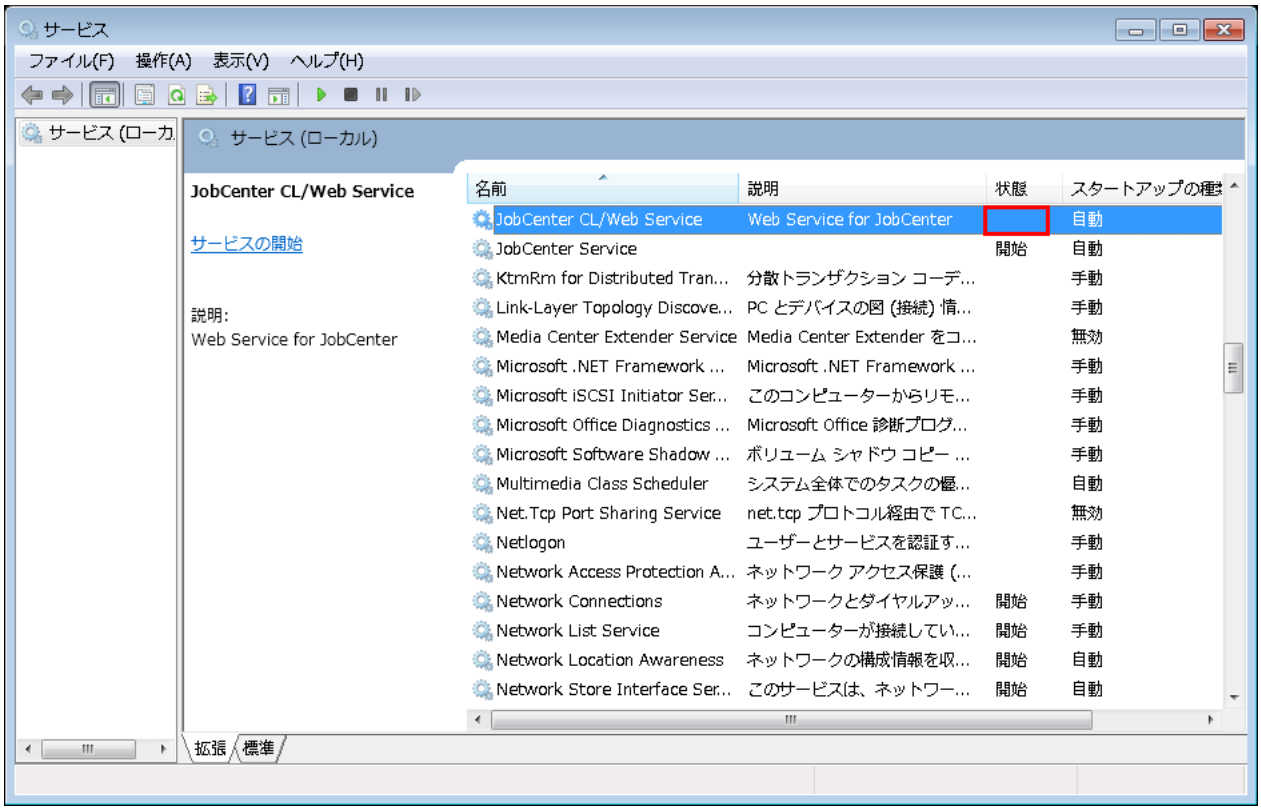

図4.5 サービス停止画面

第5章 基本操作

本章では、CL/Webの基本機能に対する操作方法について説明します。

本章はTLS(SSL)が有効であることを前提として説明しています。TLS(SSL)を無効にしている場合は、説明中のCL/WebサーバのURLの「https」を「http」に適宜読み替えてください。

5.1. CL/Webの基本的な操作方法

次に本書で用いている基本的な操作方法を例示します。

5.1.1. CL/Web画面 各部の名称と概要

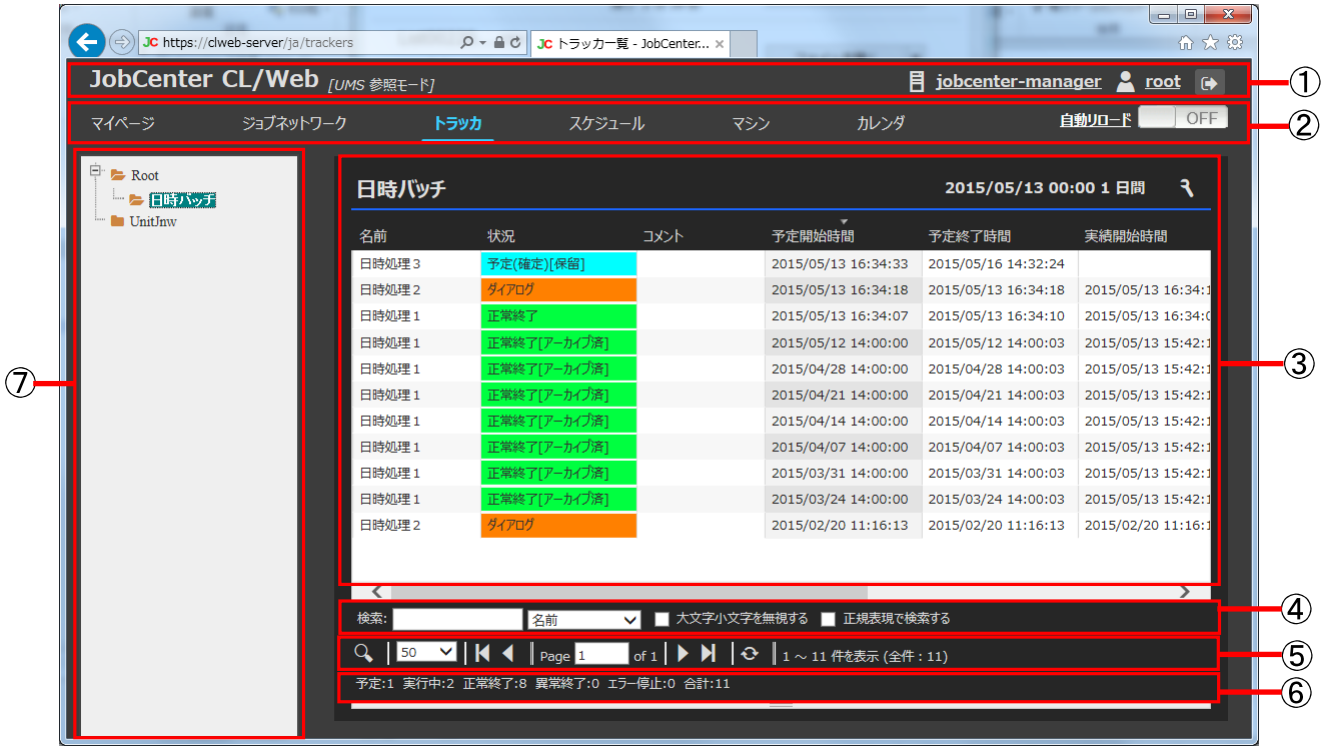

図5.1 CL/Web画面

CL/Web画面の各部の名称について説明します。

領域名	説明
①タイトルバー	JobCenter製品であることを示すヘッダです。 ■製品名 JobCenter CL/Webが表示されます。 ■ユーザモード ログインしたユーザによってUMSまたはEUIが表示されます。 また、ログイン時に選択したモードが表示されます。 ログインユーザ別のGUI画面モード、サーバ接続時の登録モードについては<基本操作ガイド>の「2.3.3　ログインユーザ別のGUI画面モード、サーバ接続時の登録モード」を参照してください。 ■サーバ名 サーバ名が表示されます。 クリックするとサーバ情報がダイアログで表示されます。

領域名	説明
	■ユーザ名 CL/Webにログインしたユーザ名が表示されます。 クリックするとユーザ情報がダイアログで表示されます。 ■ログアウト クリックするとログイン画面が表示されます。
②ナビゲーションバー	マイページ、ジョブネットワーク、トラッカ、スケジュール、マシン、カレンダの各メニューが表示されます。CL/Web環境設定ファイルclweb.confを変更することでナビゲーションバーのタブ表示順序の設定が可能となります。詳細については「5.1.5 ナビゲーションバーのタブ表示順序の設定」を参照してください。
③表示テーブル	ナビゲーションバーで選択したメニューにより、表示内容が変わります。 ■ジョブネットワークメニュー ジョブネットワーク一覧が表示されます。 ■トラッカメニュー トラッカメニュー一覧が表示されます。 ■マシンメニュー マシン一覧が表示されます。
④検索バー	プルダウンメニューの項目を指定して検索することができます。
⑤ステータスバー	トラッカ表示数の選択、ページ移動、トラッカ画面の更新ができます。
⑥統計情報バー	トラッカの状態(予定、実行中)などの数を表示されます。統計情報バーはトラッカ画面のみ表示されます。
⑦ツリービュー	グループのツリー構成が表示されます。

5.1.2. 検索機能

CL/Webには各ナビゲーションバー毎に検索バーとステータスバーが存在します。

検索バーとステータスバーの使用方法を次に説明します。

5.1.2.1. 検索バー

1. プルダウンメニューより検索したい項目を選択します。

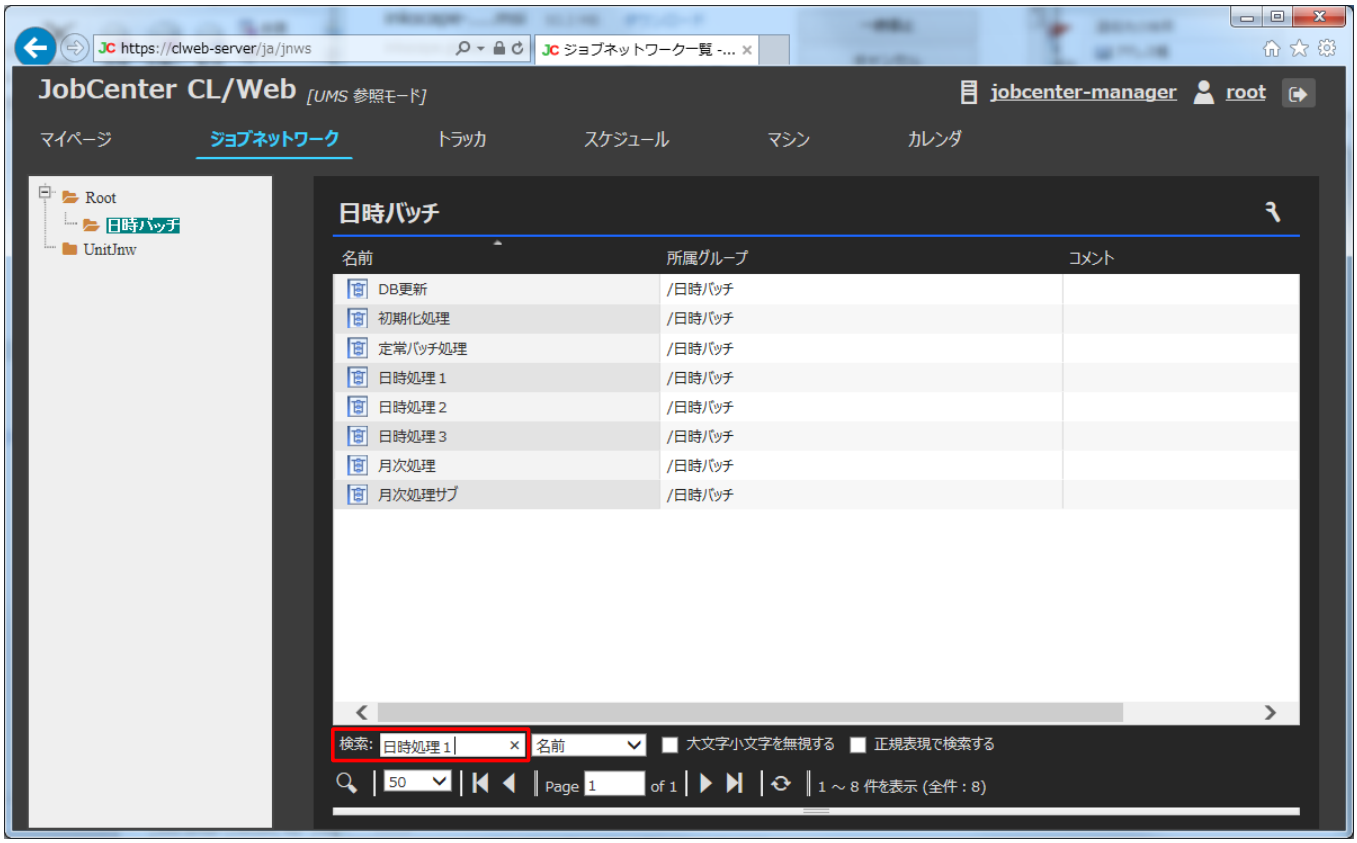

図5.2 検索バー画面

2. 検索用のテキストボックスに検索名を入力してキーボードの「Enter」を押下する。

3. 検索バーで設定した内容が表示されます。

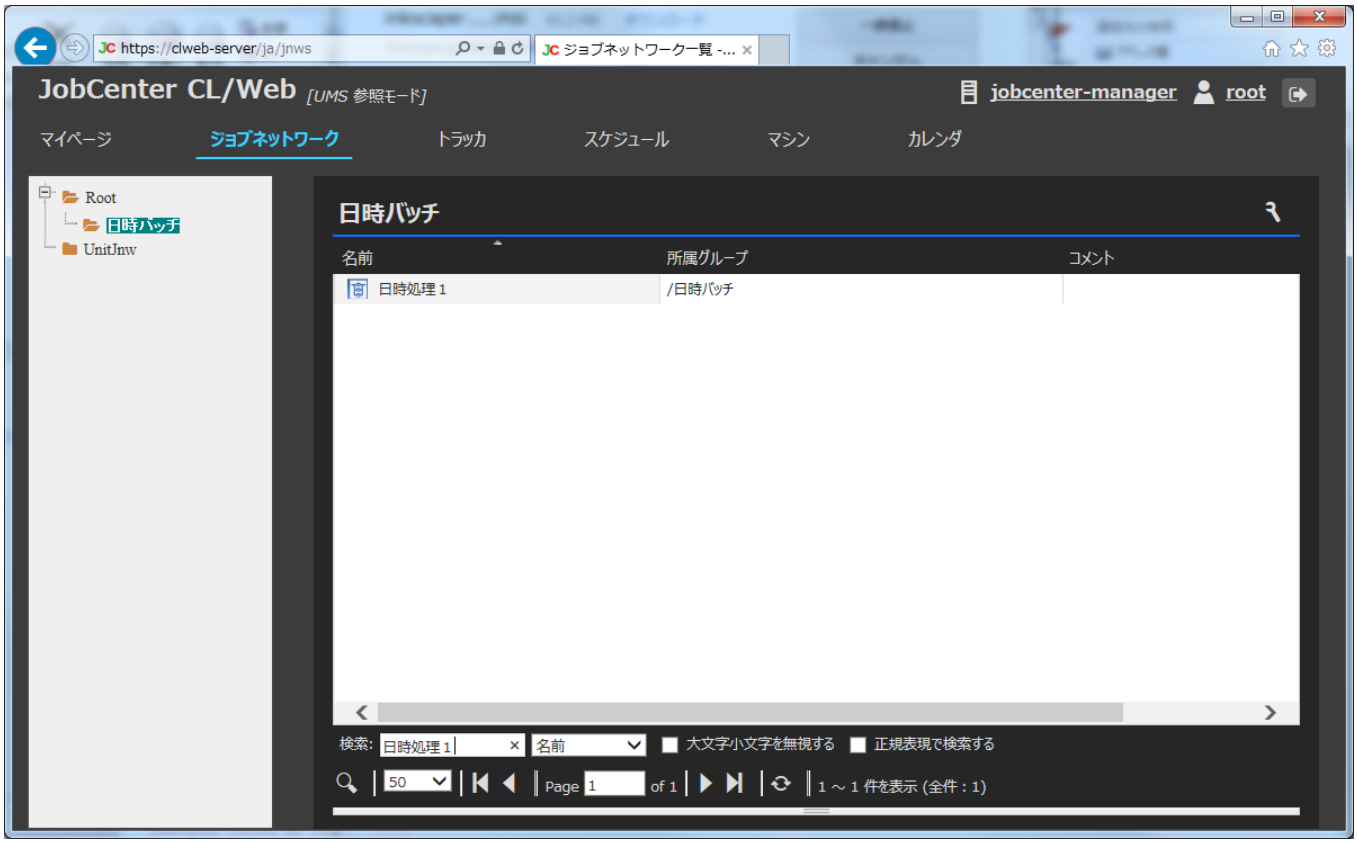

図5.3 検索結果画面

検索バーの設定項目は次のとおりです。

■検索

検索文字列を入力します。

■大文字小文字を無視する

チェックボックスにチェックを入れると検索文字列の大文字小文字を意識することなく検索できます。

■正規表現で検索する

チェックボックスにチェックを入れるとPerl互換の正規表現が使用できます。

「正規表現で検索する」をチェックしない場合は、完全一致検索を行います。

5.1.2.2. ステータスバー

ステータスバーでは表示行数の設定、ページの遷移、表示テーブルの更新などが行うことができます。

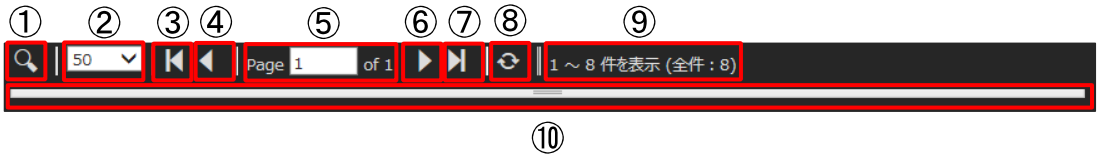

図5.4 ステータスバー画面

画面に表示している各番号の機能について次に説明します。

表5.1 ステータスバー機能説明

番号	説明
①	クリックすると検索バーの表示を隠すことができます。元に戻す場合は再度クリックします。
②	プルダウンメニューより表示テーブルに表示する行数の範囲を指定することができます。 指定範囲は10、15、20、30、50、100、200です。
③	クリックすると先頭ページに移動します。
④	クリックすると１ページ前に移動します。
⑤	現在のページ番号を表示しています。また、ページ番号を入力してキーボードの「Enter」を押下すると、指定したページに移動します。
⑥	クリックすると１ページ後に移動します。
⑦	クリックすると最後のページに移動します。
⑧	クリックすると表示テーブルを最新状態に更新します。
⑨	表示されている件数が表示されます。②で指定した範囲によって表示範囲が変わります。
⑩	検索バーとステータスバーを上下に移動できます。ステータスバーの最下方部をクリックしたままカーソルを上下に移動させると検索バーとステータスバーが上下に移動します。

⑧の機能でツリービューの更新はできません。ツリービューを更新する場合はF5ボタンかブラウザの更新機能を使用してください。

5.1.3. ソート機能

表示テーブル内の各項目について辞書順にソートすることができます。

ソート方法について次に説明します。

1. 項目名タブにカーソルを合わせクリックします。

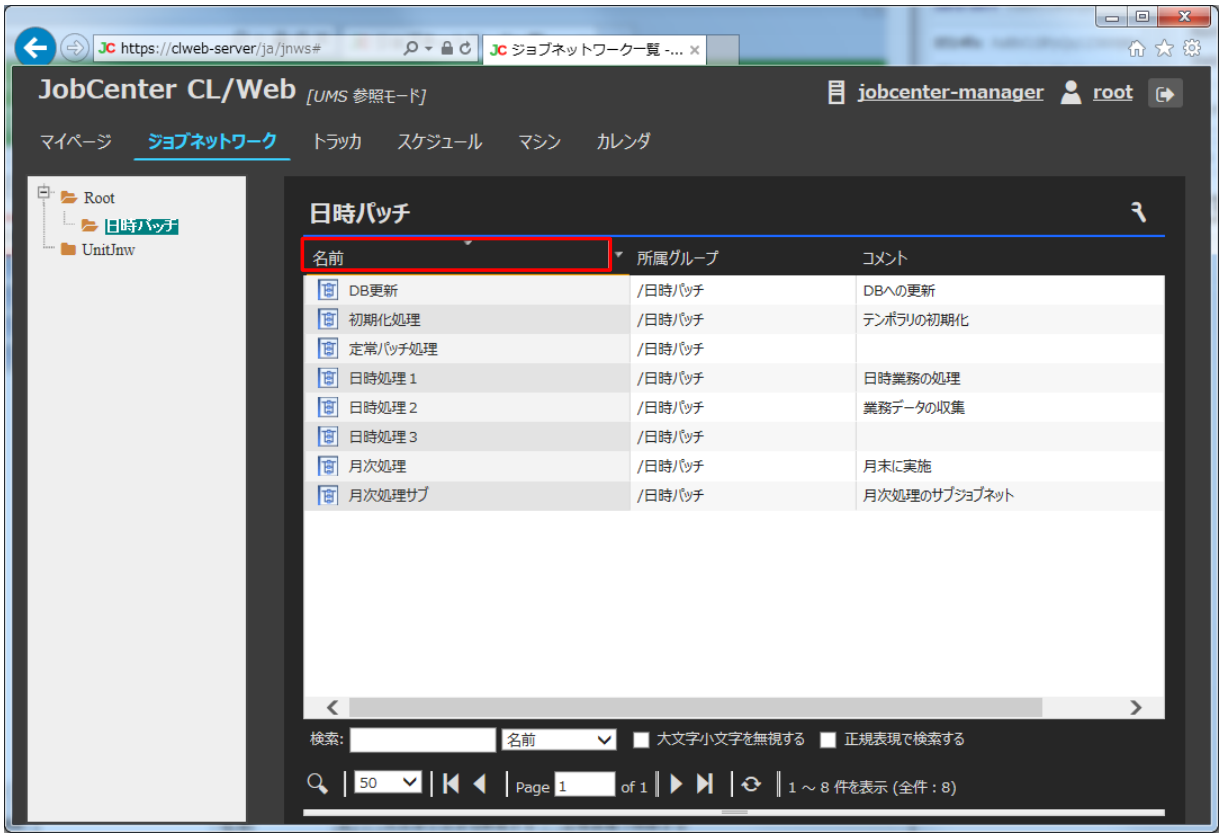

図5.5 ソート前の画面

2. 辞書順にソートされます。元に戻すときは、再度項目名タブにカーソルを合わせクリックします。

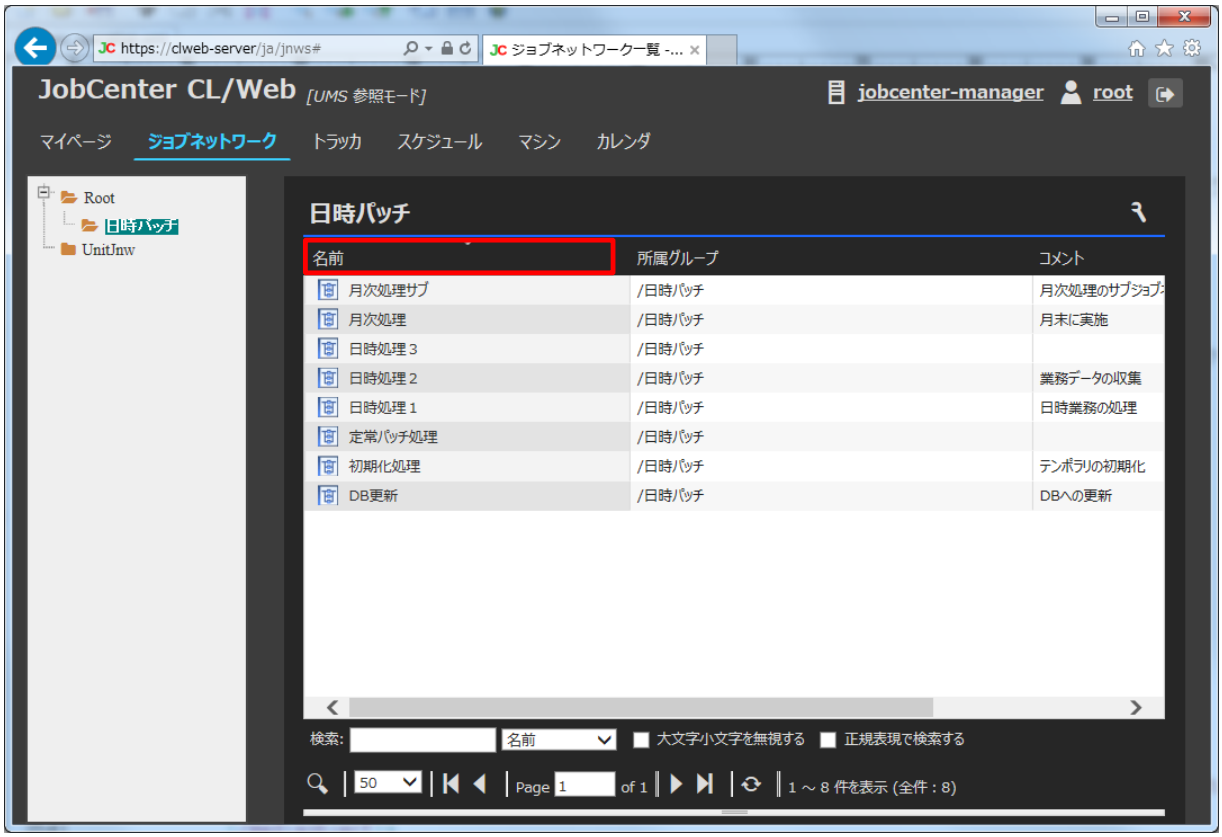

図5.6 ソート後の画面

全ての項目においてソート機能を適用することができます。

5.1.4. 表示テーブル内の項目表示機能

表示テーブル内の項目はデフォルト値以外にも項目の表示ができます。また、項目を非表示にすることもできます。

表示テーブル内の項目表示機能について次に説明します。

1. 項目名タブのカーソルを合わせると右端に[Hide/Show　　Columns]ボタンが表示されるので、[Hide/Show Columns]ボタンをクリックする。

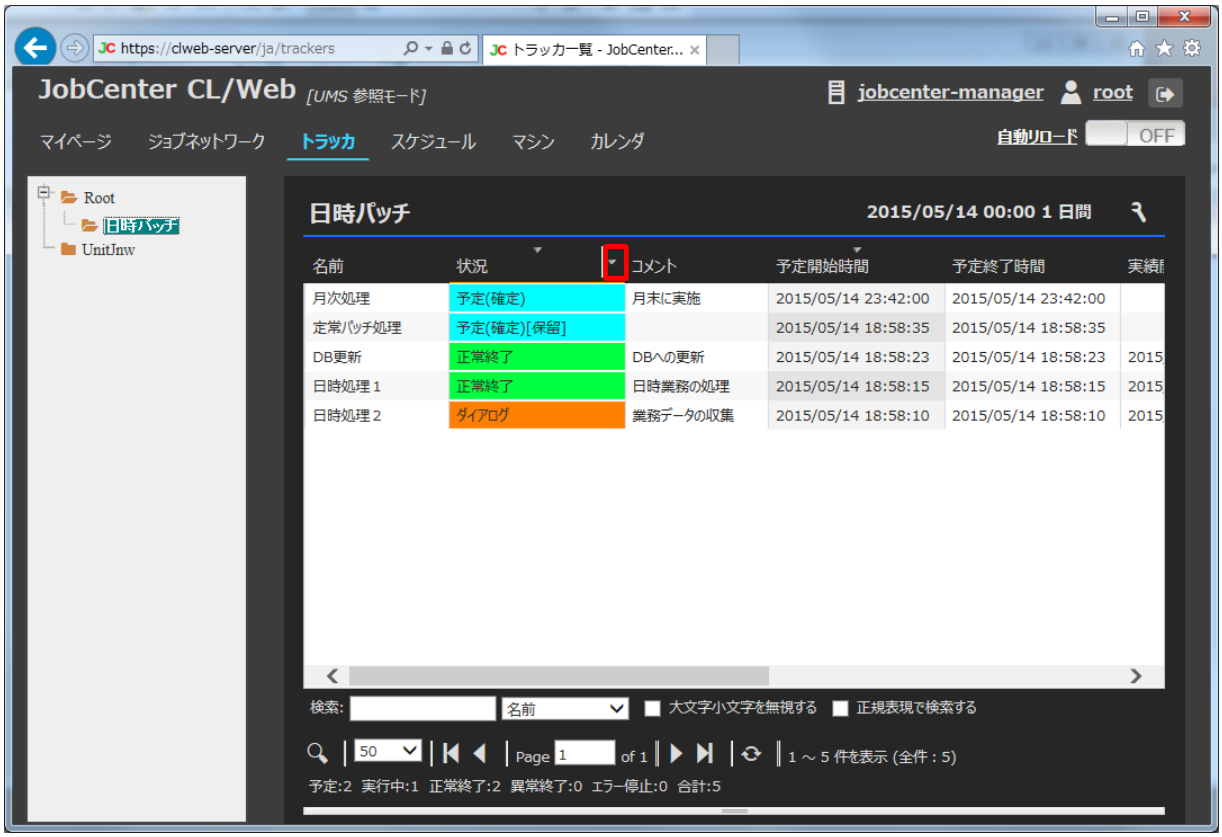

図5.7 Hide/Show Columnsボタン選択画面

表示テーブル内の項目であればどの項目名タブで操作しても同じ表示になります。

2. 選択可能な表示項目一覧が表示されるのでデフォルト値以外で表示したい項目にチェックを入れます。今回は[ナビゲーションバー] > [トラッカ] > [ジョブネットワーク名]の「状況クラス」にチェックをいれます。

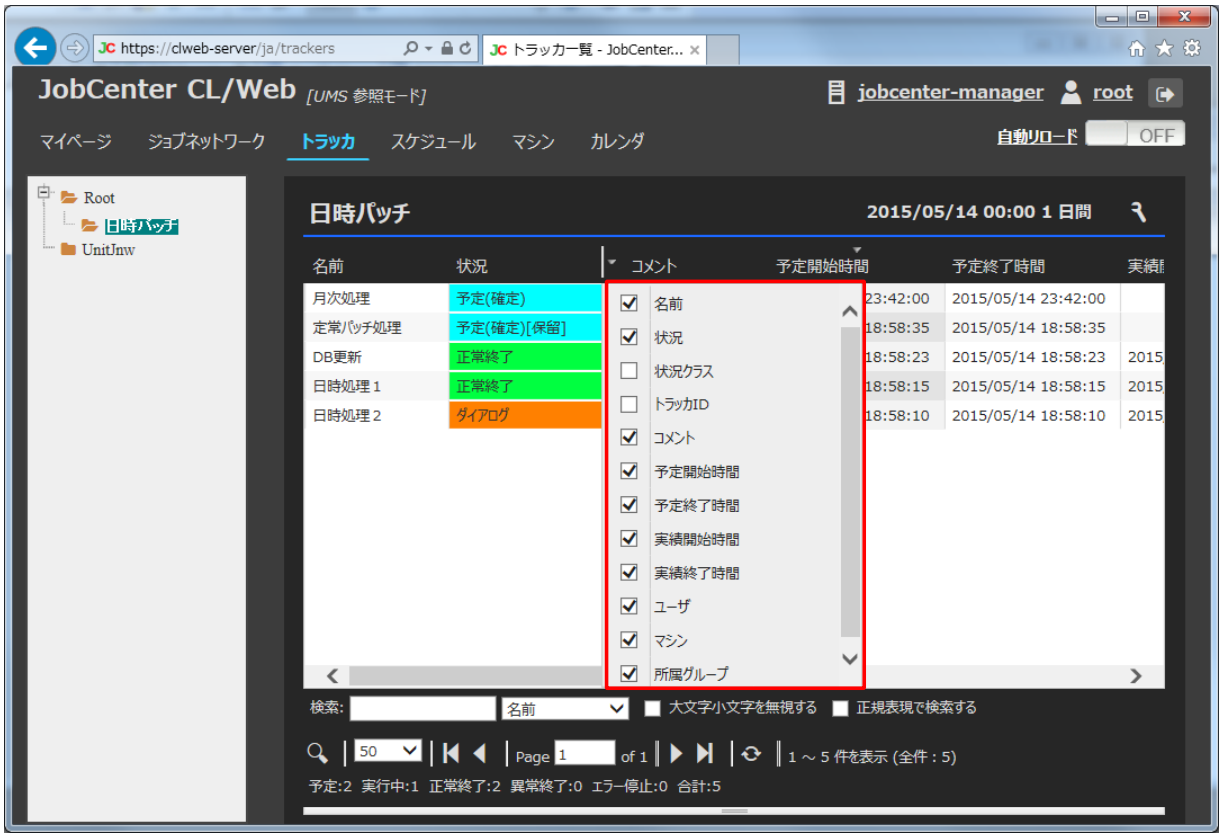

図5.8 表示項目一覧画面

チェックが入っていない項目は表示されません。

3. チェックを入れた項目の項目タブが表示されます。

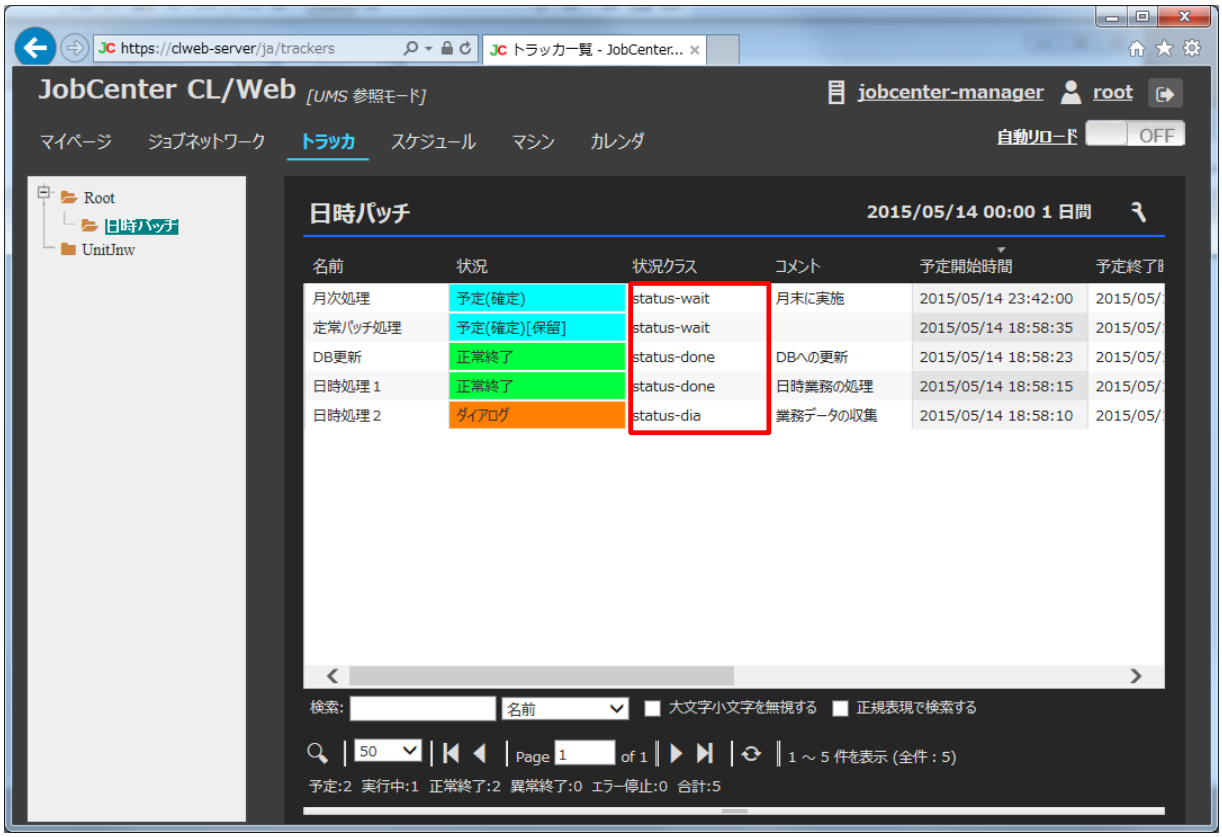

図5.9 表示項目一覧結果画面

項目タブの種類は、表示テーブルごとに異なります。

5.1.5. ナビゲーションバーのタブ表示順序の設定

ナビゲーションバーのタブ表示順序の設定に使用するファイルは、使用ポートの設定と同じCL/Web環境設定ファイルclweb.confです。詳細については「3.1.1 CL/Web環境設定ファイル(clweb.conf)」を参照してください。

ナビゲーションバーのタブ表示順序に関するclweb.confファイルのフォーマット、および設定する項目は次の通りです。

```
# main menu tab order
# jnws: 1, trackers: 2, schedules: 3, machines: 4, calendars: 5, mypage: 6
# $tab_order = "6 1 2 3 4 5"
```

タブ名称とタブ番号の対応は、固定となります。ナビゲーションバーのタブ名称の表示順序は$tab_orderに記載したタブ番号の順になります。デフォルトではマイページ、ジョブネットワーク、トラッカ、スケジュール、マシン、カレンダの順序です。なお、ログインして最初に表示する画面は、$tab_orderで設定した１番目のタブ番号の名称です。

$tab_orderから対象の番号を消した場合そのタブは表示されなくなります。（全ユーザ共通の設定になります）

表5.2 clweb.confのパラメータの設定値(ナビゲーションバーのタブ表示順序に関するタブ番号とタブ名称)

タブ番号	タブ名称

1	ジョブネットワーク
2	トラッカ
3	スケジュール
4	マシン
5	カレンダ
6	マイページ

例：CL/Web環境設定ファイルclweb.confの$tab_orderで設定したタブ番号の順序が下記の場合、ナビゲーションバーのタブ名称の表示は、下記の図の通りです。また、ログインして最初に表示する画面は、トラッカです。

```
# main menu tab order
# jnws: 1, trackers: 2, schedules: 3, machines: 4, calendars: 5, mypage: 6
$tab_order = "2 6 1 3 5 4"
```

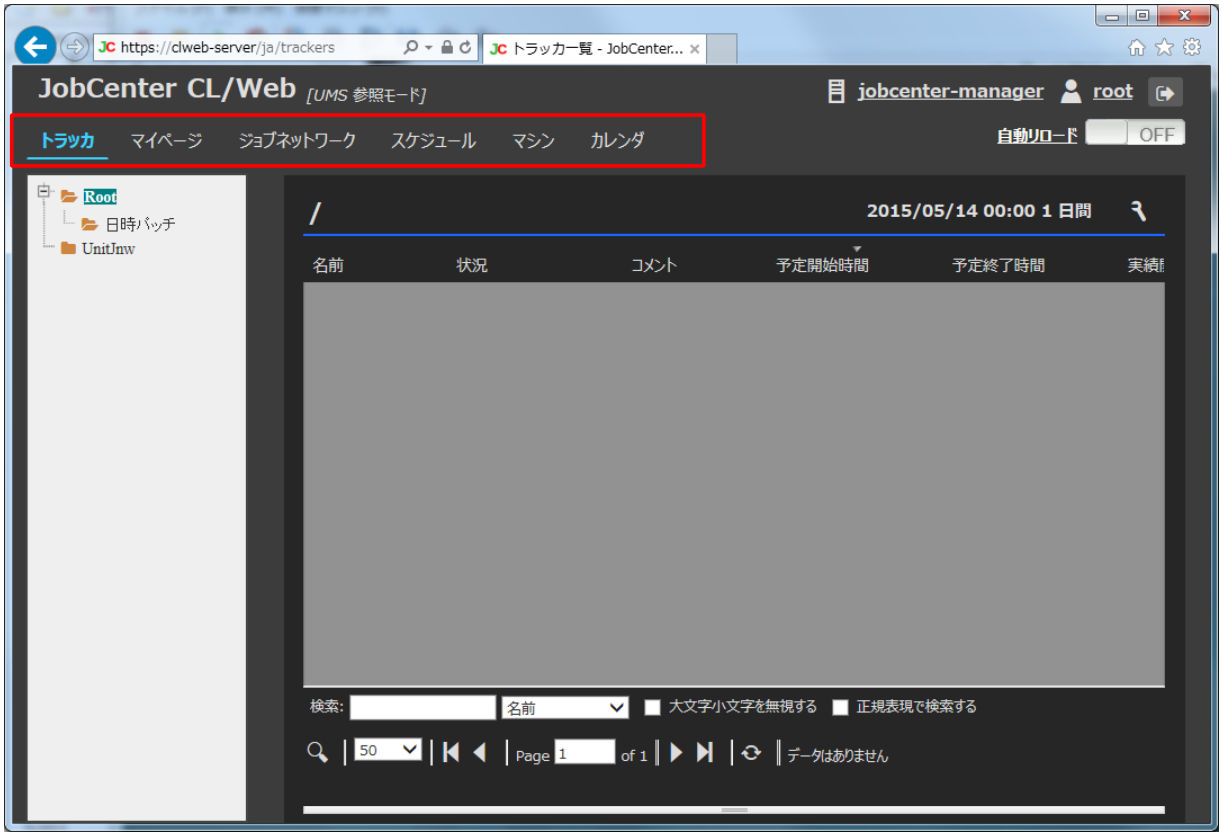

図5.10 CL/Web画面 ナビゲーションバーの順序変更例

5.1.6. マイページ機能

マイページ機能はユーザが注目したい情報をカスタマイズした画面を表示させることができる機能です。

マイページ機能の詳細は「5.9 マイページ機能」を参照してください

5.2. ブラウザでCL/Webサーバにアクセスする

ブラウザによるCL/Webサーバへのアクセス方法を次に説明します。

1. [スタート]メニューのプログラムから[Internet Explorer]を起動します。
2. [Internet　Explorer]のアドレスバーに次のURLを入力するとCL/Webのログイン画面が表示されます。

```
https://<CL/Webサーバのホスト名またはIPアドレス>/
```

TLS(SSL)のポート番号をデフォルト値の443以外にしている場合(TLS(SSL)を無効にしている時はポート番号を80以外にしている場合)は、CL/Webサーバのホスト名またはIPアドレスの後に、コロン(:)に続けて、設定したポート番号を指定してください。

CL/Webはデフォルトで自己署名証明書を使用するため、上記のURLにアクセスする際に証明書のエラー画面が表示される場合があります。その場合は、エラー画面でWebサイトの閲覧を続行することでCL/Webのログイン画面が表示されます。

図5.11 証明書のエラー画面

用意した証明書を使用する方法については「3.1.3 SSL署名証明書の設定」を参照してください。

5.3. ログイン・ログアウト

OSアカウントを使用して、サーバへ接続を行います。

■サーバ接続の前に、JobCenter MG/SVの起動が必要です。

5.3.1. ログインする

1. ブラウザにURL(https://<CL/Webサーバのホスト名またはIPアドレス>/)を指定し起動すると、CL/Webの[ログイン]画面が表示されます。

■CL/Webの表示言語は、ブラウザの言語設定により変わります。対応言語は日本語(jaからはじまる)、英語(enからはじまる)、中国語(簡体字)(zhからはじまる)です。言語を変更したい場合は、ブラウザの言語設定をCL/Webの対応言語に変更してください。

■中国語のフォントがOSに存在しない場合は文字化けしますので、適切なフォントをインストールしてください。

■一時的に表示言語を変更したい場合は、ログイン画面の右上の言語名をクリックして変更できます。ただし、一時的に変更したものは一旦ブラウザを終了すると、表示言語はブラウザ設定の言語に戻ります。

JobCenter MG/SVバージョンとCL/Webサーバのバージョンは、統一する必要がありますのでご注意ください。

例えば、JobCenter MG/SVバージョンR13.2にCL/WebサーバのバージョンR14.1からログインを行うことは出来ません。

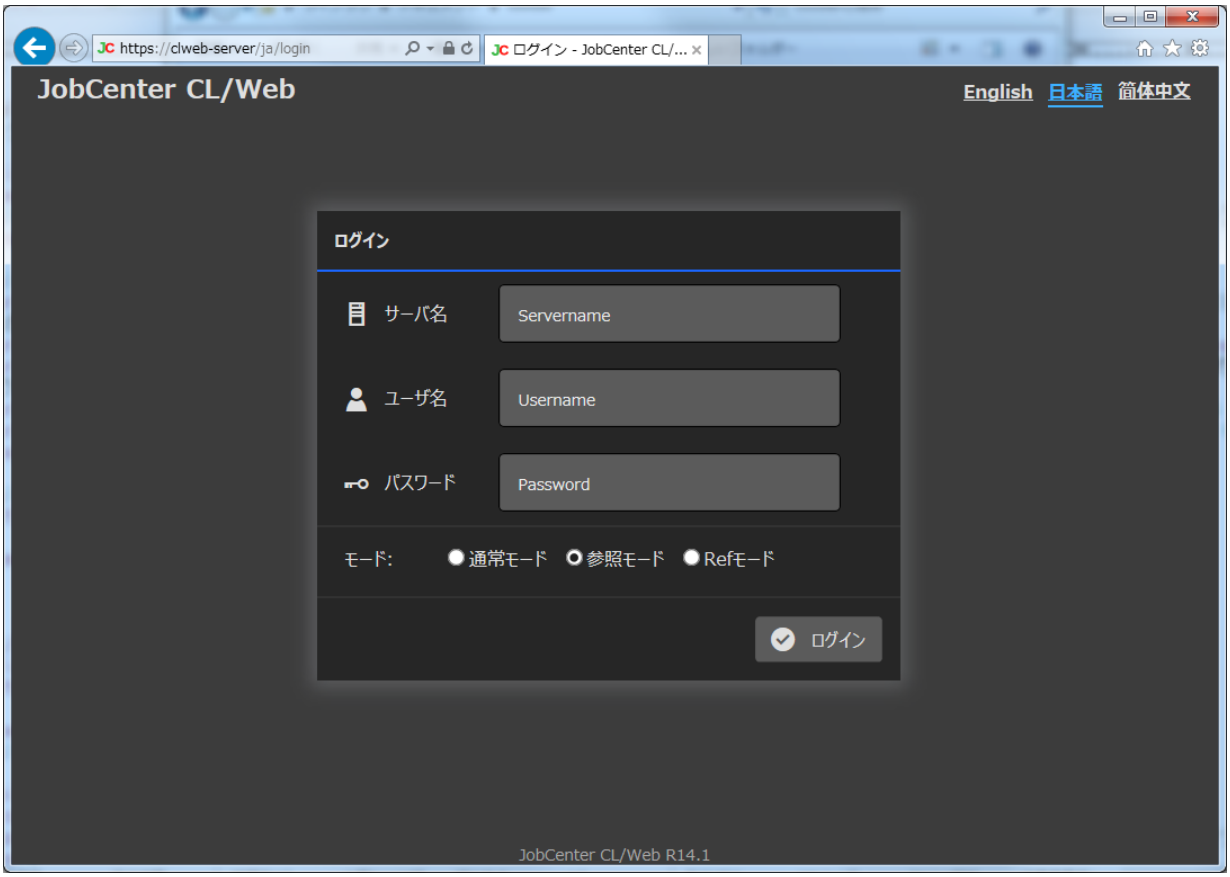

図5.12 CL/Webログイン画面イメージ

2. [サーバ名]、[ユーザ名]、[パスワード]、[モード] を入力します。

■[サーバ名] はJobCenter　MG/SVのマシン名を入力します。ドメインを利用している環境では、ドメインを含めたマシン名を入力します。

■[ユーザ名] はJobCenter MG/SVにログインするユーザ名を入力します。

■[パスワード] は上記ユーザアカウントのパスワードを入力します。

■[モード] は通常モードもしくは参照モードもしくはRefモードのいずれかを選択します。

スケジュールの有効化、無効化を行う場合には通常モードでログインしてください。

3. すべての入力と選択が終わりましたら、 [ログイン]ボタンをクリックします。

4. ログインに成功すると、一番左のタブ（初期状態ではマイページ）が表示されます。

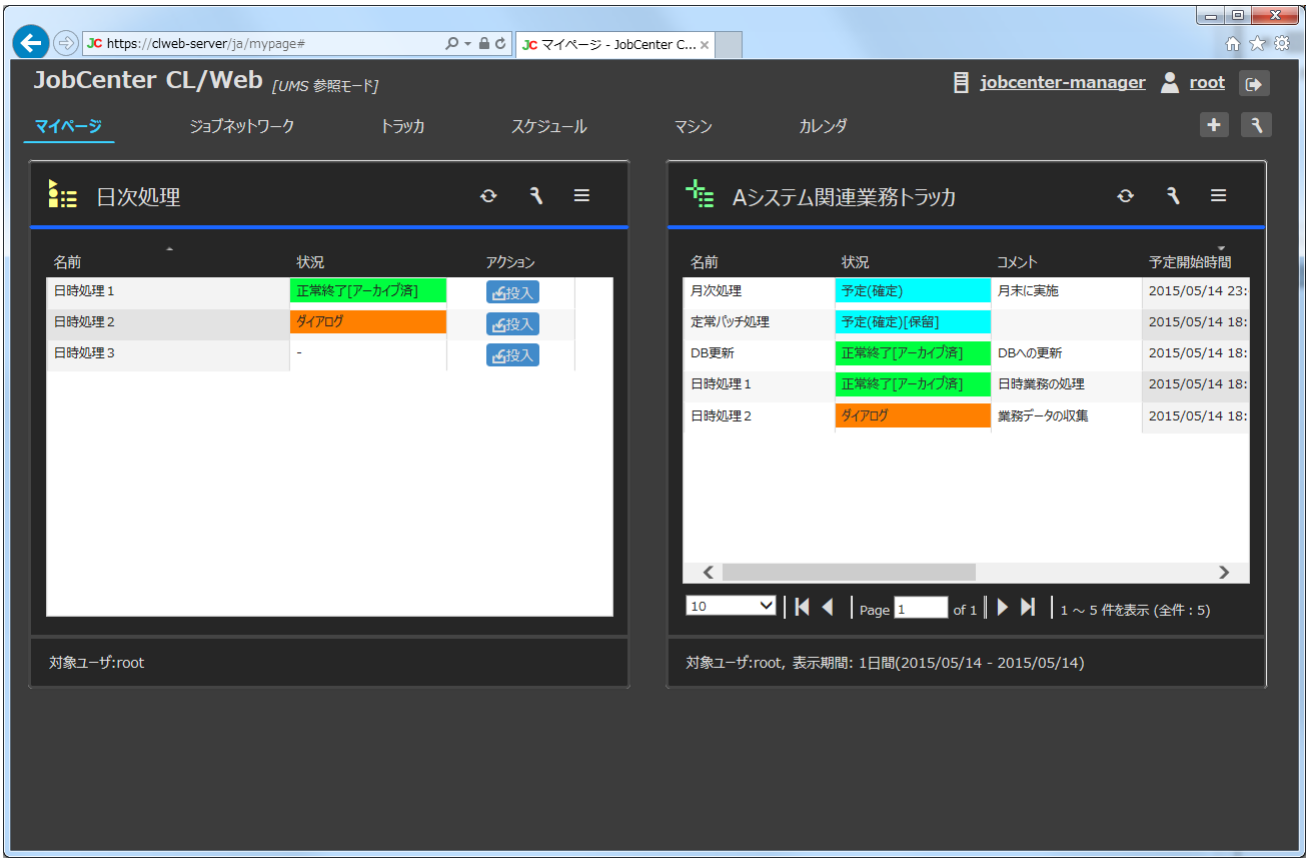

図5.13 CL/Webログイン後の画面

5.3.2. ログアウトする

1. タイトルバーの[ログアウトボタン]をクリックします。

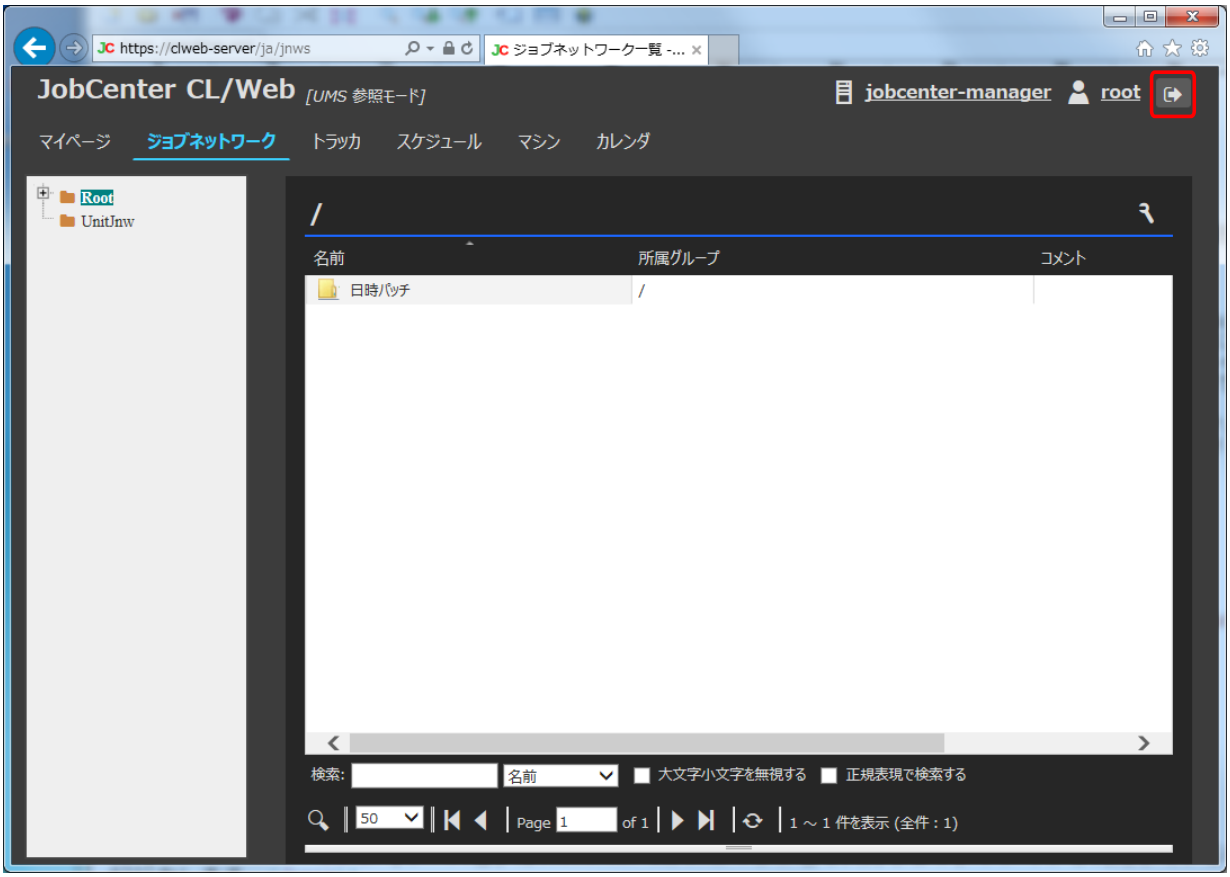

図5.14 JobCenter CL/Webログアウト画面イメージ

2. CL/Webの[ログイン]画面が表示されるとログアウト完了です。

3. CL/Webの[ログイン]画面を終了するには、ブラウザを閉じてください。

ログイン中にブラウザのアドレスバーに直接[ログイン]画面のURLを入力して[ログイン]画面を表示した場合も、ログアウトとなります。

5.4. ジョブネットワークに関する操作

5.4.1. グループを参照する

1. ツリービューよりツリーを開き、グループ名にカーソルを合わせクリックします。
2. グループ配下にジョブネットワーク、ショートカット、グループがある場合、表示テーブルにそれらのオブジェクトが表示されます。

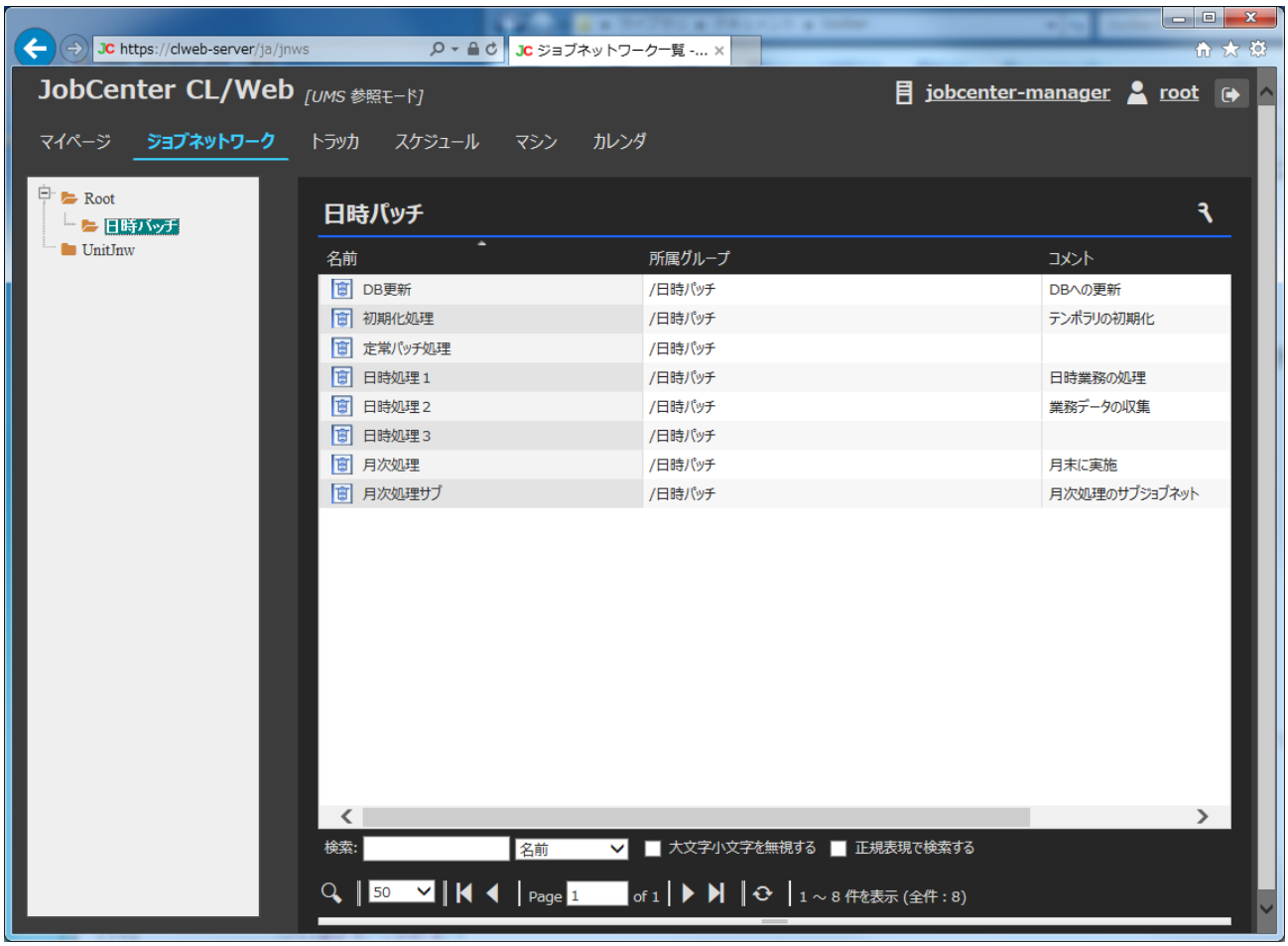

図5.15 グループ選択画面イメージ

■表示テーブル一覧項目

項目名	説明	補足
名前	オブジェクトの名前が表示されます。	
タイプ	オブジェクトの種類（ジョブネットワーク、グループ、ショートカット）が表示されます。	非デフォルト項目[注1]
所属グループ	オブジェクトが所属しているグループ名が表示されます。	
コメント	オブジェクトのコメントが表示されます。	

注1　非デフォルト項目を[Hide/Show　Columns]機能により追加することが可能です。詳細については「5.1.4　表示テーブル内の項目表示機能」を参照してください。

グループ名をクリックして表示テーブルの読み込みが完了する前に、さらに他のグループ名をクリックすると、新しくクリックしたグループではなく最初にクリックしたグループの内容が表示されることがあります。ツリービューからグループ名をクリックするときは、表示テーブルの読み込みが完了してから行ってください。

5.4.2. ジョブネットワークを参照する

1. 表示テーブルのジョブネットワーク名にカーソルを合わせクリックするか、右クリックしたときのポップアップメニューの[開く]を選択します。

2. 選択したジョブネットワークのページが表示されます。

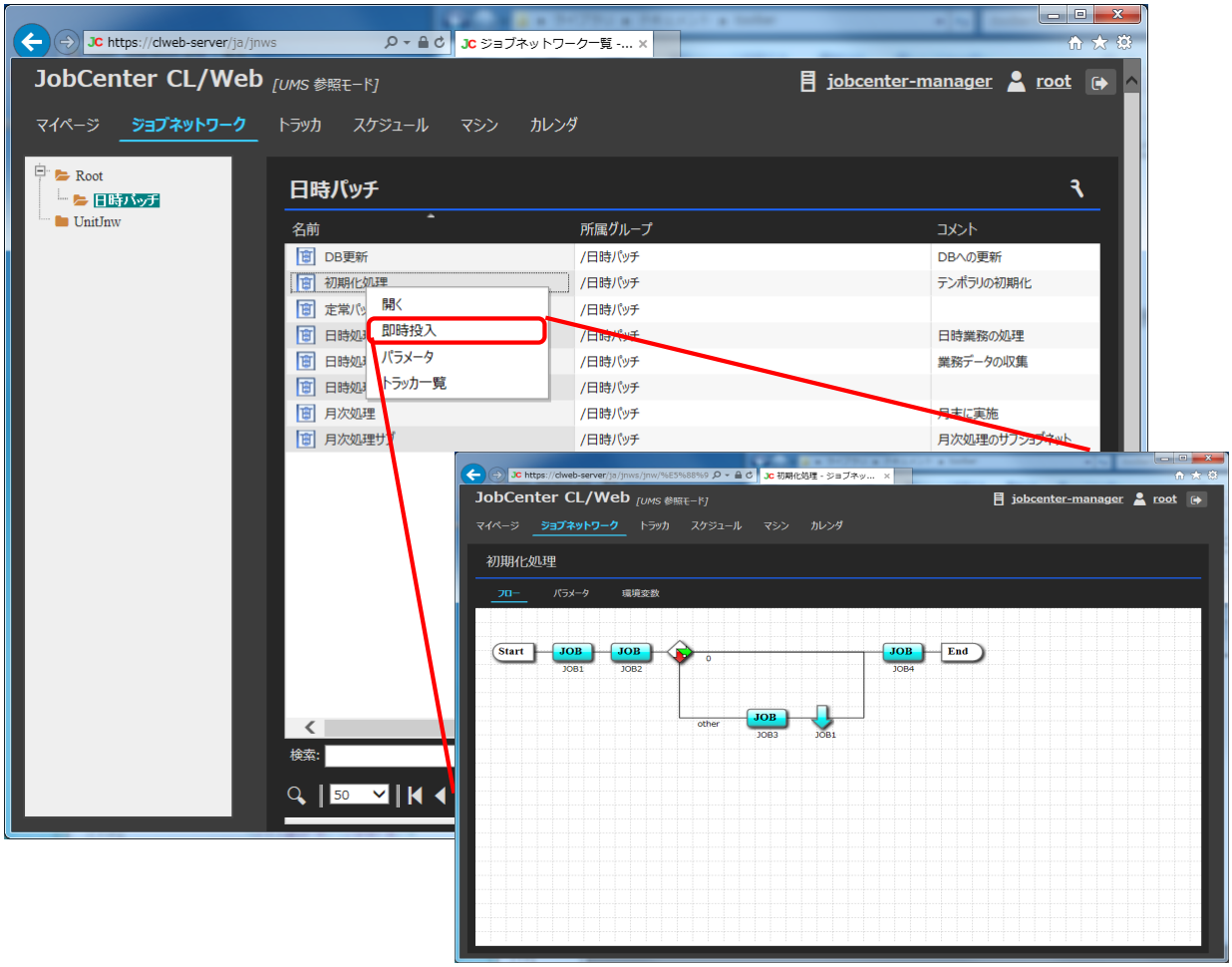

図5.16 ジョブネットワークの表示

5.4.3. ジョブネットワークを即時投入する

ジョブネットワークの即時投入の方法は、表示テーブルから実行する場合とジョブネットワークフロー画面から実行する場合の2通りがあります。

2通りの即時投入方法を次に説明します。

ログインモードで「Refモード」を選択している場合や、CL/Winでのユーザのパーミッション設定でユーザ自身のジョブネットワークの実行を許可していない場合は、即時投入を行うことはできません。

5.4.3.1. ジョブネットワーク表示テーブルから即時投入する

スケジュールとは無関係にジョブネットワークを投入、実行します。

1. 表示テーブルで、実行するジョブネットワーク名にカーソルを合わせて右クリックします。

2. 右クリックしたときのポップアップメニューの[即時投入]を選択します。

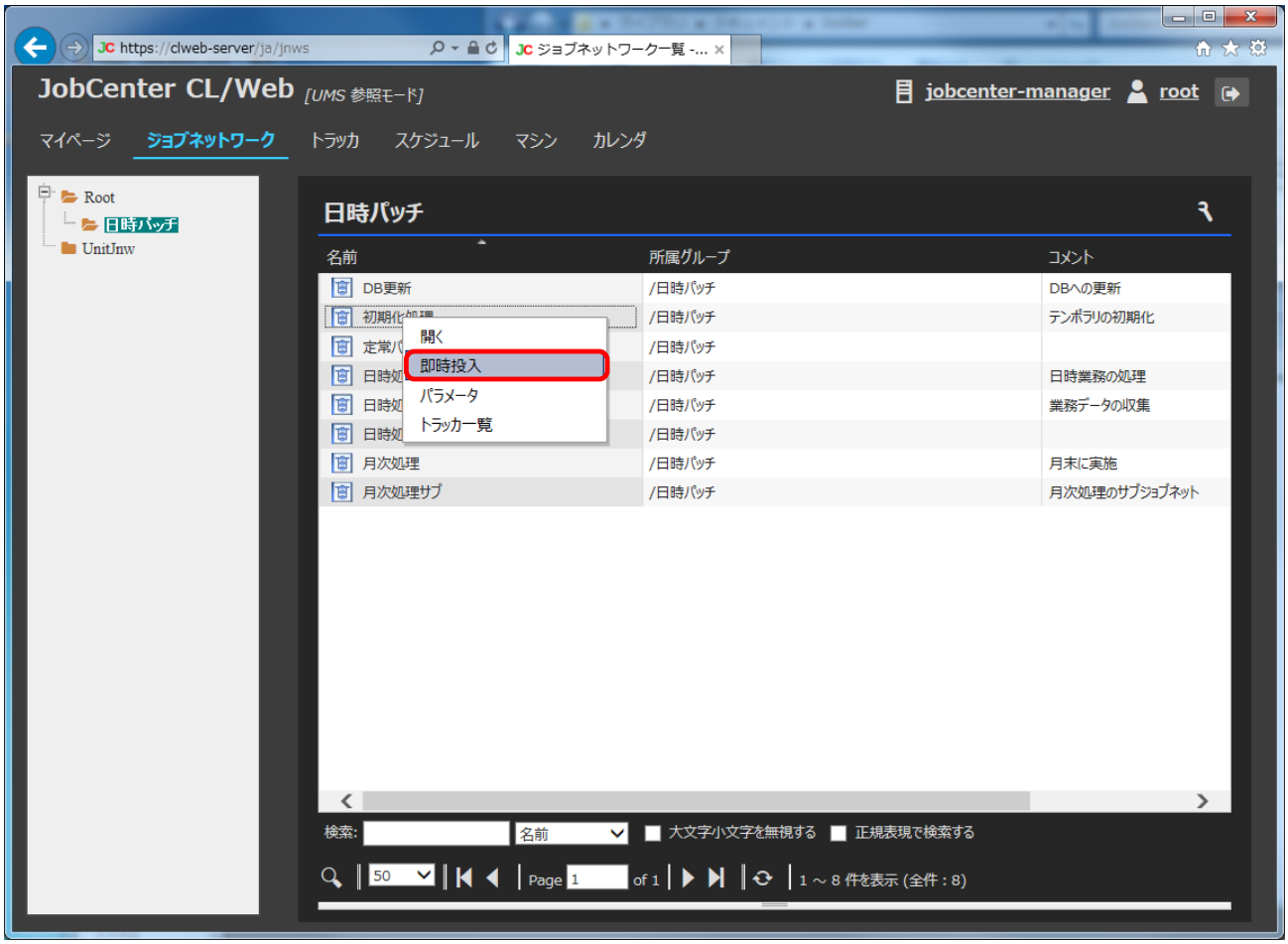

図5.17 ジョブネットワーク表示テーブルでの[即時投入]の選択画面

3. [即時投入]のダイアログが表示されます。

4. [OK]ボタンをクリックします。

図5.18 [即時投入]のダイアログ

5. [JNWの制御]のダイアログで次のメッセージが出力されれば終了です。

6. [OK]ボタンをクリックします。

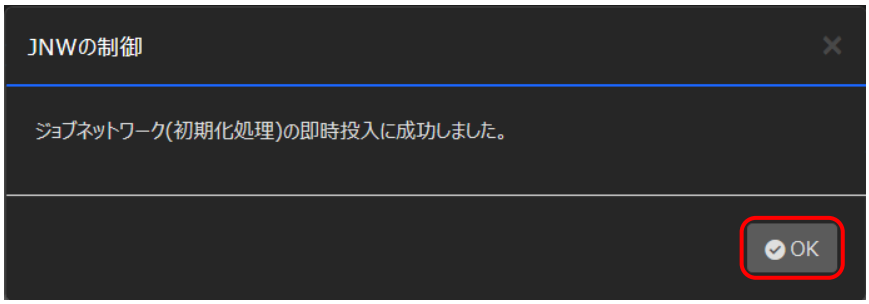

図5.19 即時投入成功

5.4.3.2. ジョブネットワークフロー画面から即時投入する

スケジュールとは無関係にジョブネットワークを投入、実行します。

1. 実行するジョブネットワーク名にカーソルを合わせてクリックします。ジョブネットワークフロー画面が表示されます。

2. ジョブネットワークフロー画面のフロー表示領域にカーソルを合わせて右クリックします。

3. 右クリックしたときのポップアップメニューの[即時投入]を選択します。

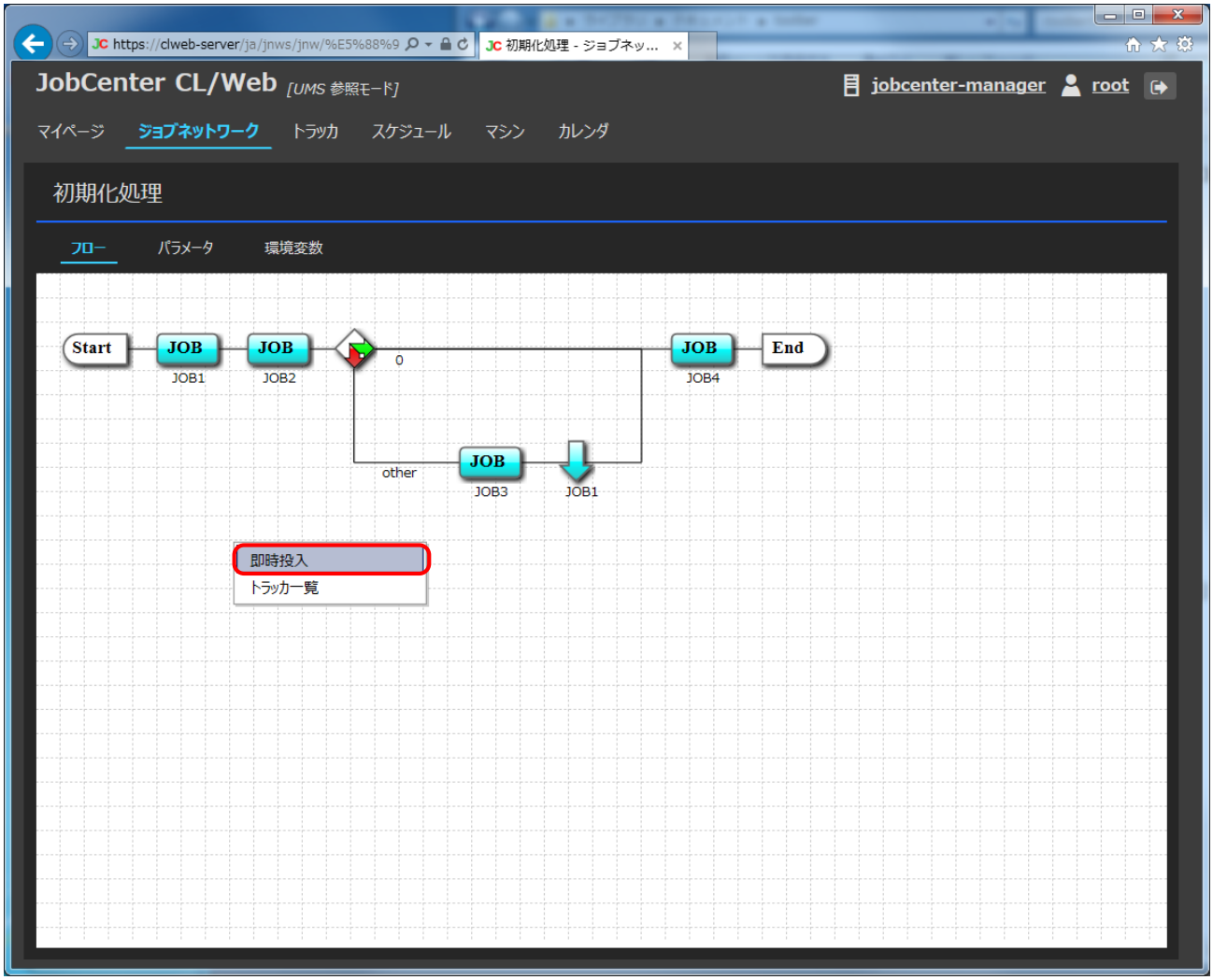

図5.20 ジョブネットワーク表示画面での[即時投入]の選択画面

これ以降の操作は「5.4.3.1　ジョブネットワーク表示テーブルから即時投入する」の手順4以降と同じです。

5.4.3.3. 即時投入の設定

［即時投入］ダイアログの即時投入に関する設定は次のとおりです。

■投入時間

ジョブネットワークの投入時間を設定します。チェックボックスをチェックしない場合は、即時に投入して実行します。

チェックボックスをチェックすると、投入時間を指定して実行できます。

■ジョブパラメータ

ジョブネットワークの各単位ジョブのスクリプトに引き渡すパラメータを設定します。ここで指定した文字列が各単位ジョブの環境変数「NSJNW_PARAM」に設定され、各単位ジョブのスクリプトに引き渡されます。

ジョブネットワークのパラメータで［ジョブパラメータ］の既定値と説明が設定されていた場合は、その内容を初期値として表示します。なお初期値として表示された値をクリア後、空白のまま投入した場合でも［ジョブパラメータ］の既定値が有効となります。

テキスト入力域に、128文字以内で入力できます。

即時投入のジョブパラメータの詳細については、<基本操作ガイド>の「3.2.1　即時投入する」の「ジョブパラメータ」を参照してください。

■コメント

即時投入時にコメントを指定できます。すでにコメントが設定してある場合は、即時投入したトラッカのみコメントが変更されます。

テキスト入力域に日本語、英数字、カナ文字（全角・半角）（混在可能）、128文字以内で入力できます。

■事前設定

ジョブネットワークをあらかじめ保留またはスキップ状態にすることができます。

保留	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークを保留状態にします。
スキップ	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークをスキップ状態にします。
OFF	ジョブネットワーク投入時に当該ジョブネットワークを保留状態およびスキップ状態にしません。

■投入後にトラッカを開く

このボックスをチェックすると、即時投入後にジョブネットワークトラッカの画面が開くように設定されます。

即時投入の実行時の注意事項

- 投入先のキューは、ジョブネットワークパラメータや単位ジョブパラメータに投入先キューが指定されていない場合、JobCenter　CL/Winの[ユーザ環境設定]－[基本]－「ジョブネットワーク既定値」の「投入キュー」の設定が自動的に使用されます。デフォルトキューが設定されている場合、実際にジョブリクエストが実行されるguibs_1バッチキューの同時実行数の既定値は1なので注意してください。

5.5. トラッカに関する操作

ジョブネットワークの即時投入や自動実行の登録が行われると、そのジョブネットワークの実行状態がトラッカと呼ばれる一覧、およびウィンドウから変更、監視や結果参照をすることができます。

トラッカは、その回に実行されたジョブネットワークのプロセスや結果を表示します。

ジョブの状態は色やラベルで区別されるため、障害発生も即座に認識することができます。また、ジョブの状態を表す色はジョブネットワークトラッカのアイコン、トラッカ一覧のテキストモードおよびグラフィックモードにおいて共通になっておりますので、ジョブの状態を判別しやすくなっています。

ジョブの状態を表す色は、CL/Winの[システム環境設定]の[色の設定]で規定値としてセーブしたものが使用されます。色の設定方法の詳細は<環境構築ガイド>の「6.6 色の設定を変更する」を参照してください。

5.5.1. トラッカを参照する

トラッカの一覧表示、表示期間の設定などを行います。

5.5.1.1. トラッカ一覧を表示する

1. ナビゲーションバーの[トラッカ]を選択します。

2. ツリービューを展開し、閲覧したいグループ名をクリックします。

   グループ名を選択すると、表示テーブルにトラッカが表示されます。

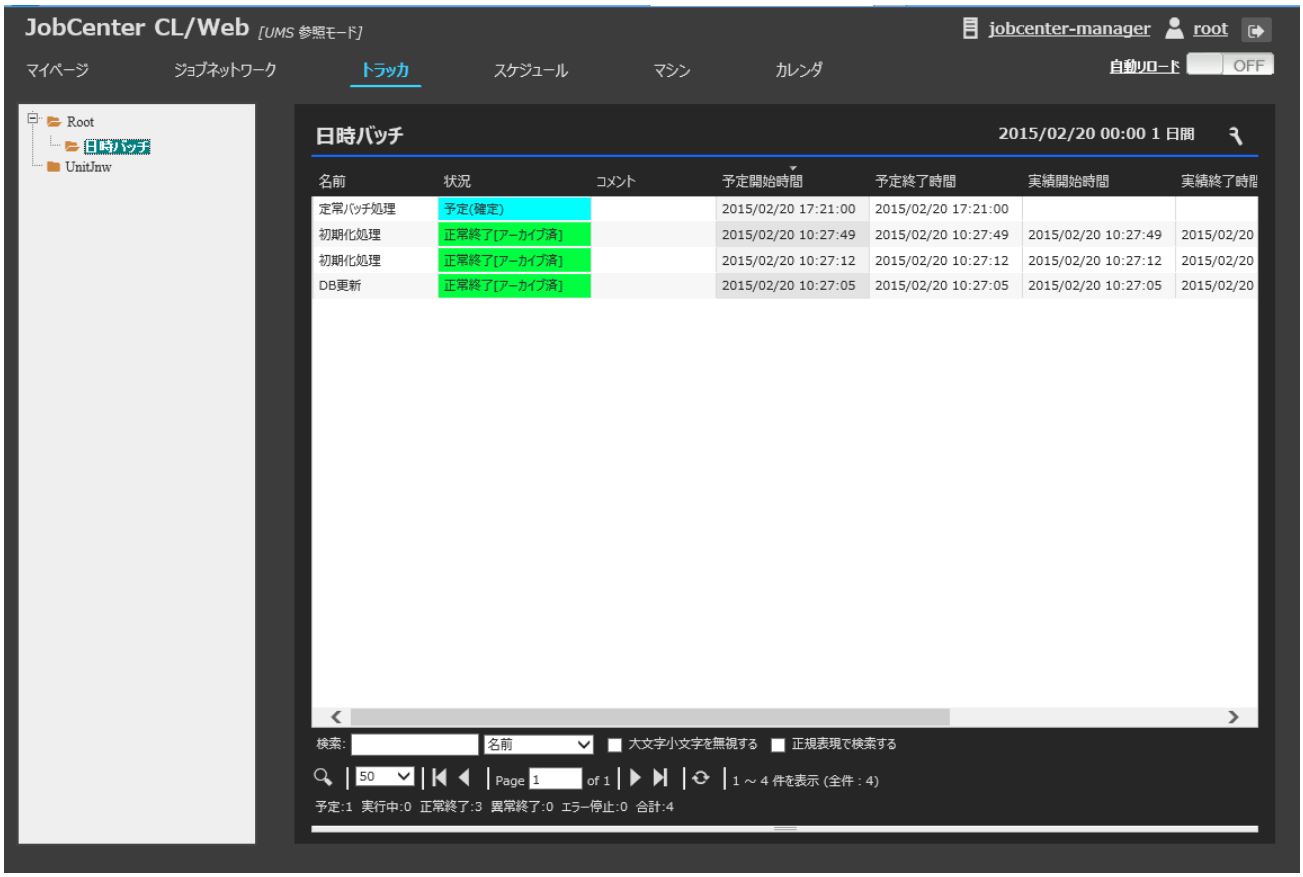

図5.21 トラッカ表示テーブルでのトラッカ表示画面

■トラッカー覧項目

項目名	説明	補足
名前	ジョブネットワーク名が表示されます。	
所属グループ	所属しているグループ名が表示されます。	
状況	ジョブネットワークの実行状況が表示されます。	
状況クラス	英語表記のステータスが表示されます。	非デフォルト項目[注1]
トラッカID	トラッカIDが表示されます。	非デフォルト項目[注1]
コメント	ジョブネットワークに設定されたコメントを表示します。	
予定開始時間	スケジュールに登録された開始予定時刻が表示されます。	
予定終了時間	ジョブネットワークや単位ジョブのパラメータウィンドウで設定された情報を元に計算した終了予定時刻が表示されます。	
実績開始時間	ジョブネットワークを実際に開始した時間が表示されます。	
実績終了時間	ジョブネットワークを実際に終了した時間が表示されます。	
ユーザ	ジョブネットワークを実行したユーザが表示されます。	

項目名	説明	補足
マシン	ジョブネットワークを実行したマシン名が表示されます。	

注1　非デフォルト項目を[Hide/Show　Columns]機能により追加することが可能です。詳細については「5.1.4　表示テーブル内の項目表示機能」を参照してください。

グループ名をクリックして表示テーブルの読み込みが完了する前に、さらに他のグループ名をクリックすると、新しくクリックしたグループではなく最初にクリックしたグループの内容が表示されることがあります。ツリービューからグループ名をクリックするときは、表示テーブルの読み込みが完了してから行ってください。

5.5.1.2. トラッカ一覧の表示期間を指定して表示する

1. トラッカを表示した状態で表示テーブル右上の[設定アイコン]をクリックします。

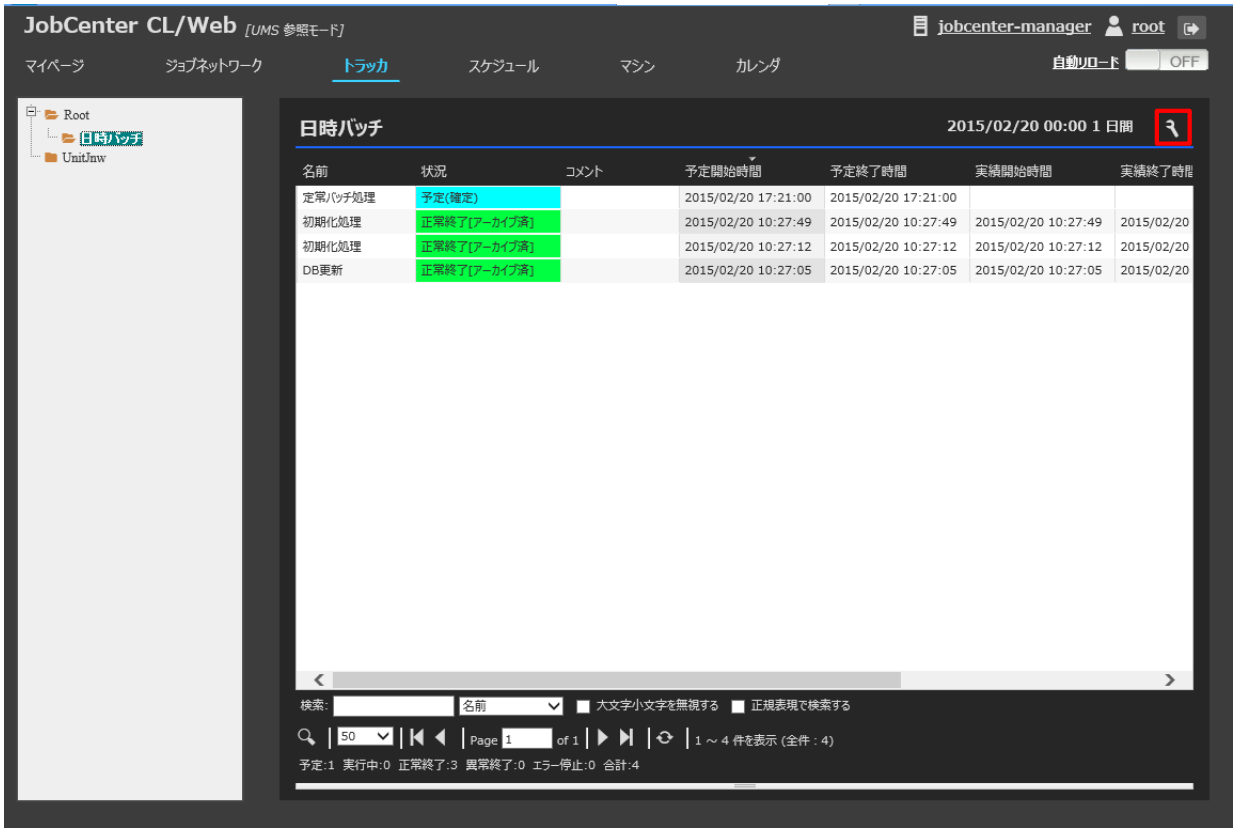

図5.22 設定

2. [設定]のダイアログが表示されます。

3. 期間と表示オプションの設定を行います。

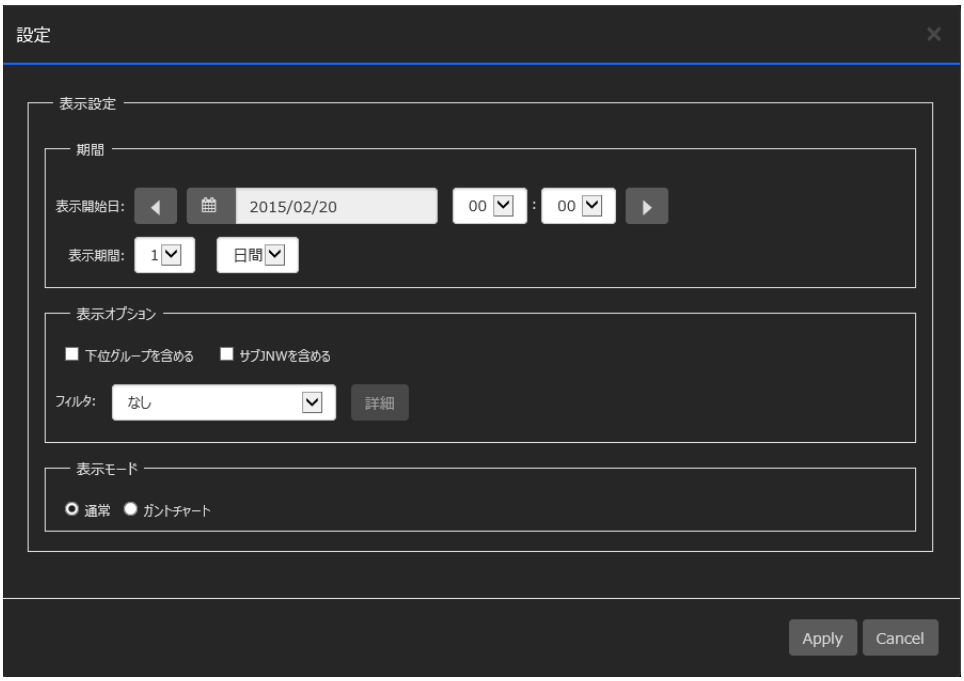

図5.23 [設定]のダイアログ

[表示設定]の設定項目は次の通りです。

表示設定

■表示開始日

トラッカ一覧を表示する期間の開始の日時［年月日時分］を指定します。

■表示期間

トラッカ一覧を表示する期間の開始の日時［年月日時分］を指定します。

期間の数値と単位を設定します。1～59分、1～23時間、1～7日間、1～5週間、1～3ヶ月を設定できます。

表示開始日の←→ボタンで表示開始日を表示期間の単位で前後できます。

■フィルタ

プルダウンメニューの項目単位でフィルタリングを設定します。

なし、警告・異常のトラッカ、エラー停止のトラッカ、実行中のトラッカ、応答待ちのトラッカ、予定トラッカ、ユーザ定義フィルタ1～3を設定できます。

■表示モード

トラッカ一覧の表示モードを設定します。

［通常モード］と［ガントチャート］から選択します。

トラッカ一覧のガントチャート表示については、「5.5.4　　トラッカをガントチャート表示する」を参照してください。

■ユーザ定義フィルタを設定する

トラッカの表示対象や予定、実行中、終了などの表示条件をフィルタリングを設定します。

1. プルダウンメニューリストを[ユーザ定義フィルタ]に設定するとプルダウンメニューリストの右側に[詳細]ボタンが表示されるのでクリックします。

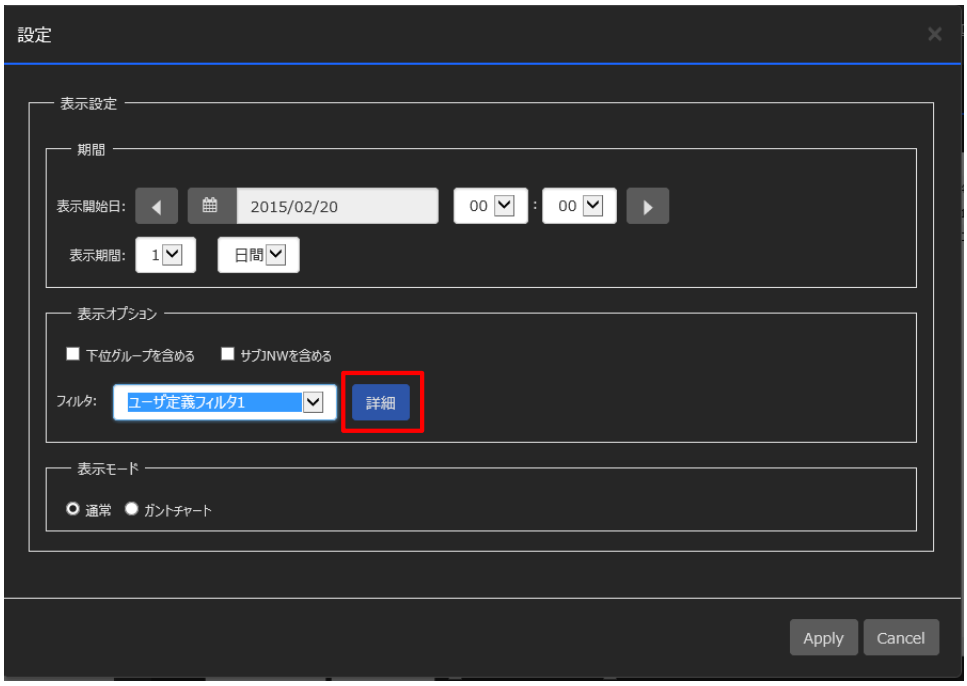

図5.24 詳細ボタン

2. [フィルタの編集]ダイアログが表示されます。

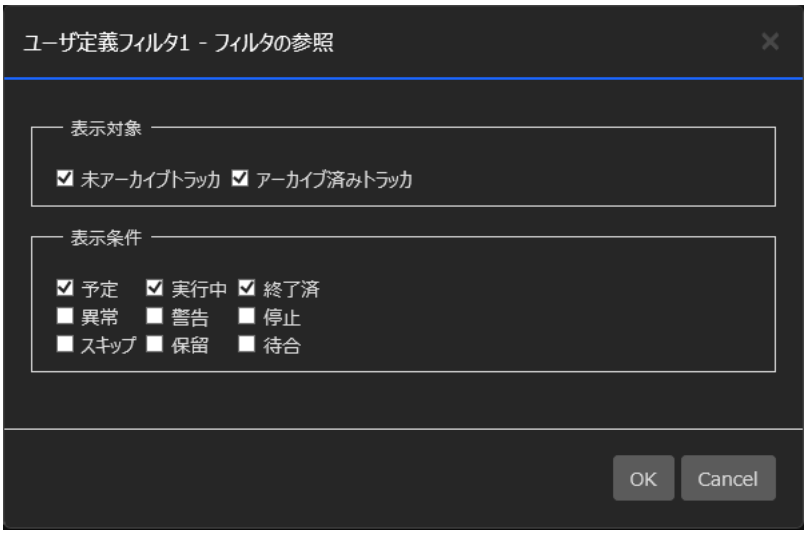

図5.25 [フィルタの編集]ダイアログ

3. 表示対象と表示条件の設定を行います。
4. 設定後、[OK]ボタンをクリックします。
5. [設定]のダイアログの[Apply]をクリックします。
6. 設定の内容がトラッカ表示テーブルに反映されます。

ユーザ定義フィルタの設定内容はブラウザのCookieに保存されます。

5.5.1.3. 部品を表示する

1. 表示テーブルのジョブネットワーク名をクリックするとトラッカのジョブネットワークフローが表示されます。

   デフォルトで[フロー]タブが選択されています。

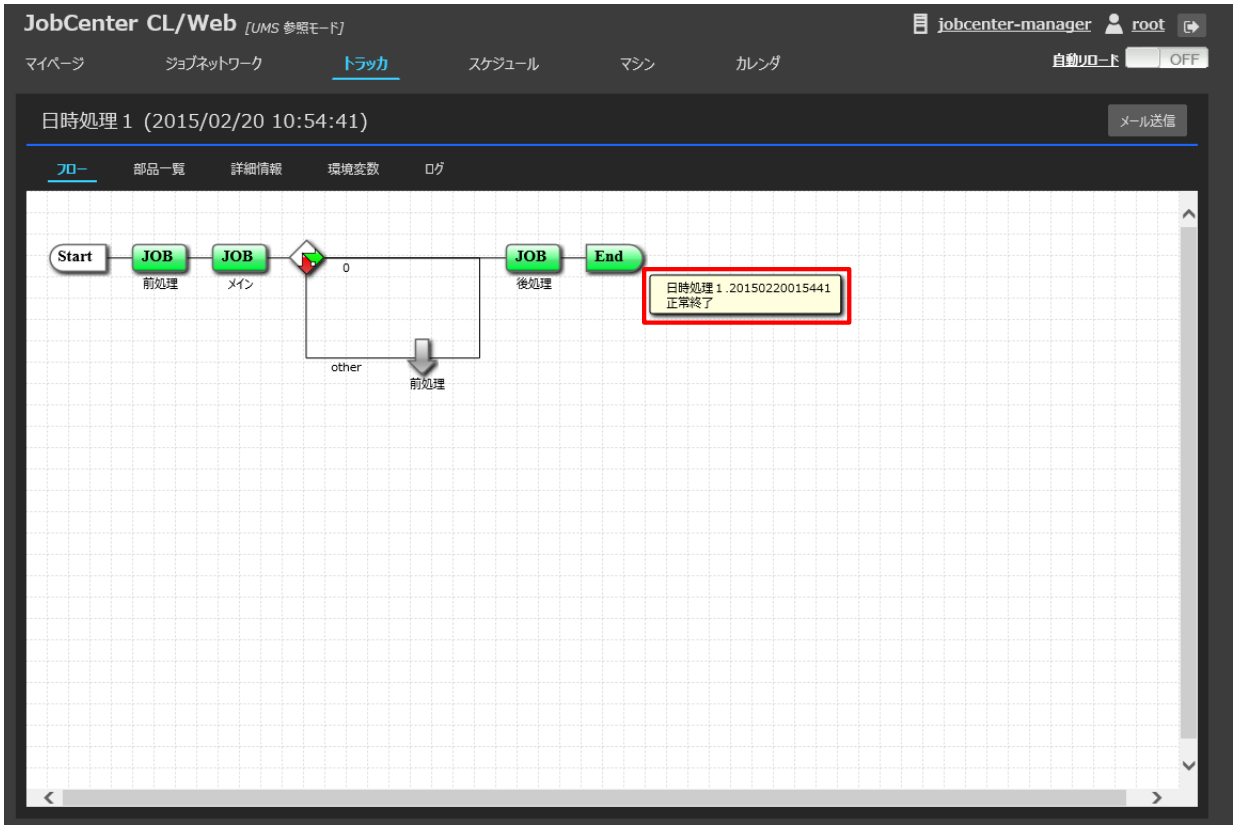

図5.26 ジョブフロー表示画面

[Start]または[End]アイコンにカーソルを合わせると図5.26「ジョブフロー表示画面」のように[トラッカIDとトラッカの状態]が表示されます。また部品アイコンにカーソルを合わせると[部品名と部品の状態]が表示されます。

2. フロー内の部品をクリックするとその部品の詳細情報が表示されます。

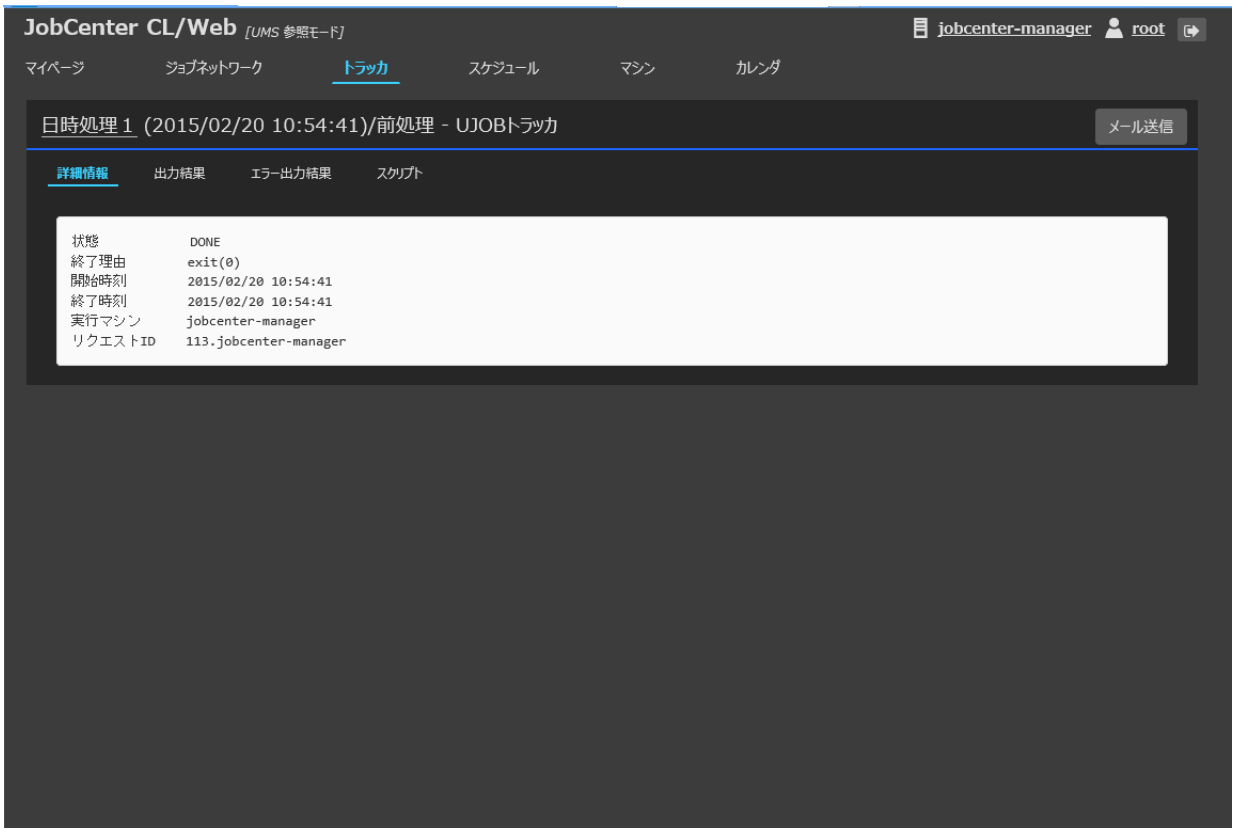

図5.27 部品の詳細画面

部品が単位ジョブ、カスタムジョブの場合は[詳細情報]タブに加え[出力結果]タブ、[エラー出力結果]タブ、[スクリプト]タブが選択できます。また、ERPジョブ、BIジョブ、PCジョブ、WOBSジョブについては、それぞれ特有の情報を表示するタブが選択できます。

3. [部品一覧]タブを選択すると部品の一覧が表示されます。

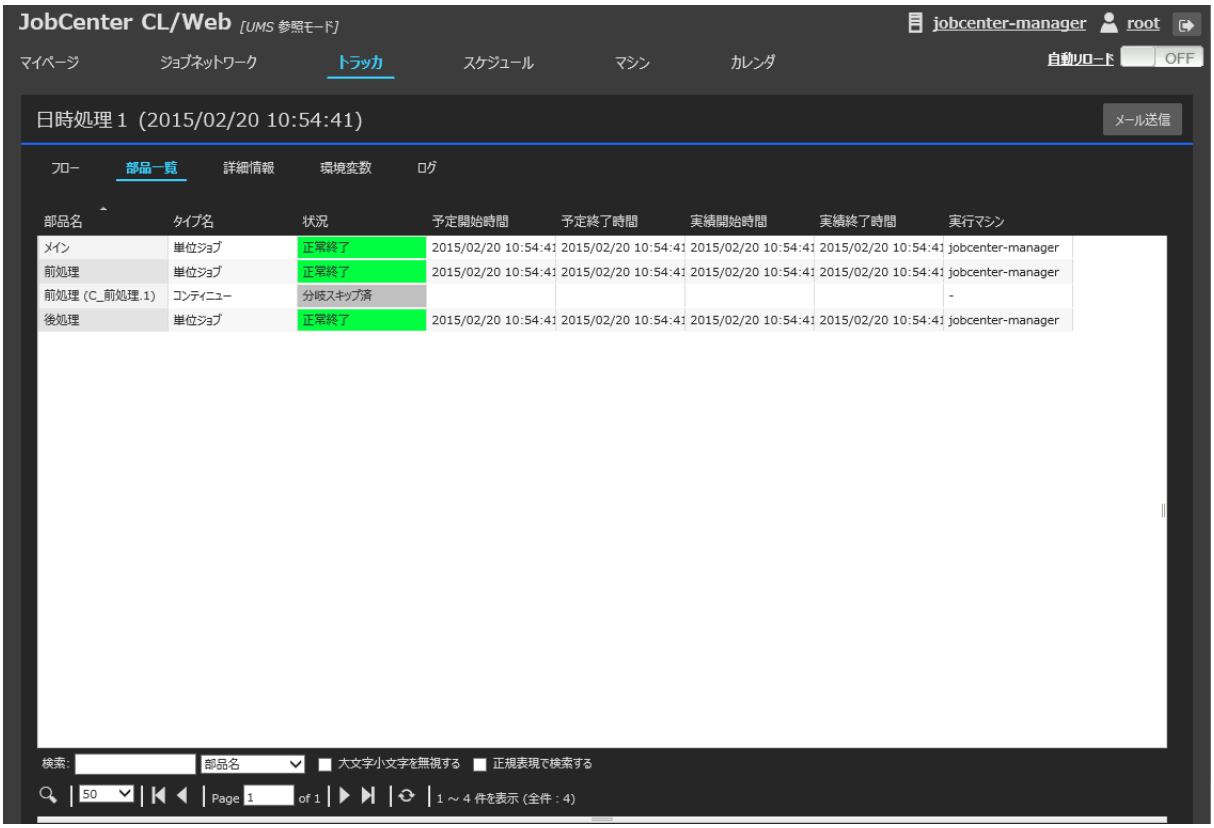

図5.28 部品一覧画面

部品名を選択すると上記で説明したフロー内の部品名をクリックした内容と同様のものが表示されます。

■部品一覧項目

項目名	説明	補足
部品名	部品名が表示されます。	
タイプ	部品の種類が表示されます。	非デフォルト項目[注1]
タイプ名	部品のタイプ名が表示されます。	
状況	「5.5.1.1　トラッカ一覧を表示する」を参照してください。	
状況クラス		非デフォルト項目[注1]
予定開始時間		
予定終了時間		
実績開始時間		
実績終了時間		

注1　デフォルトの項目以外を追加する場合は[Hide/Show Columns]を利用してください。詳細については「5.1.4　表示テーブル内の項目表示機能」を参照してください。

5.5.2. トラッカを操作する

ジョブネットワークトラッカを利用して、ジョブの実行の監視や制御を行うだけでなく、トラッカの強制実行やスケジュール投入時間の変更などが行えます。

ログインモードで「Refモード」を選択している場合や、CL/Winでのユーザのパーミッション設定でユーザ自身のトラッカの操作を許可していない場合は、トラッカの操作を行うことはできません。

5.5.2.1. ジョブネットワークトラッカを操作する

1. トラッカ表示画面のツリービューを開き、操作したいジョブネットワークのグループ名を選択してクリックする

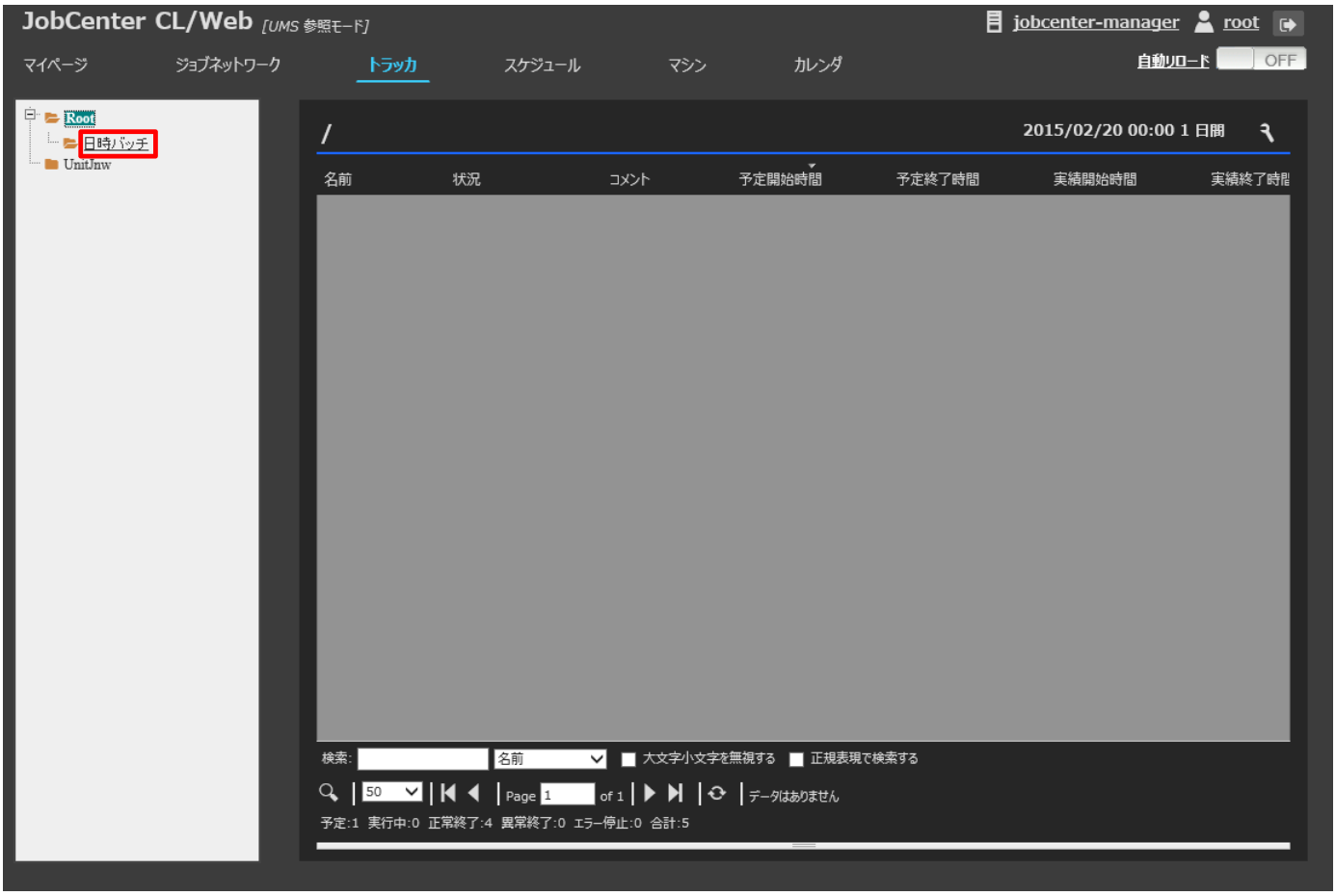

図5.29 グループ名選択画面

2. 操作したいジョブネットワークトラッカ名を選択し、右クリックする。

3. ポップアップメニューに表示される操作ができます。

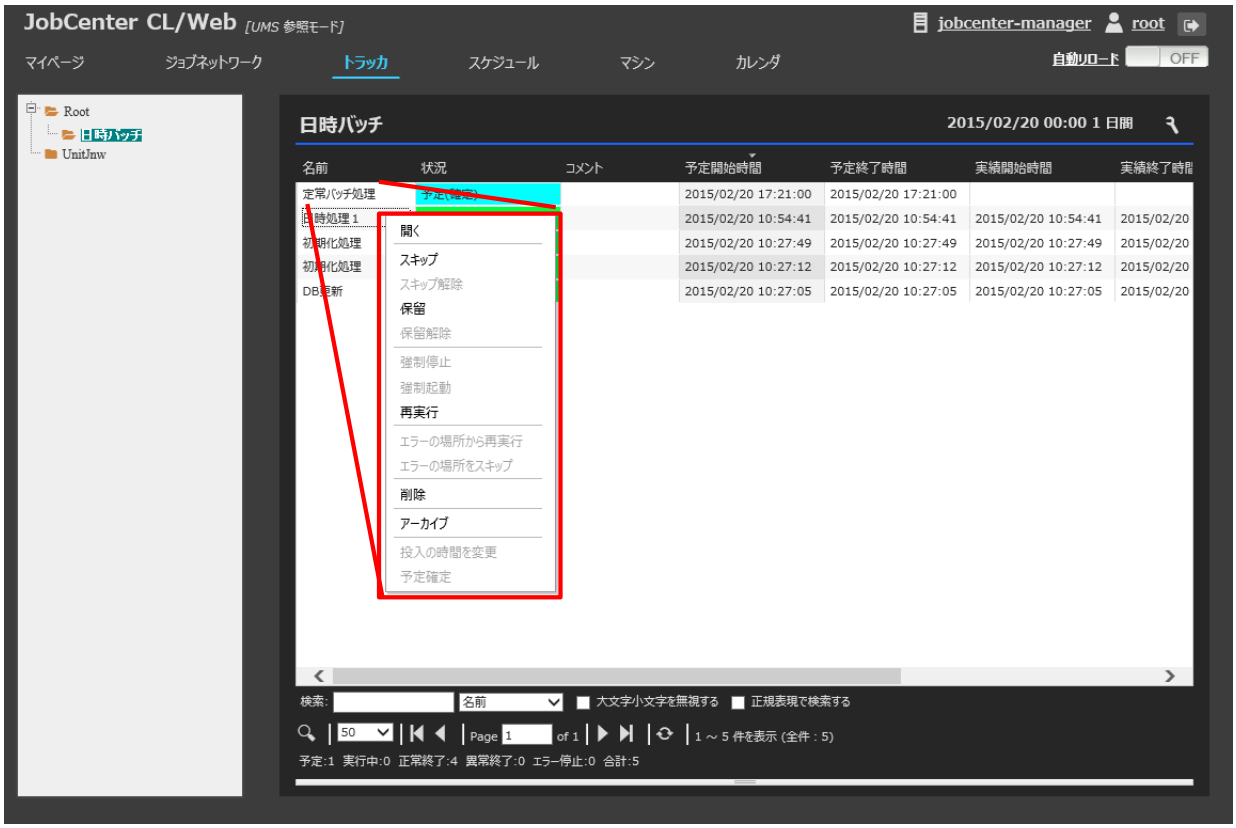

図5.30 ポップアップメニュー表示画面

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次のとおりです。

■開く

そのジョブネットワークトラッカを参照します。

■スキップ

ジョブネットワークトラッカに対してスキップの処理が行われます。

■スキップ解除

「スキップ」メニューによって設定されたスキップ予定を解除します。

■保留

ジョブネットワークトラッカに対して保留の処理が行われます。

■保留解除

「保留」メニューによって設定された保留予定を解除します。

■強制停止

実行中のジョブネットワークを中断します。ジョブネットワーク内のジョブリクエストのプロセスは強制的に終了します。

■強制起動

実行前のジョブネットワークを強制的に起動します。

■再実行

予定及び予定確定状態以外のジョブネットワークトラッカに対して即時実行の処理が行われます。

■エラーの場所から再実行

エラー停止状態のジョブネットワークに対してエラーの場所から再実行が行われます。

■エラーの場所をスキップ

エラー停止状態のジョブネットワークに対してエラーの場所をスキップ処理が行われます。

■削除

ジョブネットワークトラッカを削除します。

■アーカイブ

ジョブネットワークトラッカをアーカイブ化します。アーカイブ化後はトラッカに対して「開く」と「削除」の操作のみを行うことができます。アーカイブについては<基本操作ガイド>の「7.15.12 トラッカを手動でアーカイブする」を参照してください。

■投入時間を変更

予定及び予定確定状態のジョブネットワークトラッカに対して、投入予定実行時間を変更することができます。

図5.31 投入の時間を変更画面

[投入の時間を変更]ダイアログに次の内容を設定します。

投入日	日付が入力されている部分をクリックするとカレンダーが表示されます。 < >を選択することで前後1年間までのカレンダを表示できます。
時刻	時刻をプルダウンで選択します。00:00から23:59までを選択できます。

■予定確定

予定状態のジョブネットワークトラッカに対して予定確定状態に変更できます。

ポップアップメニュー内でグレーアウトされている項目は実行できない操作です。

5.5.2.2. 単位ジョブトラッカアイコンを操作する

1. ナビゲーションバーのトラッカを選択し、ジョブネットワーク名をクリックします。
2. 操作したい単位ジョブアイコンにカーソルをあわせて右クリックします。

3. ポップアップメニューに表示される操作を実行できます。

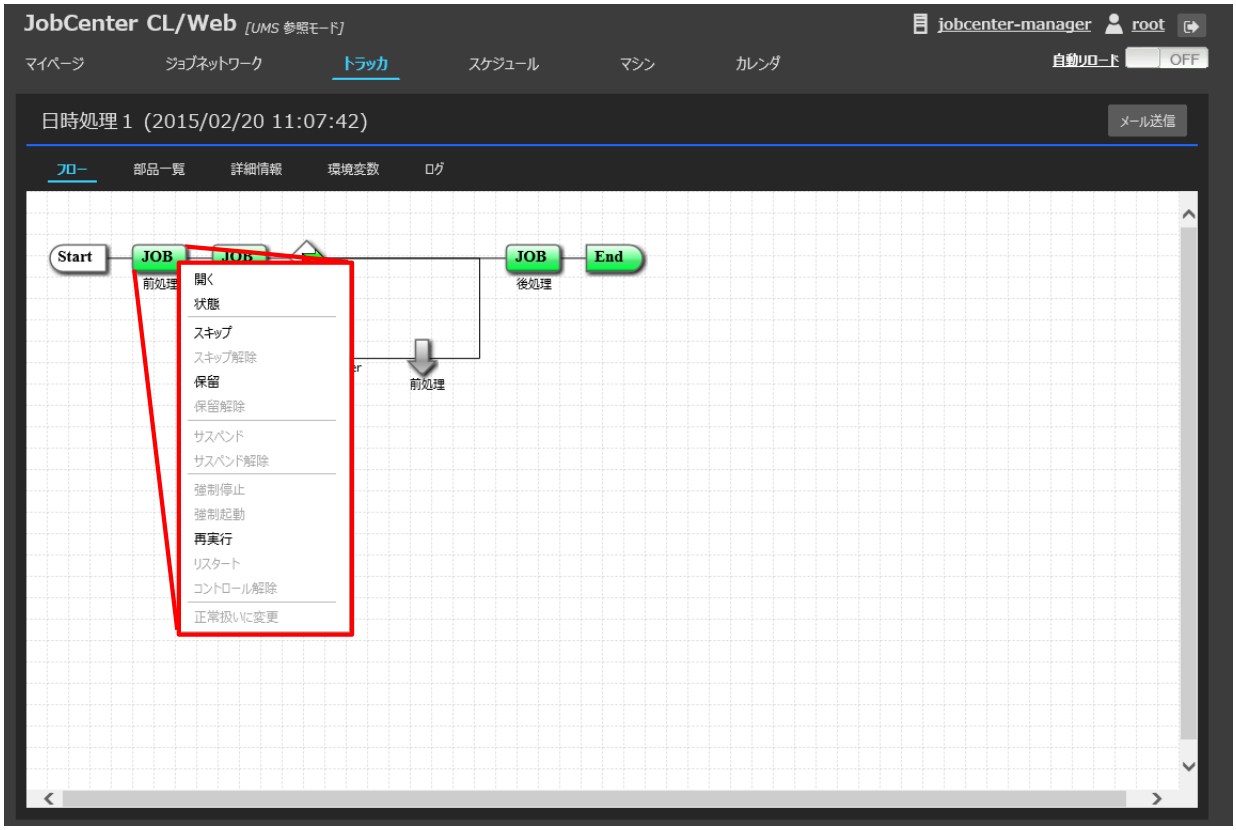

図5.32 単位ジョブトラッカ部品の詳細画面

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次の通りです。詳細については<基本操作ガイド>の「7.16.1 単位ジョブトラッカアイコンの操作」を参照してください。

■開く

■状態

■スキップ

■スキップ解除

■保留

■保留解除

■サスペンド

■サスペンド解除

■強制停止

■強制起動

■再実行

■リスタート

■コントロール解除

■正常扱いに変更

[開く]は部品の詳細情報を表示します。[状態]は部品のステータスをダイアログで表示します。

5.5.2.3. サブジョブネットワークトラッカアイコンを操作する

1. ジョブネットワークトラッカ内のサブジョブネットワークアイコンを選択し、右クリックする。
2. ポップアップメニューに表示される操作ができます。

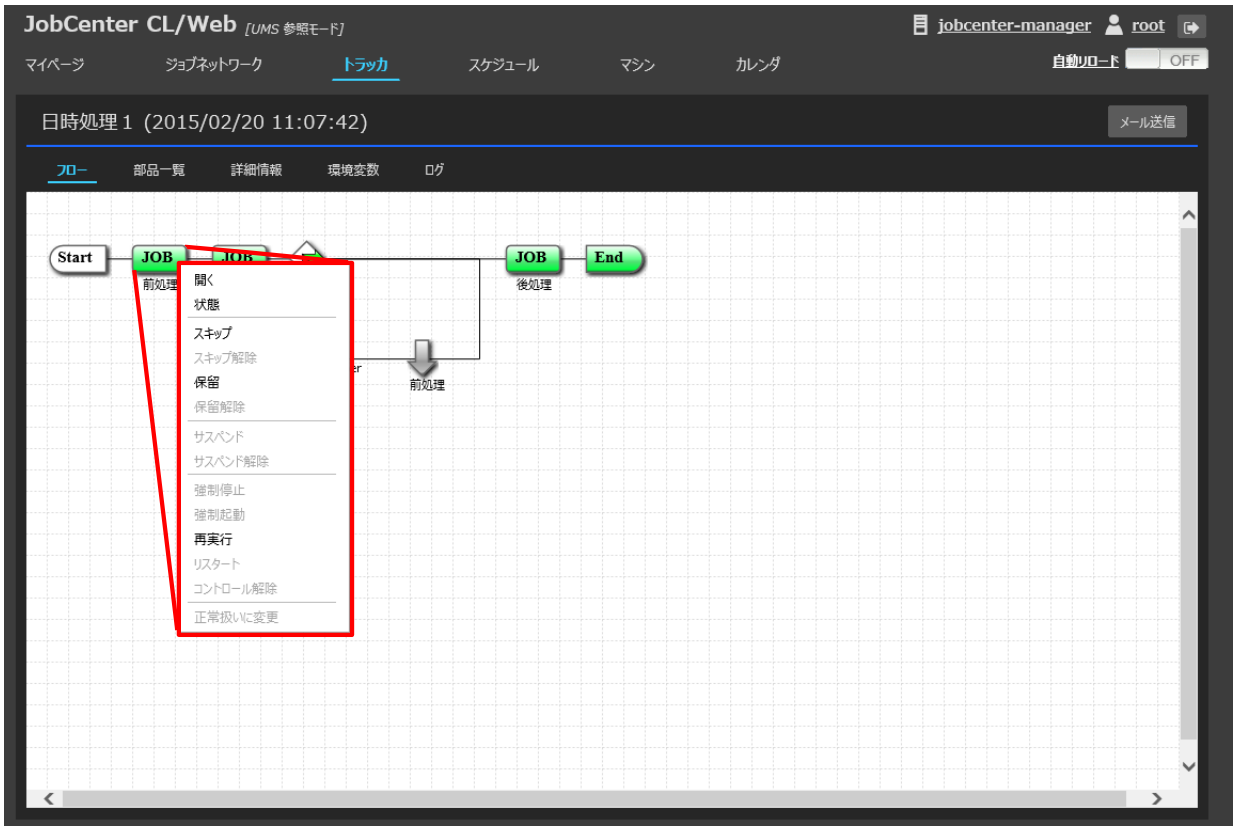

図5.33 サブジョブネットワークトラッカ部品の詳細画面

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次の通りです。詳細については<基本操作ガイド>の「7.17 サブジョブネットワークトラッカを操作する」を参照してください。

■開く

■状態

■スキップ

■スキップ解除

■保留

■保留解除

■強制停止

■強制起動

■再実行

■エラーの場所から再実行

■エラーの場所をスキップ

[開く]はサブジョブネットワークトラッカのフローを表示します。[状態]は部品のステータスをダイアログで表示します。

5.5.2.4. ダイアログトラッカアイコンを操作する

1. ジョブネットワークトラッカ内のダイアログアイコンを選択し、右クリックする。
2. ポップアップメニューに表示される操作ができます。

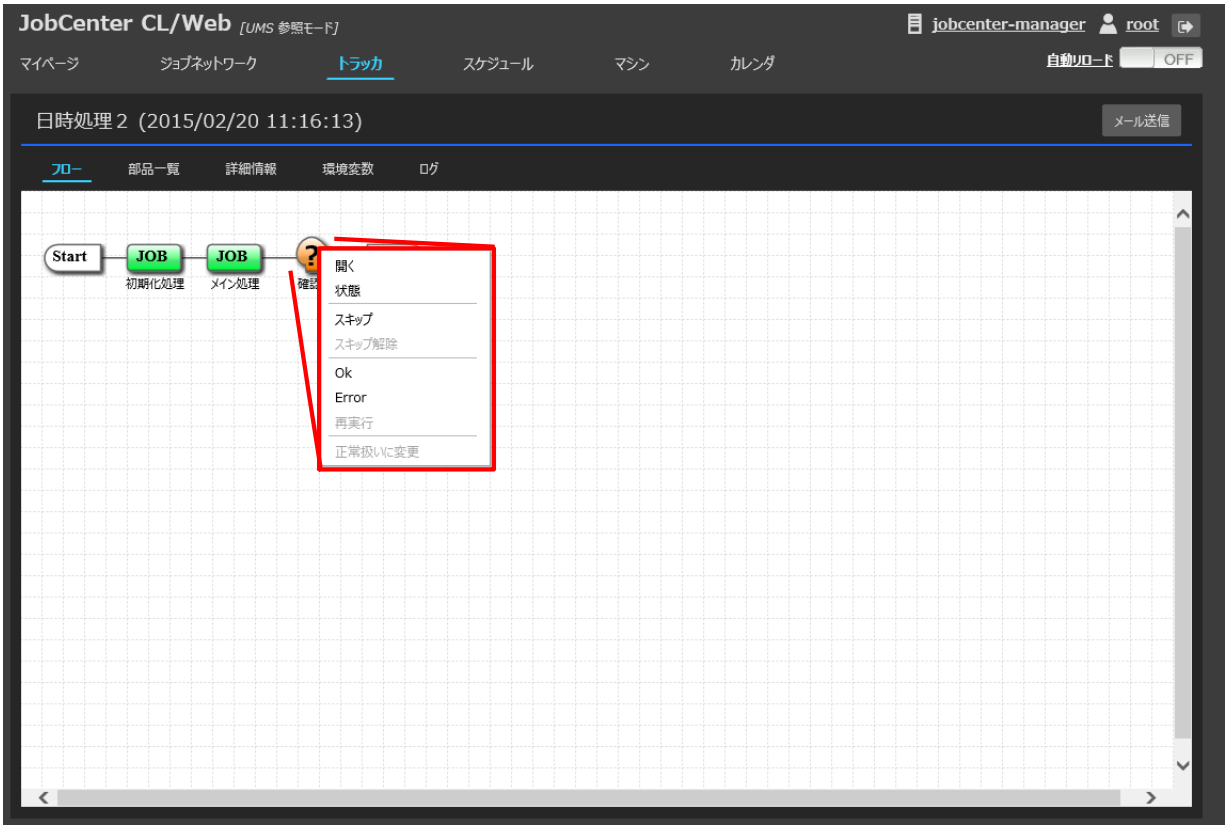

図5.34 ダイアログトラッカ部品の詳細画面

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次の通りです。詳細については<基本操作ガイド>の「7.18　ダイアログのユーザからの応答を行う（終了ステータスを決定する）」を参照してください。

■開く

■状態

■スキップ

■スキップ解除

■Ok

■Error

■再実行

■正常扱いに変更

[開く]は部品の詳細情報を表示します。[状態]は部品のステータスをダイアログで表示します。

5.5.2.5. 待ち合わせ部品とイベント送受信のアイコンを操作する

1. ジョブ待ち合わせ部品アイコンを選択し、右クリックする。
2. ポップアップメニューに表示される操作ができます。

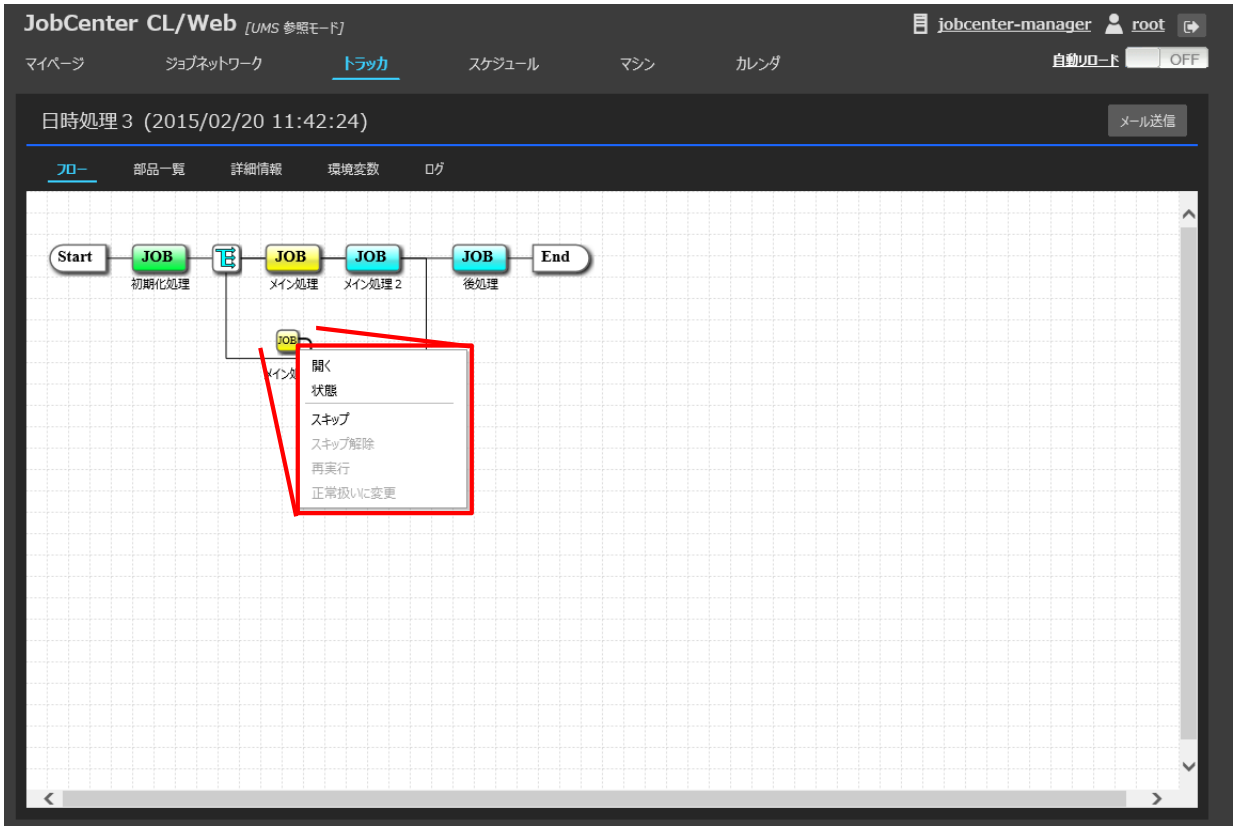

図5.35 ジョブ待ち合わせ部品の詳細画面

右クリックしたときのポップアップメニューから行える操作は次の通りです。詳細については<基本操作ガイド>の「7.19　待ち合わせ部品とイベントの送受信のジョブをスキップする」を参照してください。

表5.3 待ち合わせ部品トラッカとイベント送受信トラッカ可能操作一覧

待ち合わせ部品トラッカとイベント送受信トラッカ	ポップアップメニューから可能な操作
ジョブ待ち合わせ	■開く ■状態 ■スキップ ■スキップ解除 ■再実行 ■正常扱いに変更
ジョブネットワーク待ち合わせ	■開く

	■状態 ■スキップ ■スキップ解除 ■再実行 ■正常扱いに変更
時刻待ち合わせ	■開く ■状態 ■スキップ ■スキップ解除 ■再実行 ■正常扱いに変更
ファイル待ち合わせ	■開く ■状態 ■スキップ ■スキップ解除 ■再実行 ■正常扱いに変更
イベント送信	■開く ■状態 ■スキップ ■スキップ解除 ■保留 ■保留解除 ■強制停止 ■強制起動 ■再実行 ■正常扱いに変更
イベント受信	■開く ■状態 ■スキップ ■スキップ解除 ■保留 ■保留解除

	■強制停止 ■強制起動 ■再実行 ■正常扱いに変更

[開く]は部品の詳細情報を表示します。[状態]は部品のステータスをダイアログで表示します。

5.5.3. トラッカ画面を自動的にリロードする

トラッカ画面に表示されている内容を定期的に再読み込みします。自動リロードが行われる対象は「トラッカ一覧画面（特定のJNWを指定した場合を含む）」、「トラッカ情報画面(フロー、部品一覧、詳細情報、環境変数、ログ)」です。

5.5.3.1. 自動リロード有効化

自動的にリロードするためには自動リロードスライドバーをOFFからONに変更してください。（マウスをクリックしたまま右に動かすとONに切り替わります）

図5.36 自動リロードON状態へ変更

自動リロードスライドバーがONになっている場合、自動リロードが行われます。

5.5.3.2. 自動リロードの初期設定

CL/Webサーバの設定ファイル（clweb.conf）で自動リロードの初期値が設定できます。設定した自動リロードの初期値は、全てのユーザで共通しています。

自動リロード初期設定に関するclweb.confファイルのフォーマット、および項目は次の通りです。

表5.4 clweb.confのパラメータの設定値(自動リロードの初期設定)

設定	説明	タイプ	設定値

$tracker_auto_refresh	自動リロードスライドバーの初期状態を設定します。	真偽値	false（デフォルト設定値）

初回アクセス時にclweb.confファイルの初期設定の値に従って自動リロードスライドバーの状況が決定します。

その後、自動リロードスライドバーを切り替えた場合にはブラウザのクッキーに保存されます。クッキーに保存されている場合にはclweb.confファイルの設定値を参照せず、クッキーに保存された情報でスライドバーの状態が決まります。

■初回アクセス時（クッキーに情報なし）

⇒clweb.confファイルの初期設定値によって自動リロードスライドバーの状況が決定。

■自動リロードスライドバーをONに変更

⇒クッキーに「自動リロードスライドバー：ON」を記録、自動リロードが行われる。

■自動リロードスライドバーをOFFに変更

⇒クッキーに「自動リロードスライドバー：OFF」を記録、自動リロードが行われない。

ブラウザのクッキーをクリアした、またはブラウザのクッキーの有効期限が切れた場合にはclweb.confの設定に従い、自動リロードスライドバーの状況が決定します。

ブラウザのクッキーの有効期限は、自動リロードスライドバーを変更してから1年間です。

5.5.3.3. 自動リロードタイミング設定方法

自動的にリロードを行う間隔は自動リロードスライドバーの左にある「自動リロード」リンクを押下して、「自動リロード設定ダイアログ」から設定してください。自動リロードの間隔は1分、2分、3分、4分、5分の５種類から選択できます。

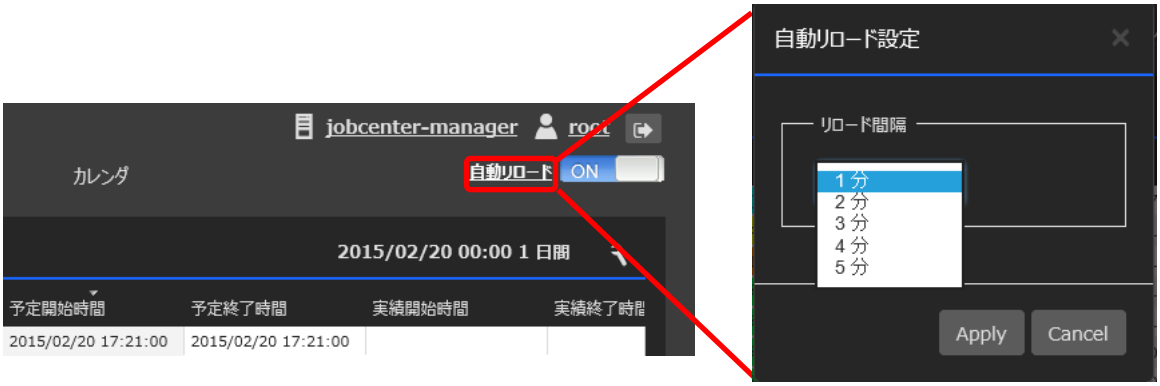

図5.37 自動リロード設定ダイアログ

5.5.4. トラッカをガントチャート表示する

トラッカー覧をガントチャートで表示します。

5.5.4.1. トラッカー覧をガントチャート表示する

1. トラッカー覧を表示した状態で表示テーブル右上の[設定]をクリックします。

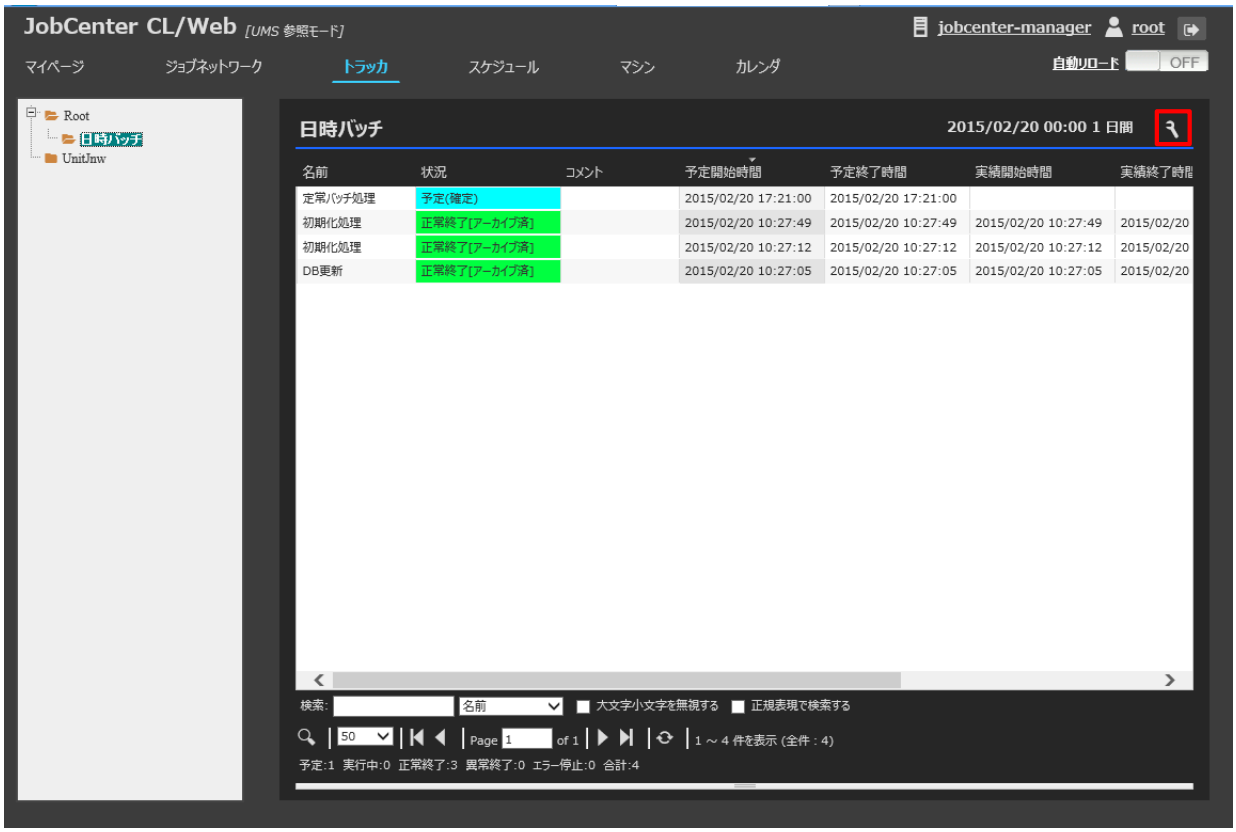

図5.38 設定ボタン

2. [設定]のダイアログが表示されます。

3. 表示モードで[ガントチャート]を選択して[Apply]をクリックします。

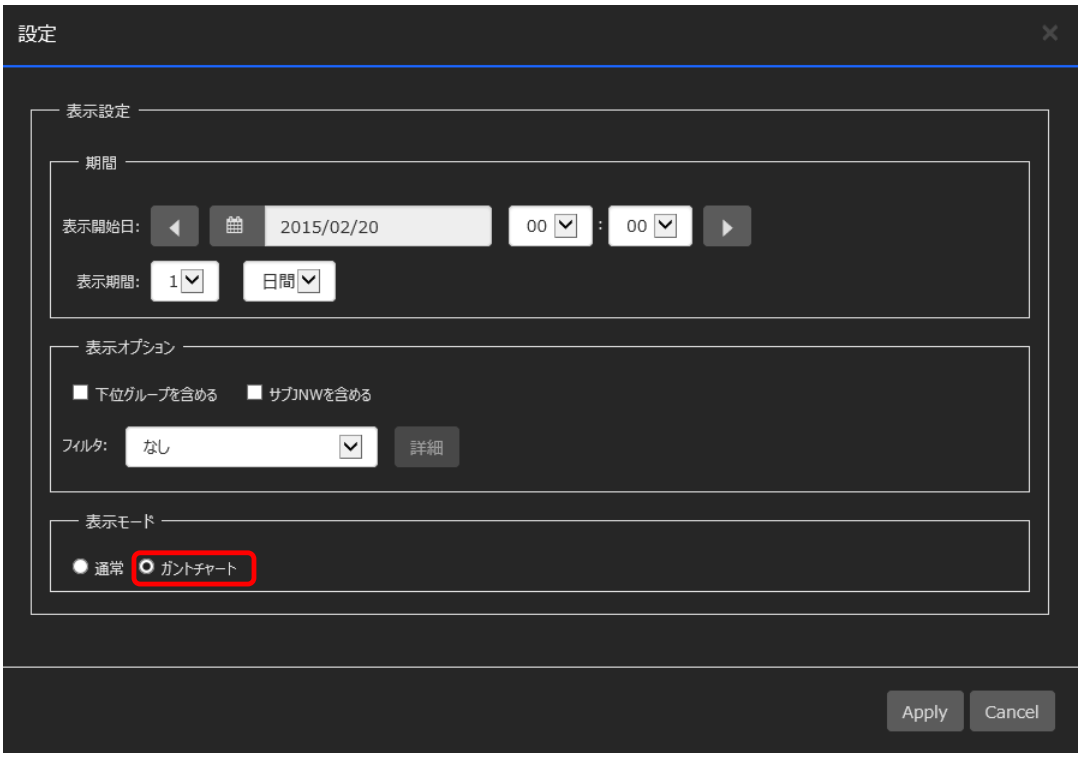

図5.39 [設定]ダイアログのガントチャート切り替え

4. トラッカー覧のガントチャートが表示されます。

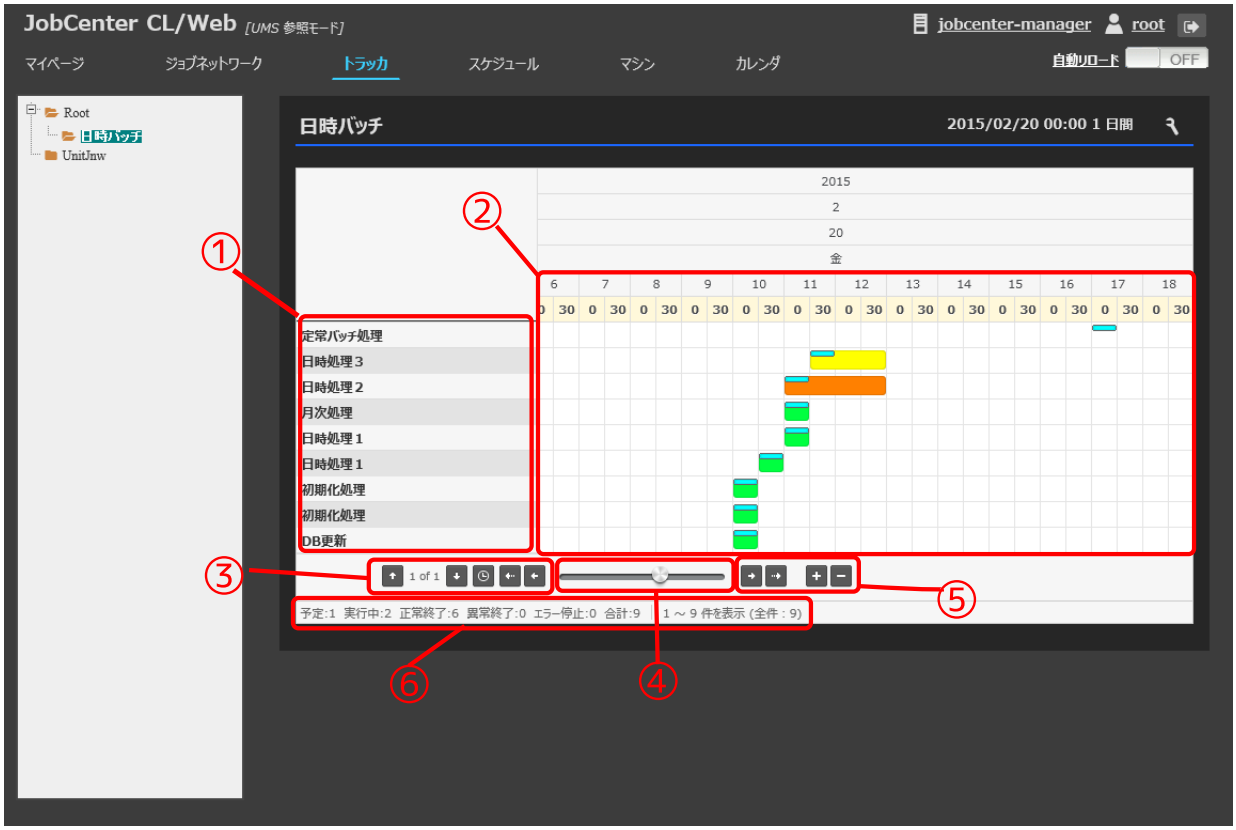

図5.40 トラッカガントチャート表示

ガントチャートは、横軸に時間、縦軸にトラッカ名を取り、トラッカ毎の開始-終了時間を横棒で表します。

■ガントチャート表示項目

項目名	説明	補足
①トラッカ名	トラッカ名を表示します。 トラッカ名をクリックすると、そのトラッカフロー画面が表示されます。 トラッカ名を右クリックすると、トラッカ操作のコンテキストメニューが表示されます。	
②表示テーブル	トラッカ毎の開始-終了時間を横棒で表示します。 細い横棒は予定開始-終了時間を表します。太い横棒は実績開始-終了時間を表します。 太い横棒の色はトラッカの状態に対応しています。	
③ページ切り替えボタン	トラッカ名が1画面に収まりきらない場合に、ページの切り替えを行います。	
④スライドバー	ガントチャートを横軸方向にスクロールすることができます。	
⑤スケール変更ボタン	ガントチャートの横軸の単位を変更することができます。表示単位は以下の通りです。 1分、15分、30分、1時間、6時間、12時間、1日、1ヶ月	
⑥統計情報バー	トラッカの状態(予定、実行中)などの数を表示されます。	

5.6. スケジュールに関する操作

スケジュールの一覧や定義を参照することができます。またスケジュールの有効化、無効化などの操作を行うことができます。

5.6.1. スケジュール一覧を参照する

1. ナビゲーションバーの[スケジュール]を選択します。
2. ツリービューよりツリーを開き、グループ名にカーソルを合わせクリックします。
3. グループ配下にスケジュール、グループがある場合、表示テーブルにそれらのオブジェクトが表示されます。

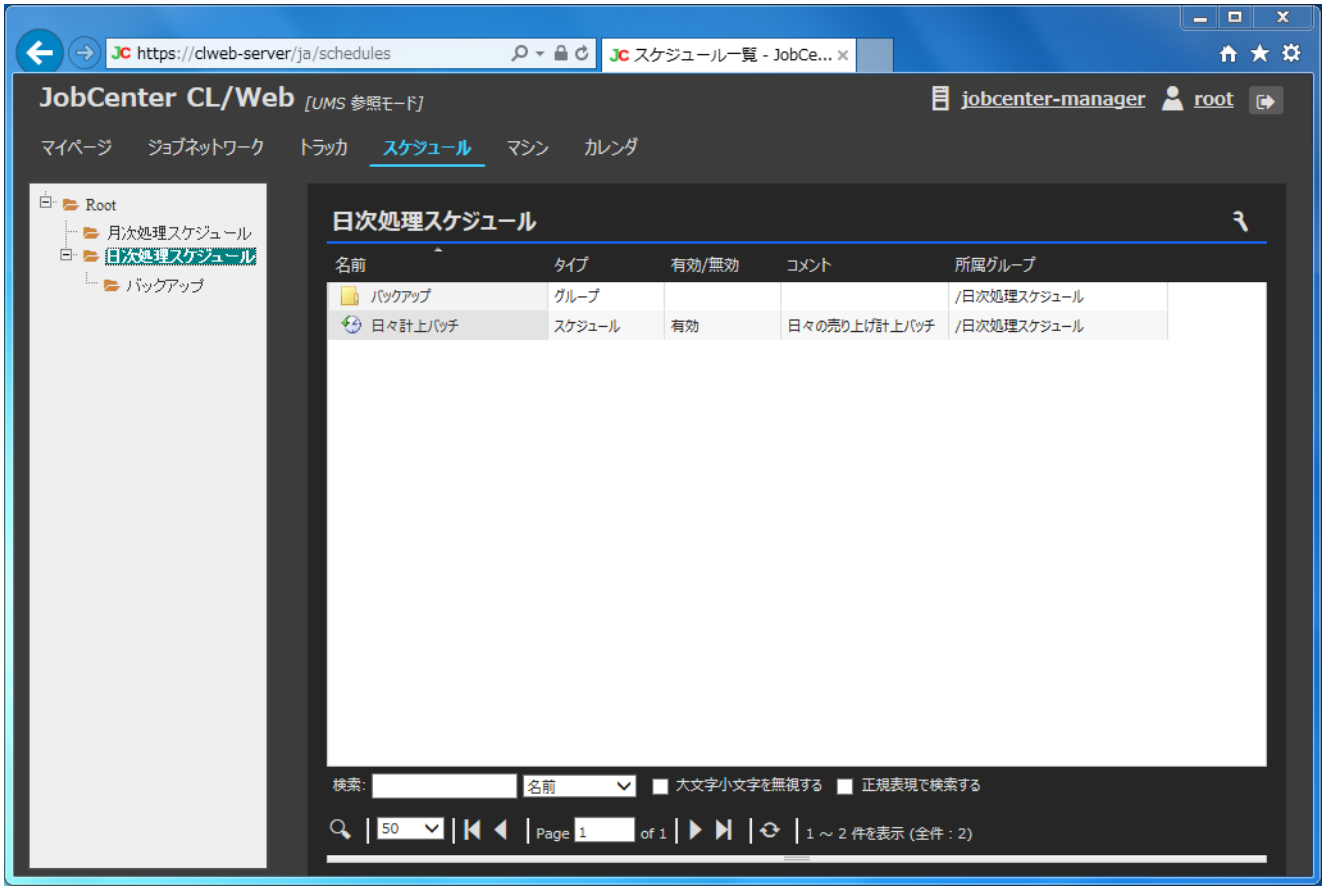

図5.41 スケジュールグループ選択画面

■表示テーブルー覧項目

項目名	説明	補足
名前	オブジェクトの名前が表示されます。	
タイプ	オブジェクトの種類（スケジュール、グループ）が表示されます。	
有効/無効	スケジュールの場合、そのスケジュールの有効/無効状態が表示されます。	
コメント	オブジェクトのコメントが表示されます。	
所属グループ	オブジェクトが所属しているグループ名が表示されます。	

5.6.2. スケジュールの定義を参照する

1. 定義を参照したいスケジュール名にカーソルを合わせクリックします。

2. 選択したスケジュールの定義情報が表示されます。

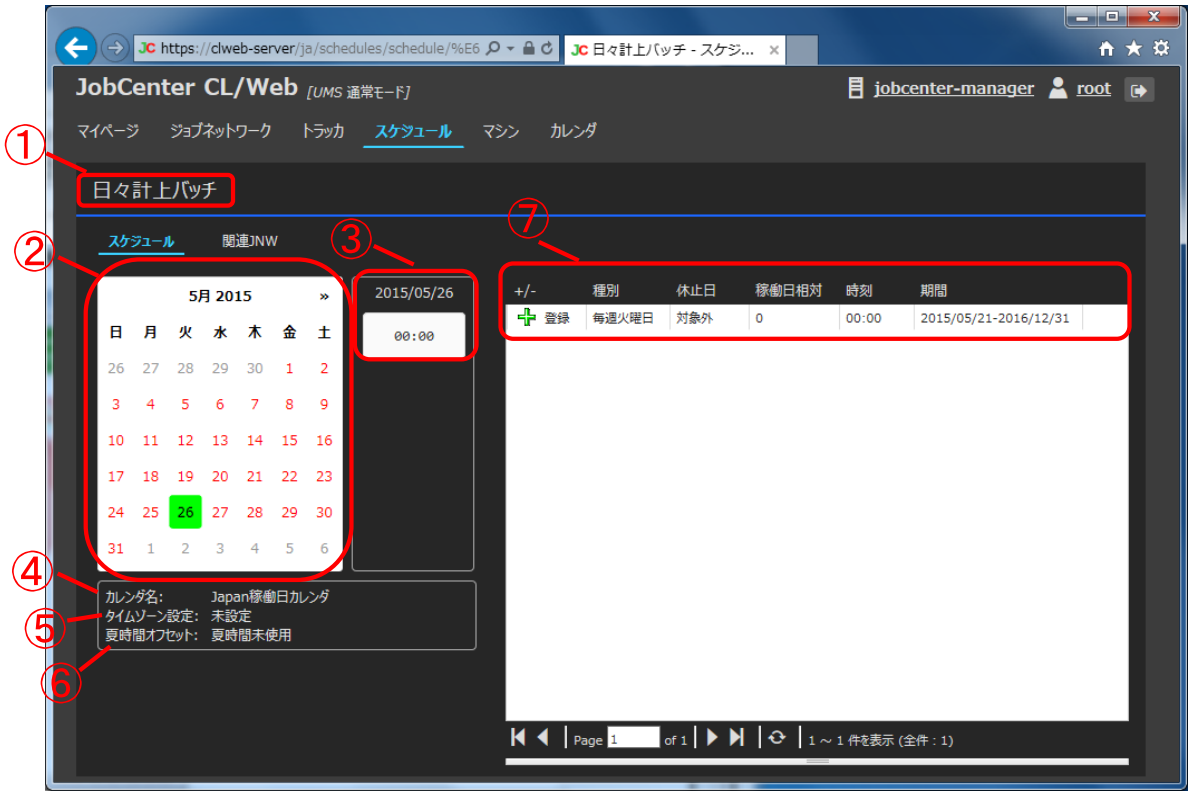

図5.42 スケジュール定義参照画面

■スケジュール定義項目

項目名	説明	補足
①スケジュール名	参照しているスケジュールの名前を表示します。	
②月別実行日スケジュール	月別にスケジュール実行日となっている日を表示します。背景が緑色の日が実行日となっています。	
③実行開始時間	スケジュール実行日をクリックすることで、その日のスケジュール実行開始時間の一覧を表示します。	
④カレンダ名	スケジュールに適用されているカレンダの名前を表示します。	
⑤タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を表示します。	
⑥夏時間オフセット	夏時間（サマータイム）を設定しているかどうかを表示します。	
⑦ルール	スケジュール定義のルールを表示します。表示される項目は「登録/除外」「種別」「休止日」「稼働日相対」「時刻」「期間」です。	

5.6.3. 関連JNWを参照する

1. スケジュール定義にて設定されている関連JNWを参照します。スケジュール定義情報画面の関連JNWタブをクリックしてください。

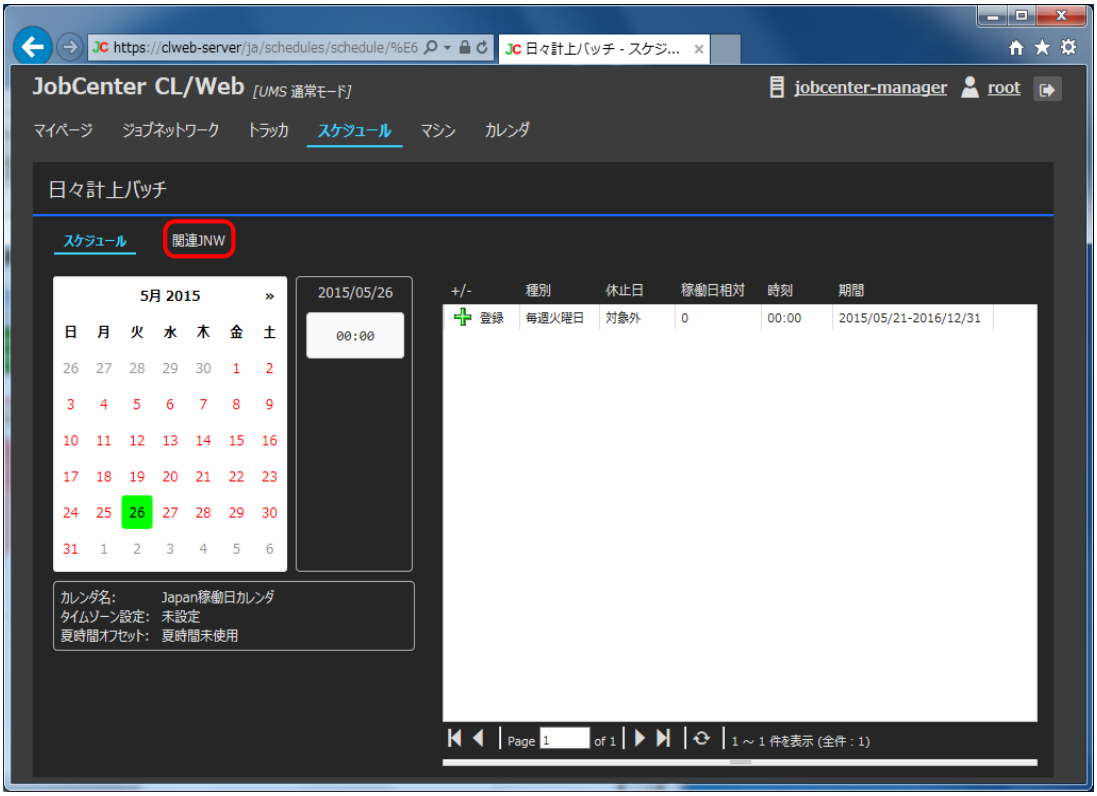

図5.43 関連JNWタブのクリック

2. そのスケジュールに関連しているJNWの一覧が表示されます。

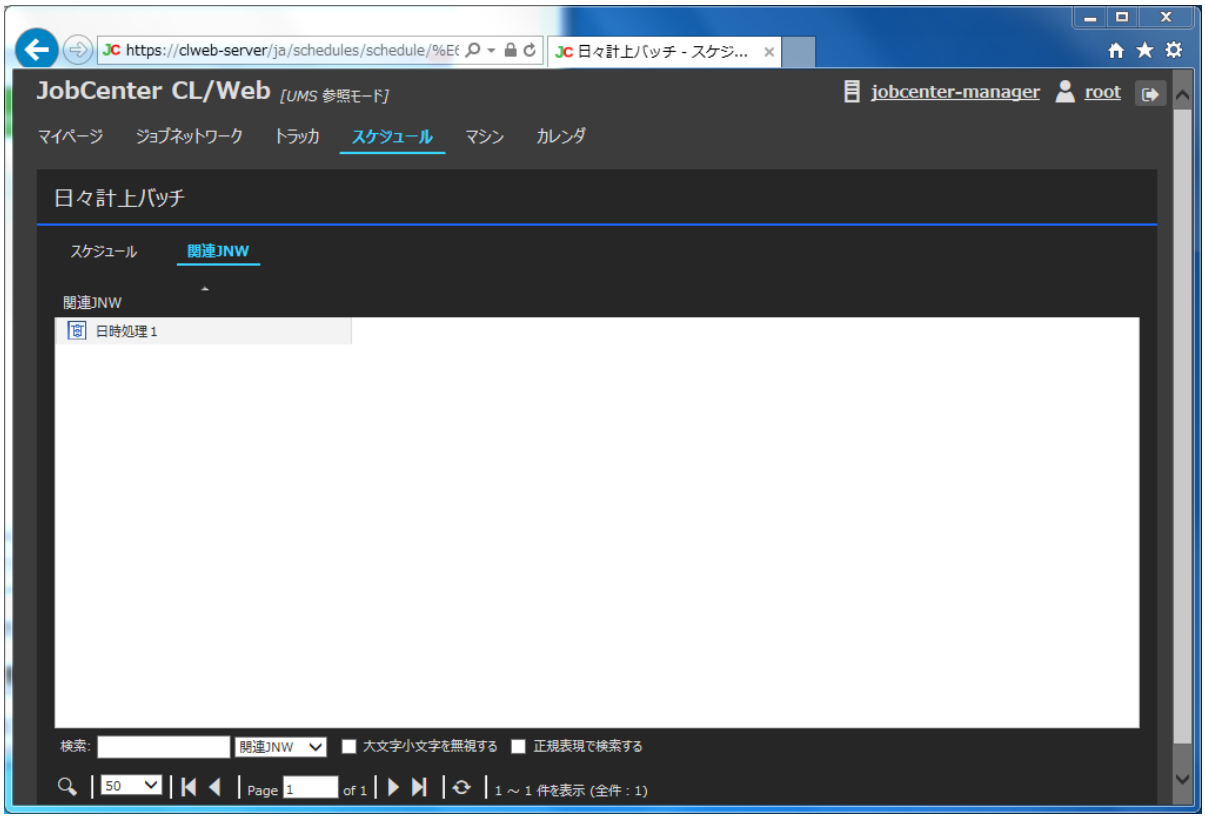

図5.44 関連JNW画面

5.6.4. スケジュールを有効化、無効化する

スケジュールを有効化、または無効化する方法を説明します。

有効化、無効化はスケジュール個別とスケジュールグループに対してそれぞれ行うことができます。

ログインモードで「通常モード」を選択している必要があります。

CL/Winでのユーザのパーミッション設定でユーザ自身のジョブネットワークの編集を許可していない場合は、スケジュールの有効化、無効化の操作を行うことはできません。

5.6.4.1. スケジュールの有効化、無効化

スケジュールに対して個別に有効化、無効化を行います。

1. 表示テーブルで、有効化(無効化)したいスケジュール名にカーソルを合わせて右クリックします。

2. 右クリックしたときのポップアップメニューの有効(無効)を選択します。

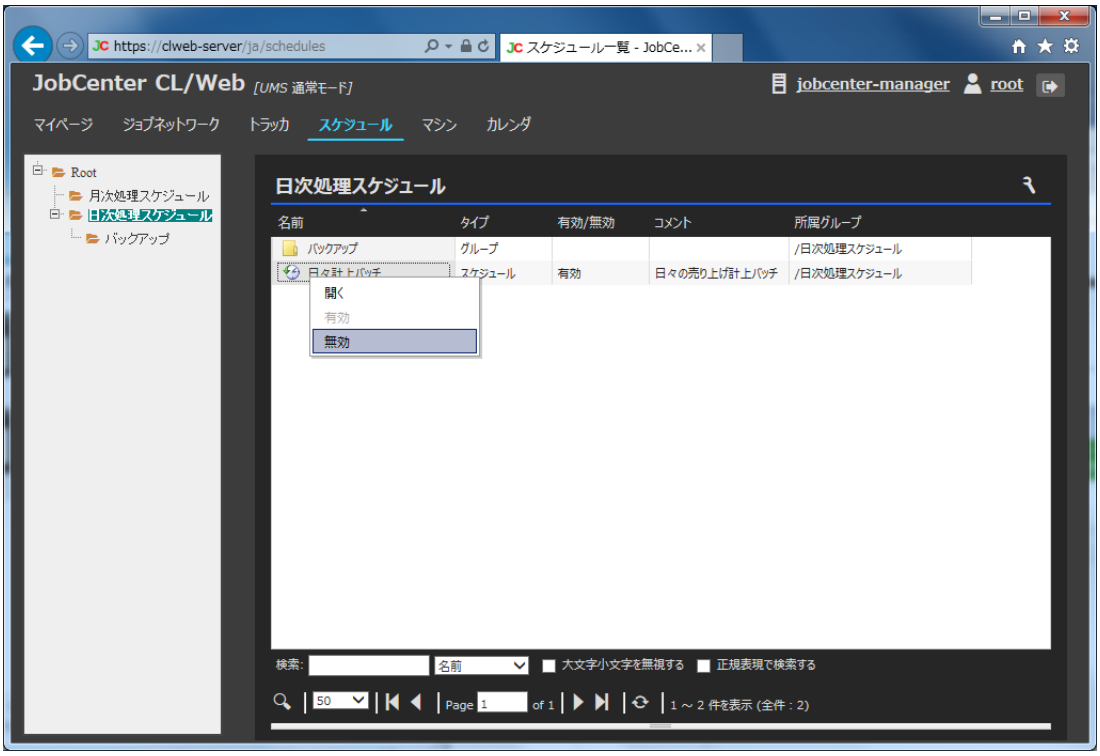

図5.45 スケジュールの無効化選択

3. [スケジュールの操作]のダイアログが表示されます。

4. [OK]ボタンをクリックします。

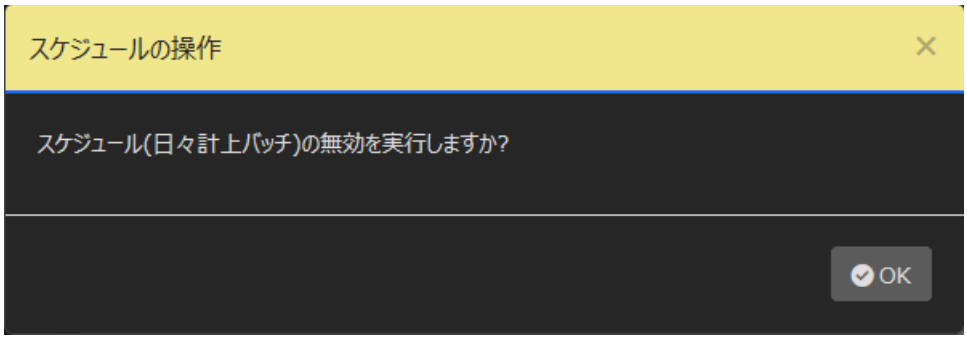

図5.46 [スケジュールの操作]のダイアログ

5. [スケジュールの操作]のダイアログで次のメッセージが出力されれば終了です。

6. [OK]ボタンをクリックします。

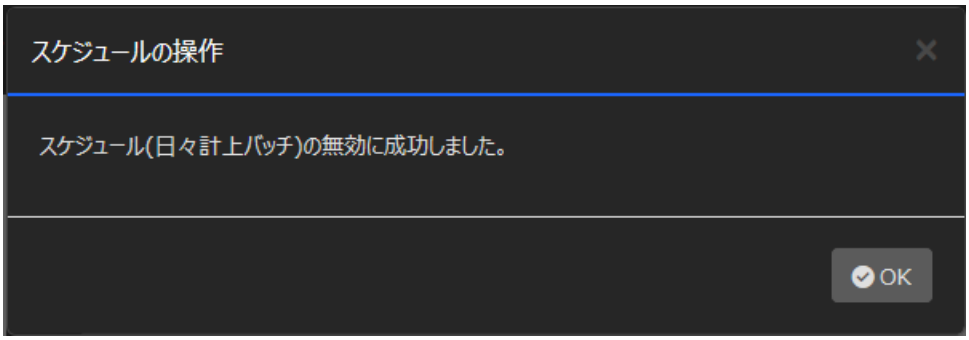

図5.47 スケジュール操作成功

5.6.4.2. スケジュールグループの有効化、無効化

グループ配下のスケジュールすべてに対して一括で有効化、無効化を行います。

1. 表示テーブルで、有効化(無効化)したいスケジュールグループ名にカーソルを合わせて右クリックします。

2. 右クリックしたときのポップアップメニューの有効(無効)を選択します。

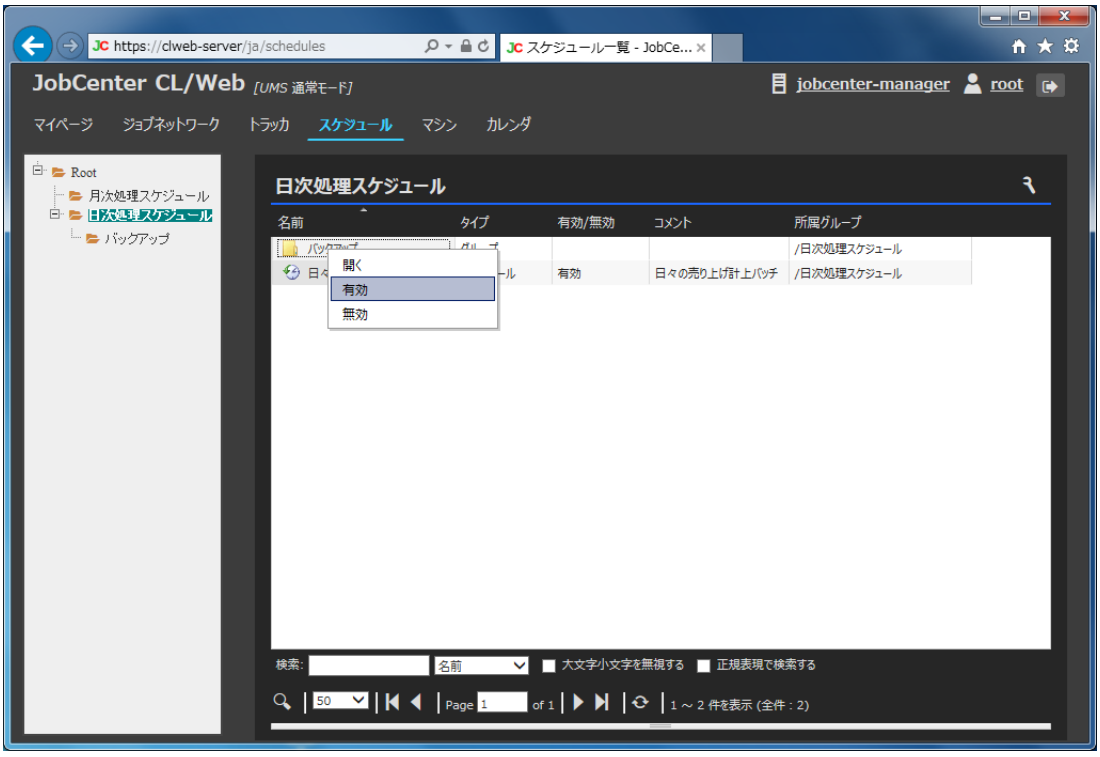

図5.48 スケジュールグループの有効化選択

3. [グループの操作]のダイアログが表示されます。

4. [OK]ボタンをクリックします。

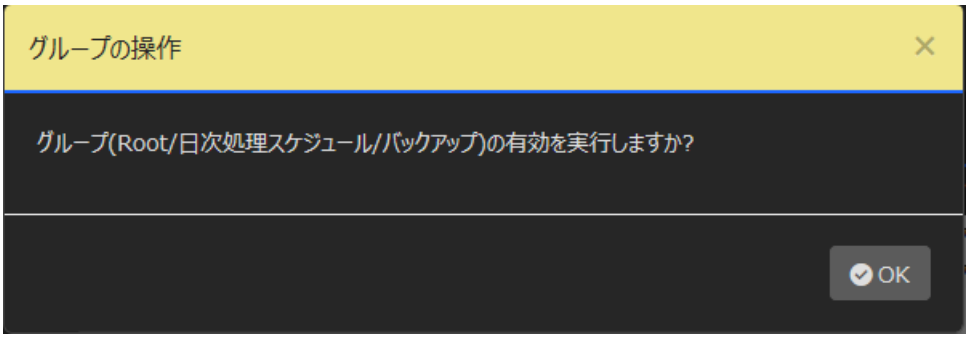

図5.49 [グループの操作]ダイアログ

5. [グループの操作]のダイアログで次のメッセージが出力されれば終了です。
6. [OK]ボタンをクリックします。

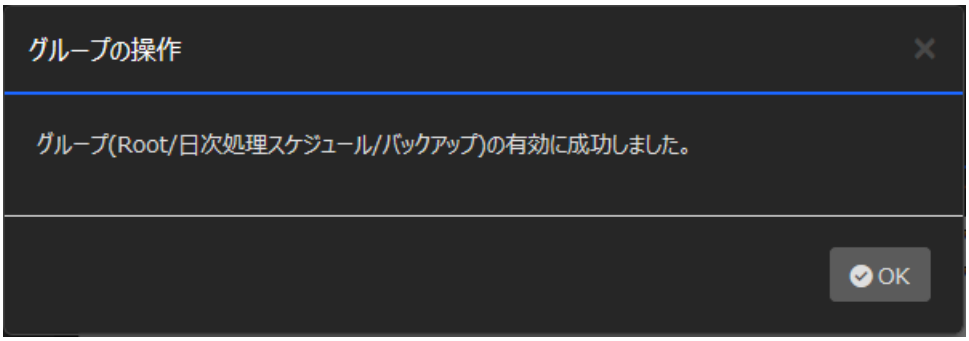

図5.50 グループ配下のスケジュール有効化成功

5.7. マシンに関する操作

JobCenter　MG/SVが認識しているマシンを一覧、キュー一覧、ユーザー一覧の表示を参照することができます。またキューの開始、停止などの操作を行うことができます。

5.7.1. マシン一覧を参照する

1. ナビゲーションバーの[マシン]を選択します。

2. JobCenter MG/SVが認識しているマシンの一覧が表示されます。

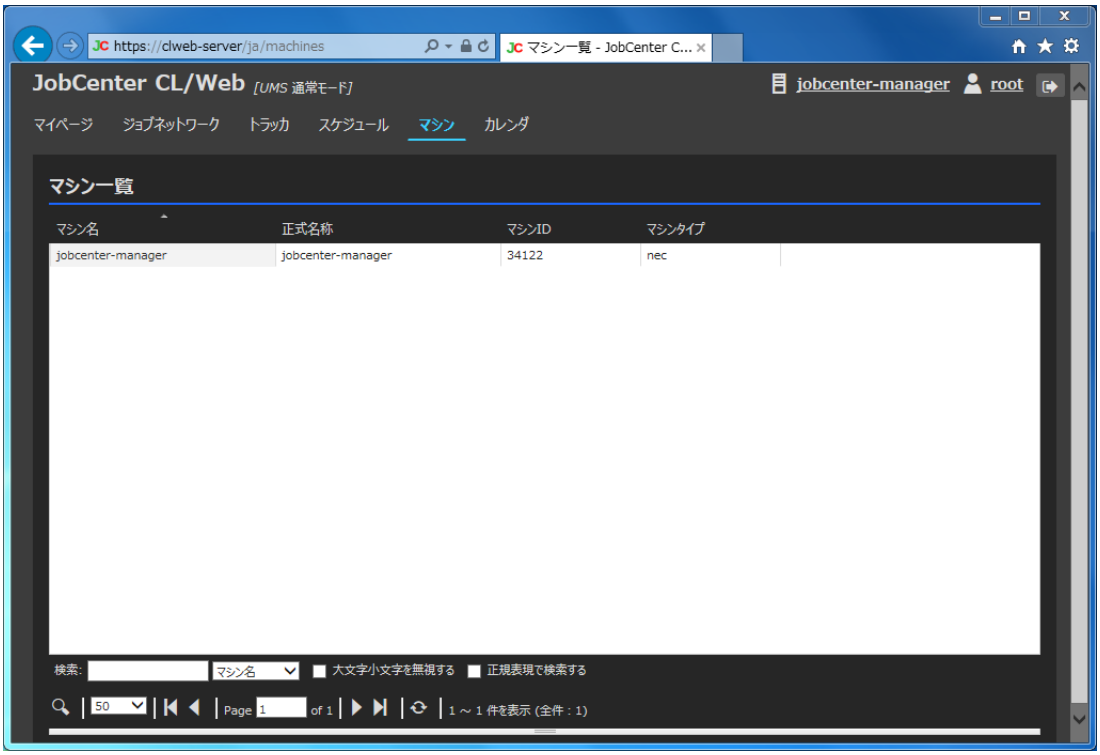

図5.51 マシン一覧表示画面

■マシン一覧項目

項目名	説明	補足
マシン名	JobCenter MG/SVが認識しているマシン名	
正式名称	マシンの正式名称が表示されます。	
マシンID	マシンIDが表示されます。	
マシンタイプ	マシンタイプ(necまたはnecnt)が表示されます。	

5.7.2. キュー一覧を参照する

1. マシン一覧表示の画面よりキュー一覧を参照したいマシン名にカーソルを合わせクリックをします。

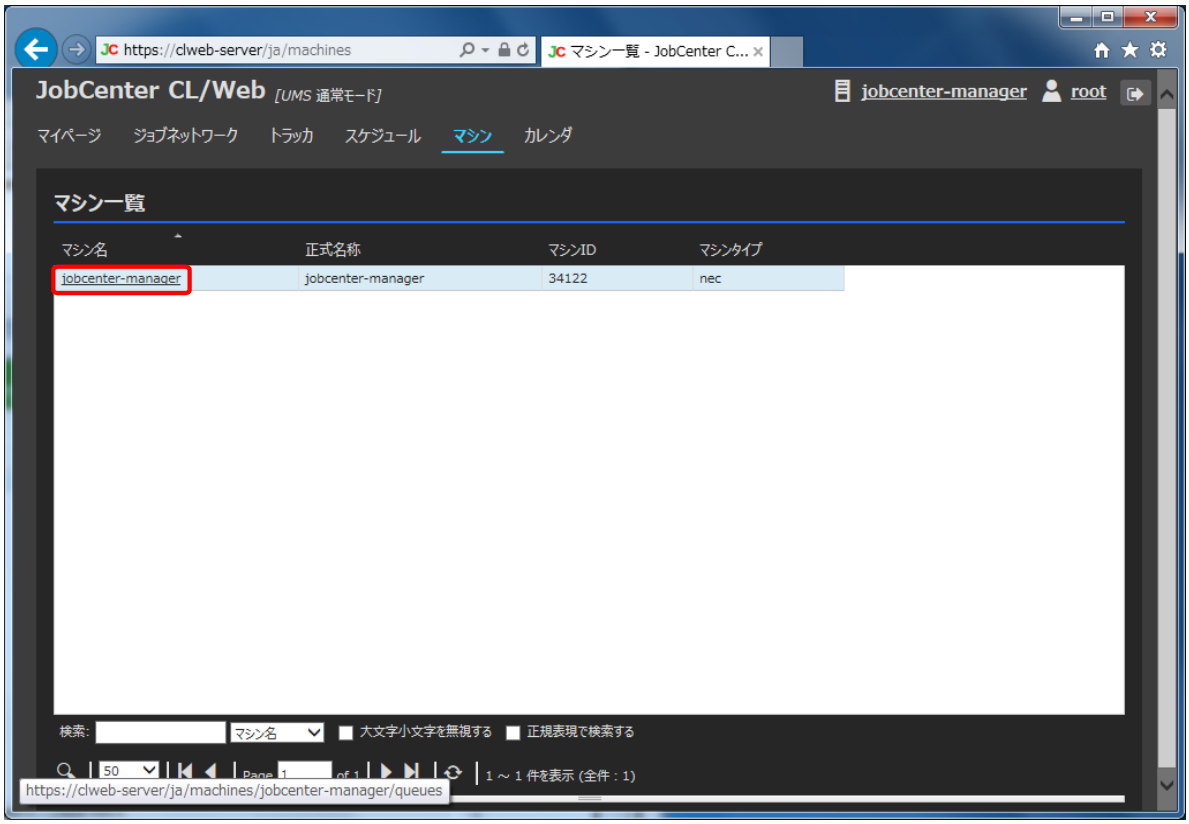

図5.52 マシン選択画面

2. 選択したマシンのキュー一覧が表示されます。

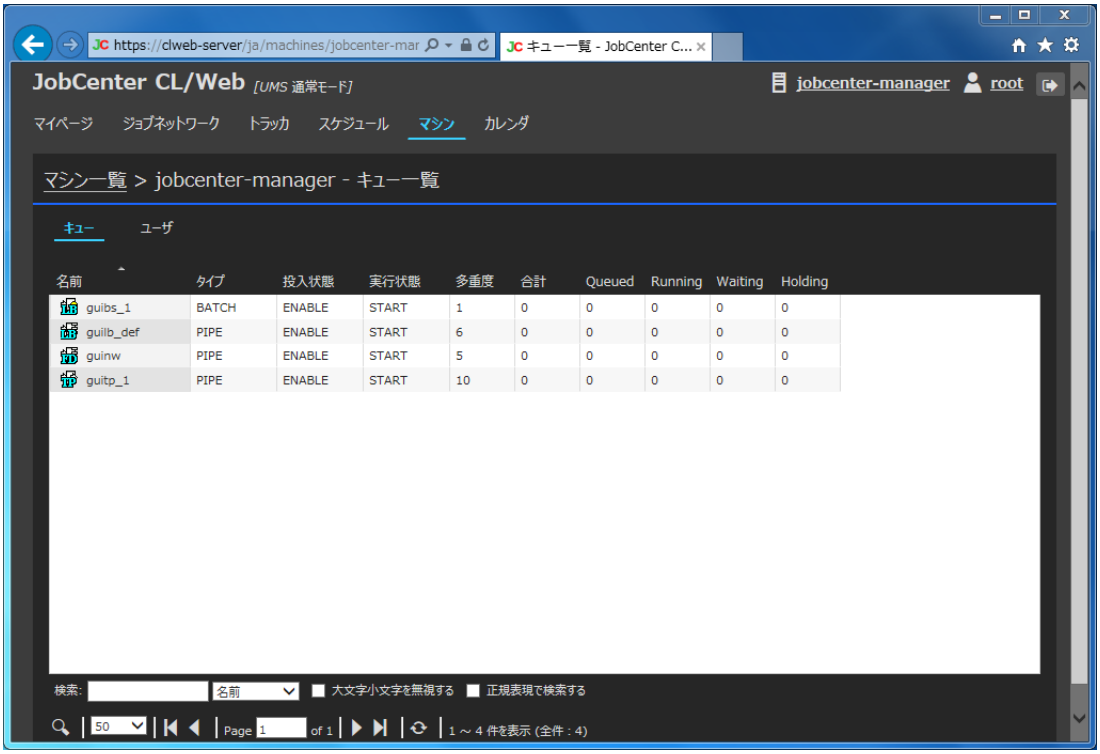

図5.53 キュー一覧表示画面

3. デフォルトの項目以外でキューフラグ項目を[Hide/Show Columns]機能により追加することが可能です。[Hide/Show Columns]機能については「5.1.4 表示テーブル内の項目表示機能」を参照してください。

■キュー一覧項目

項目名	説明	補足
名前	<基本操作ガイド>の「10.1.2 NQSフレームでキュー一覧を表示する」を参照してください。	
タイプ		
キューフラグ	キューの種類を表す NORMAL、LOADBALANCE、TRANSPARENTのうち一つが表示されます。 ■NORMAL 通常のパイプキュー及びバッチキューであることを表します。 ■LOADBALANCE デマンドデリバリ負荷分散用キューであることを表します。 ■TRANSPARENT 透過型パイプキューであることを表します。	デフォルトの項目以外でキューフラグ項目を[Hide/Show Columns]機能により追加することが可能です。
投入状態	<基本操作ガイド>の「10.1.2 NQSフレームでキュー一覧を表示する」を参照してください。	
実行状態		
多重度		
合計		
Queued		
Running		
Waiting		
Holding		

5.7.3. キューを操作する

1. キュー一覧画面よりキューを操作したキュー名にカーソルを合わせ右クリックします。

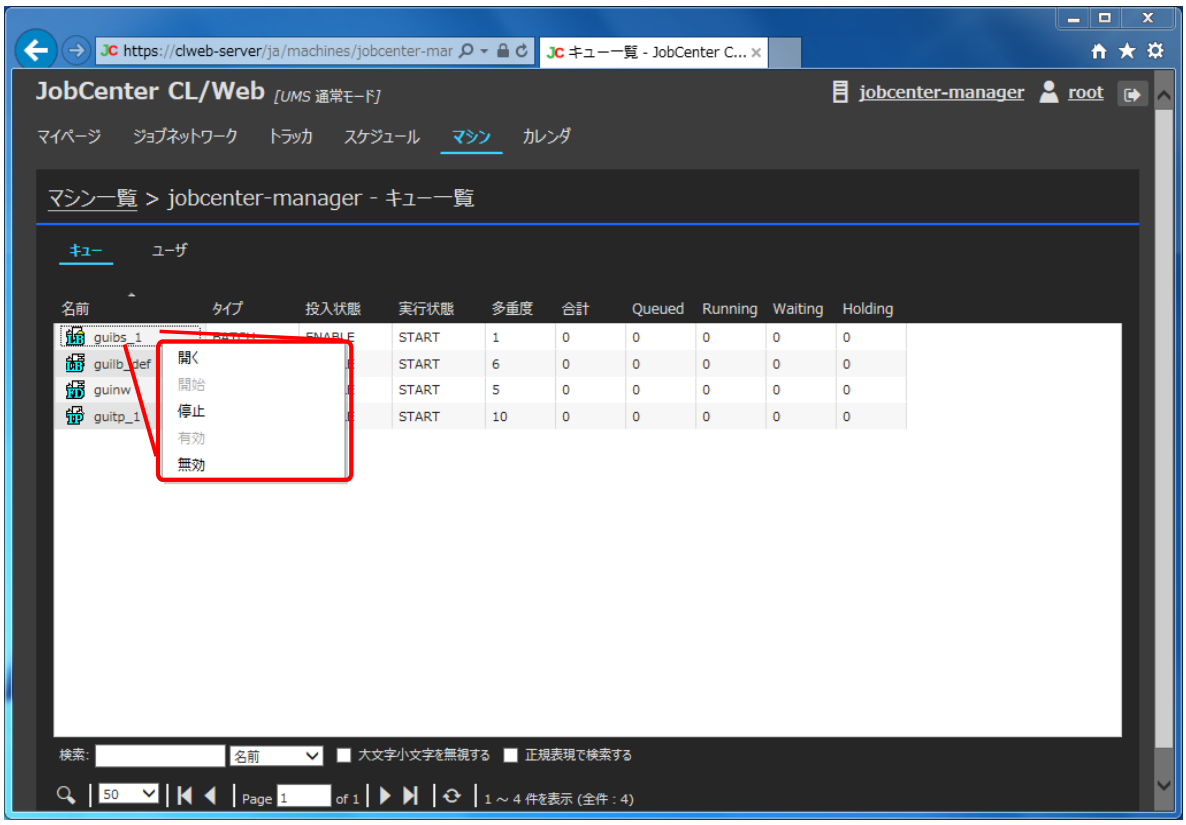

図5.54 キュー選択画面

CL/Webでのキューの操作はJobCenter管理者ユーザ以外は実行できません。

管理者ユーザ以外は項目がグレーアウトされます。

また、管理者ユーザであってもRefモードでログインした場合はキューの操作を実行できません。

2. 操作したい内容にカーソルを合わせクリックします。

3. [キュー制御]のポップアップ画面が表示されるので[OK]をクリックします。

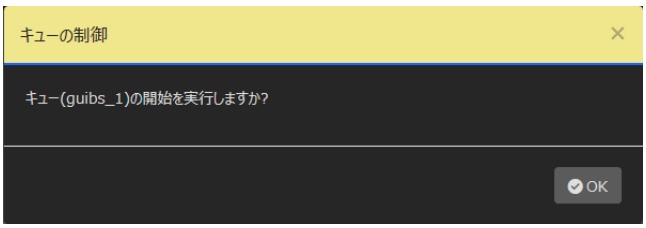

図5.55 キュー制御開始画面

4. キュー制御の操作が終了すると結果のメッセージが表示されるので[OK]をクリックします。

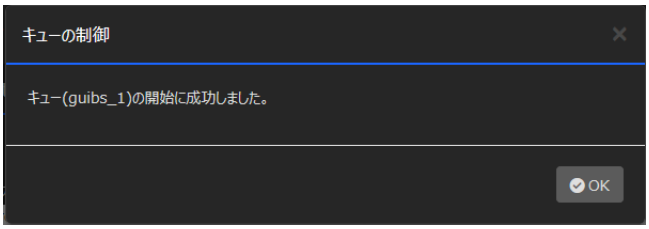

図5.56 キュー制御終了画面

■キュー操作項目

操作名	内容
開始/停止	キューの状態を開始または停止にします。
有効/無効	キューの状態を有効または無効にします。

5.7.4. ユーザー覧を参照する

1. キュー一覧表示画面のユーザタブを選択する。

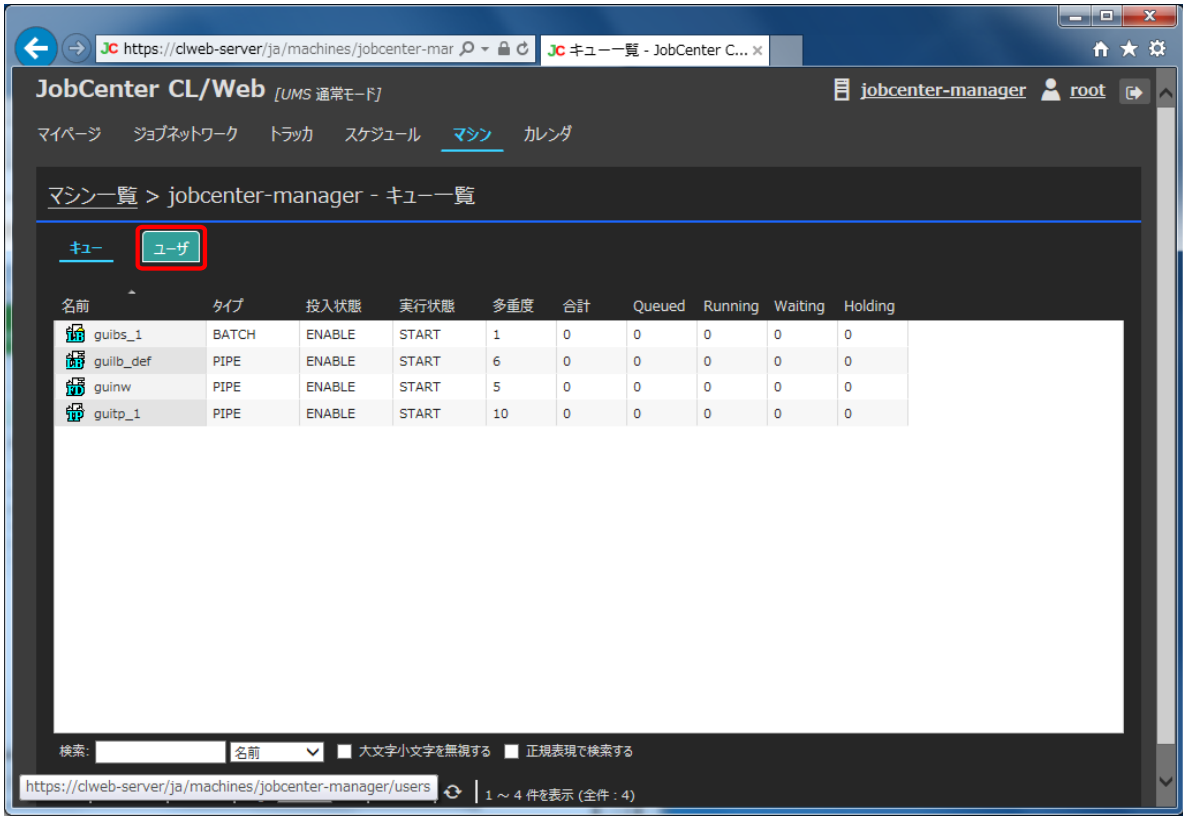

図5.57 ユーザタブ選択画面

2. JobCenter MG/SVが認識しているユーザが一覧で表示されます。

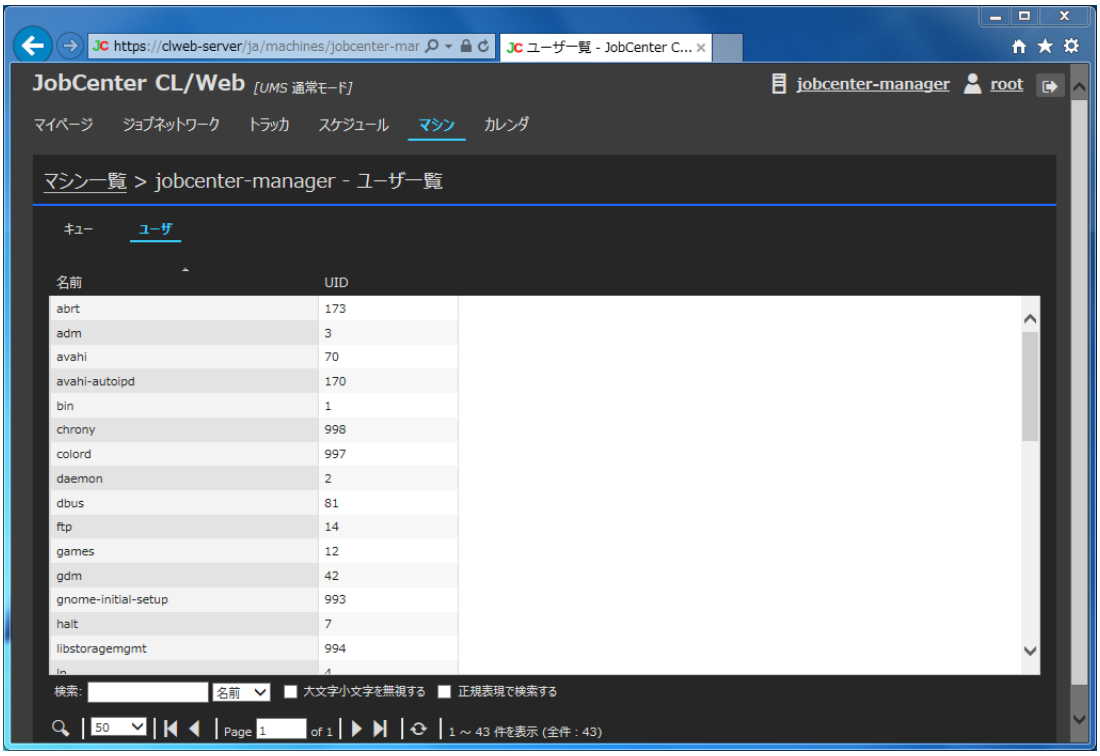

図5.58 ユーザタブ選択画面

■ユーザー覧項目

項目名	説明	補足
名前	ユーザ名が表示されます。	
UID	ユーザIDが表示されます。	

5.8. カレンダに関する操作

カレンダの一覧、カレンダに設定されたルール等を参照することができます。

5.8.1. カレンダー一覧を参照する

1. ナビゲーションバーの[カレンダ]を選択します。

2. カレンダー一覧が表示されます。

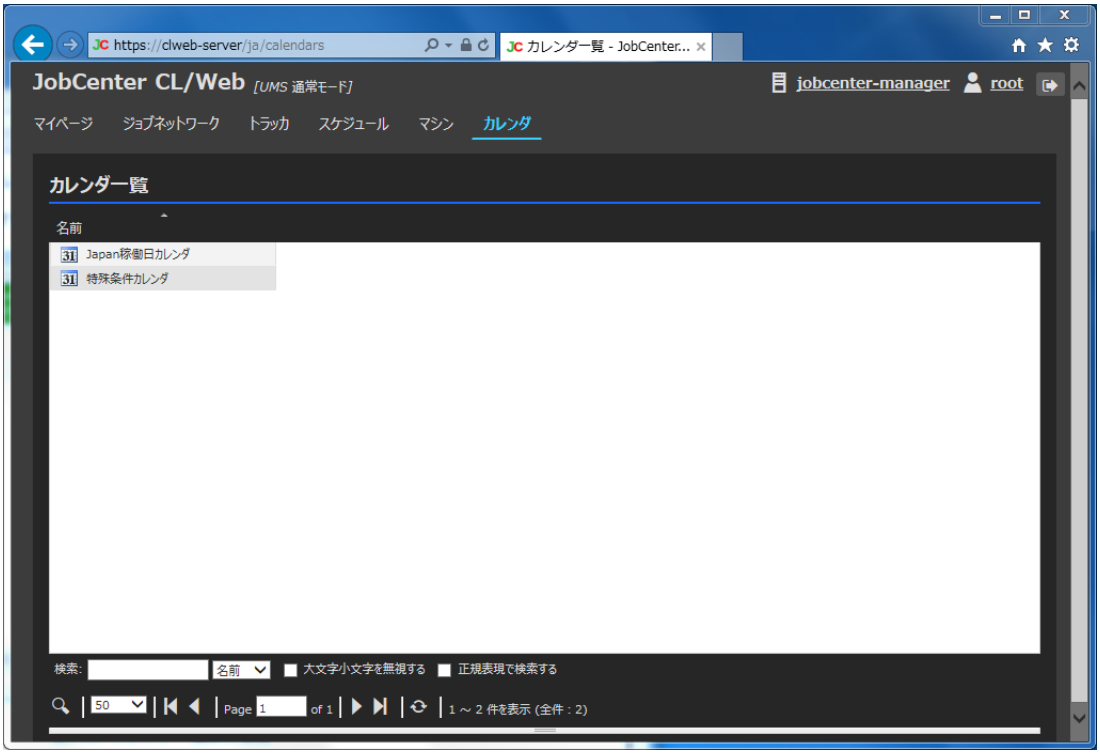

図5.59 カレンダー一覧表示画面

■カレンダー一覧

項目名	説明	補足
名前	カレンダ名を表示します	

5.8.2. カレンダ定義を参照する

1. カレンダ定義を参照したいカレンダ名にカーソルを合わせクリックをします。

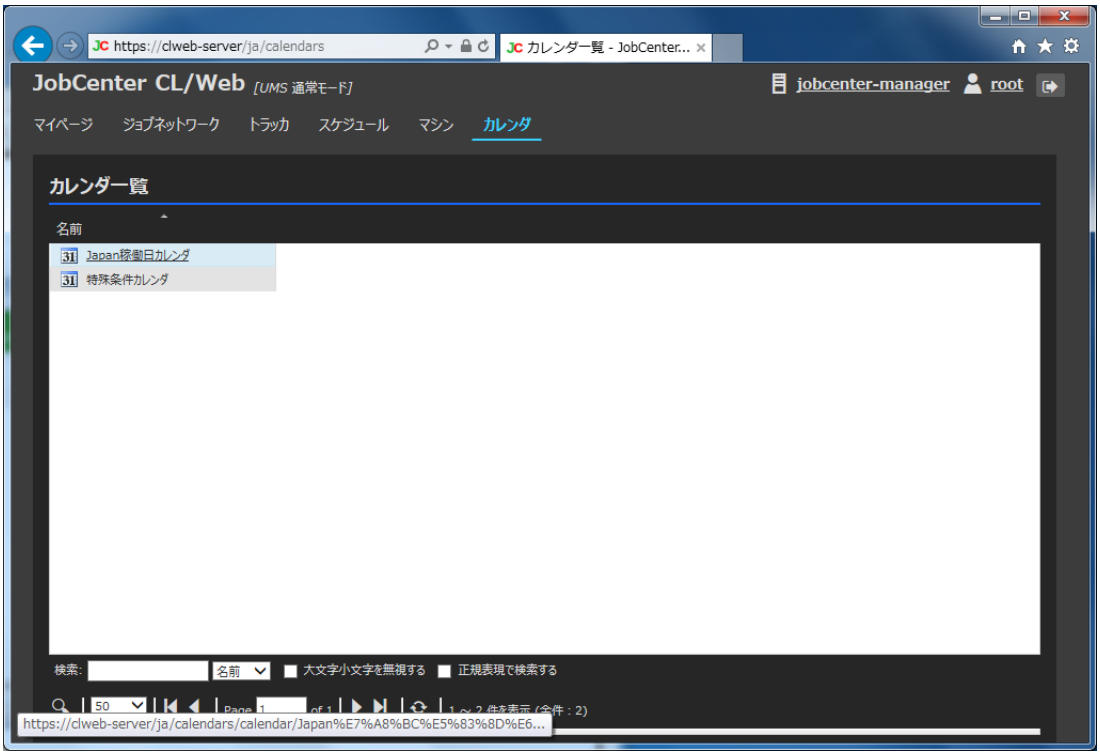

図5.60 カレンダー一覧画面

2. 選択したカレンダの定義情報が表示されます。

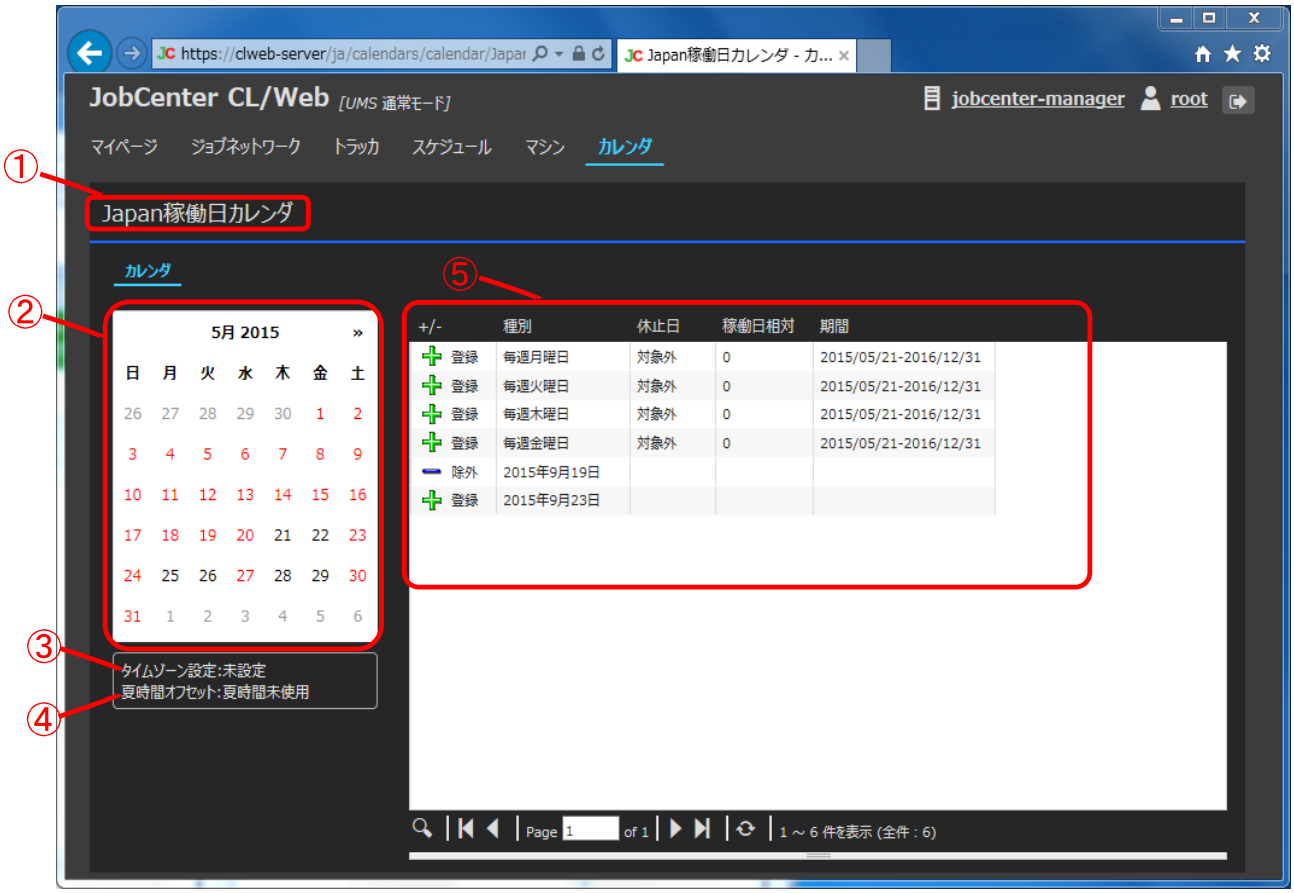

図5.61 カレンダ定義情報表示画面

■カレンダ定義項目

項目名	説明	補足
①カレンダ定義名称	参照しているカレンダ定義の名称を表示します。	
②月別稼働日カレンダ	月別に稼働日となっている日を表示します。黒文字部分が登録日となっています。	
③タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を表示します。	
④夏時間オフセット	夏時間（サマータイム）を設定しているかどうかを表示します。	
⑤ルール	カレンダ定義のルールを表示します。表示される項目は「登録/除外」「種別」「休止日」「稼働日相対」「期間」を表示します。	

5.9. マイページ機能

5.9.1. 機能概要

マイページ機能は表示する情報についてユーザがカスタマイズできる機能です。マイページ上には色々な機能をもつ「パネル」を配置することができます。パネルには着目したいジョブネットワークの情報に絞ったリストを表示するパネルや、JobCenterのトラッカ数の推移をグラフ表示するパネルなどがあります。

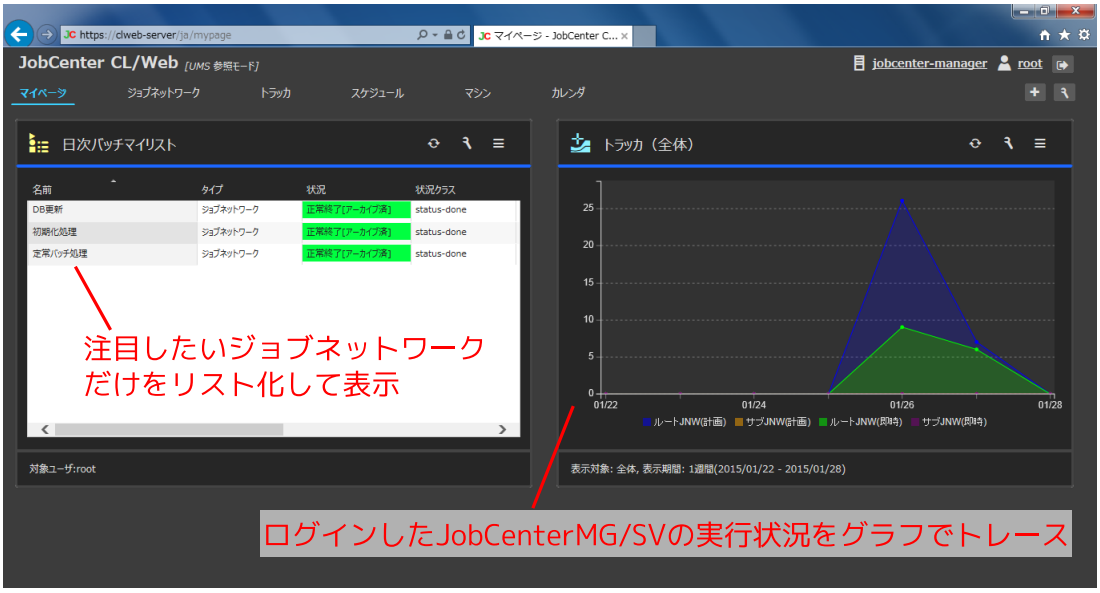

図5.62 マイページ例

マイページで利用することができるパネルは次のとおりです。

表5.5 マイページのパネル一覧

カテゴリ	パネル名	機 能	説 明
マイリスト	JNWマイリスト	着目したいジョブネットワークのリストを作成することができます。	詳細は「5.9.4.1.1　JNWマイリスト」を参照してください。
	トラッカマイリスト	着目したいジョブネットワークのトラッカだけを集めたリストを作成することができます。	詳細は「5.9.4.1.2　トラッカマイリスト」を参照してください。
レポート	トラッカサマリー	ジョブネットワークの実行状況をステータス毎や実行状況毎に円グラフで確認することができます。	詳細は「5.9.4.2.1　トラッカサマリー」を参照してください。
	トラッカレポート（JobCenter管理者のみ追加可）	JobCenter全体のトラッカ利用量やトラッカ数が多いユーザ別のトラッカ利用量をグラフで確認することができます。	詳細は「5.9.4.2.2　トラッカレポート」を参照してください。

マイページを利用すると、色々と便利な使い方をすることが出来るようになります。例えば下記の画像のようにJNWマイリストのパネルを複数配置して、異なるユーザのジョブネットワークをまとめて参照するといった使い方が出来るようになります。

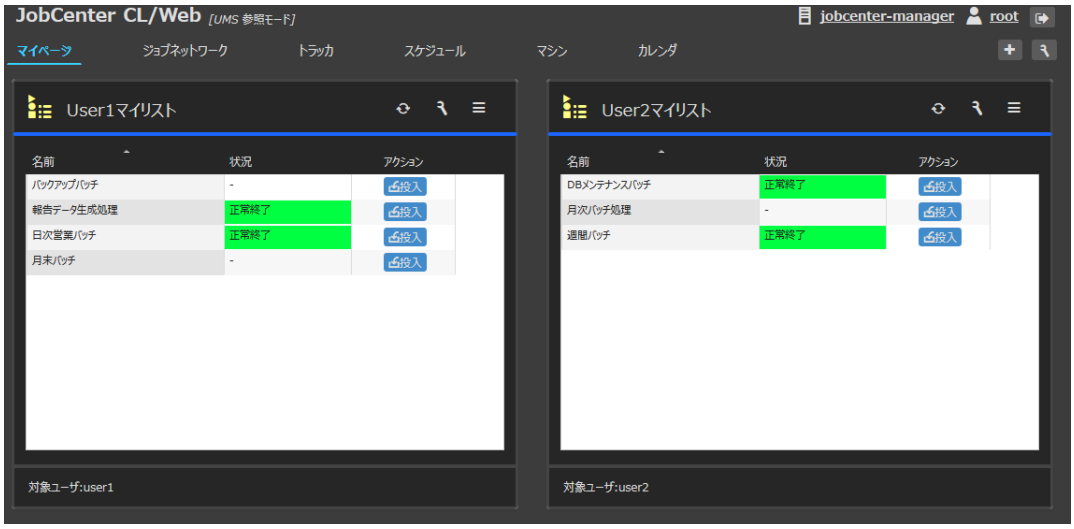

図5.63 複数のユーザのジョブネットワークをまとめて参照

また、ユーザに対して必要な機能だけを提供するマイページの制限モード機能も利用することができます。制限モードで設定されたユーザはログイン後にマイページだけが表示されるようになり、操作がシンプルとなり誤操作を防ぐことができます。制限モードについての詳細は「5.9.5 マイページ設定（JobCenter管理者）」を参照してください。

5.9.2. マイページ利用の流れ

5.9.2.1. マイページの表示

JobCenter CL/Webにログインするとマイページが表示されます。パネルを何も追加していない状態の場合には以下のような画面が表示されます。

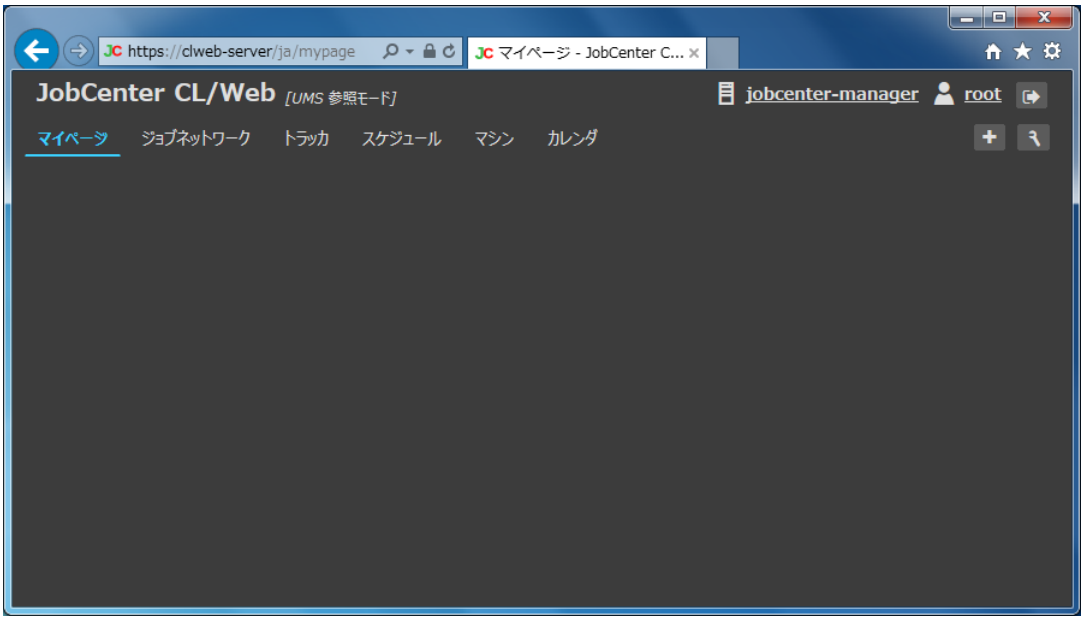

図5.64 マイページ表示（パネルを追加していない場合）

5.9.2.2. パネルの追加

マイページにはパネルを追加することができます。追加したパネルは次回ログイン時にも追加したパネルは同じ状況で復元されます。

マイページにパネルを追加するにはまず、右上にあるパネル追加ボタンをクリックします。

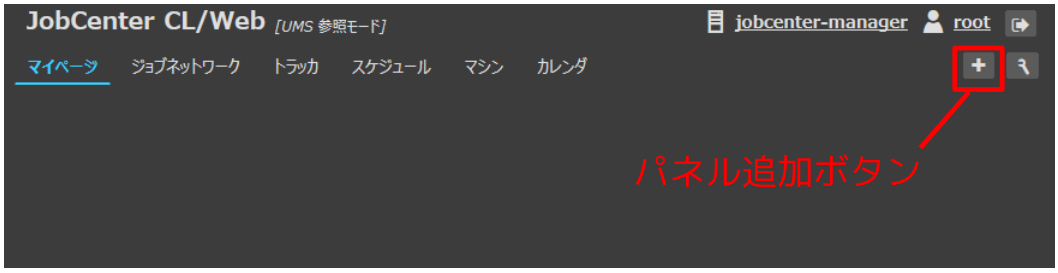

図5.65 パネル追加ボタン

パネル追加ボタンをクリックすると、下記のようにパネルの追加ダイアログが表示されます。追加したいパネルを選択してパネルの追加を行なってください。パネル追加ダイアログの設定詳細は「5.9.3.2 パネルの追加」を参照してください

図5.66 パネル追加ダイアログ

5.9.2.3. パネルの設定

各パネルには種類に応じた設定項目があります。パネルの設定ダイアログから自分の表示させたい内容に設定を変更することができます。パネルの設定ダイアログについては「5.9.3.3 設定ダイアログ」を参照してください

図5.67 パネル設定ダイアログ

5.9.3. パネル共通操作

マイページに配置できるパネルは追加や削除、リロード等の共通の操作方法があります。以下に共通の操作方法について説明します。

5.9.3.1. パネルの画面構成

パネルの画面は「ヘッダー部、ボディ部、フッター部」の３つから構成されています。

図5.68 パネル画面構成

1. ヘッダー部

ヘッダー部にはパネル名や各種ボタンが表示されます。ヘッダー部の各要素は以下のとおりです。

表5.6 ヘッダー部の各要素

番号	要素名	内容

①	パネルアイコン	パネルの種類を表すアイコンを表示します。パネルアイコンについては「5.9.4 パネル詳細」の各パネル毎の章を参考にしてください。
②	パネル名	追加時に設定したパネル名を表示します。パネル名は３０文字以内で設定可能であり、日本語や記号も利用することができます。他のパネルと同じ名前も設定できますが、パネルが区別できるよう異なる名前を指定することを奨励します。
③	リロードボタン	クリックするとボディ部に表示されている情報が再読み込みされます。再読み込みは設定ダイアログの情報をベースに行われます。サイドメニューで変更していた場合には表示は設定ダイアログの状態に戻ります。
④	パネル設定ボタン	設定ダイアログが表示されます。設定ダイアログからパネルの設定を行うことができます。詳細は「5.9.3.3 設定ダイアログ」を参照してください。
⑤	サイドメニューボタン	ボディ部の右側からサイドメニューがスライドします。サイドメニューは領域外をクリックすることでスライドアウトします。詳細は「5.9.3.7 サイドメニュー」を参照してください。

2. ボディ部

ボディ部には各パネル固有の情報を表示することができます。この領域内の情報はヘッダー部のリロードボタンのクリック等により最新の状態に更新されます。以下に最新の状態に更新される処理について記載します。

■マイページ初期表示時

■リロードボタンクリック時

■パネル設定ダイアログ保存時

■サイドパネルでの設定変更時

3. フッター部

フッダー部には現在ボディ部に表示している情報のサマリや警告情報(JobCenter　MG/SVとの通信失敗)が表示されます。

5.9.3.2. パネルの追加

マイページ右上にあるパネル追加ボタンをクリックするとパネルの追加ダイアログが表示されます。

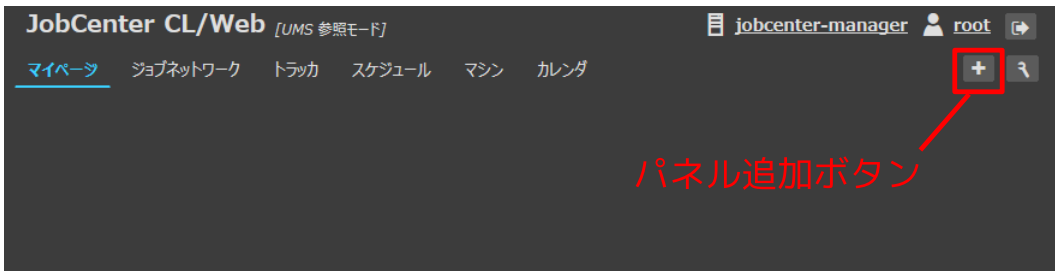

図5.69 パネル追加ボタン

パネルの追加ダイアログの左側から追加したいパネルの種類を選択してパネル名等の設定項目を入力し保存ボタンをクリックしてください。必要な設定が行われていればマイページにパネルが追加されます。

図5.70 パネルの追加ダイアログ

パネルの追加をキャンセルする場合にはダイアログ右上にある×ボタンをクリック（もしくは、ダイアログ領域外をクリック）してください。パネルの追加がキャンセルされ、パネルの追加ダイアログが閉じられます。

パネルの追加ダイアログで設定を行う、「パネル名、パネルの大きさ、パネルの順番」はパネル追加後も設定ダイアログから変更することができます。

パネルは１ユーザにつき６個までしか追加することができません。

5.9.3.3. 設定ダイアログ

パネルの設定ボタンをクリックすると下記のような設定ダイアログが表示されます。この設定ダイアログからパネル特有の設定項目はもちろん、パネル共通項目の設定を行うことができます。左側の項目を選択すると、右側に設定項目が現れます。必要に応じて設定を変更し、「保存ボタ

ン」で保存を行なってください。なお、この設定ダイアログで保存した項目は次回の同一ユーザログイン時にも反映されます。

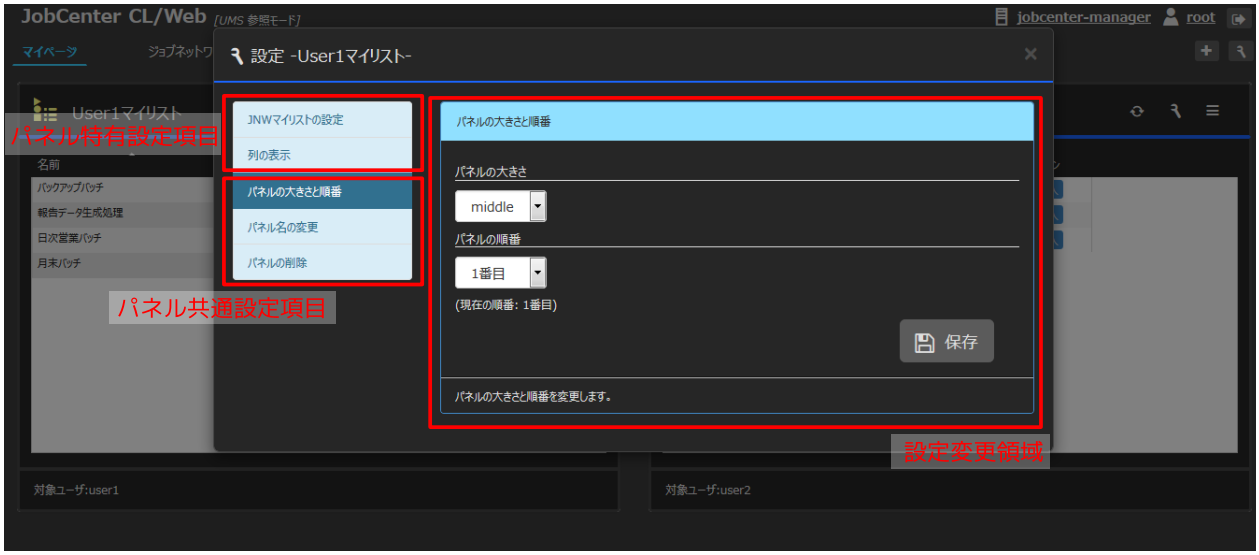

図5.71 パネル設定ダイアログ

パネル設定をキャンセルする場合にはダイアログ右上にある×ボタンをクリック（もしくは、ダイアログ領域外をクリック）してください。パネル設定がキャンセルされ、設定ダイアログが閉じられます。

5.9.3.4. パネルの移動、大きさの変更

パネルの設定ダイアログからパネルの移動や大きさの変更を行うことができます。設定ダイアログの左側の項目から「パネルの大きさと順番」を選択することで、設定変更領域に大きさと順番を変更することできるリストが表示されます。リストから設定した後に保存ボタンをクリックすることで変更が反映されます

図5.72 パネル設定ダイアログ（パネルの移動、大きさの変更）

マイページに配置するパネルはそれぞれ横幅の大きさを４種類（small,middle,large,full）で設定することができます。例えば、マイページのパネル配置レイアウト構成として以下のような配置を行うことができます。

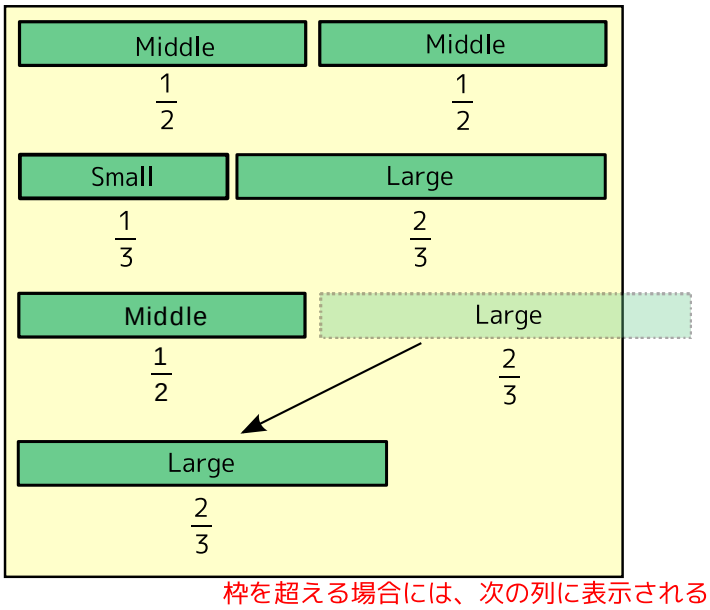

図5.73 レイアウト構成例

横幅が溢れてしまった場合には次の段に表示されるようになります。例にある通りmiddle(1/2)とlarge(2/3)のパネルを配置した場合、largeのパネルは描画しきれないので次の段に表示されます。各大きさがどの程度の横幅を必要とするのかを下記の表に記載します。この横幅はブラウザの横幅(ピクセル数)に応じて変動します。

表5.7 ブラウザ横幅とパネルの大きさ

	パネル大きさの設定			
ブラウザ横幅(px)	small	middle	large	full
981px以上	横幅の1/3	横幅の1/2	横幅の2/3	横幅全体
768px～980px	横幅の1/2	横幅の1/2	横幅全体	横幅全体
767px以下	横幅全体	横幅全体	横幅全体	横幅全体

PCのブラウザの大きさを変更したり、iPadの縦置きを縦置きにしてブラウザ横幅が変化した場合、動的にパネルの大きさ（横幅）が変化します。

5.9.3.5. パネル名の変更

パネルの設定ダイアログからパネル名の変更を行うことができます。設定ダイアログの左側の項目から「パネル名の変更」を選択し、パネル名を入力してください。パネル名入力後に保存ボタンをクリックすることで変更が反映されます

図5.74 パネル設定ダイアログ（パネル名の変更）

5.9.3.6. パネルの削除

パネルの設定ダイアログから不要となったパネルの削除を行うことができます。設定ダイアログの左側の項目から「パネルの削除」を選択することで、削除ボタンが表示されます。削除ボタンを押下すると確認ダイアログが表示されますので、削除して問題ないことを確認の上削除実行を行なってください。

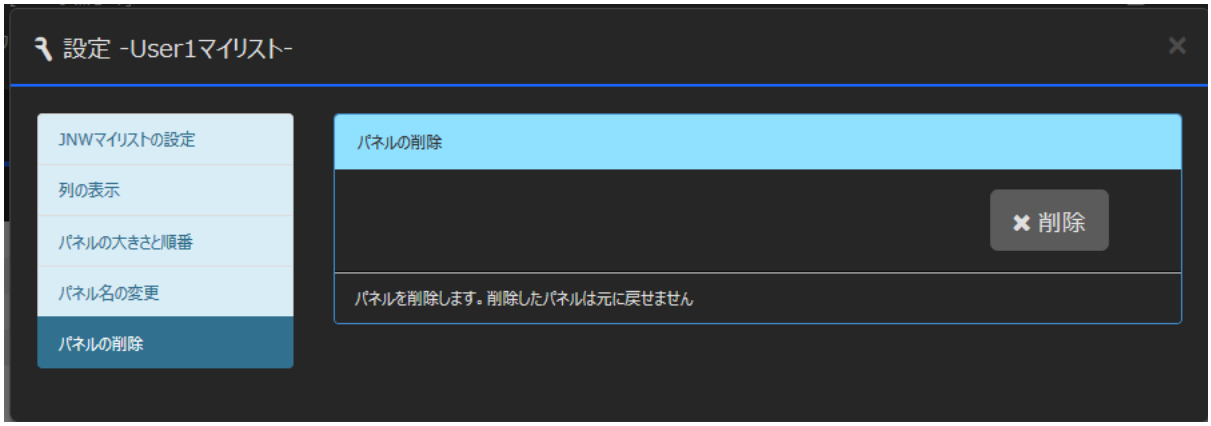

図5.75 パネル設定ダイアログ（パネル削除）

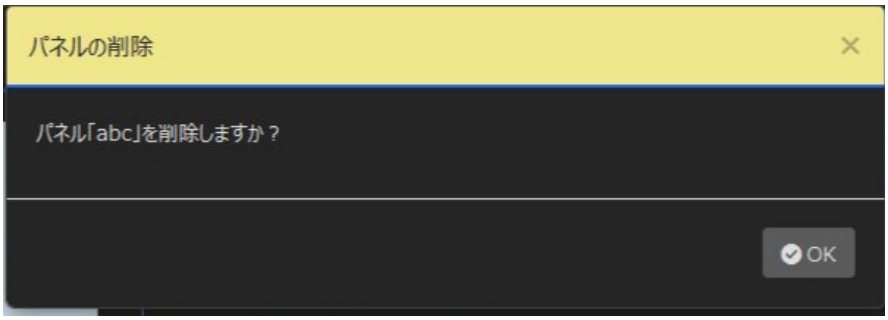

図5.76 パネル削除の確認ダイアログ

5.9.3.7. サイドメニュー

パネルのサイドメニューボタンをクリックすると、ボディ部の右側からサイドメニューウインドウがスライドしてきます。ここでは表示条件や表示内容の設定変更を行うことができます。ここで変更した項目は一度ログアウトしたり、リロード等を行うと設定ダイアログで設定した内容に戻ります。

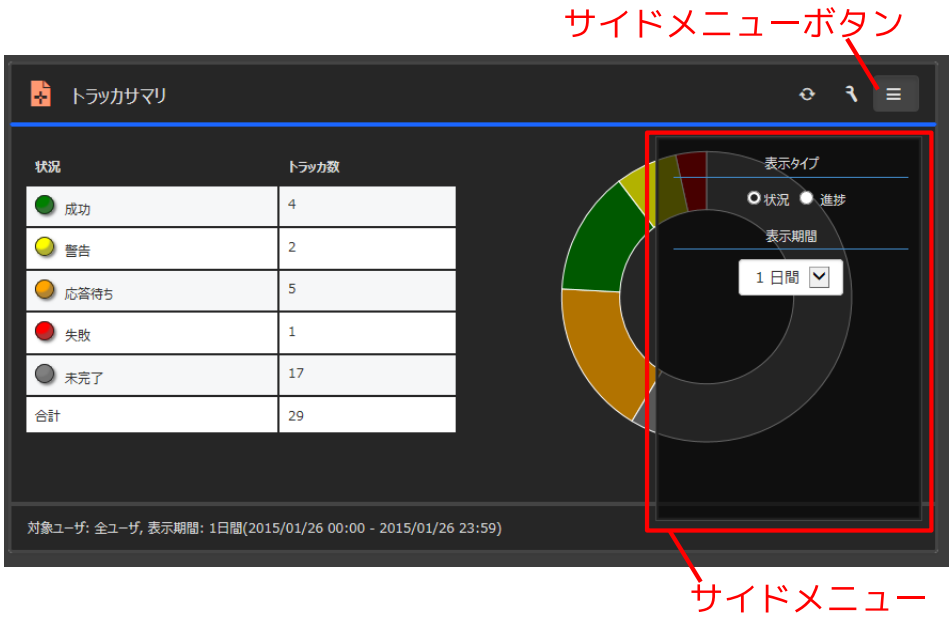

図5.77 サイドメニュー表示

スライドしてきたサイドメニューウインドウの領域外をクリックすることでウインドウが閉じます。

5.9.4. パネル詳細

パネルにはマイリストパネルとレポートパネルの2種類のグループがあります。本節では、マイリストパネルの詳細とレポートパネルの詳細について説明していきます。

5.9.4.1. マイリストパネル

マイリストパネルではユーザが参照したいジョブネットワーク定義やトラッカ情報を一画面に集約し確認できるようになります。

5.9.4.1.1. JNWマイリスト

JNWマイリストは指定したジョブネットワークを表示するパネルです。このパネルを使用することで、よく利用するジョブネットワークだけを表示・投入し、その最新のトラッカを同じ画面上で参照できます。

図5.78 JNWマイリスト

JNWマイリストはパネルを追加時(初期表示)はマイリストは未設定となっています。ジョブネットワークを表示するためには設定ダイアログの「JNWマイリストの設定」から対象ユーザとジョブネットワークを設定します。

5.9.4.1.1.1. JNWマイリストの表示内容

JNWマイリストはジョブネットワークを設定後、登録したジョブネットワークのリストが表示されます。JNWマイリストの列は以下となります。

表5.8 JNWマイリストの列

項目名	説明	補足
名前	ジョブネットワーク名が表示されます。項目をクリックすると、新しいタブでジョブネットワークの画面を開きます。	デフォルト項目
タイプ	オブジェクトの種類が表示されます。JNWマイリストではジョブネットワーク固定となります。	
状況	ジョブネットワークの実行状況が表示されます。項目をクリックすると、新しいタブでトラッカの画面を開きます。	デフォルト項目
状況クラス	英語表記のステータスが表示されます。	
トラッカID	トラッカIDが表示されます。	
所属グループ	所属しているグループ名が表示されます。	
コメント	ジョブネットワークに設定されたコメントを表示します。	
アクション	ジョブネットワークを投入するボタンが表示されます。ボタンをクリックすると、[即時投入]のダイアログが表示されます。	デフォルト項目

JNWマイリストパネルの[即時投入]のダイアログの設定は独自設定があり、「投入後にトラッカを開く」のデフォルトではボックスにチェックが入っていません。また、チェックを入れた場合、新規タブでトラッカを開き、JNWマイリストパネルはリロードされます。

その他の[即時投入]のダイアログの設定については「5.4.3.3　即時投入の設定」を参照してください。

トラッカ概要情報（状況、状況クラス、トラッカID）はそのJNWの最新の１件について実行状況とトラッカIDを表示します。そのジョブネットワークが実行されていない場合にはこれらの情報は「-」となります。

JNWマイリストパネルには、右クリック(コンテキストメニュー)はありません。

5.9.4.1.1.2. JNWマイリストの設定方法

JNWマイリストでは、対象ユーザ、そのユーザのジョブネットワークと列の表示の変更することができます。

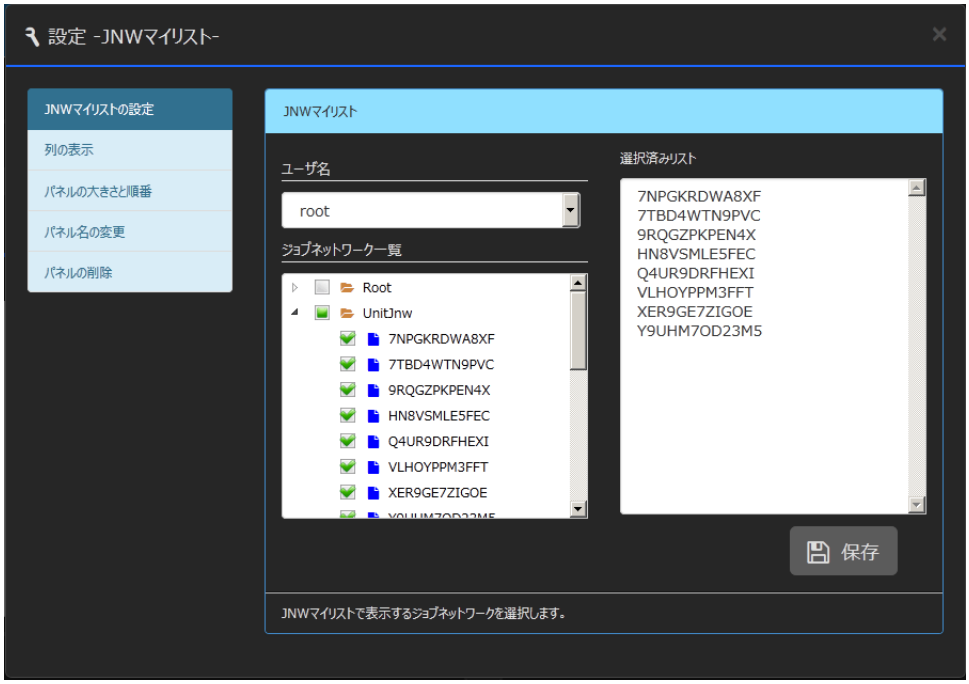

図5.79 JNWマイリスト設定ダイアログ（JNWマイリストの設定）

図5.80 JNWマイリスト設定ダイアログ（列の表示）

■対象ユーザ

JNWマイリストの対象となるユーザを選択します。

- デフォルト値

  ログインユーザ。ただし、ユーザ切り替え機能で他ユーザを参照している場合、切り替え先のユーザ。

- 制限事項

  参照権限のないユーザは選択できません。

- 補足

  JNWマイリストの権限の詳細は 「5.9.4.3 各パネルの表示・設定変更権限」を参照してください。

■ジョブネットワーク一覧

選択した対象ユーザのジョブネットワーク一覧が表示され、登録したいジョブネットワークを選択します。選択したジョブネットワークは選択済みリストに表示されます。

- デフォルト値

  なし

- 制限事項

  登録できるジョブネットワーク数の下限は1となります。

  登録できるジョブネットワーク数の上限は20となります。

■列の表示

JNWマイリストの列のデフォルト項目の設定を行います。列の項目の詳細は 表5.8「JNWマイリストの列」 を参照してください。

■デフォルト値

名前

状況

アクション

■制限事項

1つ以上は選択してください。

■補足

なし

5.9.4.1.1.3. JNWマイリストのサイドメニュー

JNWマイリストにサイドメニューはありません。

5.9.4.1.2. トラッカマイリスト

トラッカマイリストはマイリストに登録したジョブネットワークのトラッカを一覧表示するパネルです。このパネルを使用することで、自分が監視したいジョブネットワークの実行結果だけを集めて表示することができます。また、トラッカ一覧と同様にリンクから対象トラッカの詳細ページへ遷移することができます。

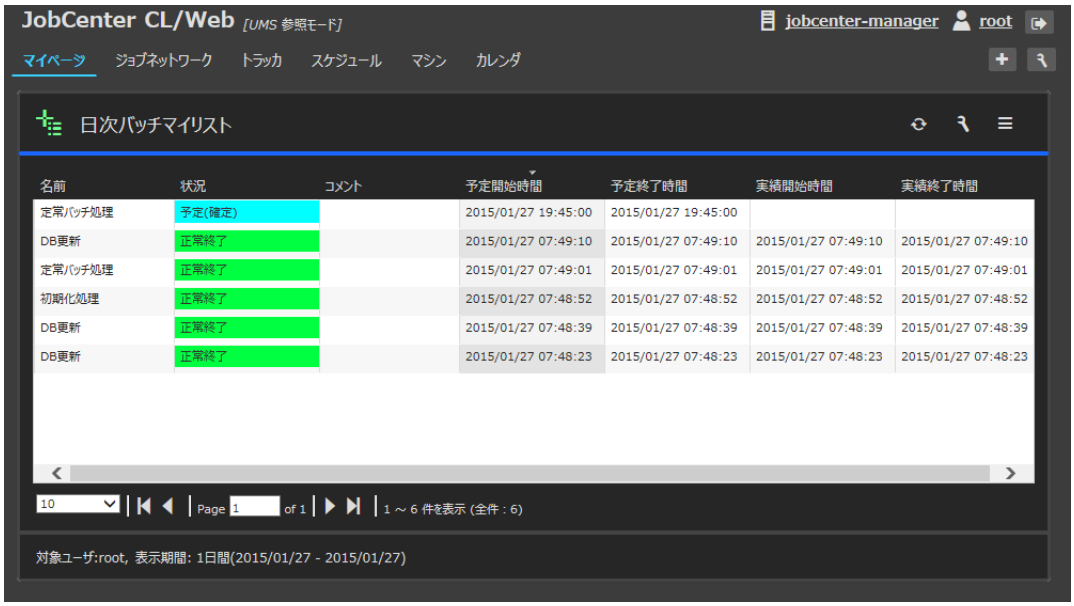

図5.81 トラッカマイリスト（大きさfull表示）

5.9.4.1.2.1. トラッカマイリストの表示内容

トラッカマイリストは登録したジョブネットワークのトラッカリストを表示します（トラッカ一覧画面と同じ情報を表示します）。表示される内容等はトラッカ一覧画面に表示されている内容と同じです。詳細は「5.5 トラッカに関する操作」を参照してください。

表示されているトラッカ名をクリックするとトラッカ詳細画面（トラッカフロー）を開きますが、トラッカ一覧画面と異なり新しいタブが開きます

ボディ部の最下部にある検索ウインドウで「5.1.2 検索機能」と同様の検索や表示件数変更等を行うことができます。

5.9.4.1.2.2. トラッカマイリストの設定方法

ジョブネットワークの登録は設定ダイアログの「トラッカマイリストの設定」から行うことができます。ジョブネットワークツリーから登録したいジョブネットワークのチェックボックスをチェックしてください。チェックしたジョブネットワークのトラッカをボティ部のリストに表示します。なお、トラッカの参照権がない場合にはトラッカは参照することができません。

他のユーザのトラッカ参照権限がある場合にはユーザ名から他のユーザを指定して選択することもできます。設定ダイアログのユーザ名から切り替えて登録したいジョブネットワークを指定してください。ただし、１つのトラッカマイリストで指定できるユーザは１ユーザだけです。複数のユーザを監視したい場合には複数のトラッカマイリストを作成してください。

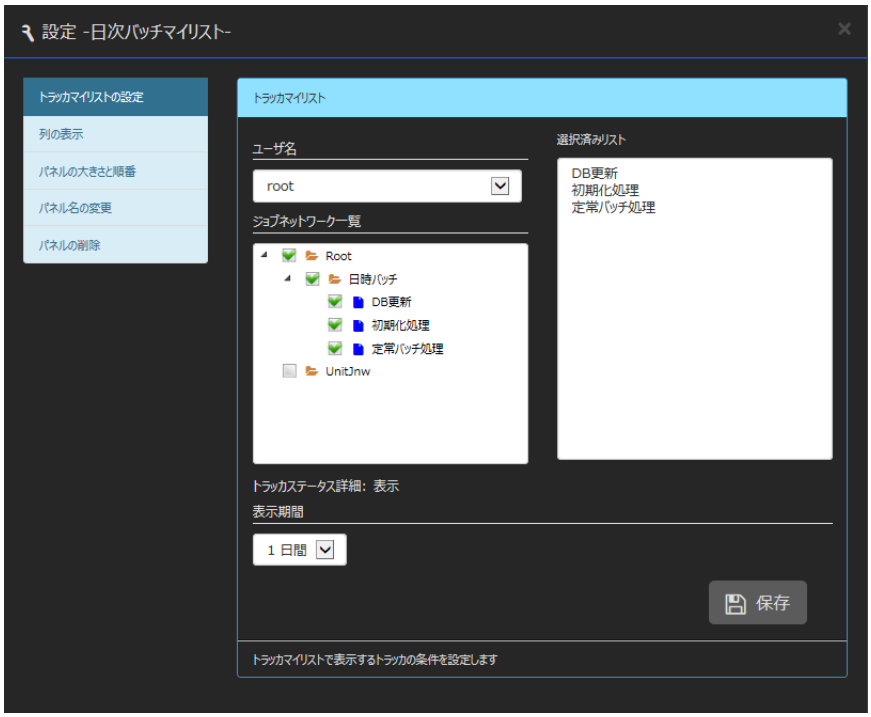

図5.82 トラッカマイリスト設定ダイアログ（ジョブネットワーク選択）

トラッカステータス詳細にある「表示」という文字をクリックするとトラッカステータスの詳細設定項目が表示されます。

図5.83 トラッカマイリスト設定ダイアログ（トラッカステータス詳細表示状態）

■対象ユーザ

トラッカマイリストの対象となるユーザを選択します。

- デフォルト値

  ログインユーザ。ただし、ユーザ切り替え機能で他ユーザを参照している場合、切り替え先のユーザ。

- 制限事項

  参照権限のないユーザは選択できません。

- 補足

トラッカマイリストの権限の詳細は　「5.9.4.3　各パネルの表示・設定変更権限」を参照してください。

■ジョブネットワーク一覧

選択した対象ユーザのジョブネットワーク一覧が表示され、登録したいジョブネットワークを選択します。選択したジョブネットワークは選択済みリストに表示されます。

- デフォルト値

  なし

- 制限事項

  登録できるジョブネットワーク数の下限は1となります。

  登録できるジョブネットワーク数の上限は20となります。

■トラッカステータス詳細

トラッカマイリストで出力したいステータスやアーカイブ状況などを選択してください。項目の詳細は「5.5.1 トラッカを参照する」を参照してください。

- デフォルト値

  アーカイブ済みトラッカ

  未アーカイブトラッカ

  予定

  実行中

  終了済

- 制限事項

  1つ以上は選択してください。

■表示期間

表示するトラッカの対象期間を指定します。「１日間、２日間、３日間、１週間、２週間、４週間」から選択することができます。例えば１週間を指定すると当日を含む１週間前までのトラッカを表示することができます。

- デフォルト値

  １日間

- 制限事項

  なし

- 補足

> 長い期間を指定した場合、トラッカの数が多いと表示するまでに時間がかかるので注意してください。

トラッカマイリストで表示する列の項目は設定ダイアログの「列の表示」から変更することができます。

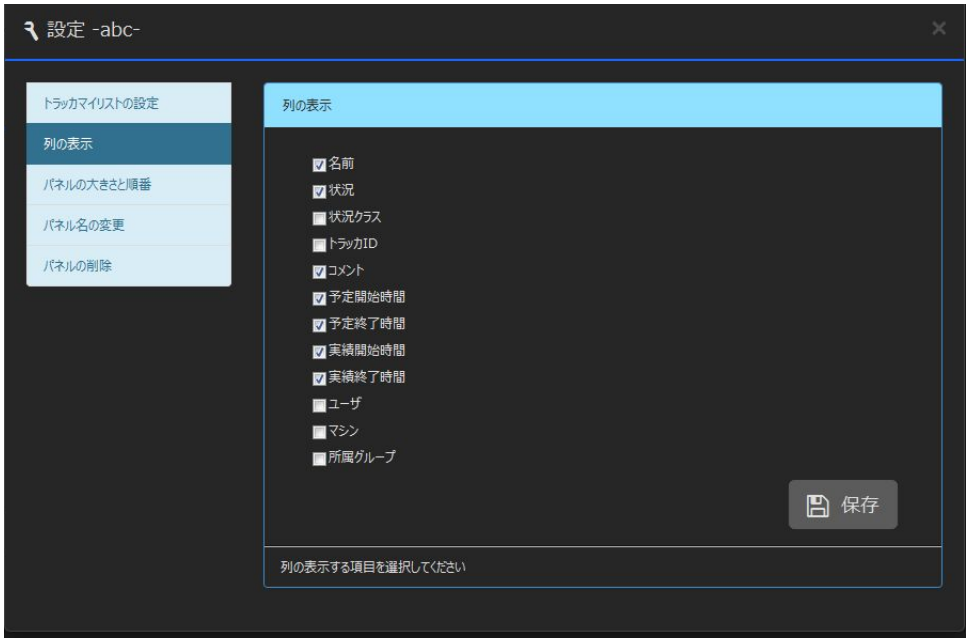

図5.84 トラッカマイリスト設定ダイアログ（表示列選択）

■列の表示

トラッカマイリストの列のデフォルト項目の設定を行います。列の項目の詳細は 「5.5.1.1 トラッカ一覧を表示する」 を参照してください。

- デフォルト値

  名前

  状況

  コメント

  予定開始時間

  予定終了時間

  実績開始時間

  実績終了時間

- 制限事項

  1つ以上は選択してください。

- 補足

  なし

5.9.4.1.2.3. トラッカマイリストのサイドメニュー

トラッカマイリストに表示項目がある場合、サイドメニューを開くと表示期間と絞り込みの検索を行うことができます。

図5.85 トラッカマイリスト サイドメニュー

■表示期間

表示する期間を「１日間、２日間、３日間、１週間、２週間、４週間」から選択することができます。

- デフォルト値

  １日間

- 制限事項

  なし

- 補足

  変更後、即時にリストの再読み込みが実施され最新の情報に切り替わります。

  リロードが行われると、表示期間は設定値にリセットされます。

■検索

表示するリストの絞り込みを行うことができます。「5.1.2.1 検索バー」と同じ方法です。文字列を指定後、Enterキー押下でトラッカマイリストの情報を再収集して表示を切り替えます。

- デフォルト値

  なし

- 制限事項

  なし

- 補足

> Enterキー押下後、即時にリストの再読み込みが実施され最新の情報に切り替わります。
>
> リロードが行われると、絞り込み検索は解除されます。

5.9.4.2. レポートパネル

レポートパネルではJobCenterの運用状況の推移や統計情報を確認できるようになります。

5.9.4.2.1. トラッカサマリー

トラッカサマリーは現時点のトラッカのサマリー情報（各ステータス毎のトラッカ数推移）を取得して情報を表示するパネルです。このパネルは現時点どれだけの数のトラッカがエラーとなっているか、今後どれだけの投入予定があるのかを確認することが出来ます。

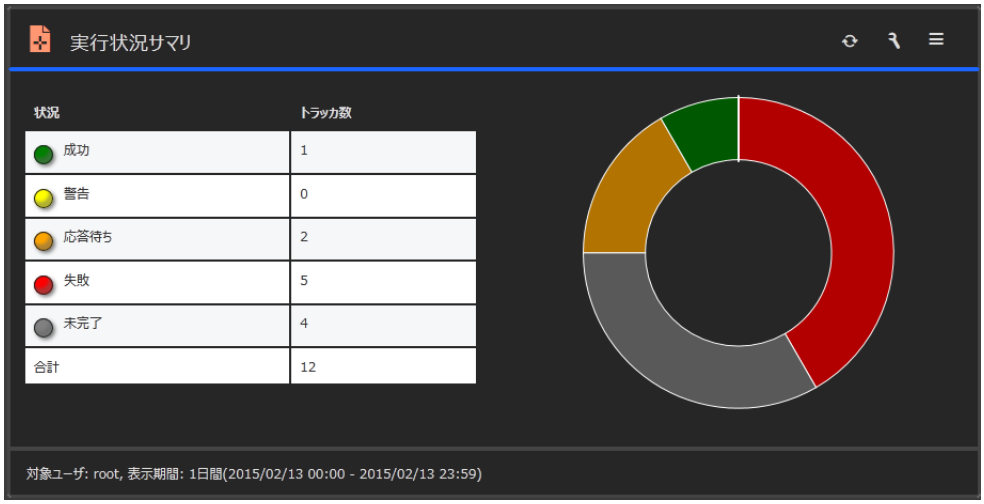

図5.86 トラッカサマリー

トラッカサマリーのパネル追加時(初期表示)はトラッカ状況が表示されます。トラッカサマリーの左側には状況とトラッカ数の表、右側にはドーナツグラフが表示されます。また、表示設定を行う場合は設定ダイアログから変更し、一時に表示設定を行う場合はサイドメニューから変更します。

> Internet　Explorer、FireFoxのブラウザでは、ドーナツグラフをマウスオーバーすることによりトラッカの項目と割合をポップアップ表示することができます。

5.9.4.2.1.1. トラッカサマリーの表示内容

トラッカサマリーにはトラッカの「状況」、「進捗」の２つの表示タイプがあります。

状況のステータスには「成功」の他、「失敗」、「応答待ち」などのユーザの対処が必要な一覧を表示することができます。状況のステータスは下記になります。

表5.9 状況のステータス一覧

状況	説明
成功	正常終了
警告	警告状態
応答待ち	保留とダイアログ待ち状態

状況	説明
失敗	エラー停止と異常終了
未完了	予定と実行中で警告や応答待ち、失敗でないもの

進捗はトラッカの進捗を一覧で表示することができます。進捗のステータスは下記になります。

表5.10 進捗のステータス一覧

進捗	説明
終了	終了したトラッカ
実行中	実行中のトラッカ
予定	予定のトラッカ

5.9.4.2.1.2. トラッカサマリーの設定方法

トラッカサマリーでは、対象ユーザ、表示タイプ、表示期間の3つを変更することができます。

図5.87 トラッカサマリー設定ダイアログ

■対象ユーザ

トラッカサマリーの対象となるユーザを選択します。JobCenter管理者の場合は各ユーザの他に全ユーザを選択することができます。

- デフォルト値

  ログインユーザ。ただし、ユーザ切り替え機能で他ユーザを参照している場合、切り替え先のユーザ。

- 制限事項

  参照権限のないユーザは選択できません。

- 補足

  トラッカマイリストの権限の詳細は 「5.9.4.3 各パネルの表示・設定変更権限」を参照してください。

■表示タイプ

「状況」と「進捗」の表示タイプを選択できます。

- デフォルト値

  状況

- 制限事項

  なし

- 補足

  なし

■表示期間

基準日を含む「1日間」、「2日間」、「3日間」の期間を選択できます。

- デフォルト値

  1日間

- 制限事項

  なし

- 補足

  基準日とは初回マイページ画面を描画した日、もしくはリロードをした日です。

5.9.4.2.1.3. トラッカサマリーのサイドメニュー

トラッカサマリーのサイドメニューは表示タイプ、表示期間を変更できます。

図5.88 トラッカサマリーのサイドメニュー

5.9.4.2.2. トラッカレポート

トラッカレポートはアーカイブ済みトラッカ数の推移を表示できるパネルです。

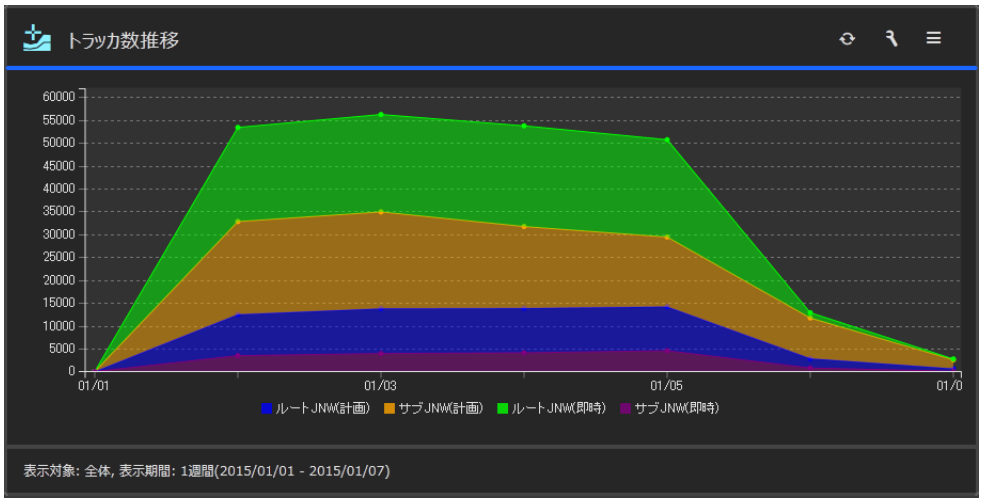

図5.89 トラッカレポート

トラッカレポートのパネル追加時(初期表示)はユーザ全体の一週間分のトラッカの積み上げグラフが4系列で表示されます。また、表示設定を行う場合は設定ダイアログから変更し、一時に表示設定を行う場合はサイドメニューから変更します。

5.9.4.2.2.1. トラッカレポートの表示内容

トラッカレポートには「全体」、「ユーザ別」の２つのレポートタイプがあります。「全体」のレポートタイプの場合、グラフの系列はルートジョブネットワークまたはかサブジョブネットワーク、計画投入または即時投入の組み合わせの4種類となっています。

表5.11 系列のステータス一覧

項目	説明
ルートJNW(計画)	スケジュール投入されたルートJNWの個数
サブJNW(計画)	スケジュール投入されたサブJNWの個数
ルートJNW(即時)	即時投入されたルートJNWの個数
サブJNW(即時)	即時投入されたサブJNWの個数

「ユーザ別」のレポートタイプの場合、グラフの系列は表示期間中に投入されたアーカイブ済みトラッカの合計数の上位数名となります。何人まで表示するかは設定で変更可能です。

その他の表示機能として、トラッカレポートは系列をクリックすることで、その系列の表示・非表示を切り替えることができます。

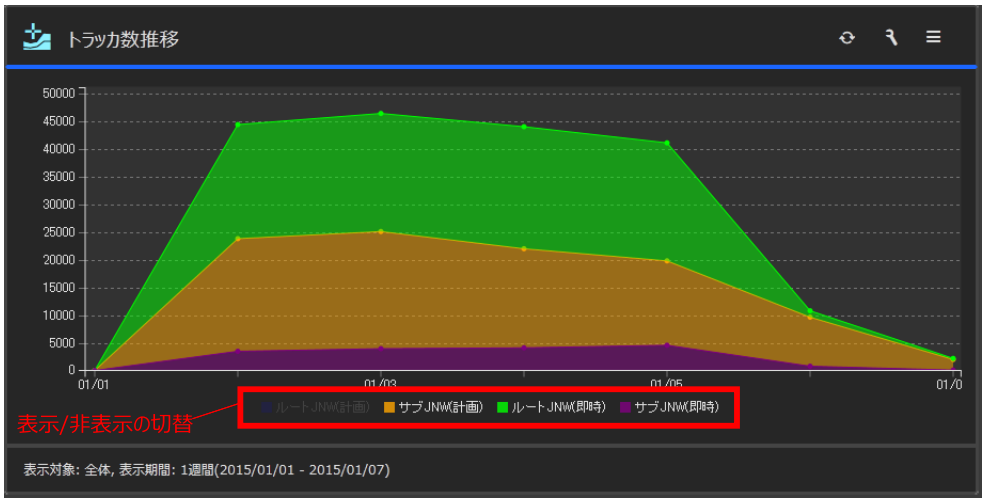

図5.90 トラッカレポート(系列の非表示)

5.9.4.2.2.2. トラッカレポートの設定方法

トラッカレポートでは、グラフの種類、表示期間、レポートタイプの3つを変更することができます。

図5.91 トラッカレポートの設定ダイアログ

■グラフの種類

グラフの種類は「積み上げ」と「折れ線」の2種類あります。「積み上げ」は各項目の個数を積み上げて表示し、「折れ線」は各項目の個数を積み上げず折れ線で表示されます。

- デフォルト値

  積み上げ

- 制限事項

  なし

- 補足

なし

■表示期間

基準日を含む過去「1日間」、「1週間」、「2週間」、「4週間」、「8週間」の期間を選択できます。

- デフォルト値

  1週間

- 制限事項

  なし

- 補足

  基準日とは初回マイページ画面を描画した日、もしくはリロードをした日です。

表示期間が1日間以外の場合、グラフ上をクリックするとクリック上の日にちが選択状態になります。その状態でサイドメニューの表示期間を変更すると選択されていた日にちが基準日になります。ただしこの変更は一時的であり、リロードで解消されます。

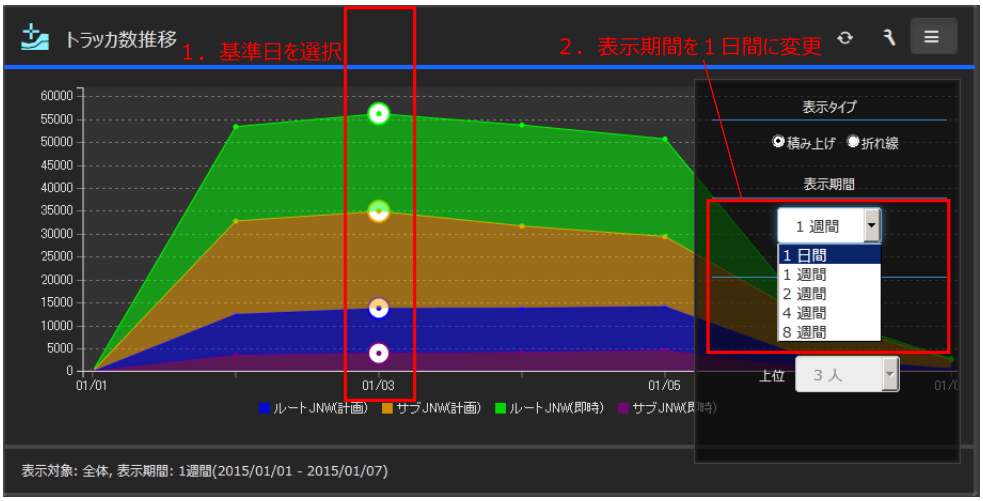

図5.92 トラッカレポートの基準日の一時変更(変更前)

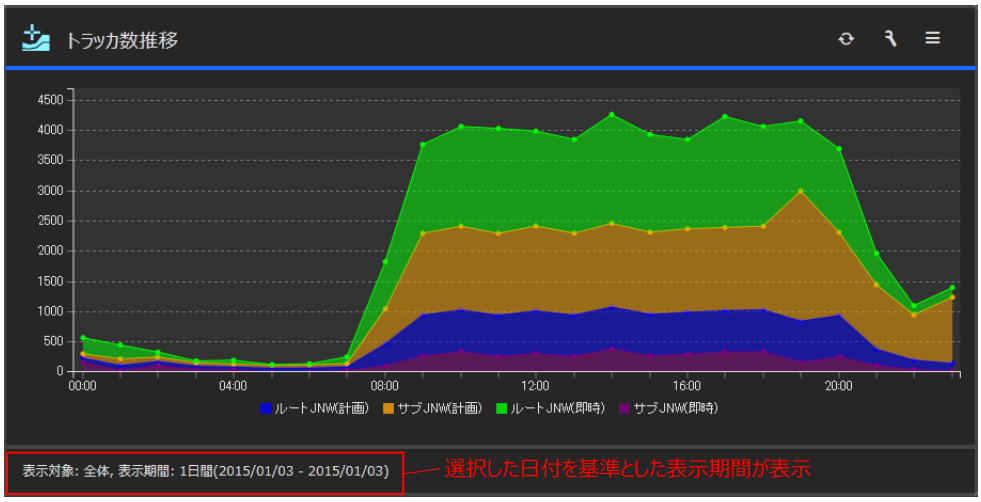

図5.93 トラッカレポートの基準日の一時変更(変更後)

■レポートタイプ

「全体」、「ユーザ別」の対象ユーザを選択できます。「ユーザ別」の場合、「3人」、「5人」、「10人」の中から上位何名まで表示するかをさらに選択します。

- デフォルト値

  全体

- 制限事項

  なし

- 補足

  ユーザの順位付けは表示期間中に投入されたアーカイブ済みトラッカの合計数です。

5.9.4.2.2.3. トラッカレポートのサイドメニュー

トラッカレポートのサイドメニューは表示タイプ、表示期間、レポートタイプを変更できます。

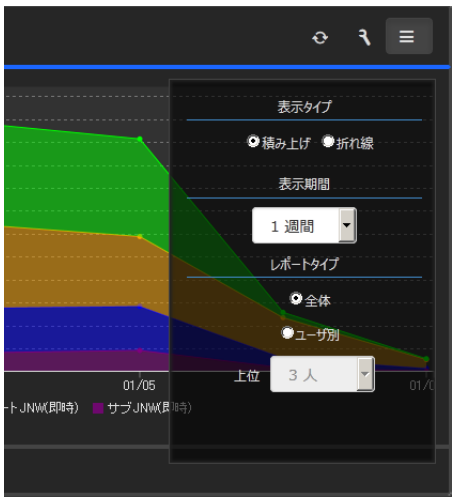

図5.94 トラッカレポートのサイドメニュー

5.9.4.3. 各パネルの表示・設定変更権限

各パネルの表示・設定変更するためには、JobCenterの権限が必要となります。

「JobCenter管理者」の場合、「JobCenter管理者」は全権限を持っているので全てのパネルの表示・設定変更が可能です。

「一般ユーザ」の場合、各パネルを表示・設定するためには下記の権限が必要となります。JobCenterの権限の詳細は　<基本操作ガイド>の13章　「一般アカウントユーザの権限設定（パーミッション設定）」 を参照してください。

パネル名	必要な権限	備考
JNWマイリスト	JNW参照権、JNW実行権、トラッカ参照権、トラッカ操作権	1つでも権限が足りない、または、そのユーザへのアクセスが制限されている場合は、パネルの表示・設定変更不可。
トラッカマイリスト	トラッカ参照権	1つでも権限が足りない、または、そのユーザへのアクセスが制限されている場合は、パネルの表示・設定変更不可。
トラッカサマリー	トラッカ参照権	1つでも権限が足りない、または、そのユーザへのアクセスが制限されている場合は、パネルの表示・設定変更不可。
トラッカレポート	一般ユーザはトラッカレポートを配置できない。	JobCenter管理者の場合のみ、パネルの表示・設定変更可。

5.9.5. マイページ設定（JobCenter管理者）

JobCenter管理者でログイン時のみ、マイページの右上にマイページ設定ボタンが表示されます。このボタンをクリックするとマイページの設定ダイアログが表示されます。

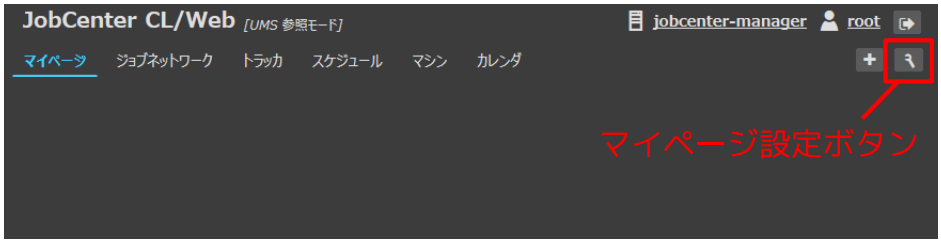

図5.95 設定ボタン（JobCenter管理者のみ表示）

マイページの設定から「制限モード」の設定を行うことができます。

JobCenter管理者が自身のマイページを参照する場合のみマイページ設定ボタンは表示されます。JobCenter管理者がユーザ切り替え機能で他ユーザを参照している場合、マイページ設定ボタンは表示されません。

5.9.5.1. 制限モード

制限モードは指定したユーザをマイページだけアクセスできるようにする機能です。この機能により誤操作を防ぐことや操作を簡単にすることが出来るようになります。例えばトラッカマイリストだけを配置して利用するようにすることで、マイリストに登録されたJNWのトラッカだけを参照するマイページを準備しておけば、ユーザはマイリストのトラッカを参照する操作のみ行うので、誤ったJNWを投入するなどの誤操作を防ぐことが可能です。

5.9.5.1.1. 制限モード設定

設定ダイアログから制限モードにするユーザを指定します。下記の例では"user1"を制限モードに変更しています。ユーザを選択したら保存ボタンで設定を保存してください。

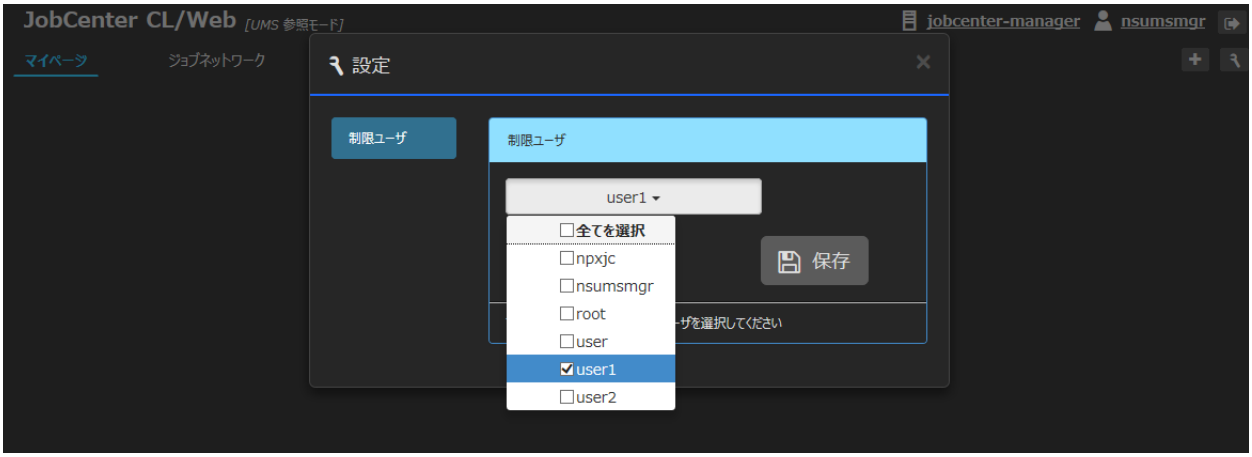

図5.96 制限ユーザ指定

JobCenter管理者ユーザが自分自信を制限ユーザにすることもできます。その際には保存後にリロードが自動的に実行され、制限モードの画面に切り替わります。

設定を保存した後に"user1"がログインすると、マイページのみが表示されるようになります。制限モードが反映されるタイミングは対象のユーザがログイン、もしくは全ページリロードを行ったタイミングです。

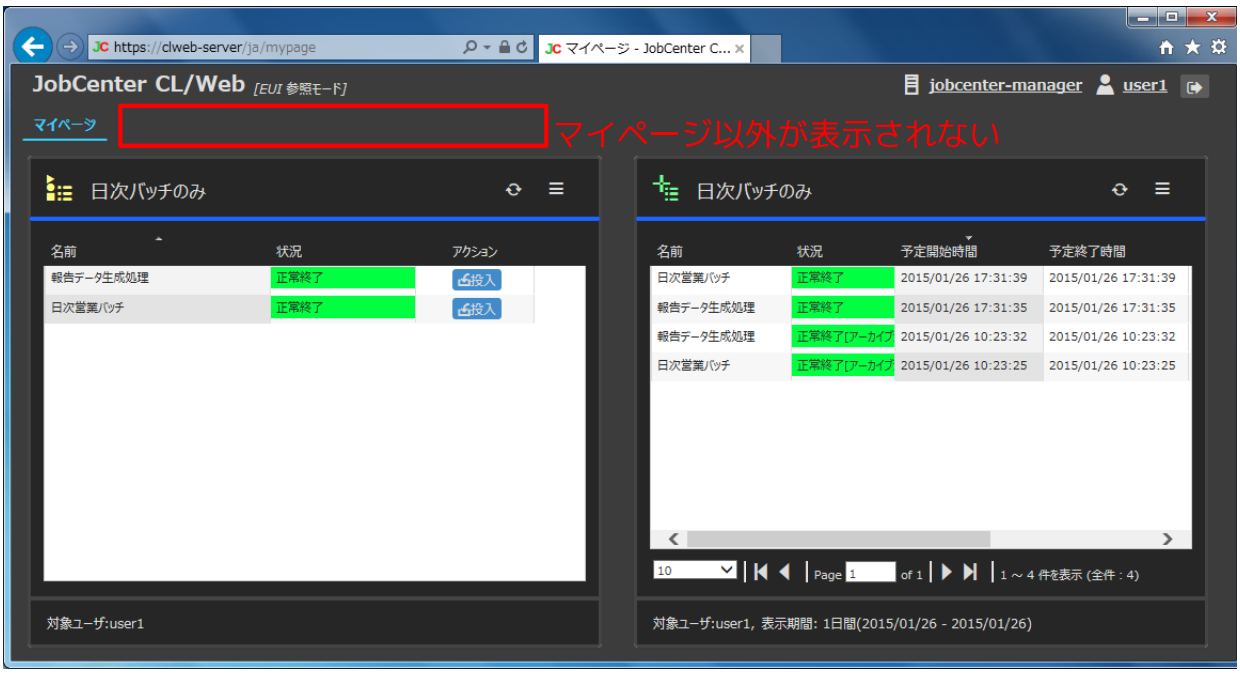

図5.97 制限ユーザでのログイン時（マイページのみ表示）

5.9.5.1.2. 制限モード中のユーザ操作

制限モード中のユーザはマイページに配置されたパネルのみ操作することができます。例えばJNWマイリストパネルが配置されている場合にはJNWマイリストに登録されたJNWに対してJNWフローの参照や即時投入等を行うことができます。

また、マイページの追加やパネル設定ダイアログからJNWマイリストの変更を行うことは出来ません。制限モードのユーザのJNWマイリストの設定はJobCenter管理者が行います。

5.9.5.1.3. 制限モード中のユーザのパネル設定

JobCenter管理者は事前にユーザ切り替え機能で対象ユーザのマイページに配置するパネルを設定しておく必要があります。JobCenter管理者はマイページ上で右上のユーザ名を切り替えを行うことで、対象ユーザのマイページを表示させることができます。

ユーザ切り替え機能で対象ユーザのマイページを参照できるのはJobCenter管理者のみとなり、一般ユーザは自身のマイページのみ参照可能です。

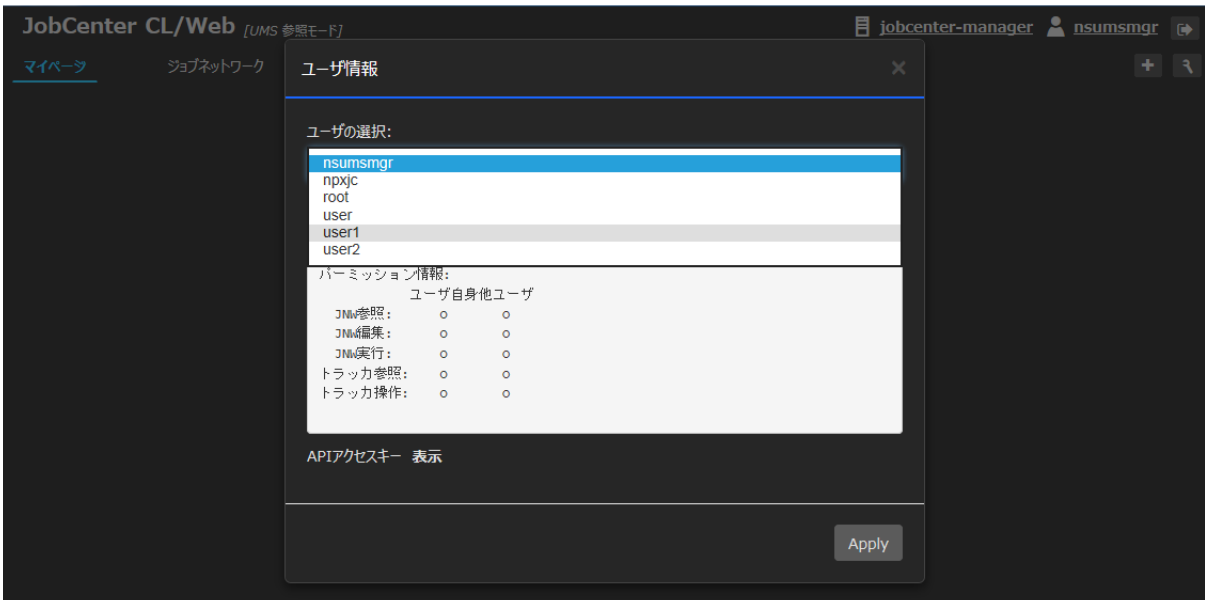

図5.98 マイページのユーザ切り替え（JobCenter管理者から制限ユーザに切り替え）

JobCenter管理者ユーザ"nsumsmgr"で制限ユーザ"user1"のマイページに切り替えた画面は下記のようになります。ユーザ名が"nsumsmgr(user1)"と表示され"user1"のマイページの内容が表示されています。この画面上でパネルの追加や変更を行うと制限ユーザ"user1"のマイページの表示内容にも反映されます。

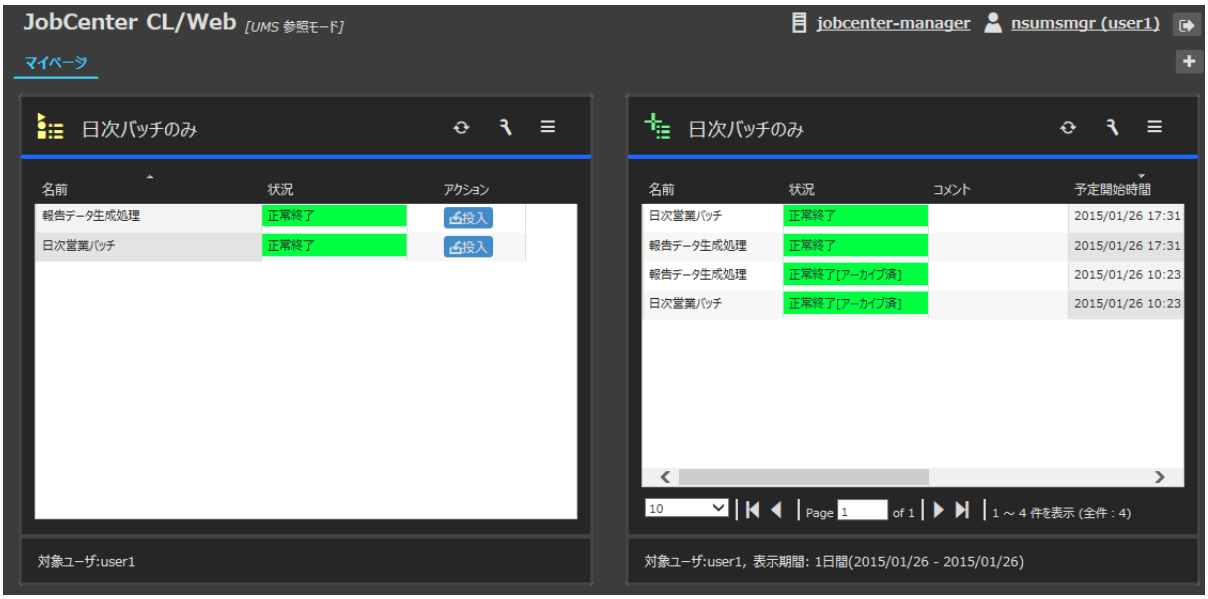

図5.99 マイページ画面表示（JobCenter管理者で制限ユーザのマイページを表示・編集）

制限モードはログインユーザが制限ユーザかどうかとユーザ切り替えにより表示結果が下記となります。

ログインユーザ	ユーザ切り替え	上部タブ	パネル追加ボタン、各パネルの設定ボタン	マイページの設定ボタン
JobCenter管理者（非制限ユーザ）	切り替えない	全て表示	表示	表示
	切り替える	全て表示	表示	非表示
JobCenter管理者（制限ユーザ）	切り替えない	マイページのみ表示	非表示	表示
	切り替える	マイページのみ表示	非表示	非表示
一般ユーザ（非制限ユーザ）	切り替えない	全て表示	表示	非表示
	切り替える	全て表示	非表示（マイページ自体が参照不可）	非表示（マイページ自体が参照不可
一般ユーザ（制限ユーザ）	切り替えない	マイページのみ表示	非表示	非表示
	切り替える	マイページのみ表示	非表示（マイページ自体が参照不可）	非表示（マイページ自体が参照不可）

第6章 その他機能詳細

本章では、CL/Webが持つ各機能について詳細に説明します。

本章はTLS(SSL)が有効であることを前提として説明しています。TLS(SSL)を無効にしている場合は、説明中のCL/WebサーバのURLの「https」を「http」に適宜読み替えてください。

6.1. メール送信機能詳細

メール送信機能ではトラッカの状態画面のURLを任意で指定したメールアドレスに送信することができます。

6.1.1. SMTPサーバ設定

SMTPサーバ設定に使用するファイルは、使用ポートの設定と同じCL/Web環境設定ファイルclweb.confです。詳細については「3.1.1　CL/Web環境設定ファイル(clweb.conf)」を参照してください。

なお、設定する項目は通信先のSMTPサーバの設定により変わります。ご使用されているSMTPサーバの設定を確認して設定を行ってください。

SMTPサーバに関するclweb.confファイルのフォーマット、および設定する項目は次の通りです。

表6.1 clweb.confのパラメータの設定値(SMTPサーバ指定)

設定	説明	タイプ	設定値
$mail_server	SMTPサーバ名を指定します。	文字列	SMTPサーバ名
$mail_port	メール送信に使用するポート番号を指定します。	数値	25 (注1)
$mail_domain	SMTPサーバのドメイン名を指定します。HELOで名乗るドメイン名です。	文字列	SMTPサーバドメイン名
$mail_authentication	送信時認証を指定します。認証必要がない場合、noneを設定します。	文字列	login, plain, cram_md5, noneのいずれか
$mail_username	$mail_authenticationでloginを指定した場合のみログインユーザ名を指定します。	文字列	ログインユーザ名
$mail_password	$mail_authenticationでloginを指定した場合のみログインパスワードを指定します。	文字列	ログインパスワード
$mail_from	送信者のメールアドレスを指定します。	文字列	送信者のメールアドレス

■(注1) デフォルト設定値です。

■文字列を指定する場合はダブルクォーテーションで文字列を囲む必要があります。

■CL/Webサーバをインストールするマシンにファイアウォールが存在する場合、ファイアウォールに対してCL/Webサーバが使用するネットワークポートの穴あけ作業を行ってください。

下記は、設定例です。

```
$mail_server = "mail.something.com"
```

```
$mail_port = 25
$mail_domain = "something.com"
$mail_authentication = "plain"
$mail_username = "clweb@something.com"
$mail_password = "clwebpass"
$mail_from = "clweb@something.com"
```

6.1.2. メール文字コード設定

メール送信の際に利用する文字コードは"UTF-8"がデフォルトとなっていますが、CL/Web環境設定ファイルclweb.confファイルで設定を変更する事が出来ます。

設定に関するclweb.confファイルのフォーマット、および設定する項目は次の通りです。

表6.2 clweb.confのパラメータの設定値(メール文字コード指定)

設定	説明	タイプ	設定値
$mail_charset_utf8	送信されるメールの文字コードを"UTF-8"デフォルトにするかのを指定します。	真偽値	true　(デフォルト設定値)

$mail_cahrset_utf8をfalseに設定した場合、下記言語ロケールに対応した文字コードが設定されます。

表6.3 言語ロケールと送信メールの文字コードの対応関係

言語ロケール	送信メールの文字コード
ja	ISO-2022-JP
en	US-ASCII
zh	GB18030

6.1.3. メール送信機能

メール送信の手順を次に説明します。

1. メール送信を行いたいトラッカ画面を開き、表示テーブルの右上にある[メール送信]ボタンをクリックします。

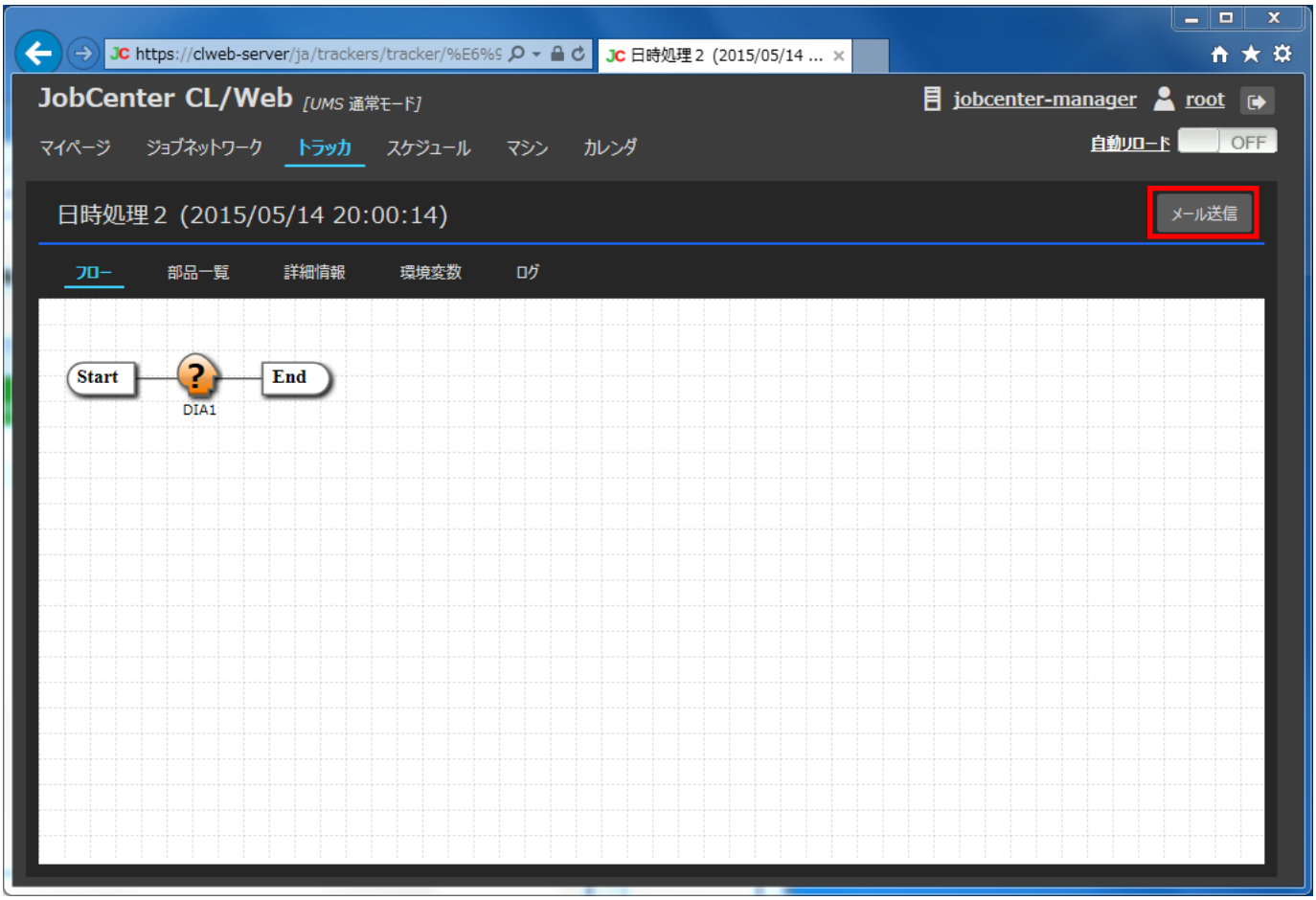

図6.1 メール送信ボタン表示画面

2. メール送信のダイアログが表示されるので、メールテンプレートを選択し、変更必要の場合、宛先、件名、本文を入力し、[OK]をクリックします。

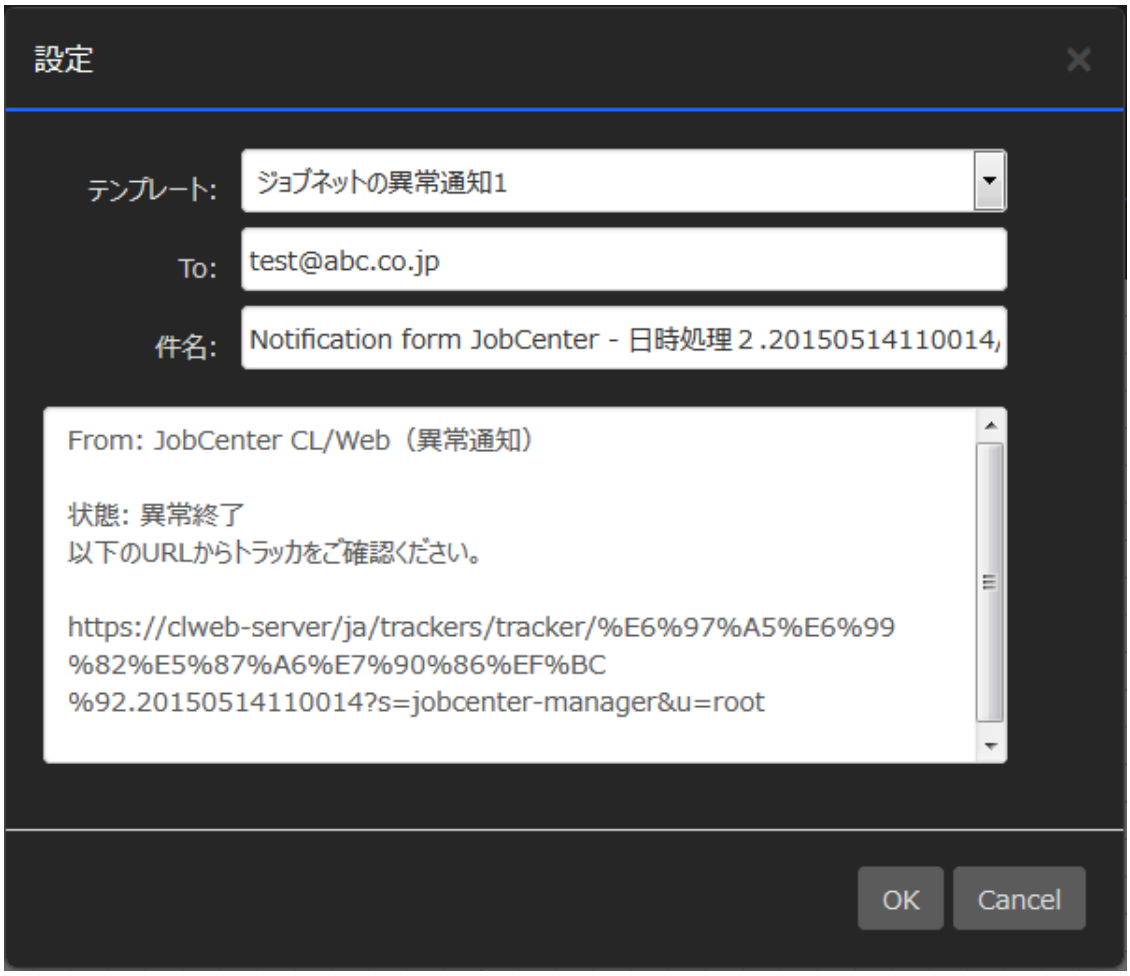

図6.2 メール送信設定画面

[メール送信]の設定項目は次の通りです。

■テンプレート

定義したメールテンプレートの一覧が表示されます。トラッカのステータスまたはトラッカ部品のステータスがエラー停止、異常終了、中断の何れかの場合、メールテンプレートのヘッダーファイルの$mail_template_statusがNGまたは空文字のメールテンプレートが表示されます。トラッカのステータスまたは部品のステータスがエラー停止、異常終了、中断の以外の場合、メールテンプレートのヘッダーファイルの$mail_template_statusがOKまたは空文字のメールテンプレートが表示されます。

■TO

メールの宛先アドレスを設定します。メールテンプレートを選択した場合、選択したメールテンプレートの宛先が表示されます。メールテンプレートが未定義の場合、二回目以降は前回送信した相手の宛先が表示されます。

カンマ「,」で区切って、複数のアドレスを指定することができます。

メールテンプレートが未定義の場合、前回送信した宛先メールアドレスはブラウザのCookieに保存されます。

■件名

送信するメールの件名を入力します。メールテンプレートを選択した場合、選択したメールテンプレートの件名が表示されます。

■本文

送信するメールの本文を入力します。メールテンプレートを選択した場合、選択したメールテンプレートのボディーファイルの内容が表示されます。

メールテンプレートが未定義の場合、トラッカのURL情報が記載されたメッセージがデフォルトで入力されています。

3. メール送信確認のダイアログが表示されるので、[OK]をクリックします。

図6.3 メール送信設定確認画面

4. 成功するとメール送信結果のダイアログが表示されます。

6.1.4. メールテンプレート設定

メールテンプレートファイルを新規作成または編集することで、メールテンプレートの作成、変更を行います。

メールテンプレートファイルの格納場所は次の通りです。

```
%InstallDirectory%\config\mail
```

メールテンプレートファイル設定方法は次の通りです。

1. メールテンプレートのファイル名を定義します。

■言語ロケールが日本語の場合

ヘッダーファイル

```
template01_ja_head.def ～ template99_ja_head.def
```

ボディーファイル

```
template01_ja_body.def～template99_ja_body.def
```

■言語ロケールが英語の場合

ヘッダーファイル

```
template01_en_head.def ～ template99_en_head.def
```

ボディーファイル

```
template01_en_body.def ～ template99_en_body.def
```

■言語ロケールが中国語の場合

ヘッダーファイル

```
template01_zh_head.def ～ template99_zh_head.def
```

ボディーファイル

```
template01_zh_body.def ～ template99_zh_body.def
```

■ファイル名には、大文字を使わないでください。

■ファイル名中の英数字は、01から99まで、画面上に表示の順番とします。

■言語ロケール毎にメールテンプレートが最大99個あります。

2. メールテンプレートファイルの文字コードを定義します。

メールテンプレートファイルの文字コードは、UTF-8として使います。

■Shift－JIS、JIS、EUC等の文字コードでメールテンプレートファイルを作成した場合、画面上に表示される時、文字化けの恐れがありますので、ご注意ください。

3. メールテンプレートのヘッダーファイルを定義します。

メールテンプレートのヘッダーファイルのフォーマット、および設定する項目は次の通りです。

表6.4 メールテンプレートのヘッダーファイルの設定値

設定	説明	タイプ	例
$mail_template_name	メールテンプレートの名称を定義します。	文字列	ジョブネットワーク正常終了の通知
$mail_template_status	メールテンプレートのステータスを定義します。OK、NG、空文字の3種類あります。(注1)	文字列	OK
$mail_template_sendto	メールテンプレートの宛先を定義します。カンマ「,」で区切って、複数のアドレスを指定することができます。	文字列	test@abc.co.jp
$mail_template_subject	メールテンプレートの件名を定義します	文字列	Notification form JobCenter - #{@track_id}/ #{@job_name}

■(注1) トラッカのステータスまたはトラッカ部品のステータスがエラー停止、異常終了、中断の何れかで、当該メールテンプレートが表示したい場合、メールテンプレートのステータスをNGで設定します。

> トラッカのステータスまたはトラッカ部品のステータスがエラー停止、異常終了、中断の以外で、当該メールテンプレートが表示したい場合、メールテンプレートのステータスをOKで設定します。
>
> 当該メールテンプレートが無条件で表示したい場合、メールテンプレートのステータスを空文字で設定します。

下記はメールテンプレートのヘッダーファイルの例です。

```
$mail_template_name = "ジョブネットワーク正常終了の通知"
$mail_template_status = "OK"
$mail_template_sendto = "test@abc.co.jp"
$mail_template_subject = "Notification form JobCenter - #{@track_id}/#{@job_name}"
```

4. メールテンプレートのボディーファイルを定義します。

   メールテンプレートのボディーファイルのフォーマットは、自由です。下記は例です。

```
From: JobCenter CL/Web（正常終了の通知）

状態: #{@job_status}
以下のURLからトラッカをご確認ください。

#{@url}
```

5. メールテンプレートファイルに置換可能な文字列を定義します。

   メールテンプレートのヘッダーファイルとボディーファイルに置換可能な文字列は次の通りです。

表6.5 メールテンプレートファイルに置換可能な文字列

設定	説明	タイプ	置換先の例
#{@url}	参照画面のURLを出力します。	文字列	https://clwebhost/ja/trackers/parts/UJOB/Jnw.20130829055101/JOB1?s=machine&u=user
#{@track_id}	トラッカIDを出力します。	文字列	Jnw.20130829055101
#{@job_name}	ジョブネットワークの名称または部品の名称を出力します。	文字列	JOB1
#{@job_status}	トラッカのステータス名称または部品のステータス名称を出力します	文字列	正常終了[アーカイブ済]

6.2. マクロ機能

MG/SVのメール送信機能で使用可能なCL/Webのマクロを説明します。

6.2.1. マクロ機能(MG/SV)

JobCenter MGのメール送信機能である「件名、本文に使用可能なマクロ」に使用可能なマクロである%trkpath%、%partspath%を使用することで、CL/Webサーバからトラッカを参照するためのURLをメール本文に記述できます。

■マクロの設定

マクロを使用する場合はマクロの先頭に"https://から始まるアドレス(URL)/ja"を指定する必要があります。

マクロの指定方法は次の通りです。

```
https://<CL/Webサーバのホスト名またはIPアドレス>/ja%trkpath%
```

マクロの詳細については<基本操作ガイド>の「14.5　件名、本文に使用可能なマクロ一覧」を参照してください。

■ケーススタディ

エラー発生時にエラーが起きたトラッカ画面のURLを担当者にメールで送信したい。

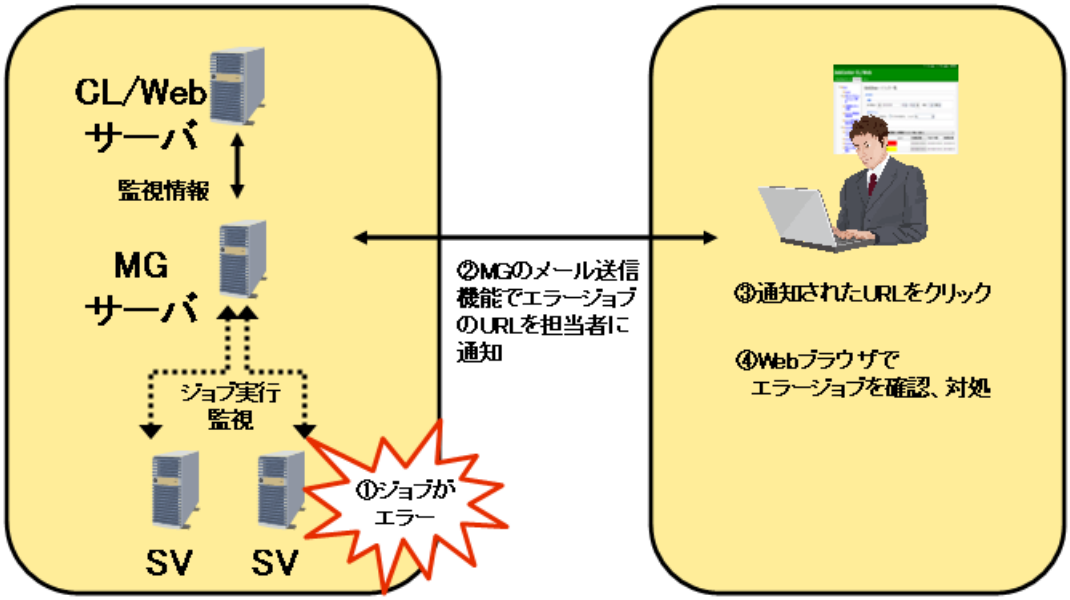

図6.4 ケーススタディ画面 1

- ケーススタディ画面1について次に説明します。

1. JobCenter SVにてジョブのエラーが発生。
2. CL/WebのトラッカURL情報をマクロにて記載しているメールがMGのメール機能にて担当者にメールが通知される。

3. メールを受け取った担当者はトラッカURLをクリックする。

4. Webブラウザが起動されてエラージョブを確認して対処をする。

■ 設定事例

設定対象	設定値
CL/Web動作マシン名	jobmachine
CL/Web動作マシンIPアドレス	192.168.20.1
JobCenter SVのユーザ名	testuser
エラージョブ名	testjob
トラッカ名	testjob.20120615140000

■ JobCenter CL/Winでのメール設定例

1. 件名にマシン名のマクロ、本文にトラッカ画面のURL、トラッカ部品画面のURL情報のマクロを事前に設定しておく。JobCenter　CL/Winのメール設定については<基本操作ガイド>の「14.2 指定されたあて先にメールでエラーを通知させる」を参照してください。

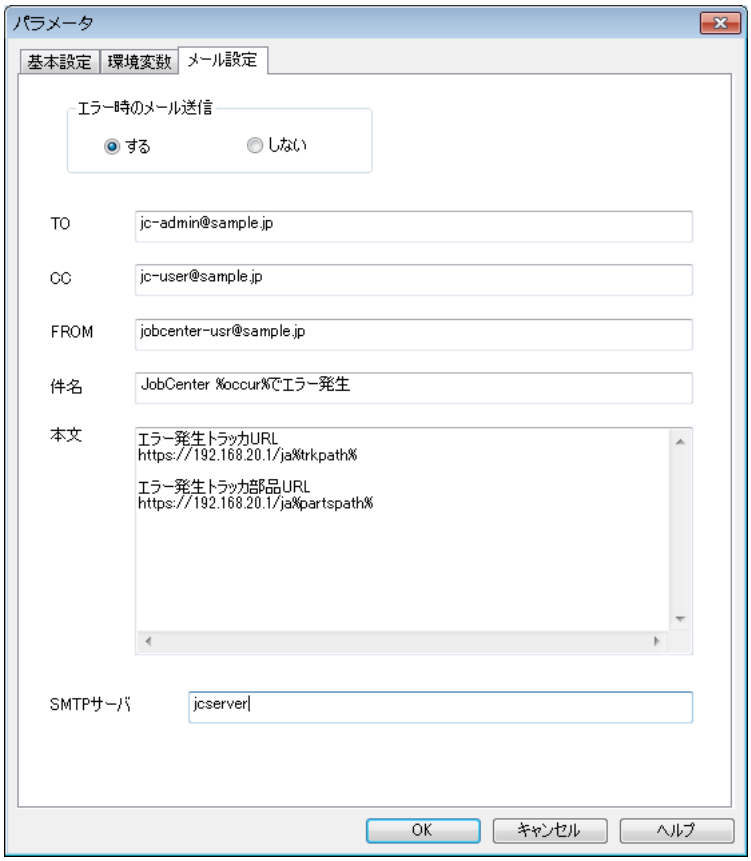

図6.5 CL/Winでのメール設定画面例

項目	例文
件名	JobCenter %occur%でエラー発生
本文	エラーについて下記を確認してください。 ■ エラー発生トラッカURL

項目	例文
	https://192.168.20.1/ja%trkpath% ■ エラー発生トラッカ部品URL https://192.168.20.1/ja%partspath%

2. エラーが発生した場合、1で設定した宛先にMGの機能でメールが送信されます。

   ■ (例)受信メール

```
件名:
JobCenter jobmachineでエラー発生

本文:
エラーについて下記を確認してください。

・エラー発生トラッカURL
https://192.168.20.1/ja/trackers/tracker/testjob.20120615140000?
s=jobmachine&u=testuser
・エラー発生トラッカ部品URL
https://192.168.20.1/ja/trackers/parts/UJOB/testjob.20120615140000/JOB1?
s=jobmachine&u=testuser
```

3. メールを受信した担当者はURLをクリックします。CL/Webのログイン画面が起動されるので表示されているサーバ名のパスワードを入力してログインします。

サーバ名とユーザ名はデフォルトで入力されています。

6.2.2. イベント連携

イベント連携時に使用可能なマクロである%trkpath%、%partspath%を使用することで、CL/Webサーバからトラッカを参照するためのURLをイベントのメッセージに出力できます。

イベント連携の設定に関しては<環境構築ガイド>の12章　「イベント連携」　を参照してください。

次のケーススタディではHPOM製品との連携を例としています。

■ケーススタディ

イベント発生時にエラーの情報をWebブラウザ画面で確認したい。

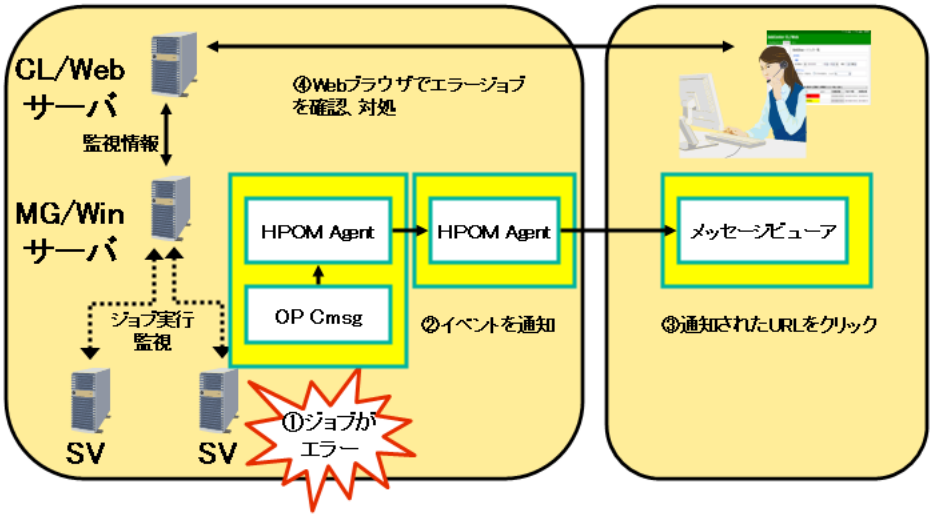

図6.6 ケーススタディ画面２

- ケーススタディ画面2について次に説明します。

1. JobCenter SVにてジョブのエラーが発生。
2. HPOM製品によりイベントが通知される。
3. メッセージビューアのメッセージにCL/WebのトラッカURL情報が表示される。
4. 担当者はURLをクリック、もしくはURLをコピーしてWebブラウザのアドレスバーに貼り付けてエラーを確認して対処する。

- 設定事例

設定対象	設定値
CL/Web動作マシン名	jobmachine
CL/Web動作マシンIPアドレス	192.168.20.1
JobCenter SVのユーザ名	testuser
エラージョブ名	testjob
トラッカ名	testjob.20120615140000

1. イベント定義ファイルにイベント送信先に出力するイベントのフォーマットを指定します。

   単位ジョブがエラー終了した場合

```
EVENT jnwsv.uj.err 0x2003 JNW_UNITJOB_ERROR "https://192.168.20.1/ja%trkpath%"
```

2. イベントが発生した場合、統合監視端末にトラッカ画面のURLが表示されるので、URLをクリックもしくはコピーしてWebブラウザのアドレスバーに貼り付けて実行します。
3. CL/Webのログイン画面が起動されるので表示されているサーバ名のパスワードを入力してログインします。

6.3. 他ユーザ監視機能

他ユーザ監視機能について説明します。

6.3.1. 機能概要

他ユーザ監視機能は、パーミッションで許可された他ユーザの定義情報の参照や操作を行うことができます。

6.3.2. 他ユーザへの切り替え手順

他ユーザへの切り替えは以下の手順で行います。

1. CL/Webサーバにログイン後、右上のユーザ名をクリックしてユーザ情報画面を表示してください。

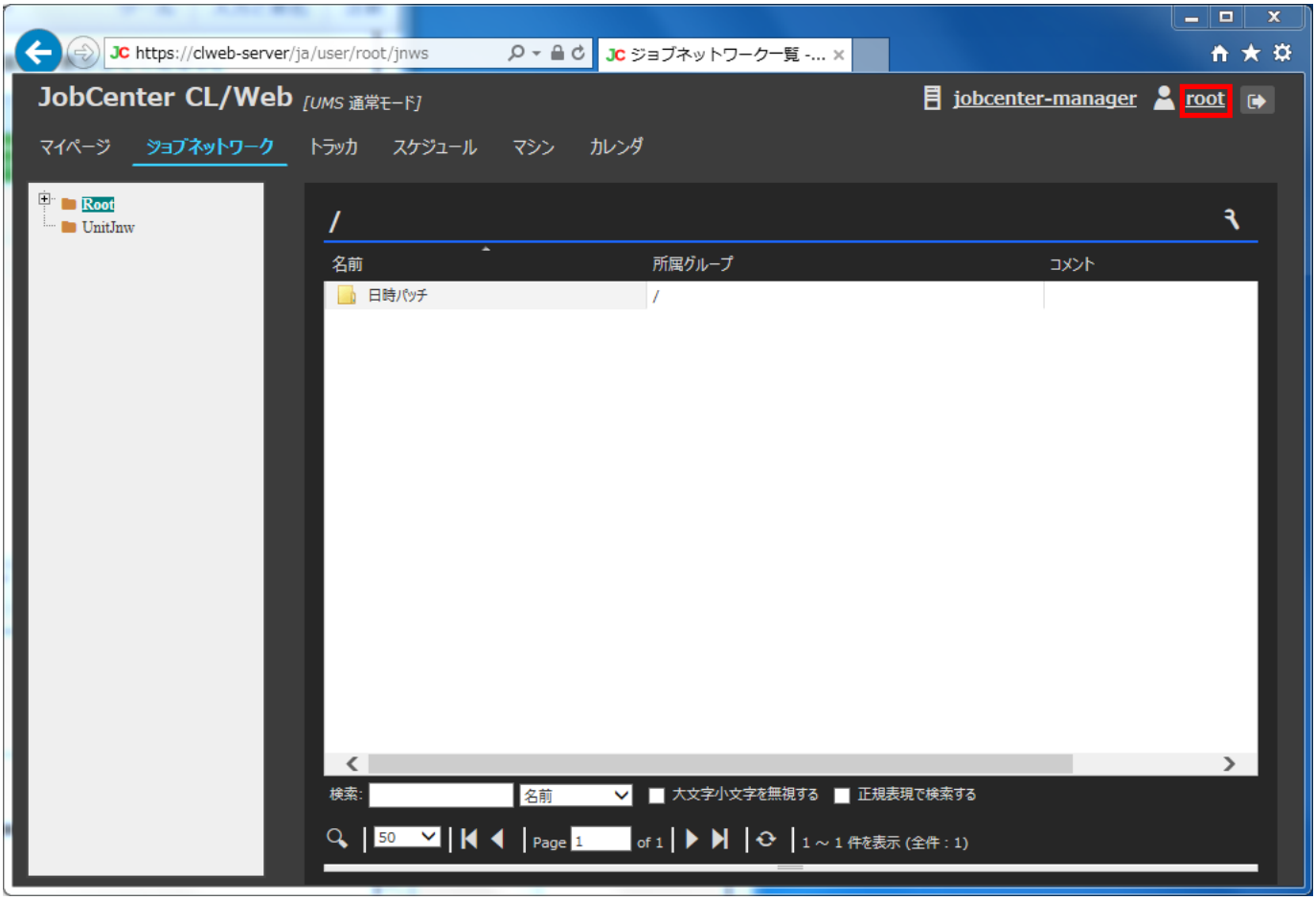

図6.7 ユーザ名のクリック

2. ユーザ情報画面にある[ユーザの選択]ボックスから切り替えたいユーザ名を選択して[OK]をクリックしてください。

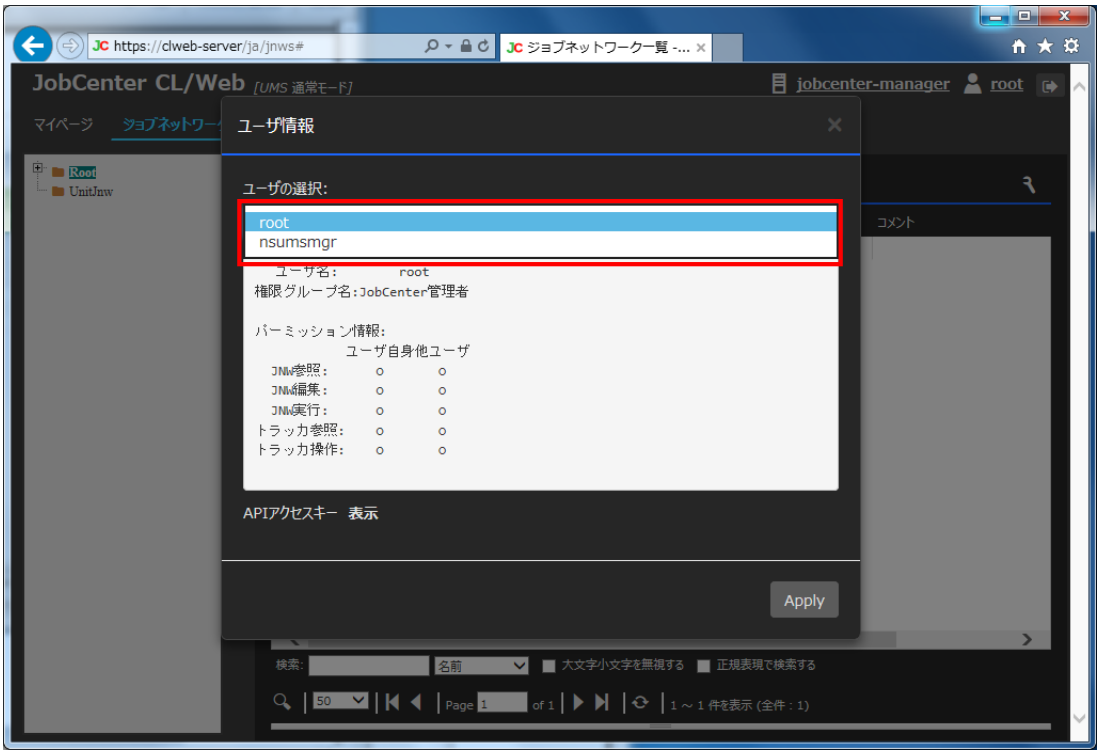

図6.8 ユーザ名の選択

3. 切り替えたユーザの定義などを参照することができます。

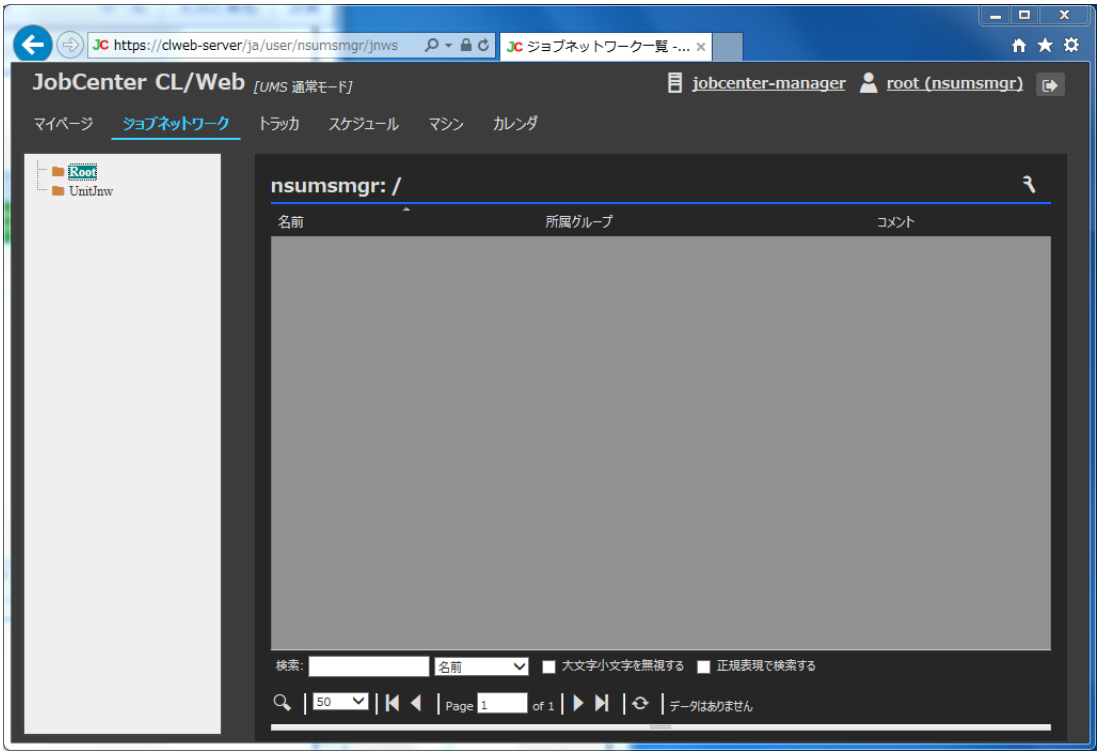

図6.9 他ユーザ切り替え後

6.4. WebAPI機能

HTTP/HTTPSプロトコルを利用したWebベースのAPI機能について説明します。

6.4.1. 機能概要

WebAPIの主な機能概要は次のとおりです。

表6.6 WebAPIの機能一覧

カテゴリ	機 能	説 明
ジョブネットワーク参照	ジョブネットワーク一覧を取得する	詳細は「6.4.4.1 ジョブネットワーク一覧取得」を参照してください。
ジョブネットワーク操作	ジョブネットワークを即時投入する	詳細は「6.4.4.2 ジョブネットワーク即時投入」を参照してください。
トラッカ参照	トラッカ一覧を取得する	詳細は「6.4.4.3　トラッカ一覧取得」を参照してください。
	トラッカ部品一覧を取得する	詳細は「6.4.4.4 トラッカ部品一覧取得」を参照してください。
	トラッカ状態を取得する	詳細は「6.4.4.5　トラッカ状態取得」を参照してください。
	トラッカフローを描画する	詳細は「6.4.4.6 トラッカフロー取得」を参照してください。
トラッカ操作	トラッカ部品を操作する	詳細は「6.4.4.7 トラッカ部品制御命令実行」を参照してください。
	トラッカを操作する	詳細は「6.4.4.8 トラッカ制御命令実行」を参照してください。

6.4.2. WebAPI導入のイメージ

WebAPIを導入することでジョブネットワークの参照や即時投入、トラッカの状況参照等を独自の画面で構築することができます。

CGIによるアプリケーションサーバで独自の画面を構築し、クライアントに利用させることができます。

API機能はCL/WebサーバやJobCenterが起動していなければ利用することが出来ません。API機能の動作に不整合があった場合にはCL/WebサーバやMG/SVの起動状況をご確認ください。

■WebAPI利用の効果

従来ではCL/Webサーバにログインを行い、その画面仕様にそって操作を行う必要がありました。WebAPIを導入すると独自の画面をクライアントに提供することができます。 これにより、特定のトラッカに特化した画面を表示することや行うべき処理をまとめて実行することが可能になります。

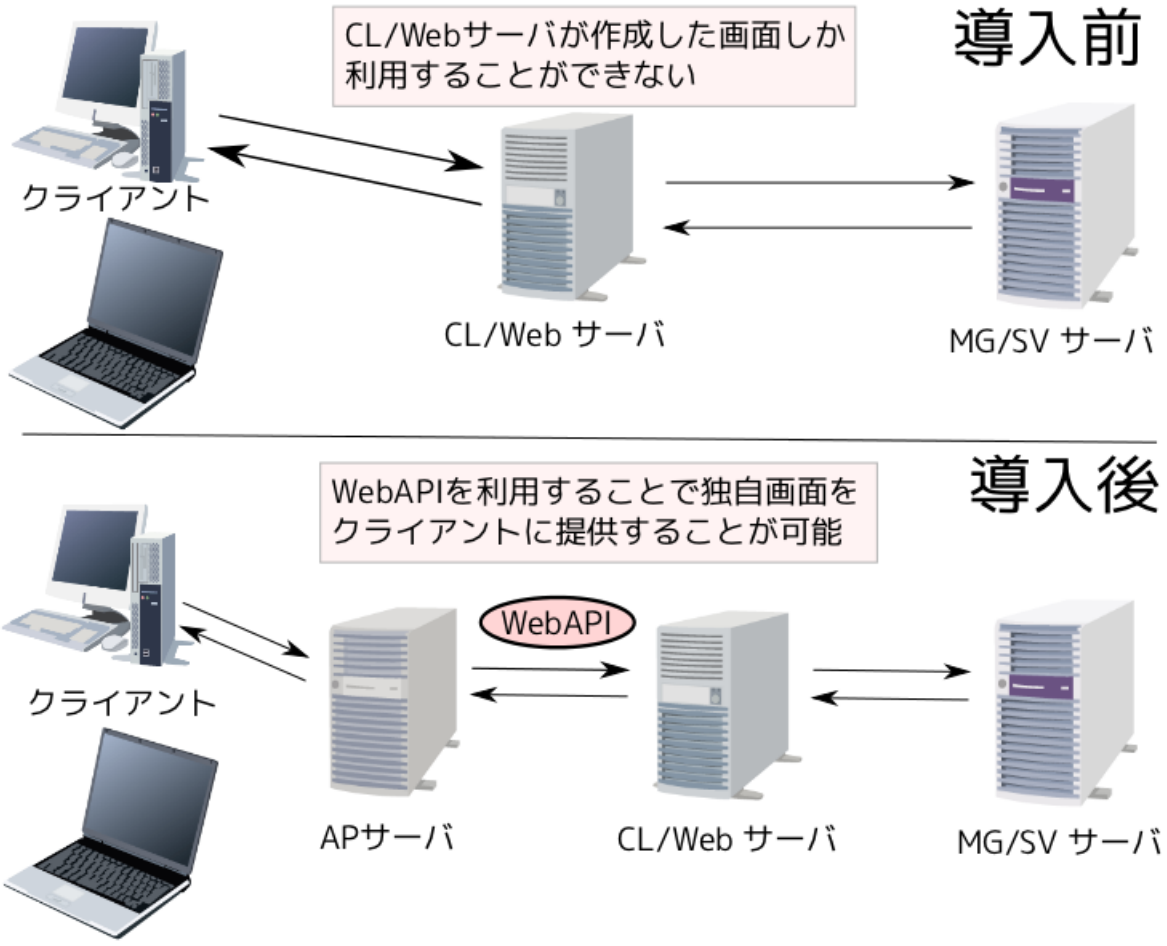

図6.10 導入の効果

一般ユーザはクライアントからAPサーバへとアクセスし、そのアクセスに対応した画面を開発者は作成します。その画面作成時に必要に応じてWebAPIを利用しCL/Webサーバ経由でJobCenterの情報を組み込むことができます。

6.4.3. WebAPI利用の流れ

CL/WebサーバはHTTPを利用したWebAPIの機能を提供しています。

CL/Webサーバに対し特定のフォーマットでHTTPリクエストを送ると、「6.4.1　機能概要」で記載した情報の取得や制御を行うことができます。

このWebAPIはAPIアクセスキー認証とHTTP認証の2種類の認証方式をサポートしています。

6.4.3.1. APIアクセスキー認証

WebAPIを利用するMG/SVのユーザを認証するために、HTTPリクエストのパラメータにAPIアクセスキーを設定します。APIアクセスキーはCL/Webサーバの初回ログイン時に生成され、CL/Webサーバ内で保持されます。

APIアクセスキーは40byteの文字列から構成されます。ユーザからの要求があった場合には初期化され、新たな40byteの文字列が生成されます。

APIアクセスキーはユーザ情報、パスワード情報等をエンコードして生成されたキーではありません。この為、APIアクセスキーが漏洩してもパスワードやユーザ名が復元されることはありません。

MG/SVのユーザパスワードを変更した場合には、CLWebにパスワードを変更したユーザで一度ログインを実施してください。ログイン実施後にAPIキーと新しいパスワードが結びつき、有効化されます。CLWebにログインをしないままAPIキーを利用するとHTTPリクエストがエラーとなります。

6.4.3.2. APIアクセスキーの参照方法

APIアクセスキーの参照は以下の手順で行います。

1. CL/Webサーバにログイン後、右上のユーザ名を押下してユーザ情報画面を表示してください。

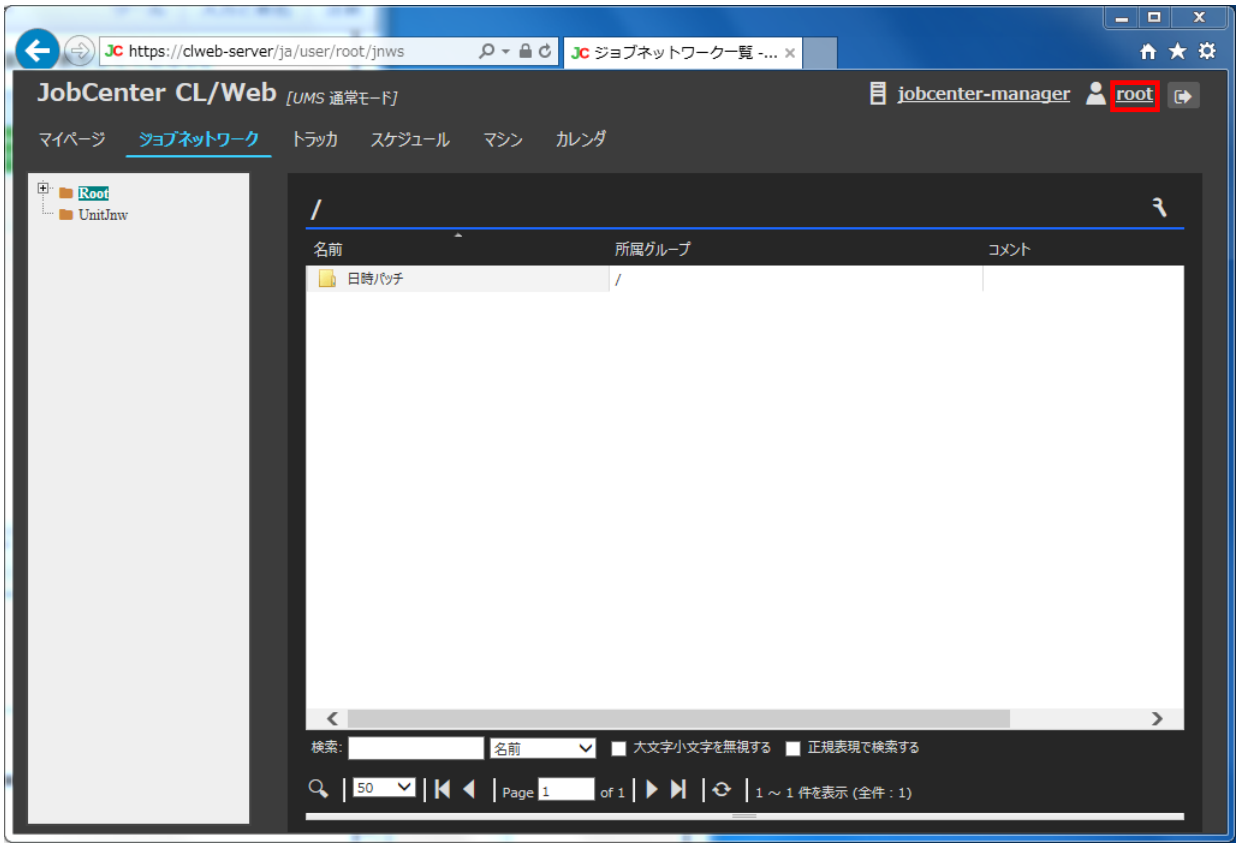

図6.11 ユーザ名押下

2. ユーザ情報画面にあるAPIアクセスキーの表示ボタンを押下してアクセスキー情報画面を表示してください。

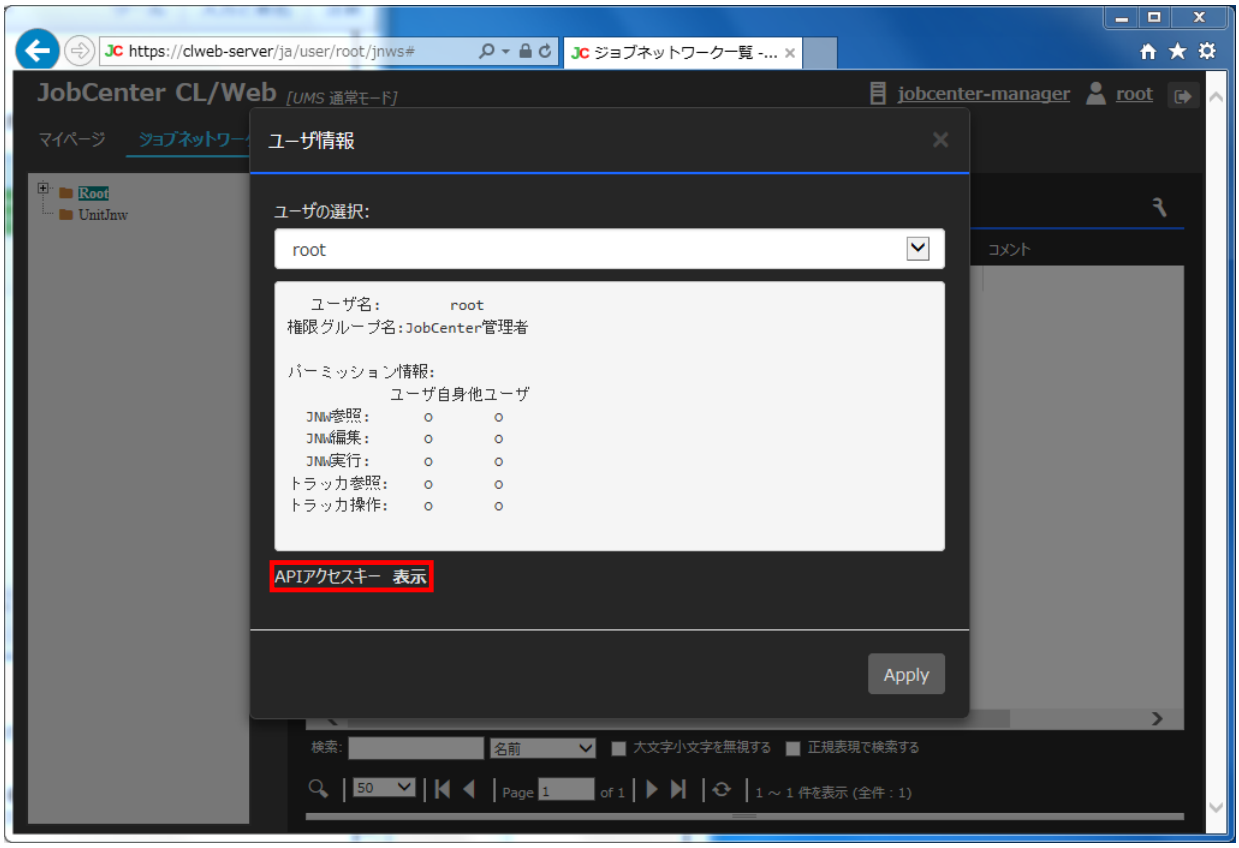

図6.12 KEYボタン押下

3. アクセスキー情報画面のAPIアクセスキーの右側に表示される40文字の文字列がアクセスキーとなります。

   なお、初期化を行いたい場合にはRESETボタンを押下してください。新たなキーが生成され、古いキーは使用できなくなります。（RESET押下後は再度APIアクセスキーをご確認ください）

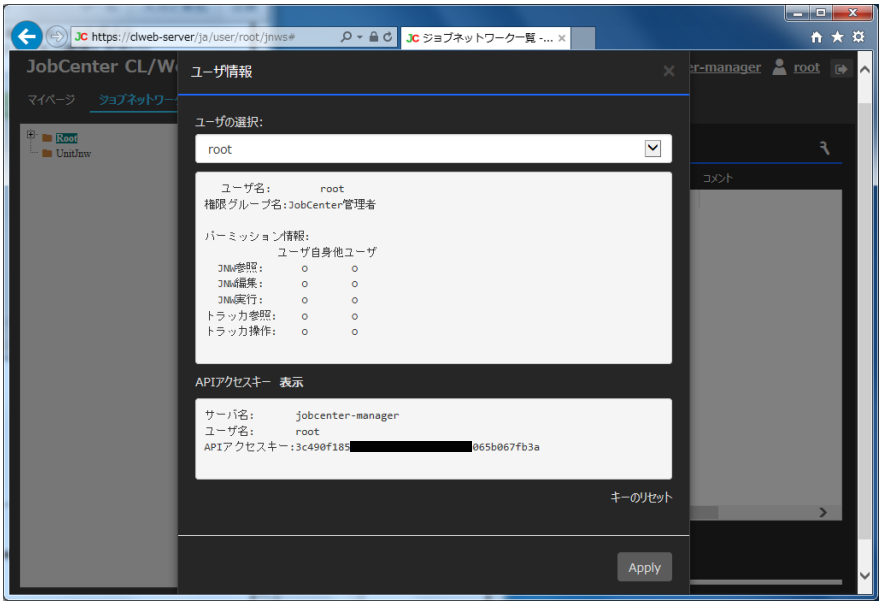

図6.13 APIアクセスキー表示

6.4.3.3. HTTP認証(Basic認証)

WebAPIを利用するMG/SVのユーザを認証するために、HTTPリクエスト後にMG/SVのユーザ名とパスワードによって認証するHTTP認証が利用できます。

HTTPリクエストに対象のMG/SVのホスト名を付与してアクセスを行うと、レスポンスヘッダにステータスコード401が返却され、ブラウザが受け取った場合にはユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。入力されたユーザ名とパスワードが正しく認証された場合、指定したAPI機能が実行されます。

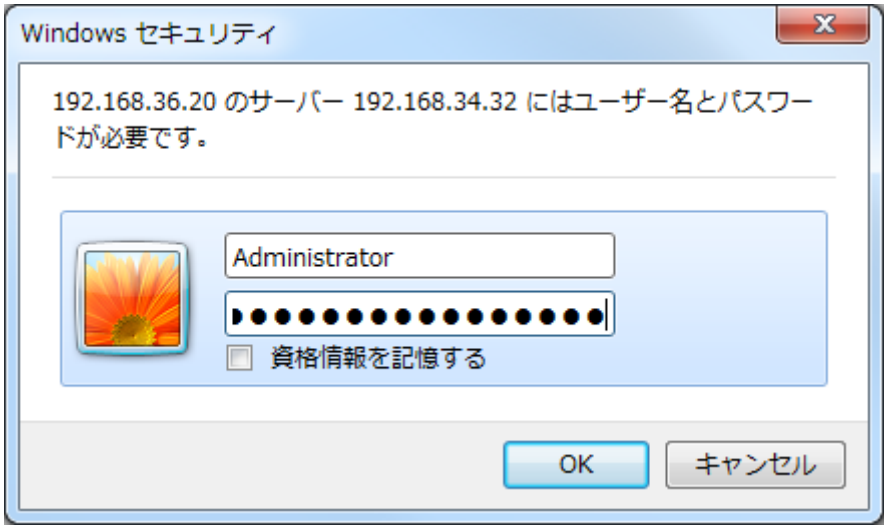

図6.14 HTTP認証画面

ユーザ名とパスワードをリクエストヘッダに付与してアクセスも可能です。この場合にはステータスコード401が返却されること無く、要求しているレスポンスを得ることができます。

認証はBasic認証なので、リクエストヘッダにBase64エンコードした情報（Authorization: Basic xxxxxxxxxxxx）を付与してください。例えばRubyであれば、以下の様なコードで付与することが可能です。

```
response = Net::HTTP.start($hostname, $port) {|http|
    req = Net::HTTP::Get.new(URI.escape(uri_str))
    req.basic_auth username, password if username && password
    http.request(req)
}
```

認証については、「APIアクセスキー」か「MG/SVのホスト名」のどちらか片方を指定するようにしてください。

6.4.4. WebAPI機能詳細

「6.4.1 機能概要」で記載した各機能についてそれぞれのHTTPリクエスト仕様を記載します。

CL/WebのWebAPI機能はHTTP/1.1のGETメソッドを実行することで情報の取得や命令実行が行われます。GETメソッドのリクエストヘッダ（リクエスト行とHost）を仕様として記載します。リクエストボディを指定する必要はありません。

サブディレクトリを設定している場合にはHostで設定するホスト名もサブディレクトリを含ませる必要があります。サブディレクトリについては「3.1.4　URLのサブディレクトリの設定」を参照してください。

Getメソッドのリクエスト行にパラメータとクエリをそれぞれ指定します。パラメータは必ず指定するようにしてください。クエリについては省略可能な項目もあります。以下にサンプルを記載します。

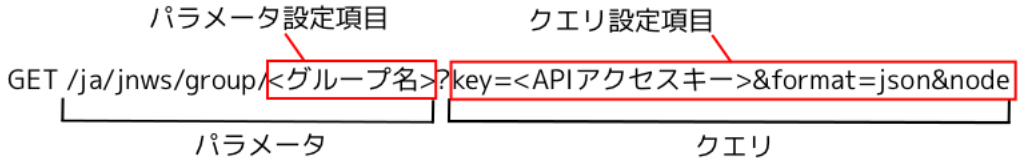

図6.15 GETメソッド設定項目

（１）リクエスト仕様に記載したパラメータ<言語ロケール>は全機能共通です。以下のいずれかを指定してください。

■<言語ロケール>に"ja"を指定

→日本語で情報が取得できます。

■<言語ロケール>に"en"を指定

→英語で情報が取得できます。

■<言語ロケール>に"zh"を指定

→中国語で情報が取得できます。

（２）リクエスト仕様に記載した<ホスト名>は全機能共通です。以下のようにホスト名を指定してください。

■<ホスト名>

→CL/Webサーバのホスト名[:ポート番号]

6.4.4.1. ジョブネットワーク一覧取得

■機能説明

ジョブネットワーク一覧を取得することが出来るAPIです。データはjson形式で取得することが出来ます。

例えば、以下のような画面を作成することが可能です。

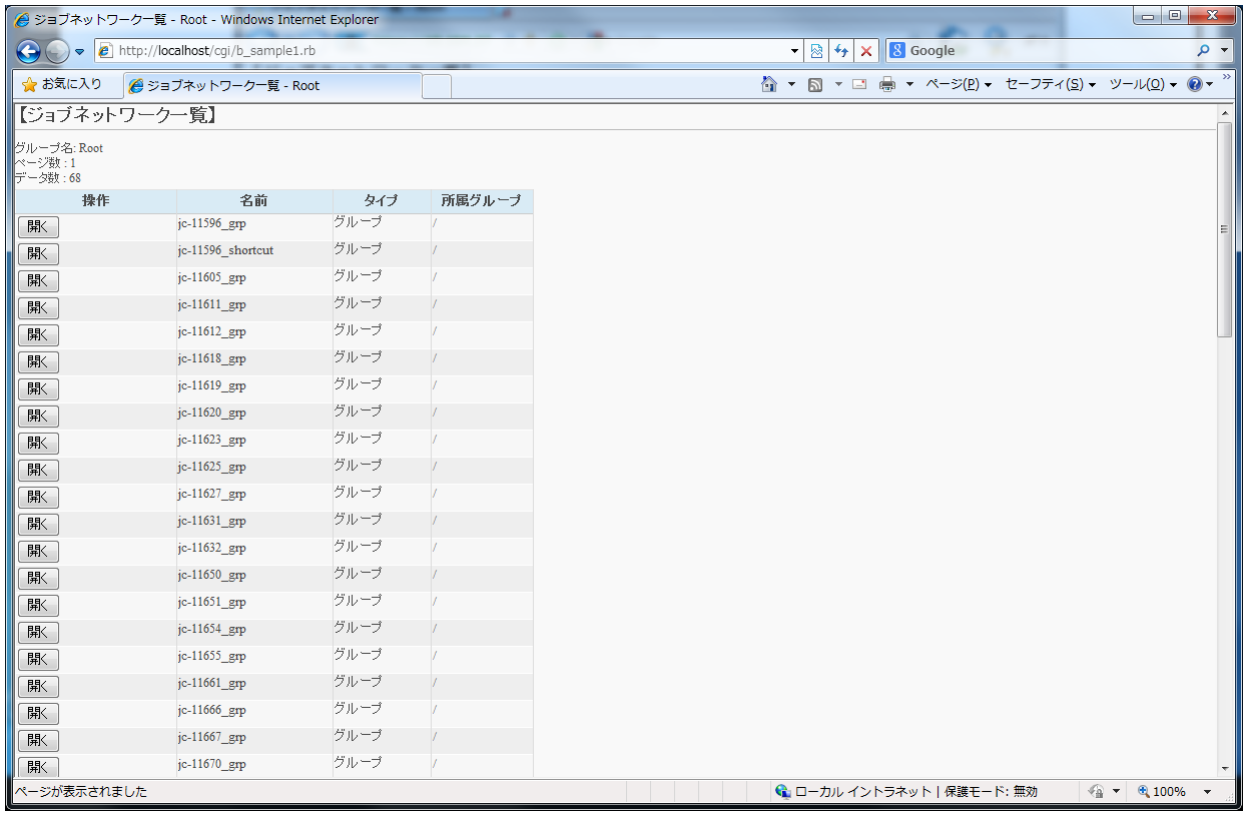

図6.16 ジョブネットワーク一覧表示例

■HTTPリクエスト仕様

- APIアクセスキー認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/jnws/group/<グループ名>?key=<APIアクセスキー
>&format=json&page=<ページ番号>&rp=<１ページの要素数>&node=all HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/jnws/group/Root/Newgroup1?
key=dsfvoeishfhseiofhoseihfiosheiofhsioehfi&format=json&page=3&rp=50&node=all
```

- HTTP認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/jnws/group/<グループ名>?mghost=<MGSVサーバアドレス
>&format=json&page=<ページ番号>&rp=<１ページの要素数>&node=all HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
Authorization: Basic xxxxxxxxxxxx
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/jnws/group/Root/Newgroup1?
mghost=mghostname.co.jp&format=json&page=3&rp=50&node=all
```

■パラメータ

設定するパラメータ詳細を以下に記載します

- <グループ名>

  取得するグループ名をルートから指定してください。

  例）/Root/Newgroup1
  （Rootに所属するNewgroup1配下のジョブネットワーク一覧を表示する）

■クエリ

設定するクエリ詳細を以下に記載します

- keyクエリ

  APIアクセスキーによる認証を行う場合、APIアクセスキーを設定してください。

- mghostクエリ

  HTTP認証を行う場合、MGSVサーバのホスト名（IPアドレス）を設定してください。

- formatクエリ

  jsonを設定してください。

- pageクエリ

  ページ番号を 1以上の整数で指定してください。

  指定したページがない場合は何も要素が表示されません。

- rpクエリ

  1ページに表示される要素数を 1以上の整数で指定してください。

- node=allクエリ(省略可)

  指定したグループのさらに配下のグループに所属するジョブネットワークも取得する場合には、"node=all"というクエリを設定してください。このクエリを指定しなかった場合、グループ名直下の情報しか取得できません。

■HTTPレスポンス仕様

- 正常終了

  - ヘッダ部

    ステータスコード：200

  - ボディ部

    正常終了した場合には以下のようなjsonデータがボディ部に返却されます。

    →"page"：ページ数

    →"total"：取得したデータの件数

→"rows"：取得したデータ列。"rows":[{"cell":[…]},{"cell":[…]},・・・]という形でデータが格納されている

→"cell"：ジョブネットワーク一覧のデータ１つ。 "cell":["名前","種別","所属グループ","コメント"]という形でデータが格納されている

以下にボディ部に返却されるデータの例を記載します。

```
{
  "page": 1,
  "total": 13,
  "rows": [
    {
      "cell": [
        "グループ１",
        "グループ",
        "/",
        "コメント１"
      ]
    },
    {
      "cell": [
        "NewJnw10",
        "ジョブネットワーク",
        "/グループ１",
        "コメント２"
      ]
    },

     .
     .
     .

    {
      "cell": [
        "ネットワーク３",
        "ジョブネットワーク",
        "/グループ１",
        "コメント２"
      ]
    }
  ]
}
```

■ 異常終了

異常終了時には以下のレスポンスが戻ります。

表6.7 エラー一覧

ステータスコード	エラーメッセージ	エラー原因
400	{"msg":"データの取得に失敗しました:…}	指定したグループが存在しない
401	HTTP Basic: Access denied.	HTTP認証失敗した場合

403	{"msg":"ジョブネットワークを参照する権限がありません。"}	JNWの参照権限がない
403	{"msg":"APIアクセスキーが間違っています。"}	アクセスキーが有効でない
403	{"msg":"サーバとの通信に失敗しました。JobCenter　MG/SVの起動を確認してください。"}	MG/SVが起動していない
403	{"msg":"ユーザ名またはパスワードが間違っています。"}	API認証、HTTP認証のユーザ名またはパスワードが間違っています

■注意事項

取得したjsonデータにはジョブネットワーク以外にグループやショートカットも含まれます。

6.4.4.2. ジョブネットワーク即時投入

■機能説明

指定したジョブネットワークを即時投入させることができます。

例えば、以下のような画面をのボタン処理として組み込むことが可能です。

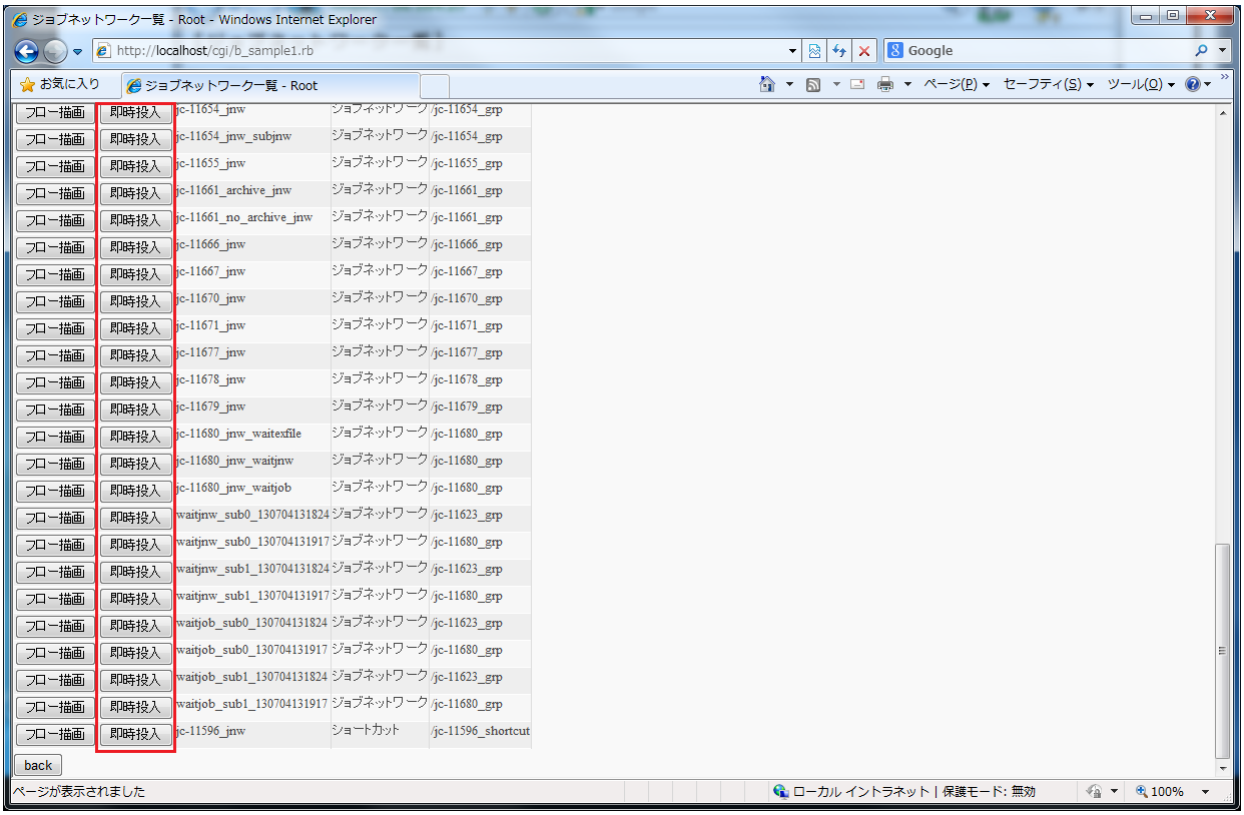

図6.17 ジョブネットワーク即時投入例

■HTTPリクエスト仕様

- APIアクセスキー認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/jnws/jnw/<ジョブネットワーク名>/submit?key=<APIアクセスキー
>&format=json&jobparam=<ジョブパラメータ>&comment=<コメント>&stime=<投入時刻
>&initflag=<事前設定> HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/jnws/jnw/NewJnw1/submit?
key=dsfvoeishfhseiofhoseihfiosheiofhsioehfi&format=json&jobparam=params_test&comment=test_comment&
 16:21&initflag=hold
```

- HTTP認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/jnws/jnw/<ジョブネットワーク名>/submit?mghost=<MGSVサーバアド
レス>&format=json&jobparam=<ジョブパラメータ>&comment=<コメント>&stime=<投入時刻
>&initflag=<事前設定> HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
Authorization: Basic xxxxxxxxxxxx
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/jnws/jnw/NewJnw1/submit?
mghost=mghostname.co.jp&format=json&jobparam=params_test&comment=test_comment&stime=2013/06/26
 16:21&initflag=hold
```

■パラメータ

設定するパラメータ詳細を以下に記載します

- <ジョブネットワーク名>

  即時投入を行うジョブネットワーク名を指定してください。

■クエリ

設定するクエリ詳細を以下に記載します

- keyクエリ

  APIアクセスキーによる認証を行う場合、APIアクセスキーを設定してください。

- mghostクエリ

  HTTP認証を行う場合、MGSVサーバのホスト名（IPアドレス）を設定してください。

- formatクエリ

  jsonを設定してください。

- jobparamクエリ(省略可)

  ジョブパラメータに指定する値を設定してください。

- commentクエリ(省略可)

  コメントを指定してください。

- stimeクエリ(省略可)

  ジョブネットワークの投入時刻を指定してください。フォーマットは"YYYY/MM/DD hh:mm"となります。

  YYYY：西暦年（４桁数字）

  MM：月（２桁数字）

  DD：日（２桁数字）

  hh：時（２桁数字）

  mm：分（２桁数字）

  ※桁を統一するため、"2"ではなく"02"で指定すること

  本クエリは未設定でも問題ありません。未設定の場合には即時にジョブネットワークが投入されます。

- initflagクエリ(省略可)

  事前設定を指定してください。"hold","skip","off"のいずれかを指定可能です。本パラメータは未設定でも問題ありません。

"hold"：hold状態でジョブが起動します。

"skip"：ジョブがスキップ状態で起動します。

"off"：通常の実行となります。

本クエリは未設定でも問題ありません。未設定の場合には"off"の動作となります

■HTTPレスポンス仕様

- 正常終了
  - ヘッダ部

    ステータスコード：200

  - ボディ部

    正常終了した場合には以下のようなjsonデータがボディ部に返却されます。

    →"msg"："jnw control ok"という成功メッセージ

    →"trkid"：トラッカID

    以下にボディ部に返却されるデータの例を記載します。

```
{"msg":"jnw control ok","trkid": "NewJnw1.20130704024501"}
```

- 異常終了

異常終了時には以下のレスポンスが戻ります。

表6.8 エラー一覧

ステータスコード	エラーメッセージ	エラー原因
400	{"msg":"制御に失敗しました:…}	指定したJNWが存在しない
401	HTTP Basic: Access denied.	HTTP認証失敗した場合
403	{"msg":"ジョブネットワークを投入する権限がありません。"}	JNWの投入権限がない
403	{"msg":"APIアクセスキーが間違っています。"}	アクセスキーが有効でない
403	{"msg":"サーバとの通信に失敗しました。JobCenter　MG/SVの起動を確認してください。"}	MG/SVが起動していない
403	{"msg":"ユーザ名またはパスワードが間違っています。"}	API認証、HTTP認証のユーザ名またはパスワードが間違っています

■注意事項

なし

6.4.4.3. トラッカー一覧取得

■機能説明

指定したトラッカの一覧を取得することができます。

例えば、以下のような画面を作成することが可能です。

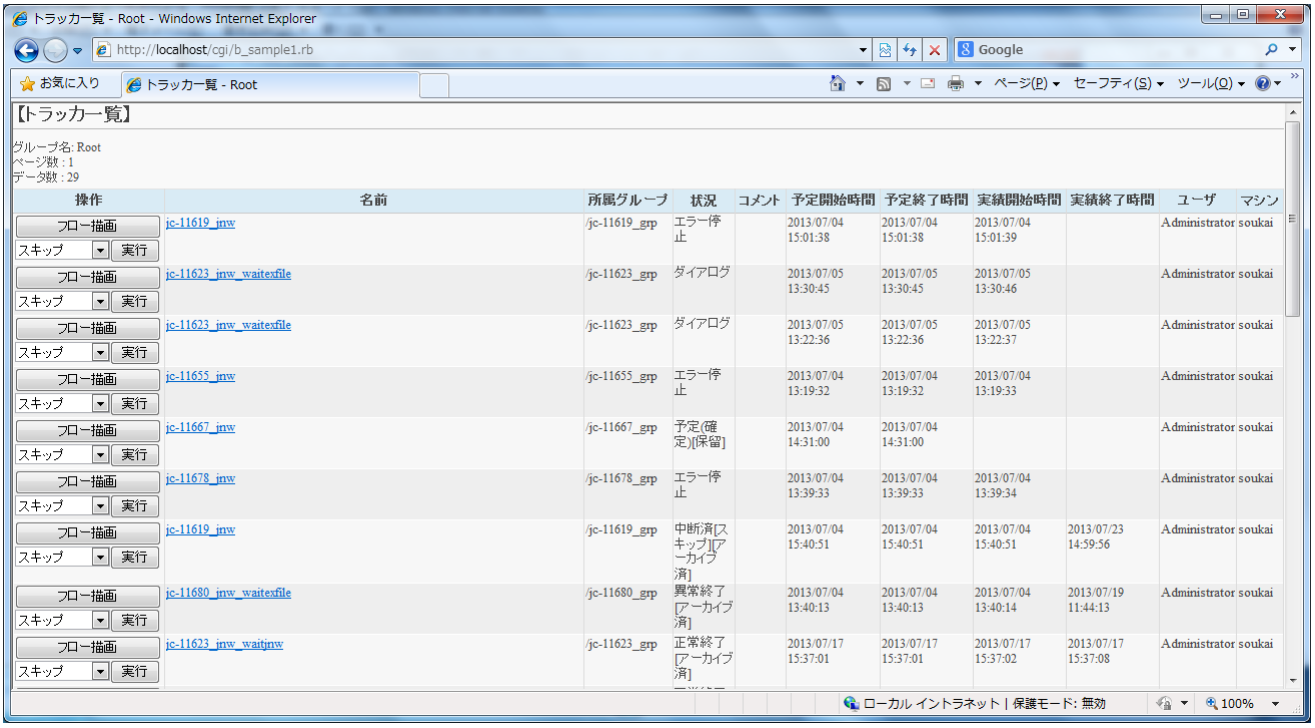

図6.18 トラッカー一覧表示例

■HTTPリクエスト仕様

- APIアクセスキー認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/group/<グループパス>?key=<APIア
クセスキー>&format=json&page=<ページ番号>&rp=<１ページの要素数
>&node=all&subjnw=1&start_date=<表示開始年月日>&start_time=<表示開始時間
>&period_unit=<表示開始形式>&period_num=<数値指定> HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/group/Root/NewGroup1?
key=dsfvoeishfhseiofhoseihfiosheiofhsioehfi&format=json&page=3&rp=50&node=all&subjnw=1&start_date=
```

- HTTP認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/group/<グループパス>?mghost=<MGSV
サーバアドレス>&format=json&page=<ページ番号>&rp=<１ページの要素数
>&node=all&subjnw=1&start_date=<表示開始年月日>&start_time=<表示開始時間
>&period_unit=<表示開始形式>&period=<数値指定> HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
Authorization: Basic xxxxxxxxxxxx
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/group/Root/NewGroup1?
mghost=mghostname.co.jp&format=json&page=3&rp=50&node=all&subjnw=1&start_date=2013/07/13&start_tim
```

■パラメータ

設定するパラメータ詳細を以下に記載します

- <グループパス>

  参照するトラッカの所属グループパスを設定してください。

■クエリ

設定するクエリ詳細を以下に記載します

- keyクエリ

  APIアクセスキーによる認証を行う場合、APIアクセスキーを設定してください。

- mghostクエリ

  HTTP認証を行う場合、MGSVサーバのホスト名（IPアドレス）を設定してください。

- formatクエリ

  jsonを設定してください。

- pageクエリ

  ページ番号を 1以上の整数で指定してください。

  指定したページがない場合は何も要素が表示されません。

- rpクエリ

  1ページに表示される要素数を 1以上の整数で指定してください。

- node=allクエリ(省略可)

  配下のトラッカ情報もすべて取得する場合には、node=allを設定してください。

- subjnw=1クエリ(省略可)

  サブジョブネットワークも取得する場合には、subjnw=1を設定してください。

- start_dateクエリ

  トラッカ表示の開始年月日を指定します。フォーマットは"YYYY/MM/DD"という形式になります。（スラッシュ"/"を忘れずに設定してください）

  例）2013年7月13日からのトラッカを参照する場合には、"2013/07/13"と本クエリに入力してください。

- start_timeクエリ(省略可)

  トラッカ表示の開始時間を指定します。フォーマットは"hh:mm"という形式になります。（コロン":"を忘れずに設定してください）

  例）9時45分からのトラッカを参照する場合には、"09:45"と本クエリに入力してください。

本クエリは省略可能です。省略した場合には"00:00"というデフォルト値で情報が参照されます。

- period_numクエリ

  unitクエリで指定された形式の数値を指定します。

  例）period_unitクエリが"month"でperiod_numクエリが"2"の場合にはdateクエリで指定された日付から2ヶ月間のトラッカを表示します。

- period_unitクエリ

  開始日からの形式を指定します。"month","week","day","hour","min"の5種類から指定できます。

  month：開始日時から"period_num"月間のトラッカを表示します。1～3で指定してください。

  week：開始日時から"period_num"週間のトラッカを表示します。1～5で指定してください。

  day：開始日時から"period_num"日間のトラッカを表示します。1～7で指定してください。

  hour：開始日時から"period_num"時間のトラッカを表示します。1～23で指定してください。

  min：開始日時から"period_num"分間のトラッカを表示します。1～59で指定してください。

■HTTPレスポンス仕様

- 正常終了

  - ヘッダ部

    ステータスコード：200

  - ボディ部

    正常終了した場合には以下のようなjsonデータがボディ部に返却されます。

    →"page"：ページ数

    →"total"：取得したデータの件数

    →"summary"：トラッカのサマリが格納されており、[]の中は順番に「実行予定数」、「実行中数」、「正常終了数」、「異常終了数」、「エラー停止数」が格納されている

    →"rows"：取得したトラッカ一覧のデータ列、"rows":[{"status":…,"id":xx,"cell":[…]},{"status":…,"id":xx,"cell":[…]},・・・]という形でデータが格納されている

    →"status"：トラッカの状況

    →"id"：トラッカ一覧(rows内)における番号

    →"cell"：トラッカ詳細情報。 "cell":["ジョブネットワーク名","実行状況","ステータス","トラッカID","コメント","予定開始時間","予定終了時間","実績開始時間","予定終了時間","実行ユーザ","実行サーバ名","所属グループ"]という形でデータが格納されている

    以下にボディ部に返却されるデータの例を記載します。

```
{
  "page": 1,
  "total": 49,
  "summary": [
    1,
    1,
    42,
    3,
    2
  ],
  "rows": [
    {
      "status": "run,D",
      "id": 0,
      "cell": [
        "jc-11623_jnw_waitexfile",
        "ダイアログ",
        "status-dia",
        "jc-11623_jnw_waitexfile.20130611052202",
        "",
        "2013/06/11 14:22:02",
        "2013/06/11 14:22:02",
        "2013/06/11 14:22:03",
        "",
        "username",
        "hostname.co.jp",
        "/jc-11623_grp"
      ]
    },
    {
      "status": "run,fr",
      "id": 1,
      "cell": [
        "jc-11655_jnw",
        "エラー停止",
        "status-stop",
        "jc-11655_jnw.20130411064108",
        "",
        "2013/04/11 15:41:08",
        "2013/04/11 15:41:08",
        "2013/04/11 15:41:08",
        "",
        "username",
        "hostname.co.jp",
        "/jc-11655_grp"
      ]
    },

            .
            .
            .

    {
      "status": "done,ad",
      "id": 48,
      "cell": [
        "jc-11651_jnw",
```

```
        "正常終了[アーカイブ済]",
        "status-done",
        "jc-11651_jnw.20130409023122",
        "",
        "2013/04/09 11:31:22",
        "2013/04/09 11:31:22",
        "2013/04/09 11:31:23",
        "2013/04/09 11:31:29",
        "username",
        "hostname.co.jp",
        "/jc-11651_grp"
      ]
    }
  ]
}
```

■ 異常終了

異常終了時には以下のレスポンスが戻ります。

表6.9 エラー一覧

ステータスコード	エラーメッセージ	エラー原因
400	{"msg":"データの取得に失敗しました:…}	指定したグループが存在しない
401	HTTP Basic: Access denied.	HTTP認証失敗した場合
403	{"msg":"トラッカを参照する権限がありません。"}	トラッカの参照権限がない
403	{"msg":"APIアクセスキーが間違っています。"}	アクセスキーが有効でない
403	{"msg":"サーバとの通信に失敗しました。JobCenter　MG/SVの起動を確認してください。"}	MG/SVが起動していない
403	{"msg":"ユーザ名またはパスワードが間違っています。"}	API認証、HTTP認証のユーザ名またはパスワードが間違っています
403	{"msg":"期間の設定に失敗しました。"}	設定した日時が間違っています
403	{"msg":"period_numには1以上の整数を設定してください。"}	period_numに整数以外が設定されています
403	{"msg":"period_numにはxxxからzzzまでの期間範囲を設定してください。"}	period_numに指定範囲を超えた数値が入力されています
403	{"msg":"period_unitには「month、week、day、hour、min」の何れかを設定してください。"}	period_unitに設定するフォーマットが間違っています

■注意事項

開始日時より過去のトラッカは表示されません。表示させたいトラッカが表示されない場合、開始日時を確認してください。

6.4.4.4. トラッカ部品一覧取得

■機能説明

指定したトラッカの部品一覧を取得することができます。

例えば、以下のような画面における部品一覧部分を作成することが可能です。（赤枠で囲まれた箇所）

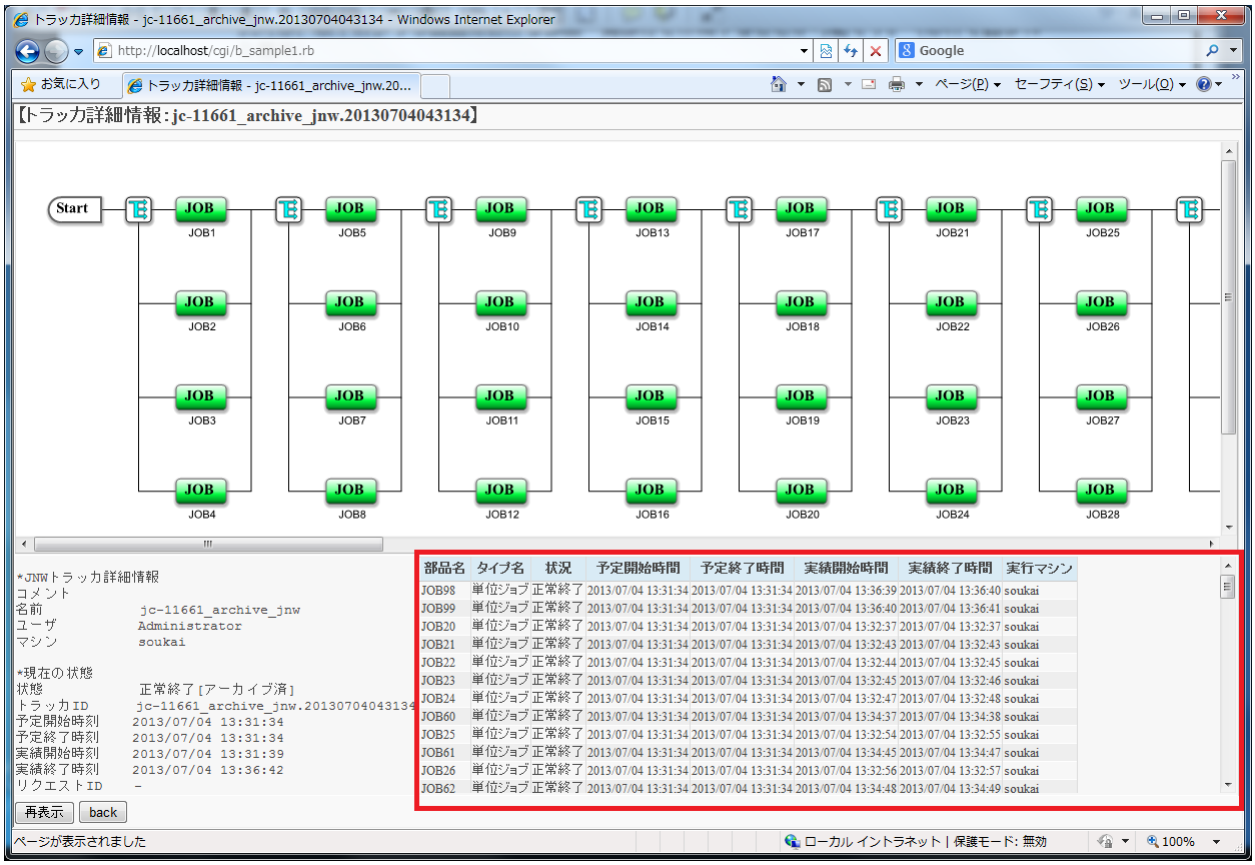

図6.19 トラッカ詳細表示例

■HTTPリクエスト仕様

- APIアクセスキー認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/tracker/<トラッカID>?key=<APIアクセスキー
>&format=json&page=<ページ番号>&rp=<１ページの要素数>&view=parts_table HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/tracker/jc-11651_jnw.20130409023122?
key=dsfvoeishfhseiofhoseihfiosheiofhsioehfi&format=json&page=3&rp=50&view=parts_table
```

- HTTP認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/tracker/<トラッカID>?mghost=<MGSVサーバアドレス
>&format=json&page=<ページ番号>&rp=<１ページの要素数>&view=parts_table HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
Authorization: Basic xxxxxxxxxxxx
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/tracker/jc-11651_jnw.20130409023122?
mghost=mghostname.co.jp&format=json&page=3&rp=50&view=parts_table
```

■パラメータ

設定するパラメータ詳細を以下に記載します

- <トラッカID>

  トラッカIDを設定してください。

■クエリ

設定するクエリ詳細を以下に記載します

- keyクエリ

  APIアクセスキーによる認証を行う場合、APIアクセスキーを設定してください。

- mghostクエリ

  HTTP認証を行う場合、MGSVサーバのホスト名（IPアドレス）を設定してください。

- formatクエリ

  jsonを設定してください。

- pageクエリ

  ページ番号を 1以上の整数で指定してください。

  指定したページがない場合は何も要素が表示されません。

- rpクエリ

  1ページに表示される要素数を 1以上の整数で指定してください。

- viewクエリ

  parts_tableを設定してください。

■HTTPレスポンス仕様

- 正常終了
  - ヘッダ部

    ステータスコード：200

  - ボディ部

    正常終了した場合には以下のようなjsonデータがボディ部に返却されます。

    →"page"：ページ数

    →"total"：取得したデータの件数

    →"jnwstatus"：ジョブネットワークのステータスが格納されてている、"jnwstatus":{"status":ステータス,"extstat":実行結果}という形でデータが格納されている

→"rows"：取得したトラッカの部品一覧のデータ列、"rows":[{"status":…,"id":xx,"cell":[…]},{"status":…,"id":xx,"cell":[…]},・・・]という形でデータが格納されている

→"status"：部品の状況

→"id"：部品一覧(rows内)における番号

→"cell"：トラッカ部品詳細情報。 "cell":["部品名","英語種類","日本語種別","日本語ステータス","英語ステータス","予定開始時間","予定終了時間","実績開始時間","予定終了時間","実行サーバ名"]という形でデータが格納されている

以下にボディ部に返却されるデータの例を記載します。

```
{
  "page": 1
  "total": 100,
  "jnwstatus": {
    "status": "done",
    "extstat": "ad"
  },
  "rows": [
    {
      "status": "done,-",
      "id": 0,
      "cell": [
        "JOB98",
        "UJOB",
        "単位ジョブ",
        "正常終了",
        "status-done",
        "2013/04/11 15:52:18",
        "2013/04/11 15:52:18",
        "2013/04/11 16:40:22",
        "2013/04/11 16:40:34",
        "hostname.co.jp"
      ]
    },
    {
      "status": "done,-",
      "id": 1,
      "cell": [
        "JOB99",
        "UJOB",
        "単位ジョブ",
        "正常終了",
        "status-done",
        "2013/04/11 15:52:18",
        "2013/04/11 15:52:18",
        "2013/04/11 16:40:34",
        "2013/04/11 16:40:46",
        "hostname.co.jp"
      ]
    },

       .
       .
       .
```

```
    {
      "status": "done,-",
      "id": 99,
      "cell": [
        "JOB97",
        "UJOB",
        "単位ジョブ",
        "正常終了",
        "status-done",
        "2013/04/11 15:52:18",
        "2013/04/11 15:52:18",
        "2013/04/11 16:40:09",
        "2013/04/11 16:40:21",
        "hostname.co.jp"
      ]
    }
  ],
}
```

- 異常終了

  異常終了時には以下のレスポンスが戻ります。

表6.10 エラー一覧

ステータスコード	エラーメッセージ	エラー原因
400	{"msg":"指定されたトラッカは存在しません。"}	指定したグループが存在しない
401	HTTP Basic: Access denied.	HTTP認証失敗した場合
403	{"msg":"トラッカを参照する権限がありません。"}	トラッカの参照権限がない
403	{"msg":"APIアクセスキーが間違っています。"}	アクセスキーが有効でない
403	{"msg":"サーバとの通信に失敗しました。JobCenter　MG/SVの起動を確認してください。"}	MG/SVが起動していない
403	{"msg":"ユーザ名またはパスワードが間違っています。"}	API認証、HTTP認証のユーザ名またはパスワードが間違っています

■注意事項

なし

6.4.4.5. トラッカ状態取得

■機能説明

指定したトラッカの状態（詳細パラメータ）を取得することができます。

例えば、以下のような画面における状態表示部分を作成することが可能です。（赤枠で囲まれた箇所）

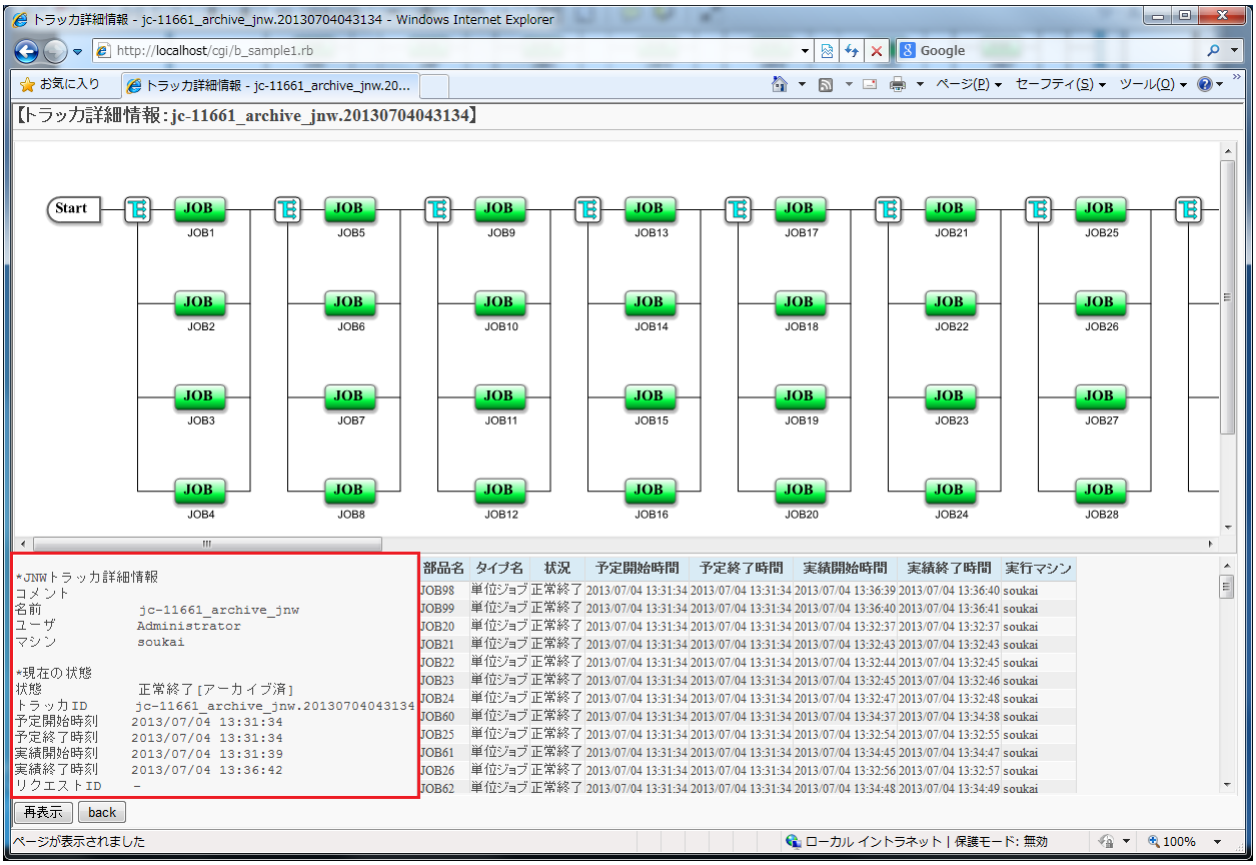

図6.20 トラッカ詳細表示例

■HTTPリクエスト仕様

- APIアクセスキー認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/tracker/<トラッカID>?key=<APIアクセスキー
>&format=json&view=detail HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/tracker/jc-11651_jnw.20130409023122?
key=dsfvoeishfhseiofhoseihfiosheiofhsioehfi&format=json&view=detail
```

- HTTP認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/tracker/<トラッカID>?mghost=<MGSVサーバアドレス
>&format=json&view=detail HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
Authorization: Basic xxxxxxxxxxxx
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/tracker/jc-11651_jnw.20130409023122?
mghost=mghostname.co.jp&format=json&view=detail
```

■パラメータ

設定するパラメータ詳細を以下に記載します

- <トラッカID>

  トラッカIDを設定してください。

■クエリ

設定するクエリ詳細を以下に記載します

- keyクエリ

  APIアクセスキーによる認証を行う場合、APIアクセスキーを設定してください。

- mghostクエリ

  HTTP認証を行う場合、MGSVサーバのホスト名（IPアドレス）を設定してください。

- formatクエリ

  jsonを設定してください。

- viewクエリ

  detailを設定してください。

■HTTPレスポンス仕様

- 正常終了
  - ヘッダ部

    ステータスコード：200

  - ボディ部

    正常終了した場合には以下のようなjsonデータがボディ部に返却されます。

    →"detail"：トラッカ情報の詳細が格納されています。

    以下にボディ部に返却されるデータの例を記載します。

```
{ "detail":
"*JNWトラッカ詳細情報
コメント
名前            jc-11661_archive_jnw
ユーザ          username1
マシン          hostname.co.jp

*現在の状態
状態            正常終了[アーカイブ済]
トラッカID      jc-11661_archive_jnw.20130411065218
予定開始時刻    2013/04/11 15:52:18
```

```
予定終了時刻    2013/04/11 15:52:18
実績開始時刻    2013/04/11 15:52:20
実績終了時刻    2013/04/11 16:40:59
リクエストID    -"
}
```

- 異常終了

  異常終了時には以下のレスポンスが戻ります。

表6.11 エラー一覧

ステータスコード	エラーメッセージ	エラー原因
400	{"msg":"指定されたトラッカは存在しません。"}	指定したグループが存在しない
401	HTTP Basic: Access denied.	HTTP認証失敗した場合
403	{"msg":"トラッカを参照する権限がありません。"}	トラッカの参照権限がない
403	{"msg":"APIアクセスキーが間違っています。"}	アクセスキーが有効でない
403	{"msg":"サーバとの通信に失敗しました。JobCenter　MG/SVの起動を確認してください。"}	MG/SVが起動していない
403	{"msg":"ユーザ名またはパスワードが間違っています。"}	API認証、HTTP認証のユーザ名またはパスワードが間違っています

■注意事項

なし

6.4.4.6. トラッカフロー取得

■機能説明

指定したトラッカのフローを描画するスクリプトを取得することができます。

例えば、以下のような画面におけるフローを表示ことが可能です。（赤枠で囲まれた箇所）

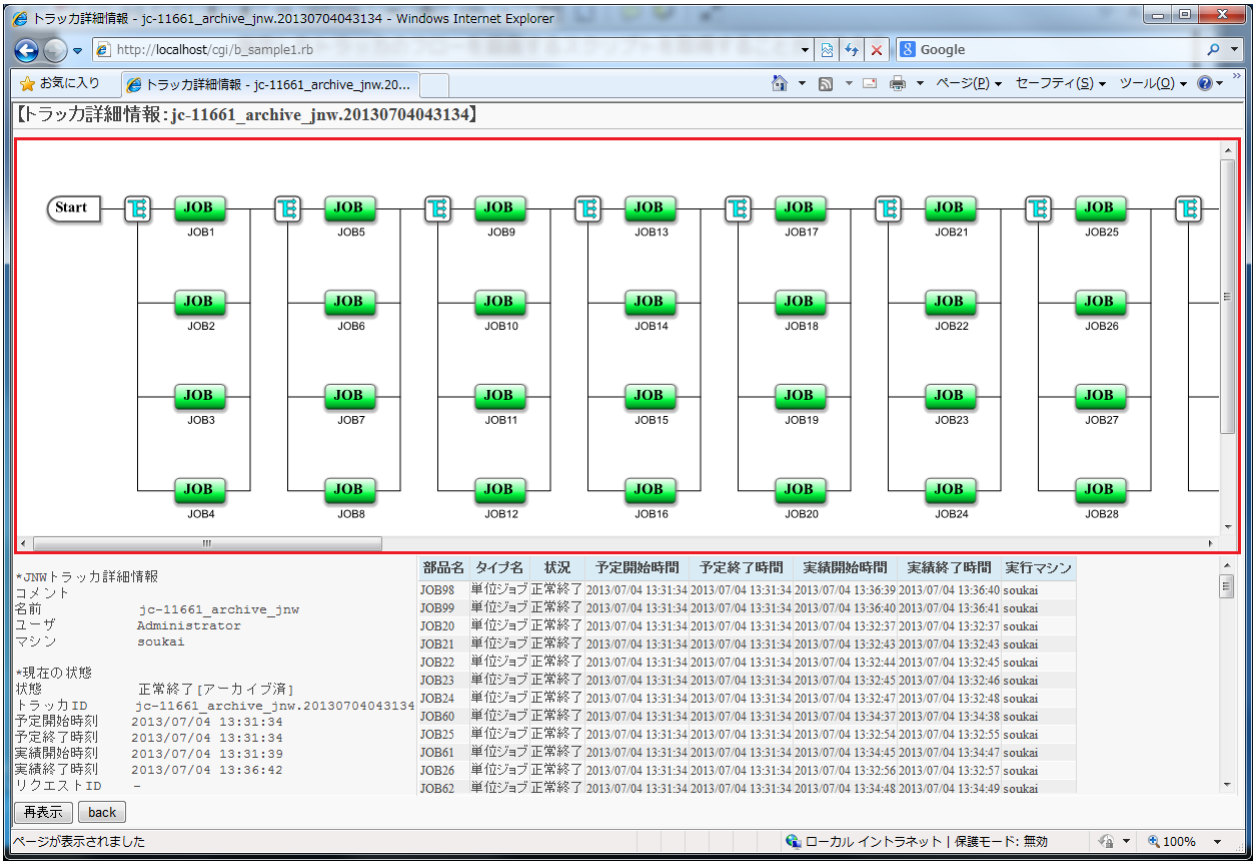

図6.21 トラッカ詳細表示例

■HTTPリクエスト仕様

- APIアクセスキー認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/flow/<トラッカID>?key=<APIアクセスキー>&format=html
 HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/flow/jc-11651_jnw.20130409023122?
key=dsfvoeishfhseiofhoseihfiosheiofhsioehfi&format=html
```

- HTTP認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/flow/<トラッカID>?mghost=<MGSVサーバアドレス
>&format=html HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
Authorization: Basic xxxxxxxxxxxx
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/flow/jc-11651_jnw.20130409023122?
mghost=mghostname.co.jp&format=html
```

■パラメータ

設定するパラメータ詳細を以下に記載します

- <トラッカID>

  トラッカIDを設定してください。

■クエリ

設定するクエリ詳細を以下に記載します

- keyクエリ

  APIアクセスキーによる認証を行う場合、APIアクセスキーを設定してください。

- mghostクエリ

  HTTP認証を行う場合、MGSVサーバのホスト名（IPアドレス）を設定してください。

- formatクエリ

  htmlを設定してください。

■HTTPレスポンス仕様

- 正常終了
  - ヘッダ部

    ステータスコード：200

  - ボディ部

    正常終了した場合には以下のようなhtmlデータがボディ部に返却されます。

```
<script src="https://192.168.34.32/assets/
application-29dae6e564c77ae1fc999e3a09d1f3c0.js" type="text/javascript"></script>
```

    例えば以下のHTMLのようにCGI側でHTMLを生成してクライアントへ画面を渡すことができます。

    head部に戻ってきたスクリプトを動的に組み込み、描画したい場所にdivタグを埋め込んでください。

```
<！DOCTYPE html>
<html>
<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8">
<title>JNWフロー描画 - jc-11623_jnw_waitjnw</title>
<！--ここから戻ってきたHTMLを動的に組み込む-->
<script src="https://192.168.34.32/assets/
application-29dae6e564c77ae1fc999e3a09d1f3c0.js" type="text/javascript"></script>
<！--ここまで-->
</head>
<body>
<h3>【JNWフロー描画：jc-11623_jnw_waitjnw】</h3>
```

```
<！--ここから描画するときに組み込むdivタグ。idは必ずjc_areaにすること-->
<div id="jc_area" style="height: 600px; width: 98%;">
  <div id="msg" class="flash error"></div>
  <div id="jnw-canvas"></div>
</div>
<！--ここまで-->
</body>
</html>
```

描画に組み込むdivタグ内のstyleにおけるheightやwidthの設定値は各Webアプリケーションで調整を行なってください

- 異常終了

  異常終了時には以下のレスポンスが戻ります。

表6.12 エラー一覧

ステータスコード	エラーメッセージ	エラー原因
400	{"msg":"指定されたトラッカは存在しません。"}	指定したグループが存在しない
401	HTTP Basic: Access denied.	HTTP認証失敗した場合
403	{"msg":"トラッカを参照する権限がありません。"}	トラッカの参照権限がない
403	{"msg":"APIアクセスキーが間違っています。"}	アクセスキーが有効でない
403	{"msg":"サーバとの通信に失敗しました。JobCenter　MG/SVの起動を確認してください。"}	MG/SVが起動していない
403	{"msg":"ユーザ名またはパスワードが間違っています。"}	API認証、HTTP認証のユーザ名またはパスワードが間違っています

■注意事項

divタグのheightやwidthは環境にあわせて設定してください。設定がない場合にはフロー描画がくずれる可能性があります。

divタグはどのトラッカフローでも共通で作りこむことができます（静的に実装できる箇所となります）

6.4.4.7. トラッカ部品制御命令実行

■機能説明

指定したトラッカIDの部品に対して制御命令を実行させることができます。

例えば、以下のような画面のボタン処理として組み込むことが可能です。

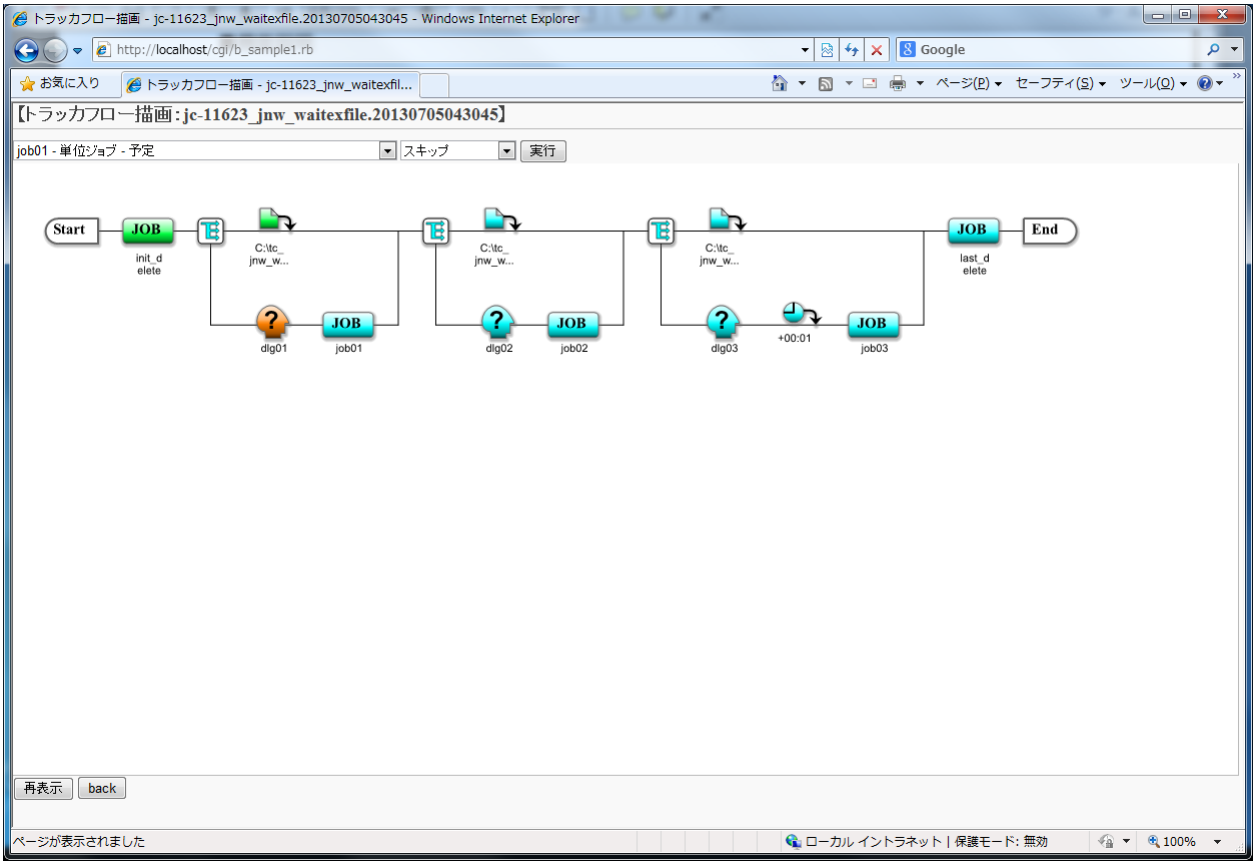

図6.22 トラッカ部品制御命令例

■HTTPリクエスト仕様

- APIアクセスキー認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/parts/<部品の種類>/<トラッカID>/<部品名>/<命令内容>?
key=<APIアクセスキー>&format=json HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/parts/ujob/jc-11651_jnw.20130409023122/job1/
skip?key=dsfvoeishfhseiofhoseihfiosheiofhsioehfi&format=json
```

- HTTP認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/parts/<部品の種類>/<トラッカID>/<部品名>/<命令内容>?
mghost=<MGSVサーバアドレス>&format=json HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
Authorization: Basic xxxxxxxxxxxx
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/parts/ujob/jc-11651_jnw.20130409023122/job1/
skip?mghost=mghostname.co.jp&format=json
```

■パラメータ

設定するパラメータ詳細を以下に記載します

- <部品の種類>

  命令を実行する部品の種類を以下から指定してください。

表6.13 部品一覧

部品名	部品内容
ujob	"単位ジョブ"
bijob	"BIジョブ"
erpjob	"ERPジョブ"
wobsjob	"WOBSジョブ"
pcjob	"PCジョブ"
customjob	"カスタムジョブ"
dia	"ダイアログ"
cont	"コンティニュー"
sjnw	"サブジョブネットワーク"
wjob	"ジョブ待合"
wtime	"時刻待合"
wsjnw	"ジョブネットワーク待合"
wfile	"ファイル待合"
evtsnd	"イベント送信"
evtrcv	"イベント受信"

- <トラッカID>

  対象のトラッカIDを指定してください。

- <部品名>

  命令を実行する部品名を指定してください。

部品一覧取得機能を利用し取得してきたデータには"xxx(部品名)"という形式のものがある場合があります。この場合には"()"の中に記載されている部品名を指定するようにしてください。

- <命令内容>

  命令内容を以下から指定してください。各部品で行える命令が限られます。

表6.14 命令一覧

命令名	命令内容
skip	"スキップ"
noskip	"スキップ解除"

hold	"保留"
release	"保留解除"
estop	"強制停止"
forcestart	"強制起動"
rerun	"再実行"
suspend	"サスペンド"
resume	"サスペンド解除"
start_immediat	"実行(IMMEDIATELY)"
start_asap	"実行(ASAP)"
ok	"OK"
error	"ERROR"
restart	"リスタート"
freecontrol	"コントロール解除"
statusdone	"正常扱いに変更"

■クエリ

設定するクエリ詳細を以下に記載します

- keyクエリ

  APIアクセスキーによる認証を行う場合、APIアクセスキーを設定してください。

- mghostクエリ

  HTTP認証を行う場合、MGSVサーバのホスト名（IPアドレス）を設定してください。

- formatクエリ

  jsonを設定してください。

■HTTPレスポンス仕様

- 正常終了
  - ヘッダ部

    ステータスコード：200

  - ボディ部

    正常終了した場合には以下のようなjsonデータがボディ部に返却されます。

    →"msg"：トラッカ部品制御結果が格納されています。

```
{"msg":"tracker parts control ok"}
```

- 異常終了

異常終了時には以下のレスポンスが戻ります。

表6.15 エラー一覧

ステータスコード	エラーメッセージ	エラー原因

400	{"msg":"部品の制御に失敗しました：invalid args…"}	指定したトラッカ制御コマンドが存在しない
400	{"msg":"部品の制御に失敗しました：…"}	指定したトラッカが存在しない、もしくはトラッカの制御に失敗した
401	HTTP Basic: Access denied.	HTTP認証失敗した場合
403	{"msg":"トラッカを参照する権限がありません。"}	トラッカの参照権限がない
403	{"msg":"APIアクセスキーが間違っています。"}	アクセスキーが有効でない
403	{"msg":"サーバとの通信に失敗しました。JobCenter　MG/SVの起動を確認してください。"}	MG/SVが起動していない
403	{"msg":"ユーザ名またはパスワードが間違っています。"}	API認証、HTTP認証のユーザ名またはパスワードが間違っています

■注意事項

各部品と実行できる命令は以下の組み合わせとなります。

- 表6.16 ujob:"単位ジョブ"

命令名	処理内容
skip	"スキップ"
noskip	"スキップ解除"
hold	"保留"
release	"保留解除"
suspend	"サスペンド"
resume	"サスペンド解除"
estop	"強制停止"
forcestart	"強制起動"
rerun	"再実行"
restart	"リスタート"
freecontrol	"コントロール解除"
statusdone	"正常扱いに変更"

- 表6.17 erpjob:"ERPジョブ"

命令名	処理内容
skip	"スキップ"
noskip	"スキップ解除"
hold	"保留"
release	"保留解除"
cancel	"キャンセル"
forcestart	"強制起動"
start_immediat	"実行(IMMEDIATELY)"
start_asap	"実行(ASAP)"

rerun	"再実行"
statusdone	"正常扱いに変更"

- 表6.18 bijob:"BIジョブ"

命令名	処理内容
skip	"スキップ"
noskip	"スキップ解除"
hold	"保留"
release	"保留解除"
forcestart	"強制起動"
rerun	"再実行"
statusdone	"正常扱いに変更"

- 表6.19 pcjob:"PCジョブ"

命令名	処理内容
skip	"スキップ"
noskip	"スキップ解除"
hold	"保留"
release	"保留解除"
forcestart	"強制起動"
rerun	"再実行"
statusdone	"正常扱いに変更"

- 表6.20 wobsjob:"WOBSジョブ"

命令名	処理内容
skip	"スキップ"
noskip	"スキップ解除"
hold	"保留"
release	"保留解除"
estop	"強制停止"
forcestart	"強制起動"
rerun	"再実行"
freecontrol	"コントロール解除"
statusdone	"正常扱いに変更"

- 表6.21 dia:"ダイアログ"

命令名	処理内容
skip	"スキップ"
noskip	"スキップ解除"
ok	"Ok"
error	"Error"
rerun	"再実行"
statusdone	"正常扱いに変更"

- 表6.22 wait:"ジョブ待合"

命令名	処理内容
skip	"スキップ"
noskip	"スキップ解除"
rerun	"再実行"
statusdone	"正常扱いに変更"

- 表6.23 event:"イベント"

命令名	処理内容
skip	"スキップ"
noskip	"スキップ解除"
hold	"保留"
release	"保留解除"
estop	"強制停止"
forcestart	"強制起動"
rerun	"再実行"
statusdone	"正常扱いに変更"

- 表6.24 cont:"コンティニュー"

命令名	処理内容
hold	"保留"
release	"保留解除"
statusdone	"正常扱いに変更"

6.4.4.8. トラッカ制御命令実行

■機能説明

指定したトラッカに対して命令を実行します。

例えば、以下のような画面のボタン処理として組み込むことが可能です。

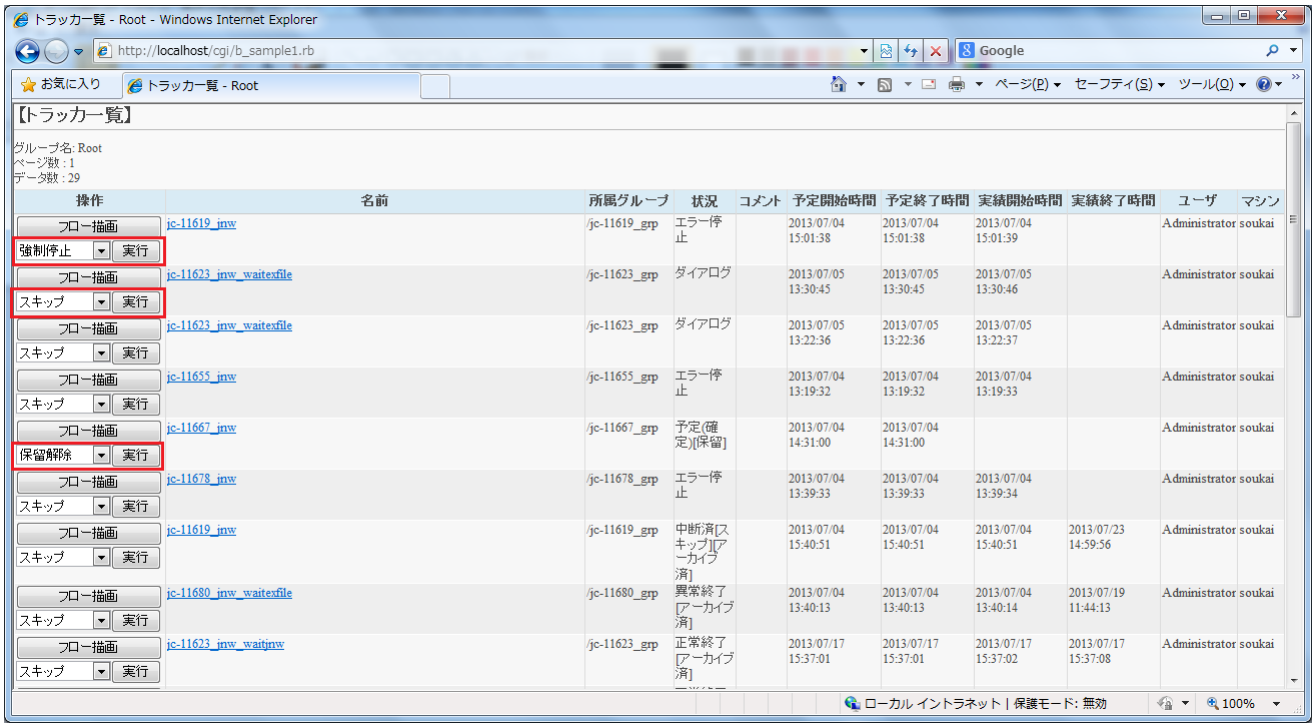

図6.23 トラッカ停止命令画面例

■HTTPリクエスト仕様

- APIアクセスキー認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/tracker/<トラッカID>/<命令内容>?key=<APIアクセスキー>&format=json HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/tracker/jc-11651_jnw.20130409023122/estop?key=dsfvoeishfhseiofhoseihfiosheiofhsioehfi&format=json
```

- HTTP認証の場合

```
GET /<言語ロケール>/trackers/tracker/<トラッカID>/<命令内容>?mghost=<MGSVサーバアドレス>&format=json HTTP/1.1
Host: <ホスト名>
Authorization: Basic xxxxxxxxxxxx
```

（URLサンプル）

```
https://hostname.co.jp/ja/trackers/tracker/jc-11651_jnw.20130409023122/estop?mghost=mghostname.co.jp&format=json
```

■パラメータ

設定するパラメータ詳細を以下に記載します

- <トラッカID>

  対象のトラッカIDを指定してください。

- <命令内容ID>

  トラッカに対して命令する内容を指定してください。

表6.25 トラッカ命令一覧

命令名	処理内容
estop	"トラッカ停止"
hold	"保留"
release	"保留解除"
skip	"スキップ"
noskip	"スキップ解除"

■クエリ

設定するクエリ詳細を以下に記載します

- keyクエリ

  APIアクセスキーによる認証を行う場合、APIアクセスキーを設定してください。

- mghostクエリ

  HTTP認証を行う場合、MGSVサーバのホスト名（IPアドレス）を設定してください。

- formatクエリ

  jsonを設定してください。

■HTTPレスポンス仕様

- 正常終了
  - ヘッダ部

    ステータスコード：200

  - ボディ部

    正常終了した場合には以下のようなjsonデータがボディ部に返却されます。

    →"msg"：トラッカ制御結果が格納されています。

```
{"msg":"tracker control ok"}
```

- 異常終了

  異常終了時には以下のレスポンスが戻ります。

表6.26 エラー一覧

ステータスコード	エラーメッセージ	エラー原因
400	{"msg":"トラッカ制御に失敗しました：…"}	指定したトラッカが存在しない、もしくはトラッカの制御に失敗した
401	HTTP Basic: Access denied.	HTTP認証失敗した場合
403	{"msg":"トラッカを参照する権限がありません。"}	トラッカの参照権限がない
403	{"msg":"APIアクセスキーが間違っています。"}	アクセスキーが有効でない
403	{"msg":"サーバとの通信に失敗しました。JobCenter　MG/SVの起動を確認してください。"}	MG/SVが起動していない
403	{"msg":"ユーザ名またはパスワードが間違っています。"}	API認証、HTTP認証のユーザ名またはパスワードが間違っています

■注意事項

停止命令は連続して行わないようにしてください。

6.5. Amazon SNS連携機能

Amazon Simple Notification Service(以下、SNS)との連携機能について説明します。

6.5.1. 機能概要

Amazon SNSはメッセージ送信サービスで、HTTP(S)によるメッセージ送信に対応しています。

本機能は、SNSからのメッセージをCL/Webが受信することを契機として、CL/Webサーバからジョブネットワークを即時投入する機能です。

例えば、以下の図のように、AWS上のインスタンスの異常などを検知(①)して自動的にSNSでメッセージ送信(②)を行うようにすれば、リカバリ用のジョブネットワークを投入(③)することができます。

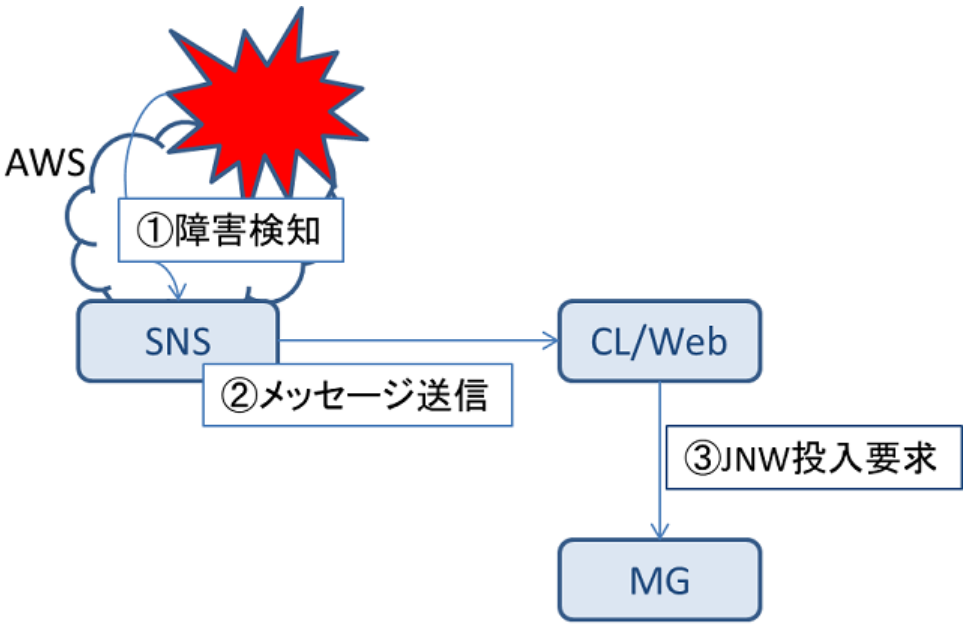

図6.24 SNS連携機能イメージ

メッセージ送信サービスを利用するためには「トピックの購読」および「トピックの発行」を行う必要があります。本ドキュメントでは、トピック、トピックの購読、トピックの発行を以下のように定義します。

トピック	メッセージを送信し、通知を受信する通信チャネル
トピックの購読	トピックに対して発行されたメッセージを受信するための登録作業
トピックの発行	トピックを購読しているURLに対してメッセージ送信を行うこと

本機能を使用する場合、CL/WebサーバがSNSからのHTTP(S)リクエストを受け付けられる状態である必要があります。

6.5.2. Amazon SNS連携機能利用の流れ

本機能を使用するために必要な作業を説明します。

設定を始める前に、以下を準備してください。

■SNS契機で投入したいジョブネットワークの名前

■上記ジョブネットワークを持つユーザのAPIアクセスキー

APIアクセスキーを調べる方法については「6.4.3.2　APIアクセスキーの参照方法」を参照してください。

APIアクセスキーには対象のJobCenterMGとユーザ名の情報が含まれます。同じユーザ名でも異なるMGの場合にはAPIアクセスキーが異なりますのでご注意ください。

6.5.2.1. トピックの購読

SNSからのメッセージを受け取るには、トピックの購読作業を行う必要があります。

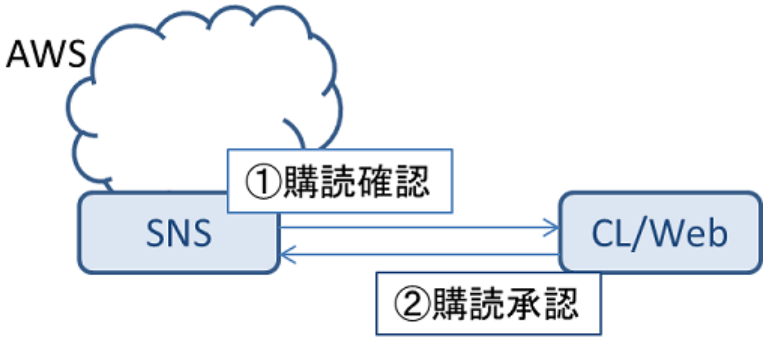

図6.25 トピックの購読

AWSマネジメントコンソールから手動でSNSのトピックの新規作成および購読を行うまでの手順を説明します。

1. WebブラウザでAWSマネジメントコンソールを開き、サービス一覧からSNSを選択します。
2. [SNS Home]画面が表示されるので、左ペインから[Topics]を選択します。
3. [Topics]画面が表示されるので、[Create new topic]ボタンをクリックします。
4. ダイアログが表示されるので、[Topic name]、[Display name]を入力し、[Create topic]ボタンをクリックします。

   トピックが作成され、トピック一覧に表示されます。
5. トピック一覧の[ARN]列から、作成したトピックをクリックします。
6. [Topic Details]画面が表示されるので、[Create Subscription]をクリックします。
7. ダイアログが表示されるので、[Protocol]と[Endpoint]を指定します。

   [Protocol]は、CL/WebサーバをHTTPサーバとして設定している場合はHTTP、HTTPSで設定している場合はHTTPSを選択してください。

   [Endpoint]は、以下のように指定してください。

```
http(s)://<CL/Webホスト名>/ja/jnws/jnw/<投入したいJNW名>/aws/sns?key=<CL/WebのAPIアクセスキー>
```

   例：[Protocol]がHTTP、CL/Webホスト名が「clwebserver.local」、投入したいJNW名が「SNS連携」、APIアクセスキーが「dsfvoeishfhseiofhoseihfiosheiofhsioehfi」の場合

```
http://clwebserver.local/ja/jnws/jnw/SNS連携/aws/sns?
key=dsfvoeishfhseiofhoseihfiosheiofhsioehfi
```

指定後、[Create Subscription]ボタンをクリックします。

サブスクリプション一覧に追加したものが表示され、購読確認が始まります。

8. サブスクリプション一覧の[Subscription　ID]にサブスクリプションIDが表示されれば購読承認の完了です。

[Subscription ID]に「PendingConfirmation」と表示されたまま購読確認が完了しない場合は、以下を確認してください。

■[Protocol]の指定が正しいこと

■[Endpoint]のURLが正しいこと

■CL/WebのAPIアクセスキーが有効なものであること

■[Protocol]がHTTPSの場合、CL/WebサーバがAmazon　SNSで信頼された認証機関によって署名済みのサーバ証明書を使用していること

一つのトピックに対して複数の購読を設定することが可能です。そのため、一つのトピックの発行に対して、複数のJNWを投入することができます。

一つのトピックに対して特定の購読のみを指定してメッセージ送信を行うことはできませんので、投入したいJNWの種別に応じてトピックをそれぞれ作成してください。

6.5.2.2. トピックの発行

トピックの発行処理を行うと、そのトピックを購読しているURLに対してAmazon　SNSからメッセージ(HTTP(S)リクエスト)を送信することができます。

AWSマネジメントコンソールから手動でSNSのトピックの発行を行うまでの手順を説明します。

1. WebブラウザでAWSマネジメントコンソールを開き、サービス一覧からSNSを選択します。

2. [SNS Home]画面が表示されるので、左ペインから[Topics]を選択します。

3. [Topics]画面が表示されるので、トピック一覧から発行処理を行いたいトピックの名前の左にあるチェックボックスをクリックします。

   チェックが入ったら、[Publish to topic]ボタンをクリックします。

4. [Publish a message]画面が表示されるので、[Subject]、[Message format]、[Message]をそれぞれ指定します。

   [Subject]は任意に指定してください。

   [Message format]は「Raw」を指定してください。

   [Message]は、即時投入されるジョブネットワークのジョブパラメータに設定され、各単位ジョブからは環境変数「NSJNW_PARAM」として参照できます。そのため、ジョブパラメータに指定可能な文字列を入力してください。

   指定後、[Publish message]ボタンをクリックします。

   「Message published with request id...」と表示されればメッセージの送信処理の完了です。

5. ジョブネットワークが投入されていることを確認します。

ジョブネットワークが投入されていない場合は、以下を確認してください。

■トピック購読設定時に指定したCL/WebのAPIアクセスキーが現在も有効なものであること

■トピック購読設定時に指定したJNW名が存在すること

■投入したいジョブネットワークを持つユーザがJobCenterのジョブネットワーク実行権限を持っていること

■[Message]にジョブパラメータとして指定できる文字列を入力していること

第7章 障害発生時の情報採取

CL/Webサーバの障害発生時、原因究明に必要な1次情報を漏れなく採取するために、「clweb_getinfo」というコマンドで情報採取を行います。

clweb_getinfoコマンドの詳細は<コマンドリファレンス>の「7.2 clweb_getinfo CL/Webサーバの障害発生時、原因究明に必要な1次情報を漏れなく採取」を参照してください。

第8章 注意事項・制限事項

本章では、CL/Webの注意・制限事項について説明します。

8.1. 注意事項

■CL/Webサーバのインストール時、TLS(SSL)プロトコルを使用するポートを採番しファイアウォールの穴あけを行う必要があります。

■デフォルト設定のCL/Webサーバに接続を行う際、SSLv3のみ許可しているブラウザからは接続を行うことができません。ブラウザの設定からTSLの有効化を行うようにしてください。（InternetExplorer、Firefoxのデフォルト設定ではTSLは有効になっています）。SSLからも接続が出来るように設定を変更する場合は「3.1.2 使用ポートの設定」を参照してください。

■CL/WebはJNW名やトラッカ名に機種依存文字（①②…等）が含まれた環境では正しく表示を行うことができません。

■Windows環境でポートではなくCL/Webサーバプログラムに対してファイアウォールの設定を行いたい場合、CL/Webサーバのインストール後に次のファイルに対してファイアウォールの穴あけを行ってください。

<CL/Webインストールパス>\vendor\cmnd\win\amd64\clweb_serv.exe

8.2. 制限事項

■CL/Webのインストーラを起動するパスおよびCL/Webインストール時指定するインストールパスはマルチバイトを含むパスを使用できません。また、UNIXにインストールする場合はインストールパスにマルチバイトに加えてスペースも使用できません。

第9章 エラーメッセージ一覧

CL/Webを操作したときにダイアログなどで表示されるエラーメッセージについて説明します。

ただし、エラーメッセージは多岐に渡るため、抜粋したエラーメッセージとその考えられる原因および対処方法について次に記述します。

なお、エラーメッセージ内容は実際のメッセージと若干異なることがあります。

9.1. CL/Webサーバでのエラーメッセージ

CL/Webサーバに表示されるエラーメッセージについて説明します。

表9.1 CL/Webサーバエラーメッセージ内容

エラーメッセージ内容	考えられるエラーの原因と対処方法	操作箇所
Cannot find Java 1.5 or higher.	Java JREが見つかりません。 JREをインストールしていない場合、JREをインストールしてください。 JREがインストール済みであるにもかかわらずメッセージが表示される場合、インストール実行前に環境変数JAVA_HOMEにJREのインストールパスを設定してください。	インストール
Cannot locate Java installation, specified by JAVA_HOME	環境変数JAVA_HOMEの指定が不正です。 環境変数JAVA_HOMEにJREのインストールパスが正しく設定されていることを確認してください。	インストール
License Manager is not found. Please install License Manager.	License Managerがインストールされていません。 CL/Webサーバのインストールを開始する前に、License Managerをインストールしてください。	インストール
no such a directory(<ディレクトリパス>)	インストール先に指定したディレクトリの親ディレクトリが存在しません。 CL/Webサーバのインストールを開始する前に、ディレクトリの作成を行ってください。	インストール
"<ディレクトリパス>" already exists and is not an empty directory.	インストール先に指定したディレクトリの中が空ではありません。 インストール先を変更するか、ディレクトリの中を空にしてください。	インストール
Permission denied - <ディレクトリパス>	インストール先に指定したディレクトリに対して書き込みできません。 インストール先ディレクトリのアクセス権限を確認してください。	インストール
Only Administrator can execute this command.	ローカルのAdministratorユーザ以外でインストールを実施しようとしています。 ローカルのAdministratorユーザでインストールをしてください。	インストール

9.2. Webブラウザでのエラーメッセージ

Webブラウザに表示されるエラーメッセージについて説明します。

表9.2 Webブラウザエラーメッセージ内容

Webブラウザエラーメッセージ内容	考えられるエラーの原因と対処方法
サーバ名が空です。	サーバ名が入力されていません。 正しいサーバ名を入力してください。
パスワード末尾に奇数個の「\\」を入力することはできません。「}」で閉じられていない「{」を入力することはできません。	パスワード末尾に奇数個の「\\」を入力することはできません。「}」で閉じられていない「{」を入力することはできません。 パスワードの末尾に奇数個の「\\」や「}」で閉じられていない「{」を使わないよう変更してください。
ユーザ名が空です。	ユーザ名が入力されていません。 正しいユーザ名を入力してください。
パスワード名が空です。	パスワード名が入力されていません。 正しいパスワード名を入力してください。
サーバとの通信に失敗しました。サーバ名を確認してください。	指定したサーバ名が誤っています。 正しいサーバ名を入力してください。
ユーザ名またはパスワードが間違っています。	指定したユーザ名かパスワードが誤っています。 正しいユーザ名とパスワードを入力してください。
メール送信に失敗しました。	SMTPサーバの設定が誤っている可能性があります。 SMTPサーバ設定を正しく修正してください。
サーバとの通信に失敗しました。JobCenter MG/SVの起動を確認してください。	JobCenter MG/SVが停止しています。 JobCenter MG/SVを起動してください。
指定されたページが見つかりません。	指定されたページが存在しません。 URLを直接入力している場合、URLを確認してください。
ジョブネットワークを参照する権限がありません。	ジョブネットワークの参照権限がありません。 CL/Winのパーミッション設定でユーザ自身のジョブネットワークの一覧と参照が許可されているか確認してください。
トラッカを参照する権限がありません。	トラッカの参照権限がありません。 CL/Winのパーミッション設定でユーザ自身のトラッカの一覧と参照が許可されているか確認してください。
情報の取得に失敗しました。	マイページのパネルが表示するための情報を収集する処理に失敗しました。

	JobCenter MG/SVが正しく起動しているか確認してください。
トラッカステータス詳細にはチェックが一つ以上必要です。	マイページのトラッカマイリスト設定ダイアログでトラッカステータス詳細のチェックを何も入れずに保存しようとした トラッカステータスの詳細に何かの項目を設定するようにしてください。
ジョブネットワークの参照権,実行権、およびトラッカの参照権,操作権が必要です	ジョブネットワークの参照権,実行権、およびトラッカの参照権,操作権がない状況でJNWマイリストを足そうとしています。 CL/Winのパーミッション設定でユーザ自身のジョブネットワーク・トラッカの一覧と参照が許可されているか確認してください。
Internet　Exploreではこのページは表示できません。	CL/Webサーバへの通信間で問題があります。 接続先、CL/Webサーバのサービス起動、Webブラウザの設定を確認してください。Webブラウザの設定の詳細については「3.2　Webブラウザ」を参照してください。

発行年月 June 2016
NEC Corporation 2016